

写真集

悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔 悪い顔

大本正

目次

お断り 容量が大きすぎるのかPDF更新が出来ないので「悪い顔」を前編と後編に分割したいと
思います。ご了承ください。

目次 「悪い顔 後編」

●まえがき

●ティールタンカラの一族～アーリア人、仏教、パルティア王国、サーサーン朝、継体天皇、中
臣鎌足、藤原不比等、白河天皇、鳥羽天皇、マリ帝国、聖フェーメ団、ジェノヴァ共和国、ルク
センブルク公国、モナコ公国

●デウスの一族～魔神ドゥルガー、ミトラス教、キンメリア人、ハスモン朝イスラエル、サドカ
イ派、サータヴァーハナ朝、邪馬台国、フン族、エフタル、阿骨打、後醍醐天皇、村上水軍、
シャーマニズム、TM瞑想

●サトゥルヌスの一族～ヤマタノオロチ、ジャイナ教、殷、箕子朝鮮、魏、河伯、高句麗、ア
ッティラ帝王、マヤの人身御供、稻荷神社、九頭龍、風水、坂上田村麻呂、足利尊氏、クエーカ
一教、三井財閥、住友財閥

●大宛のドルイド司祭（西本願寺）の一族～大宛、クシャーナ朝、鳩摩羅什、曇鸞、浄土宗、隋
、ウマイヤ朝イスラム帝国、北宋、舜天王統、ブギス族、ジョホール朝、林本源、中国仏教協会
、台湾

●クリュニー大主教ベルノの一族～ナバラ王国、フランク・ローマ皇帝、カペー朝フランス王、
民衆十字軍、土肥実平、長宗我部氏、キャンディ王国、三菱財閥、モロ民族解放戦線、ルワンダ
大虐殺

●クリュニー大主教アイマールの一族～キエフ大公国、シトー会、北条時政、聖フランチェス
コ会、シチリア王国、イタリア共和国

●王安石の一族～南宋皇帝、ホラズム朝、デリー・スルターン朝、バルバロス・ハイレッディン
、曹洞宗、今川国氏、永平寺、総持寺、イエメン王国、ユニオン・コルス、ホリエモン、アブ
ー・バクル・アル＝バグダディ

●今川国氏の一族～アステカ帝国、残虐な人身御供の儀式、串刺し公ヴラド・ツェペシュ、見付
天神の人身御供、血の伯爵夫人エリザベート・バートリ、モルダヴィア公、ルーマニア王国、モ
ルドバ共和国

●准如の一族～小早川秀秋、ドン・コサック、古儀式派、ノーベル賞、ベルナドッテ朝スウェー
デン王、ブラックメタルの雄メイヘム、アブグレイブ刑務所における捕虜虐待、温暖化十字軍、

グレタ・トゥーンベリ

●良如の一族～保科正之、徳川綱吉、生類憐みの令、火付盗賊改、子供を殺すための法律「ブラック法」、大英帝国、オックスフォード＝アスキス伯爵、MI6長官

●寂如の一族～女帝エカチェリーナ、秘密結社イルミナティ、ナチス帝国、特高警察、モサド、中央情報局、アメリカ連邦捜査局

●住如の一族～ナーディル・シャー、黒住教、ビン＝ラディン・グループ、アルカーイダ、ソマリランド大統領、GOOGLE

●湛如の一族～ジュンガル帝国、チャックリー家、タイ王国、ネパール王国、モンゴル人民革命党、霊友会、世界救世教、崇教真光、日本相撲協会

●法如の一族～アヘン戦争、ロスチャイルド財閥、ロックフェラー財閥、スカル&ボーンズ、第一次世界大戦、ホスピス、ロイター通信、北大西洋条約機構、アムネスティ・インターナショナル、児童文学ハリー・ポッター

●文如の一族～九条道前、ウィリアム・ピット、薩摩戦争、切り裂きジャック、インディアン虐殺、BBC、タイタニック号沈没、ツタンカーメンの呪い、国際連合、連続児童殺人鬼アルバート・フィッシュ

●本如の一族～ウクライナ東方カトリック教会、東トルキスタン、セルビア公国、ムスリム同胞団、ユーゴスラビア紛争、チェチェン紛争、南オセチア紛争、ウクライナ政変

●広如の一族～長州藩藩主、伊藤博文、大隈重信、山縣有朋、新渡戸稲造、白洲次郎、東条英機、日産コンツェルン、731部隊、ベトナム戦争

●ネルソン・ロックフェラーの一族～ヘンリー・キッシンジャー、ビル・クリントン、湾岸症候群、ジョン・ベネ殺害事件、レバノン空爆、ロシアの人喰いズマガリエフ、ゾディアック、サムの息子、フェイスブック

●デヴィッド・ロックフェラーの一族～ジョージ・ソロス、CNN、モンサント社、遺伝子組み換え作物、成長ホルモン、コソボ爆撃、コロンバイン高校銃撃、同性愛人喰いジェフリー・ダーマー、レオナルド・ディカプリオ

●大谷光尊の一族～ウィンザー朝イギリス王室、ファシスト党、ディープ・ステート、連続殺人鬼ウィリアム・ハイレンズ、ウクライナ21、Twitter

●大谷光瑞の一族～マンチェスター侯爵、アスター財閥、ジョージ・H・W・ブッシュ、ケネディ大統領暗殺、湾岸戦争、冷戦終結、法輪功、国境なき記者団、自動運転技術テロ、オール電化テロ、麻薬カルテル

●大谷光照の一族～第3代サウジアラビア王ファイサル、ロバート・ケネディ暗殺、中曽根康弘、ジョージ・W・ブッシュ、除草剤ラウンドアップ、殺人鬼テッド・バンディ、少女殺人鬼ペドロ・ロペス、世界同時多発テロ

●大谷光真の一族～リヒテンシュタイン公、悪魔ビル・ゲイツ、マイクロソフト社、上祐史裕、プログラム自動ダウンロードテロ、異常行動テロ

●大谷光淳の一族～リヒテンシュタイン公、2ちゃんねる、仙台女兒連続暴行事件犯人、2019逃亡犯条例改正案撤回デモ、Qアーミージャパン

●ユダヤ人（1731）の一族～ハザール帝国、薔薇十字団、カバラ神秘主義、ダ・ヴィンチ、ホフユーデン、人体自然発火事件、シオニズム運動、精神医学、エスペラント、モサド、ドイツキリスト教民主同盟、ゲノム編集

●ユダヤ人（1908）の一族～ヒヴァ・ハン国、ガージャール朝、アドルフ・ヒトラー、ツングース大爆発、ロケット、マンハッタン計画、原子爆弾、水素爆弾、レーザー、コンピューター

●特別篇～第一次、第二次、第三次世界大戦の一族

●特別篇～不必要に垂れた目尻をもつ悪の一族 ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世の一族

●特別篇～タナトス一族の趣味「世界の拷問」

●あとがき

●奥付

お断り 容量が大きすぎるのかPDF更新が出来ないので「悪い顔」を前編と後編に分割したいと思います。ご了承ください。

◆まえがき（加筆2019.11.4）

タナトスの一族は、自分たちを追い詰めるトランプ大統領と、味方する勢力を一網打尽にするために安全で快適なinternet explorerの使用をやめさせたいと考えている。そして、microsoft edge, google chrome, firefoxのいずれかの有害なブラウザの使用を選択することを迫っている。これは「青酸カリ、砒素、トリカブト。どの毒にしますか？」と迫られているようなものだ。「更なる安全なネット環境の確保」という美談を盾にしたIT攻撃、大規模な言論弾圧である。タナトスは何かを破壊したい時、「改善したい」と述べた上で標的を完全に破壊する。「破壊する」と述べれば悪人だが、「改善したい」と述べればタナトスは善人となるのだ。

microsoft、google、firefoxもタナトスの企業であるため、反安倍政権、反ディープステートなどの人々が上記の3つのブラウザを使うと起動しないなどのトラブルが起きているようだ。表向きには不可抗力、尚且つアットランダムな被害だが、被害者は確実に選ばれ、標的として狙われている。これは明らかに意図的なテロ、ITテロである。もし、安倍政権がどんなに非人道的な法律を決めても、ディープステートがどんなに大量の子供を拉致し、無残に殺害しても、黙っているならそのままネットができるが、そうでないとネットが出来なくなるのだ。

筆者も一時期google chromeを使っていたが、PC自体が起動できなくなり、google chromeが怪しいと睨んで何とかアンインストールすると不思議なことに不具合が解消された。これは戦争だ。できるだけ早くマイクロソフト社、グーグル社を破壊してほしいところだ。

新・まえがき（ディオナーとクリュテオスの違い）

以前から「タナトス」は、「神統記」にも登場する神々ディオナーとクリュテオスの合体部族だと説いてきた。ディオナー＋クリュテオス＝ディオネテオス＝テオネテオス＝タナトスとなる。だが、研究している内に、彼らはどうやら途中でディオナーとクリュテオスにそれぞれ分かれ、基本的には単独で、そして時にはタナトスの一族として協力し合いながら、悪の活動に従事しているようだ。

今回、タナトス（東本願寺）の血筋はディオナーの一族と規定し、ティールタンカラ（西本願寺）の血筋はクリュテオスの一族と規定し、分けて考えることにした。ディオナーの血筋タナトスの一族は「ダニ」「ダーナ」「デニエン」「ダン」「デーン」など基本的に「ディオナー」が変化した名前を持つ特徴がある。

一方、クリュテオスの血筋ティールタンカラの一族はディオナーの名が変化した「タナ」などの名はほとんど使用しない。これは「ディオナーの一族ではないこと。クリュテオスの一族であること」のアピールだ。代わりに、クリュテオスの一族はディオナーの一族ではないことのアピールとしてTANATOSを反対にしてSOTANATに因んで名前を考えたりしている。例としてサトゥルヌス（SOTA＋ウラヌス）の名前がある。

また、クリュテオスの一族は、クリュテオスの名に因んだデウスなどを名乗るようになった。クロノス、カルヌーテス、クリュニーなどの名もクリュテオスに因んでいる。タナトスとひとことで言っても、名前から彼らがディオナーの一族か、クリュテオスの一族なのかということが分かる仕組みになっている。

ディオナーのタナトスは基本的に魔女狩りの種族であり、クリュテオスのタナトスは人身御供の種族である。タナトスは死神の一族である。そのため、ディオナーのタナトスもクリュテオスのタナトスも由緒ある死神の一族として基本的に羞恥心・罪悪感を極度に欠き、性格的には非常に冷酷・残酷である。

両者とも平気でウソをつき、無慈悲な拷問を行い、丸で余暇の趣味のように人を殺す。そして最大のポイントは、人肉を食べるという特徴がある。死神とは人喰い人種なのだ。現代文明はタナトスの一族に、つまり、人喰い人種が作り上げた偽者の常識・ルールに支配されているが、我々には彼らは見えない。なぜなら、彼らは人喰い人種に見えない装いを常に心掛けているからだ。

ディオナーのタナトスは魔女狩り、異端審問を通して拷問を文化にまで高めた。一方、クリュテオスのタナトスはディオナーのタナトスとは異なり、人身御供を文化にまで高めた。どちらも、人肉を得るために拷問、人身御供を行い、人間を狩る人喰い人種である。我々がたまのご

馳走としてステーキを食べたり、刺身を食べるのと同様に、彼らは子供の肉をたまのご馳走として考えている。

「敵（善）に出来ないことが我々にはできる」として「自分たちは特別だ」という暗示を得るために、彼らは拉致して集めた子供を殺人儀式で殺す。彼らは、子供を笑いながら引き裂き、最終的には食べてしまうという恐ろしい人々だ。その中でも特に恐ろしい人々がマヤの人身御供、アステカの人身御供の神官たちである。彼らはみなクリュティオスのタナトスに属している。一瞥していただければわかることだが、ディオオーネーのタナトスにも、クリュティオスのタナトスにも、これでもかというほど恐ろしい人々が並んでいる。錚々たる悪い顔が並んでいる。特に、陰謀論者が好むナチス、ブッシュとディープステート、そして、ユダヤ、イルミナティ、ロスチャイルド、ロックフェラーはみなクリュティオスのタナトスである。

また、「日本」の名はクリュティオスのタナトスに属するサトゥルヌスの一族アッティラが命名したと考えられる。まず日本は最初にニホンではなく、イルポンと呼ばれた。イルポンの由来はアッティラとフンの組み合わせである。アッティラ+フン=イラフン=イルポンとなる。その後、朝鮮語イルポンに「日本」と漢字が当て字された。そういうわけで、日本はサタンの国なのだ。

◆新しい解説2019.10.20

①弱い人間の価値（タナトスの力=数の力）

集団ストーカーというものは、浄土真宗&曹洞宗信者をフル動員（日本全国の信者数、併せて2000万人）することで可能になる。集団ストーカーは、信者が大勢いることでタナトスが振るう基本的な数の力のひとつである。本願寺の人々とは弱い人間の価値に気付いた人々である。弱い人間の価値とは、弱い人間は脅せば何でも言うことを聞くこと、弱い人間は自分の生活と生命が最優先事項であること、そして非常に数が多いことである。この弱い人間の価値が、そのまま集団ストーカーに活かされている。

ちょっと考えれば分かると思うが、集団ストーカーのような非人道な行為、個人に対する人権蹂躪を指令する人間は、集団ストーカー加害者の人権さえ何とも思わないものだ。つまり、集団ストーカー加害者に対する金銭の授与はありえない。良く言ってボランティア、悪く言って奴隷である。なぜ金ももらわずに他人に嫌がらせが出来るのか？なぜ浄土真宗&曹洞宗信者が集団ストーカーを行うのか？その答えは彼らが弱いからだ。そして本願寺が怖いからだ。本願寺の命令を聞かなければ、逆に自分が集団ストーカーされる。今、目の前で自分が赤の他人にしたことをもし自分がされたら？そう思うと怖くて怖くて仕方がないのだ。つまり、彼らは集団ストーカーの命令を無視することはない。これも弱い人間の価値である。人類の発展には全く寄与していないが、すべては、弱い人間に利用価値があることを認めた本願寺の先見の明だといえよう（バカとハサミは使いようの語源）。

集団ストーカーとは、量VS質の戦いでもある。どんなにバカでも、どんなに弱くても、そんなできそこないがたくさん集まるだけで優れた人間、強い人間にも勝てる。この発想が集団ストーカーの根幹にある。一向一揆も同様である。一揆とは、大勢の農民を訓練された武士にぶつけることである。この場合、武士一人につき、10人ほどの武装した農民を相手にしなければならなくなる。数で圧倒することで、武士の厳しい鍛錬、高い戦闘技術を反故にするのだ。ウソもひとりにつけばただのウソでしかないが、大勢でウソをつけばそれは真実となる。量で圧倒することが、できそこないであるタナトスの一族の勝利の法則だ。また、弱い人間は口も堅い。強いから口が堅いのではなく、弱いから口が堅いのだ。斯様に、タナトスの一族が編み出したすべての手法に、弱い人間の価値が息づいている。

東西本願寺の正体は死神タナトスであるが、タナトスは史上初の人喰い人種であり、すべての悪の父である。歴史上、すべての悪党はタナトスに通ずる。現代では、すべての悪党は本願寺に通ずるのだ。タナトスはおよそ30万年前に生まれたが、彼らは極度に罪悪感が欠如した状態で生

まれるため、平気でウソをつき、笑いながら人を殺し、喜んで幼児を陵辱・殺害し、嬉々として人肉を食べるといった異常な本能を得た。我々とは似て非なる、異なる人類だと言っても過言ではない。ディープステート、安倍総統や怪物モンサントもタナトスの一族である。彼らは名前の違う家族を動員して秘密結社を作る。安倍政権も日本会議もできそこない家族の寄り合いでしかない。安倍総統は日本では敵なしだが、外国では総スカンを喰らっている。家の中では無敵だが、外に出たらみそっかすでしかない。丸でひきこもりと同じだ。その安倍政権が先だっただけのフェイクニュース（ひきこもりの通り魔事件）で散々「ひきこもりは悪だ」と、ひきこもりの印象の悪化に務めていたが、これは最早お笑いだとしかいいようがない。

ところで、集団ストーカーとひとことで言ってもやり方は被害者の数だけある。また、生活環境、立地条件の数だけあると言っても過言ではない。集団ストーカーとは、基本的には日常の所作、音を武器化することである。日常の所作、音を武器化するには最先端機器による被害者の完全監視が必須だ。この完全監視が欠けていたなら、日常の所作、音を武器化することはできない。自殺が毎年3万人を超えるようになった1998年頃から、本願寺は家族である三菱重工が製作したスーパーコンピューター、人工衛星、光通信システム、レーザー透視装置、レーザー盗聴機、レーザーセンサーを連携させ、新しい技術を導入した集団ストーカーを始めた（毎年3万人の自殺はこれが原因だ）。

筆者の例をひとつ挙げるが、例えばウチの台所は隣家の駐車場に隣接している。本願寺（ウチの地元は曹洞宗の縄張りだが）はこの立地条件を活かし、おれが台所に立つと隣家の住人が偶然を模して車で帰宅し、思い切り車のドアを閉めるということを繰り返させている。俺の動きに合わせて音を出すことは、上記の最先端技術システムにより可能である。更に、第三者からみれば住人が車で帰宅したに過ぎない。これが日常の所作、音の武器化の利点であり、集団ストーカーの醍醐味(?)である。

見える部分での認識は、「住人が帰宅した」というに過ぎない。が、集団ストーカー的な視点で見れば、見えていない部分が非常に重要となる（見えていないからこそ加害者は容易に否定ができる）。台所に立つ時間は限られているわけだが、その時間帯になると隣家の住人はイチイチ車でウチの近辺に待機し、AIが「あいつが台所に立った」ということをレーザー骨伝導音声送信で住人に伝えることで住人はそそくさと帰宅し、台所にいる俺に対する威嚇として思いきり車のドアを閉めるわけだ。

非常にくだらないことだが、これを毎日、毎回繰り返すことによりドアの音を武器化するのが。被害者も人によってはブチキれて近隣住民（邪教信者）に襲い掛かり、一方的に悪者扱いされて警察（仏教の用心棒）に逮捕されたり、精神病院に収容されることもある（それがタナトスの目的である。陰謀の特徴、それは「結果がじつは目的だった」ということだ）。たまに子どもの騒音にキレて事件を起こす人がいるが、彼らも本願寺の悪意の被害者である。

通常の人なら「イチイチ待機するやつなんているわけない」となるが、邪教信者にとってこの世で一番怖いのは本願寺である。そういうわけで、待機することは苦ではないのだ（実質、奴隷と

呼ばれていないだけの奴隷だから、顔を見ると辛そうな顔をしていることもあるがw)。集団ストーカー要員の最大待機時間は30分ほどだろう。ただ、それでも苦痛なようで、丸でなかなか来ないバスを待つ人のような顔、校長先生のつまらない話を聞いている中学生のような顔をした集団ストーカー要員を良く見かける。

集団ストーカーを否定する者（おおかた本願寺の者だが）は東西本願寺に悪意がないことを証明しなければならない。個人を完全に監視する技術はあるのだから技術面の否定は不可能である。

弱い人間Q & A

Q イヤガラセのために待機するようなそんな暇なやついないと思うが

A 弱い人間は人生通してほぼヒマだが、もしヒマがなくても弱い人間は怖い人間に脅されれば無理してでもヒマを作る。

Q 他人に嫌がらせしろと言われてイヤガラセをする人間なんかいるわけない

A 弱い人間は、相手が怖い人間であれば何でも命令を聞く。生活の安定と保障を求めて悪に服従するのだ。

Q 金ももらわずにそんなことするやついるわけない

A 弱い人間は、相手が怖い人間なら何ももらわなくても何でもやる。逆に、怖い人間に全財産をくれてやることもある（お布施）。

②対人恐怖の解説（人類にとって有益な人間の人工淘汰）

タナトスの一族は、極度に罪悪感を欠いた状態で生まれる。これは、誰にも好かれない彼らが、性欲処理のためだけに家族と近親相姦を1000年間続けたために生じた。30万年前のことである。罪悪感を欠いた人間はどのように人類独特の知能を用いてきただろうか？その詳細は、「悪い顔」を見てもらうとして、ここではタナトスの秘儀、対人恐怖作戦（強い敵の弱体化）について考えたい。タナトスは、我々人類と同じ姿をしていながら、丸で我々とは異なる人類のように、さも、昆虫や動物を観察するように我々人類を研究した。この観察によりタナトスは、どんなに強い人間だろうと心を攻めればその強い人間を弱体化できること、そして、罪悪感が強ければ強いほど、強い敵を思い通りに操作できることを覚えた。過去には、預言者ナタンがダヴィデ王に強い罪悪感を植え付けて思い通りに操作した。できそこないが真の王を操作するのだ。これは極めて反自然的な事象である。

これは人類で最初にナタンがやったことだが、人為的に罪悪感を育てるには、まず、敵を悪者扱いすることである。敵を暴力行為や破壊行為に導くこと。この誤誘導には、そのときと場合によっていろいろな方法が考えられる。そして、作られた罪を不特定多数で責め続けること（信者が多ければ容易なことだ）。これにより、敵は何もしなくても「あ、すいません、すいません」と

謝るようになる。日本ではこのような状態を対人恐怖と呼ぶ。何もしていないのに謝るのは、罪悪感が大きい証拠である。どんな強い人間も対人恐怖になると、思い通りに操ることができる。タナトスはそれを知った。タナトスは見えない心を知覚するということを人類で最初に成し遂げた一族だが、その発想から得られたすべての成果は悪用されている。ダヴィデ王も対人恐怖だったわけだ。

対人恐怖を分かりやすく説明するために、犬嫌いの例を挙げたい。まず、犬嫌いというものは、概して犬に噛まれることで生じる。これにより、被害者は犬嫌いになることが多い。しかし、注目したいことがある。それは、噛んだ犬、或いは噛んだ犬種のみを嫌いになるのなら納得できる。だが、犬嫌いはすべての犬を嫌いになる。子犬も例外ではない。これはなぜだろう？結局、犬嫌いとは意志の問題ではなく、本能の領域の問題なのだ。犬に噛まれれば、「犬は危険だ」という経験に基づく認識が本能に刻まれる。その結果、犬であればなんでも嫌悪を抱くようになるのだ。本能の領域で設定された認識は一旦生まれれば覆すことは出来ない。タナトスは本能の持つメカニズムを悪用しているのかもしれない。対人恐怖は、いうなれば人間に傷つけられたことで、人間は危険だという認識が本能の領域で生じた結果である。

この対人恐怖にはタナトスにとって大きな利点がある。タナトスの敵である強い人物、優れた人物がどんなに人に好かれていても、対人恐怖になれば、その強い人物は自らが人を遠ざけようとする。或いは人から遠ざかろうとする。つまり、タナトスは強い敵に近づいてくる人間をいちいち排除する必要がない。つまり、対人恐怖は魅力的な人間、才能がある人間、優れた人間に限定される。それ以外の人間（魅力のない人間、優れていない人間）が対人恐怖になることは決してない。優れた人間は、できそこないの王タナトスの永遠の敵なのだ。

とにかく、罪悪感哺乳類ならどんな動物でも持っている。犬どころか、猫でさえ罪悪感はある。ネットを検索していると、猫が大好物を盗み食いしようとして奮闘している動画を見つけた。当初、猫は飼い主が隠し撮りしていることを知らずにいたが、ふと隠し撮りに気付くと振り向きざま、凝固してしまう。そして全身で「ご、ごめんなさい」と謝意を表している。猫が固まったのは罪悪感がある証拠に他ならない。そして、猫よりも高等な犬も当然のように罪悪感がある。間違えて俺に吠えた犬は、「あ、すいません」という顔で申し訳なさそうにすることがある。これも罪悪感がある証拠だ。犬や猫でさえ罪悪感はあるのに、タナトスの一族には丸で罪悪感がない。この事実はどういう風に解釈すればよいだろう？すべては愛のない性欲処理目的の近親相姦に通じる。

どんな動物（特に哺乳類）も、近親相姦は是が非でも避けようとする。それは、動物たちが本能の領域で、罪悪感を持たない個体の誕生が悲壮な結末をもたらすことを知っているからではないだろうか？罪悪感を持たない個体は、種（しゅ）を絶滅に導くのだ。人類の場合、種（しゅ）を絶滅に導くものがタナトスなのだ。タナトスを生まないためには、愛のない快楽が目的のセック

スは厳禁とすることだ。一番良いのは女性がセックスの主導権を握ることだ。女性が喜ぶセックスはすべて正解である。一方、男が主導するセックスはすべてではないが、不正解が多い。

③なぜタナトスは生まれたか？（滅ぶべき人類 既に30万年前に審判は下っている）

タナトスの誕生。それは、地球が人類に対して「最後の審判」を下したイベントだったとすることができる。タナトスが極度に罪悪感を欠き、人肉を食べるのは、人類の天敵として地球に選ばれたからだ。なぜなら、この時点で人類の個体数は飽和状態に達していたのだ。壊れた自然界のバランスを補正するには個体数の減少しかありえない。人類に天敵が必要になった。それがタナトスだった。知能が発達した人類の天敵は、同じ人類以外ありえなかったのだ。このタナトスの誕生は最初の「最後の審判」だった。しかし、地球の思惑をよそに、知能を持った人類は簡単には滅ぶことはなかった。通常、知能を持たない動物の場合、できそこないは自然に滅びる。これを淘汰と呼ぶが、人類の場合は、知能によって人工的に淘汰を免れるのだ。人類に於いては自然淘汰の機能が無効化されているのだ（特にタナトスの場合）。

人類は1000万年前～400万年まで水棲霊長類として生きた。その後、30万年前に最初の「最後の審判」となるタナトスが生まれる。タナトスが生まれるまでの970万年間は、人類にとって真に幸福な時代だったといえる。それ以後人類が不幸なのは、人類が既に地球によって最後の審判を下されている滅ぶべき種（しゅ）からだ。

タナトスの次に登場したのが宇宙人（科学の種族トバルカイン）である。宇宙人が第2の「最後の審判」である。彼らはその優れた知能により、科学の道に邁進し、すべての物質を分子の次元で操る技術を開発した。UFO、テレポーテーションなどもこの技術に関連して生まれたと考えられる。それ以前に、約2万年前に宇宙人は核兵器を開発しているが、これが第2の「最後の審判」だったとすることができる。核兵器は地球の意志で生まれたのだ。核兵器の発想が宇宙人の脳内で生まれたということは、その時点で人類は滅びなければならなかった。聖書の発想は、できそこないは滅びなければならぬという発想の途上で生まれた。

タナトスが出現した時代、地球上の人口は数百万ほどだったと考えられる。たった数百万人でさえ地球上に於いては人類は飽和状態であり、人類は滅ぶべきだと地球は判断したのだ。トバルカインが出現した時も数千万程度だったと考えられる。タナトスとトバルカインの誕生した際には、地球は人類を殺すことで人口を減らそうと試みていた。だが、俺が生まれた時代は人類は30億を超えていた。このような状況に至るにあたり、地球は人類を殺すのではなく、子供を生ませないことで人類を減らそうという発想にスイッチしたようだ。

人類は年中発情している。子供を生むための性を快楽として捉えている。これは人類が滅ぶべき種だという証拠である。虚言、殺人、犯罪、同性愛、強姦、近親相姦、幼児性的虐待。これらの現象も、人類が滅ぶべき種族である印である。正しい人口にまで減少すれば、人類は一年中発情することもなく、人類の歴史から虚言、殺人、同性愛、強姦、近親相姦、幼児性的虐待、そしてタナトスなどの自然に反するモノはすべて消えてなくなる。全地球で数千万～1億人ほどにまで

減ればOKだろうか？そこらへんは不明である。

④数の力（集団ストーカーは白血球）

仏教がでかい動物なら、オレは動物の身体に侵入したウィルスで、集団ストーカーに従事する信者たちは白血球だと仮定することが出来る。どうりで死ぬことも厭わない。なんつっても白血球だからなw

9月6日現在、香港ではまだデモをやっているという。「無能なヤツばかりなのに、人が多いだけでここまで出来るんだ」と、アニキたちは驚いていることだろう。香港デモは中米移民キャラバン、一向一揆、十字軍、ケルト人の聖なる移住と同じだ。数で優れた人々を圧倒し、数で優れた頭脳、数で強い力、数で鍛えられた精神を反故にする。そのための大量の人員である。修練と鍛錬の毎日に明け暮れる百戦錬磨の宮本武蔵でさえ、力も勇気も知恵もない農民が100人がかりで襲ってくれば鍛えた技のひとつも披露することが出来ず、戦う前に殺されてしまう。いや、武蔵ほどの豪傑なら農民の10人くらいは斬るだろう。だが、あとは残りの90人にやられてしまう。ただ、武蔵が負けるのは弱いからではない。単なる物理の法則が機能しているに過ぎない。しかし、死が負けであるなら間違いなく負けなのだろう。

今、香港で起きていることはまさにそれだ。いにしへの聖なる移住（ウェルサクレム）、十字軍、一向一揆の再来だ。数で圧倒する際の信者たちの特徴として2点を挙げたい。ひとつは、信者たちがばらばらだということだ。香港デモに参加している法輪功信者たちをよく観察すると、休憩中は信者たちひとりひとりが距離をとり離れ離れになって、芝生などに座り込んでいる。まるで花火大会の観客だ（しかもひとりで見に来ている童貞が多い花火大会）。これは法輪功が信者の団結を防止するために信者ひとりひとりに「信者同士仲良くするな」と脅しをかけているのだ。浄土真宗でも同じことをしている。まったく矛盾している風景だ。あんなにたくさんの人々が同じ志の下に集まっているはずなのに、お互いはすべからず赤の他人でしかなく、完全に孤立している。

ふたつめは、信者たちが誰も警察を恐れていないことである。一向一揆でも無知で勇気も力もない農民たちが、日本刀を手にした戦い慣れた武士たちに向かっていった。聖なる移住では、ケルト人の農民がローマ軍の大部隊に向かっていったし、キャラバンでも中米の民衆が近代的装備をしたアメリカ軍を恐れずに行動している。別の例では、カペー朝ルイ7世の一族に属する神官が北アメリカではウォヴォカと称し、スー族に「ゴースト・シャツ」なるものを手渡し、「これを着ていれば弾丸を通さない」とウソをつき、無理にアメリカ軍と戦わせた。同様に、ングワレを称したジョンはタンザニアでも同じようにマトウンビ族をだました。彼らは、ただの水を持ち出してきて「この薬用の水（マジ）を飲めば撃たれても死なない」とウソをつき、タンザニア人をだまして近代装備で固めたドイツ陸軍と戦わせた。ニュージーランドではマオリ族を指揮し「ハバ、ハバ、パイマリレ、ハウ」と叫びながら大英帝国陸軍に突進させた。彼らは手を高く上げ、手のひらを前に向けて前進した。そうすれば銃弾を避けられると教えられたのだ。しかし、そ

これは「ゴーストシャツ」や「マジ（薬用の水）」同様、ただのウソである。

このように、香港デモ、キャラバン、一向一揆、聖なる移住同様、ゴーストダンス、マジマジ、パイマリレのいずれの事例でも信者たちは自分よりも強い武装した敵を恐れていない。これはつまり、弱い人間（農民、民衆）と怖い人間（タナトス）の組み合わせが何をもたらしているのか。それを考えることが最大のポイントである。弱い人間たちはタナトスに逆らえば生きたまま引き裂かれることを恐れている。弱い人間たちはタナトスが虐殺を楽しむ人々だということを知っているのだ。だが、ダヴィデの一族はタナトスのことを知らない。それならばタナトスの命令を聞かないのは損ではないか？ということだ（タナトスは強い人間の前では猫を被り、弱い人間の前では安心して残忍な正体を見せる）。強い王はタナトスよりも強い、しかも理由も泣く人を殺すことはない。しかし、タナトスは強い王よりも弱い、すぐに人を殺す。楽しんで人を殺す。そういうわけで、弱い人間はすぐに殺さない強い王よりも、すぐに殺す残忍な犯罪者の方に耳を貸すのだ。その弱さゆえに。

また、タナトスは直接手を下すことをせず、たくさんの信者（民衆）に離反者を無視するように脅すことがある。結局、タナトスの命令を聞いてレベルは低くても安泰に暮らすか、それとも、タナトスに逆らって友人に無視されて野垂れ死にするかという選択を、誰にも見られないところで弱い人間は迫られている。そして弱い人間は、生きたまま引き裂かれたり、友人に無視されて孤独死するよりも、警官や軍隊と戦う方を選ぶのだ。このような心情は強い人間には分からない。黒澤明、橋本忍が述べているように他人の気持ちを知るには他人の立場を考えるべきなのだ。黒澤、橋本は映画「悪いやつほどよく眠る」の中で「悪を憎むのは難しいよ。憎しみを掻き立てて自分自身があくにならないといけない」と述べている。タナトスは人権、民主主義を悪用し、「おれたちにはフェイクメディアがついているので中国政府がお前らを殺すことはない。安心して暴れる。もし何かされたら民主主義を守れ、暴力反対と叫べ」と、指導しているのだ。そう指揮することにより、困ったことに、デモ参加者は実際には、単に犯罪者の脅しに屈服している無力な人間にもかかわらず、第三者的な目線では、デモに参加している信者たちは暴力を恐れない勇敢な人々に見えてしまう（タナトスは常に第三者の目を意識している）。さらに、タナトスは敵の罪悪感を刺激することに長けている。さらに、タナトスは「警察が強制的に排除しようとしたらいじめられているふりをして泣け、触ろうとしたらイヤな顔をして叫べ。そうすればやつらはひるむ」と指導している。そう。タナトスは人類史上初の罪悪感を発見した人々であり、罪悪感が人生の足かせであることを見抜いた。そしてその発見を悪用し、敵をひるませるために使用しているわけだ。

香港デモは、実質的には東西本願寺による香港侵略の試みである。中国は、「法輪功が中国侵略を目的に大量の信者を脅して操っている。背けば友人、家族、同僚に無視されるのだ。邪教から信者たちを救うために法輪功の李氏を逮捕し、法輪功から大量の信者を貸与してもらっているウソつきの民主デモ指導者も全員逮捕する」ということにして、ディープステートみたいにすぐに

皆殺しにすべきだ。指導者が皆殺しになれば、信者たちはウソのように動かなくなる。頭を失った体が動かないのと同じだ。勇猛果敢、稀代なる英雄織田信長さえも、こんな簡単なことがわからなかった。デモに参加している信者たちは民主運動なんかどうでもいいと思っている。ただ、本願寺に逆らうと友達がなくなるので、民主派が正義で中国は悪だと信じている芝居をしているに過ぎない。ロシアやベネズエラでも民衆のデモは起きたが、数が少ないので何とかならなかった。しかし、そこはさすが人口が世界最大の国。いくらでも人が出てくる。いくらでもデモ要員を補充できる。この数の恐ろしさ。恐怖を感じるほどの人の多さだ。それが本願寺の狙いだ。プーチン大統領、トランプ大統領などの優れた人々にはこんなこけおどしは全く必要ないが、できそこないのタナトスの血を引く香港民主派の連中は、こけおどしが必要だ。そのために大勢の奴隷を引き連れている。そうでないと見栄えさえ悪いものだ。できそこないのタナトスにとって、数は威嚇だ。多ければ多いほど強いし、だが少なければ少ないほど弱くなる。タナトスとはそういう不思議な生き物なのだ。

ひょっとして中国政府に裏切り者がいるから、法輪功みたいな正義を気取った無法集団が好き勝手できるのかもしれない。或いは隠れ法輪功信者が政府内にいる。奇妙なことに日本の陰謀論者には中国政府が中国児童の誘拐に手を染めていると述べる人がたまにいたのだが、そんなわけがない。やっているのは法輪功、ウイグル、チベット仏教だ。早く本願寺門主を殺せばいいのに。9/5の電車事故で示された暗号によればもう死んでるかもしれないけどw 断言は出来ない。又カ悦びはダメージ強いからな。死んだと思ってたのに、じつは生きてると知ってこんなにかっかりするやつらいないよw

⑤陰謀の一族タナトス（敵を作れ、悪を作れ）

タナトスは悪を欲する。しかしタナトス以上の悪はいない。であるから悪は作らねばならない。温暖化は悪を作る装置である。宗教の自由によって異端という発想が消滅し、冷戦終結によって共産主義という敵が消滅した今、新たな敵を作るためにタナトスは温暖化という敵を作る装置の製作に着手した。ちょうど冷戦終結の翌年、1992年である。タナトスは温暖化問題などに興味はないし、環境を保護しなくてもいいことを知っている。その上でウソをついているのだ。敵に「ウソつくな！」と喋ってほしいのだ。かつての十字軍、異端審問（魔女狩り）がそうであったように。要は、タナトスが所持している世界中の大量の信者（数億人）を脅して自分たちのウソを信じるフリをさせる。それだけで「温暖化は正しい」という印象・常識が完成する。これにより、温暖化問題を改善しようとするタナトスは善となる。少なくとも頭の弱い連中にはそう見える。それが最大の問題点なのだが。そうなれば、温暖化に反対を唱える者を悪に変えることが出来るのだ。十字軍・異端審問（魔女狩り）の頃は、キリスト教に反対する者を異端としてすぐに殺したし、共産主義を敵に規定していた時代もアメリカでは赤狩りが起きたが、今では殺さずにフェイクメディアを用いて社会的地位を貶めるに留まっている。

とはいえ、温暖化十字軍という敵を作る装置は主としてメディア、企業、消費者を標的にしてい

る装置であり、支配層・国家間で幅を利かせている敵を作る最大の装置はやはり民主主義である。アメリカ民主党（damnocrudz）みたいなバカの集団があからさまに凶悪犯罪に手を染めながら民主主義、民主主義とバカの一つ覚えのようにわめくのは自分たちこそが民主主義の番人だという印象がほしいからだ。尤も、彼らが民主主義の番人に見えるのであればそれは頭が悪い証拠でしかない。それでも民主党が民主主義、民主主義を繰り返すのは数の力（全世界で信者数億人）を信じているからだ。それだけだ。あのようなできそこないにはそれ以外ない。彼らは、全世界数億人の信者を所持している。その事実のみを盾に民主主義の砦を演じ、例えばトランプ大統領が民主党を批判した場合「大統領は我々民主党を批判しているのではなく民主主義を否定している！」として攻撃するわけだ。要は世界はバカが多い。そのバカどもがフェイクメディアを通じて「自分たちのウソを信じれば勝つ」ということだ。

しかし、最近では全世界的に温暖化に疑念を持つ人が増え、その対策に耳を傾ける人が減少しているため、タナトスは新たにプラスチックゴミ問題を取り上げている。例えば、死んだ鯨の胃から大量のプラスチックが見つかったetc。バカか。鯨は哺乳類だから人や犬と同様に異物が口に入れば吐くだろ。その鯨は死ぬまでプラスチックを食い続けたのか？このようにプラスチック問題はあからさまなウソでしかない。要は、プラスチックゴミ問題は温暖化と同じで敵を作る装置なのだ。プラスチック問題に取り組めば善であり、「そんなのはウソっぱちだ」と言えば悪となる。プラスチック問題も温暖化と同様にタナトスを善に規定し、敵（悪）を作るための装置でしかない。しかし、そのプラスチックゴミは温暖化に比べてセンセーショナルな響きに欠け、話題性に乏しいためか、タナトスは想いを新たにグレタという将来有望な嘘つきを先頭に立たせて温暖化問題の復活に再起をかけている。タナトスを善に変え、敵を悪に規定する装置の復活をかけて！

このように、タナトスは所持している大量の信者（世界で約数億人）を脅すことで、悪も善も作ることが出来る。みそっかすも人気者も作ることが出来る。香港デモも、自分たちのウソを正しく見せるために大量の信者が動員されている。数が多い＝正しい。つまりタナトスが支配する世の中では、数が少ない方が正しいということになる。香港デモに参加している信者たちは、香港人ではなく、隣のシンセン市からやってきている。シンセンの法輪功信者である。シンセン市長がどうも法輪功信者、或いはタナトスであるため、法輪功の指示に従っているようだ。しかも、香港政府長官もタナトスの可能性がある（正体は台湾の総統か？）。彼女が香港政府を敗北に導いているため、デモ隊に勝てない。敵が味方であるならどんな局面でも負けることはないということだ。日本でも自民党よりも、野党のほうがタナトスの比率は高い。立憲民主党、国民民主党、共産党、社会民主党、れいわ新撰組も党首はみなタナトスだ。イギリス野党の首領コービン氏もタナトスの可能性が高い。猿芝居なのだ。セルフ猿回しなのだ。猿が自分で自分を回すのだ。これなら、例え自民党が全員知恵遅れでも野党に負けるわけがない。敵が負けてくれるのだから。中国には古来から仏教信者（タナトスの家畜）が多い。そのため、数が多ければ勝つという法則に乗っ取って考えるタナトスは「自分たちが負けることはない」と考えているようだ。

⑥虚言の一族タナトス（気持ちいいウソ）

気持ちいいウソはタナトスの最大の武器だ。タナトスには罪悪感がない。つまり、ウソをつく時もトーンにブレがないし、気持ちにも一切の揺るぎがない。聞く相手は気持ちいいのだ。まさかウソをついているなどとはついぞ思わないのだ。普通の人間ならウソをつく時、トーンはブレまくり、気持ちは地震のように揺らぎ、視線は泳ぎまくる。タナトスにそんなことはない。タナトスがウソをつく時、人々は母親の子守唄を聞く如き心地よさに酔いしれる。タナトスのウソは悪魔の甘い囁きと呼んでよかろう。頭の悪い人間なら、イチコロでタナトスに騙されること請け合いだ。タナトスのウソを信じる人々はタナトスがウソをついているとは思わないし、タナトスのウソを批判するものを敵視するという弊害も生む（バカであることも悪なワケだ）。ただ、タナトスのウソも、悪魔の甘い囁きなどではなく、安倍総統のように単なる精神病にしか見えないことがある。あからさまなでたらめを、さも道案内をする親切な人のように、一点の曇りもない顔で自信満々で述べることから、精神病に見えるというわけだ。

そう、タナトスの一族はみな、基本的には精神病だ。世間話をするようにウソをつき、笑いながら人を殺すことが出来るからだ。すべては罪悪感の欠如に起因している。罪悪感がない人間に罪を認めさせ、反省させることは不可能だ。狼や虎に殺すことは悪いことだと説き伏せることが出来ないのと同様である。罪悪感がない彼らが生む悪は本能だ。彼らを止めるには命を奪うこと。首を獲ること。絶命させること。タマとること。殺すしかない。

結局、タナトスは足が生えたゴミであり、自分の足でゴミ捨て場には行かず、逆にゴミ捨て場から逃走することしかできない。タナトスにとっての足は逃げるため足だ。罪悪感がないという利点（普通の人々っては悪徳）だけで頭の弱い人間を丸め込み、人喰い人種であることを盾に脅しをかけて力の弱い人間をラジコンのように操ることしかできない。バカだから弱い人間しか操れない。プーチン大統領、トランプ大統領のような英雄、ジョン・レノン、アントニオ二、小津、黒澤のような優れた芸術家、そしてオレのような世界最高の顔を持つ男や超科学の番人である宇宙人（トバルカイン）を操れるようになったら褒めてやる。それこそがおまえらにとっての進化であるべきだ。だが、いつまでたってもできそこないにはそれができない。死ぬまで好きなだけたくさんバカを操ってゴキゲンでいればいいじゃないか。

⑦カースト制度の一族タナトス（独自の階級制度 カースト制度）

カースト制度はタナトスの一族の中で機能しているヒエラルキーシステムである。最高位がバラモン（僧侶）であり、その次の高位がクシャトリア（貴族）、その下にヴァイシャ（平民）がいる。タナトスの一族はここまでである。ヴァイシャ以下のスードラ（奴隷）はタナトスの一族以外の人々（邪教信者）であり、バリア（不可触卑民）は集団ストーカー被害者のように優れた資質を持つ者である。優れている者は少ない。つまり、数で勝る劣っている者を邪教の信者とし

て指揮し、集団で優れた者を無視すれば優れた者に勝てる。これが集団ストーカーの機能・本質である。つまり、タナトスにとっての異分子排除が集団ストーカー指揮の目的・動機である。集団ストーカーの指揮権はバラモンだけが有するのであり、それ以下の階級では扱うことは許されない。そのため、安倍（クシャトリヤ）がどんなに嫌がっていても俺の声は常に（生放送中）彼に聞こえている。TV局ディレクター（ヴァイシャ）も俺の声を停止する権限はない。俺の声を聴くことを停止する権限は本願寺門主だけが有しているのだ。

分かりやすく説明すると、並み居る悪徳バラモンの中でもバラモンの王と呼べるのは唯一東西本願寺門主だけである。現在のタナトスの王は大谷暢裕先生、大谷光淳先生である。この事実については世界中のタナトス一族に異論はない。クシャトリヤは分かりやすく言えば貴族、王族、政治家である。しかし先進国に於いては現在、王室はタナトスの巢でしかなく、それほど強い権限はないようだ。ただ、カタル、オマーン、クウェート、バーレーン、モロッコ、ブルネイ、タイ、カンボジアなどの王国では王族が強い力を持つというケースもある。大統領、首相級の元首から、果ては各企業のCEO、エリート官僚（警視總監、最高裁判官など）、各種権威（教授、専門家）、高級医療従事者までがクシャトリヤとなる。主なクシャトリヤにはキッシンジャー、ヒトラー、安倍総統、ポロシェンコ、そしてブッシュ、クリントン、オバマなどのディープステートが含まれる。ヴァイシャは平民であるが信者を指揮する権限はない。だが、バラモンの命によって大量の信者たちに守られている。2ちゃんの西村博之、カンニング竹山、バナナマンなどが代表的なヴァイシャの指導者だ。また、ヴァイシャは地域規模ながら、世界中で頭領のように振舞っていることがある。役所職員、警察官、消防員、電気会社職員などもタナトスの平民、ヴァイシャである。香港デモの場合、現場で信者たちを直接監視・指揮しているのもヴァイシャである。クシャトリヤ以上の階級が現場に赴くことはない。カーストは厳しいものだ。

集団ストーカーに従事するのはスードラ（邪教信者）である。スードラはもともと奴隷の意味だが、その通り、集団ストーカー加害者は間違いなく奴隷である。ただ、俺に言わせてもらえば、現在の信者は骨伝導音声送信技術、レーザーセンサー、人工衛星、AIの技術向上により、もはや奴隷というよりは道具（ラジコン）にまで堕ちている。どんな奴隷でも一応は人間だからな。あいつらはもはや人間でさえない。スードラはバラモン、クシャトリヤのためなら何でもする。このスードラが集団ストーカーで現場に従事し、過去には魔女狩り、異端審問で大きな役割を果たしてきた。無能な安倍政権支持も、消しゴムみたいなグレッタ・トゥーンベリの支持も、通りすがりゲイ人の人気爆発も、資源の無駄でしかないベストセラーもスードラが存在があってこそだ。スードラがいなければタナトスには何も成し遂げることは出来ない。大量のスードラがバラモンのたわごとを脳に記憶し、自身の発言や行動として何度も反復させることで、タナトスはウソを真実に変えてきた。真実を作ってきた。そう。真実とは、人気者であれ、敵であれ、常識であれ、歴史であれ、すべて作られてきたものだ。タナトスにとって信者の数は発言力の強度である。信者の減少は発言力の無力化を示す。しかしタナトスはそのところは心配していない。信者は弱い人間だからだ。信者は、弱いからこそ完全に服従し、弱いからこそ裏切らない。檻の

扉が開いていたら犬でも猫でもゴキブリでも逃げるがそれでも信者は逃げない。まさに理想的な僕（しもべ）だ。弱い人間には、善悪の判断基準は装備されていない。そこにあるのは怖いかな？怖くないかな？今死ぬのか？後で死ぬのか？という弱い人間特有の判断基準である。信者に自身の意志はない。

集団ストーカー被害者はバリヤ（不可触卑民）に規定されるが、実際には人生に於いての勝利者である。あらゆる面で優れているからだ。だがタナトスは、その勝利者を多数の信者（スードラ）を用いて無視し、敗北者であるというウソを強制的に規定することで、タナトスが作り上げてきた社会システムから排除する。優れたものが排除されることで、できそこないであるタナトスに、大統領からTVの人気者まで、あらゆる席が用意されることになるのだ。優れている人間は、他者に優れていると認定される必要はない。誰にも認められなくとも優れている事実は揺らぐことはないのだ。だが、できそこないは常に他者に優れていると認定されることが不可欠である。そうしなければ優れていることが誰にも分からないのだ。と、いうことは優れていないのだがw

悪の巢～タナトスは王族に巢を作る

◆悪の巢（タナトスは王族、貴族に巢を作る）

- タナトスの一族～ズルー帝国の王族
- ダーナ神族（ダナオス）の一族～サヴォイアの王族
- アブラハム（ヴァイシュラーヴァナ）の一族～会津松平家、フィンランド大統領の一族
- 預言者ナタンの一族～ブガンダ王国の王族
- アッシュール・ダン1世（魔神アスラ）の一族～オルデンプルグ伯爵、アイスランド大統領の一族
- ガリアのドルイド司祭（東本願寺）の一族～ヴェッティン家、ザクセン＝コーブルク＝ゴータ家の一族
- 聖ドナトゥスの一族～ハイチ帝国の王族、リベリア大統領の一族
- ローマ教皇レオ1世の一族～シチリア王国の王族、マフィアの一族
- ローマ教皇アレクサンドル3世の一族～カンボジア王国の王族
- ローマ教皇インノケンティウス3世の一族～ブルネイ帝国の王族
- 親鸞の一族～スペイン・アプスブルゴ家、スペイン・ボルボーン家の一族
- 如信の一族～ボルボン朝スペイン王の一族
- 覚如の一族～黎朝ベトナム帝国の王族
- 善如の一族～カタール首長の一族
- 綽如の一族～ケベック・カナダ総督の一族、デュポン財閥の一族
- 巧如の一族～アフガニスタン王国、オマーン王国の王族
- 存如の一族～ブラガンサ朝ポルトガル王国の王族
- 蓮如の一族～ベルギー王国の王族
- 実如の一族～モロッコ王国の王族、統一協会の一族
- 証如の一族～クウェート王国の王族
- 顕如の一族～ラッセル伯爵の一族、ヴァンダービルト財閥の一族
- 教如の一族～ハワイ王国、トンガ王国の王族
- 宣如の一族～ブルボン朝ルイ17世の一族、フランス大統領の一族
- 琢如の一族～ベンガル太守の一族、バングラデシュ大統領ムジブル・ラフマンの一族
- 常如の一族～琉球第二尚氏王統の一族、李氏朝鮮の王族
- 一如の一族～オラニエ＝ナッサウ王家
- 真如の一族～ムガル皇帝の一族
- 従如の一族～徳川慶喜の一族
- 乗如の一族～ブラジル皇帝の一族
- 達如の一族～賀陽宮邦憲王の一族

- 大谷光勝の一族～興宣大院君の一族、明治天皇の一族
 - 大谷光榮の一族～大正天皇、昭和天皇の一族
 - 大谷光演の一族～ディズニーファミリーの一族
 - 大谷光暢の一族～十一代市川團十郎の一族、榊原病院の一族
 - 大谷暢頭の一族～大谷光演、大谷光暢の一族
 - 大谷暢裕の一族～リチャード・ロックフェラーの一族
-
- ティールタンカラ（仏陀）の一族～ルクセンブルク、リヒテンシュタイン、モナコの王族
 - デウスの一族～マッラ朝ネパール王、ジョグジャカルタ・スルターンの一族
 - サトゥルヌスの一族～住友家、三井家、クウェーカーの一族
 - 大宛のドルイド司祭（西本願寺）の一族～林本源の一族、ジョホールの王族
 - クリュニー大主教ベルノの一族～ルワンダ王国の王族
 - クリュニー大主教アイマールの一族～聖フランチェスコ会の一族、イタリア首相の一族
 - 王安石の一族～総持寺祖院初代門主の一族、ブルンジ王国、バーレーン王国、イエメンの王族
 - 今川国氏の一族～モルダヴィア公の王族
 - 准如の一族～ベルナドッテ朝スウェーデン王の一族
 - 良如の一族～保科正之の一族、前田吉徳（徳川吉宗）の一族、オックスフォード＝アスキス伯爵の一族
 - 寂如の一族～女帝エカチェリーナの一族、バイエルン・ギリシアの王族
 - 住如の一族～黒住教、ビン＝ラディン・グループの一族
 - 湛如の一族～チャックリー王家、ネパールの王族
 - 法如の一族～ロスチャイルド財閥の一族、ロックフェラー財閥の一族
 - 文如の一族～九条道前の一族、ソールズベリー侯爵の一族
 - 本如の一族～セルビア公・ユーゴスラビアの王族、ムスリム同胞団の一族
 - 広如の一族～長州藩藩主毛利齊元の一族
 - ネルソン・ロックフェラーの一族～ロスチャイルド・パリ家の一族
 - デヴィッド・ロックフェラーの一族
 - 大谷光尊の一族～ウィンザー朝イギリス王室の一族
 - 大谷光瑞の一族～マンチェスター侯爵、アスター財閥の一族
 - 大谷光照の一族～第3代サウジアラビア王ファイサルの一族
 - 大谷光真の一族～リヒテンシュタイン公フランツ・ヨーゼフ2世の一族
 - 大谷光淳の一族～リヒテンシュタイン公ハンス・アダム2世の一族
 - ユダヤ人（1731）の一族～ハザール帝国、バイエルン公、ザクセン王の一族
 - ユダヤ人（1908）の一族～ガージャール朝の王族

ティールタンカラの一族～アーリア人、仏教、パルティア王国、サーサーン朝、継体天皇、中臣鎌足、藤原不比等、白河天皇、鳥羽天皇、マリ帝国、聖フェーメ団、ジェノヴァ共和国、ルクセンブルク公国、モナコ公国

- ・ナードゥ（2万年前）
- ・ダゴン（2万年前）

※「最終戦争ラグナロク」を機に、放射能で汚染された北アメリカ大陸を去ったアトランティス人は、故地であるアトランティス王国に帰還した。しかし、帰還組は自分の思い通りになる国を欲したため、一時的に隣国のティルス王国（タルタロス）に移住した。この時に本流「タナトスの一族」とは異なる分家筋「ティールタンカラの一族」の潮流が生まれた。ティールタンカラの一族からは「デウスの一族」「サトゥルヌスの一族」が生まれた。そしてサトゥルヌスの一族からは「ユダヤ人（1731、1908）の一族」が生まれた。

その後、ティルス王国を離れて古代インドに入植したアトランティス人は、ガンジス流域に入り、南下して南インドに「ナードゥ」を築き、「ダゴン」を神とする邪教を始めた。ナードゥの由来はタナトスであり、ダゴンの由来はクリュティオスとガンジスの組み合わせである。クリュティオス+ガンジス=ティガン=ダゴンとなる。ダゴンはカナンの神とされているが、デカンの名から、デカンで生まれたと考えることができる。

ナードゥを治める王族は「ティールタンカラ」と呼ばれた。ティールタンカラの由来はティルス、タナトス、クリュティオスの組み合わせである。ティルス+タナトス+クリュティオス=ティルタナクリュ=ティールタンカラとなる。ティールタンカラの王族からは、ダゴンを祀る神官が輩出され、「バラモン」と呼ばれた。バラモンの由来はティールタンカラのひとりヴァルダマーナである。ヴァルダマーナ=ヴァルマーナ=バラモンとなる。この時に「カースト制度」が生まれた。



ティールタンカラ（2万年前）
バラモン（2万年前）

悪魔ナムチ/大己貴神（2万年前）

※ナードゥを治めた伝説的な首長は「24人のティールタンカラ」と呼ばれた。この24人のティールタンカラには、リシャパ、アジタ、シャンバヴァ、アビナダナ、スマティ、パドマプラバ、スパールシュヴァ、チャンドラプラバ、スヴィディ、シータラ、シュレーヤンサ、ヴァースプージャ、ヴィマラ、アナンタ、ダルマ、シャーンティ、クントゥ、アラ、マッリ、スヴラタ、ナミ、ネーミ、パールシュヴァ、ヴァルダマーナがいる。因みに、リシャパの名はリッチャヴィの由来である。ティールタンカラは、アラの名からアーリア人とも呼ばれた。

一方、ヌミディアに移住したティールタンカラは、24のティールタンカラに属するナミ、或いはネーミに因んで「悪魔ナムチ（大己貴神）」を生んだ。ナムチとヌミディアの名の由来はナミ、或いはネーミとクリュティオスの組み合わせである。ナミ+クリュティオス=ナミティオ=ヌミディア=ヌミディ=ナムチとなる。

●アーリア人（ティールタンカラの一族）

- ・バーラタ族（BC 32世紀）
- ・トリツ族（BC 32世紀）
- ・クル族（BC 32世紀）
- ・パルシュ族（BC 32世紀）

※北欧に移住したティールタンカラは、バルト海を中心にアーリア人、バーラタ族、トリツ族、クル族、パルシュ族を生んだ。彼らの名は、みな24のティールタンカラの名に由来している。アーリア人は「アラ」、バーラタ族は「ヴァルダマーナ」、トリツ族はティルス、クル族はクリュティオス、パルシュ族は「パールシュヴァ」に由来している。その名から、彼らはバルト海からペルシア地域に君臨していたと考えられる。

一方、アヌ族、ドルヒユ族、パニ族、バラーナ族、プール族、ブリグ族はインドに暮らし、インドに侵攻してきたバーラタ族と戦った。パルシュ族、クル族はダーサ族と共にインドのアーリア人に加わったが、目的はスパイだった。



Lelex (生没年不詳) 初代スパルタ王 在位BC1600頃

- ・ Myles (生没年不詳) 第2代スパルタ王 在位BC1575頃
- ・ Eurotas (生没年不詳) 第3代スパルタ王 在位BC1550頃

※スパルタ人はドーリス人（アーリア人トリツ族）から生まれた。この頃のスパルタはギリシアではなく、古代インドに存在したとされているクル王国と同じように、じつは古代バルト海～中央アジア・インドにかけて存在したと考えられる。スパルタの名の由来は24のティールタンカラに属するスヴラタである。

- ・ Pratipa (生没年不詳) 初代クル王 在位BC13世紀
- ・ Shantanu (生没年不詳) クル王 在位BC13世紀

Aristodemus (生没年不詳) スパルタ王 在位不明

Yuxiong (生没年不詳) 初代楚王 在位BC11世紀

ウパリチャラ・ヴァス (?～?) チェーディ王 在位BC11世紀

※スパルタ王Aristodemusが初代楚王Yuxiongだと考えられる。スパルタと楚（シュ）は異なる名を持つひとつの王国である。古代バルト海を拠点にスパルタ人は楚を築き、長江流域を植民地としていた。

- ・ シシュパーラ (?～?) チェーディ王
- ・ ドリシュタケートゥ (?～?) チェーディ王
- ・ サラバ (?～?) チェーディ王

※インドに存在したとされているチェーディ王国はじつは現スウェーデンに存在したと考えられる。チェーディの由来は24のティールタンカラに属するスヴィティである。スヴィティ＝チウィーティ＝チェーディとなる。古代ギリシアに存在したとされているスパルタと古代インドに存在したとされているチェーディは、バルト海に存在した名前が違っても同じ王国である

。サラバ王は、マハーバーラタ戦争の英雄アルジュナに殺害されている。



Janamejaya（生没年不詳） クル王 在位BC 950頃※画像なし

Eurysthenes（生没年不詳） 初代スパルタ王 在位BC 930頃

Xiong Kang（生没年不詳） 第10代楚王 在位不明

※バルト海に拠点を持っていたスパルタ王（チェーディ王）はクル王と楚王の王位を継承していたが、マハーバーラタ戦争以後、ジャナメジャヤ王の時に古代ギリシアに移住し、ギリシア時代のスパルタが始まったと考えられる。

- ・ヴァッジ王国（BC 10世紀以降）※歴代王の系譜は不明

- ・シューラセーナ王国（BC 10世紀以降）※歴代王の系譜は不明

※ヴァッジ王国はリッチャヴィ族、ヴァッジ族が築き、ガナ・サンガ国と呼ばれた。リッチャヴィの由来は24のティールタンカラに属するリシャパである。古代インドに存在したとされているが、実際には古代ヨーロッパに存在したと考えられる。

シューラセーナの由来は24のティールタンカラに属するシュレーサーンサである。シュレーサーンサ=シュレーサーナ=シューラセーナとなる。シューラセーナ王国はその名からセーヌ川流域に存在したと考えられる。

ヴァッジ王国もシューラセーナ王国も、歴代王の系譜は不明とされているが、スパルタ王、楚王が歴任していたと考えられる。ヴァッジ・シューラセーナの初代王は、スパルタ王Eurysthenesと楚王Xiong Kangである。スパルタ王アギス1世（シッダールタ）もヴァッジ王・シューラセーナ王に即位していたと考えられる。



アギス1世（生没年不詳） スパルタ王 在位BC930～BC900※画像なし

Xiong Zhi（生没年不詳） 第11代楚王 在位不明

シッダールタ（生没年不詳） スドーダナの子

アーナンダ（生没年不詳） ドロノダーナの子※画像なし

※「マハーバーラタ戦争」「十王戦争」のあと、アーリア人はカピラバストゥ王国（カブール～ハルシュタット）に移ってシッダールタ、アーナンダを生んだ。シッダールタとアーナンダの名の由来は、24のティールタンカラに属するシータラとアナンタである。シータラ＝シータラータ＝シッダールタとなり、アナンタ＝アーナンタ＝アーナンダとなる。

ブッダは古代ヨーロッパで生まれたことになる。浄土真宗はその事実を知っていたため、フランスの漢字表記に「仏」を使用した。シッダールタの名残りはシトーの名に、アーナンダの名残りはナントの名に残されている。ブッダが仏教を布教した地域は「ケルト」「ガリア」と呼ばれた。いずれもクリュティオスに由来している。クリュティオス＝クリュテ＝ケルトとなり、クリュティオス＝クリュ＝ガリアとなる。

- ・ 肅慎（BC4世紀）
- ・ ジルシン（BC4世紀）

※BC4世紀にシューラセーナ王国が滅ぶと、シューラセーナ人は最初に満州に渡り、「肅慎（スーシェン）」を生んだ。その後太平洋を横断してユタ間半島を横切り、北アメリカ大陸を北上してグリーンランド、アイスランドを経てブリテン島北部に入植した。ピクト人の部族に参加した彼らは「ジルシン」を称した。

カラノス（生没年不詳） マケドニア王国初代王 在位BC808～778

Dharma (生没年不詳) 伝説的マガダ王 在位不明

※「マハーバーラタ戦争」の後、ヴァイシュラヴァナとティールタンカラの子孫がマケドニア王国を築いた。カラノスの名の由来はクロノスである。そして、マケドニアの由来はアプリマックとティールタンカラの組み合わせである。アプリマック+ティールタンカラ=マックダン=マクダナ=マケドニアとなる。インドのマガダ王国とは、実のところ、マケドニア王国のことである。

コイノス (BC 8世紀) マケドニア王国第2代王

Pradyota (BC 8世紀) 伝説的マガダ王・アヴァンティ王

天児屋命 (?~?)

※「あめのこやね」のコヤネは、明らかにコイノスの名に因んでいる。神話は正しい。なぜなら、マケドニア王の血筋から中臣氏が誕生するからだ。神話では天児屋命が中臣氏の祖神とされている。

Bimbisara (生没年不詳) ハーリヤンカ朝初代マガダ王 在位 BC 544 ~ BC 492

Udayin (生没年不詳) ハーリヤンカ朝マガダ王 在位 BC 460 ~ BC 444

テレス1世 (?~BC 430) オドリュサイ朝トラキア初代王 在位 BC 480 ~ BC 430

※マガダ王はトラキア王国を築いた。トラキアの由来はトリツである。トリツ=ドリス=THRACE=トラキアとなる。この頃にマガダ王国が現マケドニアからインドに移った。

ダナンダ (生没年不詳) ナンダ朝マガダ王 在位 BC 329 ~ BC 321

セウテス3世 (?~BC 300) オドリュサイ朝第17代トラキア王 在位 BC 341 ~ BC 300



Samprati (?~BC 215) マウリヤ朝第5代マガダ王 在位 BC 224 ~ BC 215 ※画像なし

アルサケス1世 (?~BC 211) アルサケス朝初代パルティア王 在位 BC 247 ~ BC 211

※マガダ王は現イランにパルティア王国を築いた。パルティアの由来はパールシュヴァである。

プシャミトラ (?~BC144) シシュンガ朝初代マガダ王 在位BC180~BC144
ミトラダテス1世 (?~BC138) アルサケス朝第5代パルティア王 在位BC171~BC138
テレス4世 (?~BC149) オドリュサイ朝トラキア第40代王 在位BC149※最後の王

※この当時のマガダ王は、インド(マガダ王国)、バルカン半島(トラキア王国)、イラン(パルティア王国)を支配していた。



Devabhuti (生没年不詳) シシュンガ朝マガダ王 在位BC83~BC73
ミトラダテス2世 (?~BC87) アルサケス朝第8代パルティア王 在位BC124~BC87
コティス1世 (?~BC87) アステア朝トラキア初代王 在位BC100~BC87※画像なし



ヴァルダネス1世 (?~47) アルサケス朝第21代パルティア王 在位40~47
ピトドリス2世 (?~46) アステア朝トラキア第17代王 在位38~46※画像なし最後の王

ヴォロガセス4世 (?~192) アルサケス朝第26代パルティア王 在位148~192
区連 (?~192) 第1王朝初代チャンパ王

※ヴォロガセス4世は、パルティアからインドシナ半島に進出し、チャンパ王国を築いた。チャ

ンパの由来は24のティールタンカラに属するシャンパヴァである。



ヴォロガセス5世 (?~208) アルサケス朝第27代パルティア王 在位191~208※
画像なし

Pabag (?~207) アルダシール1世父



アルタヴァステス (?~229) アルサケス朝第30代パルティア王 在位227~229※
画像なし

アルダシール1世 (?~241) サーサーン朝初代君主 在位224~241

※ヴォロガセス6世はダヴィデの一族であり、パルティアの民を救おうと王位に就いたが、残念ながらアルダシール1世に討たれた。その後、アルダシール1世はサーサーン朝を開いた。サーサーンの由来はシューラセーナと同じで24のティールタンカラに属するシュレーサーンサである。シュレーサーンサ=シュレーサーン=サラセン=サーサーンとなる。



シャープール2世 (?~379) サーサーン朝第10代君主 在位309~379

范文 (?~349) 第2王朝初代チャンパ王 在位336~349

グリシャ・デーヴァ（4世紀） リッチャヴィ朝ネパール王国初代王

※シャープール2世は、現イランからネパールに進出してリッチャヴィ朝を開いている。リッチャヴィの名の由来は24のティールタンカラ「リシャパ」である。

カワード1世（?～531） サーサーン朝第20代君主 在位488～97※画像なし

范諸農（?～498） 第3王朝第5代チャンパ王 在位492～498

ビシヌス（?～500） チューリングゲン王 在位450～500

※カワード1世ははるばるドイツに進出し、チューリングゲン族を儲けている。チューリングゲンの由来はトラキアンである。トラキアン＝トーランキアン＝チューリングゲンとなる。



カワード1世（?～531） サーサーン朝復位君主 在位499～531※画像なし

バデリヒ（?～530） チューリングゲン王 在位500～530※画像なし

バルデシャル（?～530） チューリングゲン王 在位500～530※画像なし

ヘルミナフリード（?～531） チューリングゲン王 在位500～531※画像なし

継体天皇（450～531） 第26代天皇



ジャーマースプ（?～499） サーサーン朝第21代君主 在位497～499

武烈天皇（489～507） 第25代天皇

マナ・デーヴァ1世（?～505） リッチャヴィ朝ネパール王 在位464～505※画像なし

キールティヴァルマン1世（?～566） 前期チャールキヤ朝初代王 在位543～566※画像なし

※サーサーン王ジャーマースプは、インドにチャールキヤ朝を開いた。チャールキヤの由来はトラキアである。トラキア=チョーラキア=チャールキヤとなる。



ホスロー1世（?～579） サーサーン朝第22代君主 在位531～579※画像なし

欽明天皇（509～571） 第29代天皇※継体天皇の子



ホルミズド4世（540～590） サーサーン朝第23代君主 在位579～590※画像なし

敏達天皇（538～585） 第30代天皇※欽明天皇の子

バハラム6世（?～591） サーサーン朝君主 在位590～591

押坂彦人大兄皇子（555～592） 敏達天皇の子

中臣可多能コ（6世紀） 中臣氏の祖

プラケーシン1世（?～597） 前期チャールキヤ朝第2代王 在位566～597



舒明天皇（593～641） 第34代天皇※押坂彦人大兄皇子の子

中臣御食子（?～?） 中臣可多能コの子※画像なし

プラケーシン2世（?～642） 前期チャールキヤ朝第4代王 在位609～642※画像なし

ヴィシュヌヴァルダナ1世（?～?） 東チャールキヤ朝初代王 在位624～641※画像なし

アンシュ・ヴァルマー（595～621） リッチャヴィ朝ネパール王※画像なし

ハルシャ・ヴァルダナ（590～647） ヴァルダナ朝初代王 在位606～647※画像なし

ソンツェン・ガンポ（?～649） 吐蕃王朝第2代王 在位630～649※画像なし



古人大兄皇子（?～645） 舒明天皇の子※画像なし

中臣鎌足（614～669）

蘇我入鹿（611～645）※画像なし

アラナシュ（?～648） ヴァルダナ朝第2代王 在位647～648※画像なし

グンソングンツェン（?～643） 吐蕃王朝第3代王 在位638～643※画像なし

※生没年を見ると中臣鎌足が蘇我入鹿を演じ、北インドやチベットをも統治していたようだ。
更に、鎌足の時代から藤原を名乗り始めた。藤原の由来は24のティールタンカラに属するヴァ

ースプージャとヴァルダマーナの組み合わせである。ヴァースプージャ+ヴァルダマーナ=ヴァースヴァル=バスバル=バズハラ=藤原となる。



天智天皇/中大兄皇子（626～672） 第38代天皇※舒明天皇の子

中臣久多（?～?）※画像なし

ナレンドラ・デーヴァ（?～?） リッチャヴィ朝ネパール王 在位643～679※画像なし

※中臣の名の由来はナーガと臣の組み合わせである。歴史上はじめて公式な記録に登場したのが中臣可多能コである。中臣可多能コからは、中臣御食子、中臣国子、中臣糟手子が誕生している。その後、大伴咋女が中臣御食子に接近して中臣鎌足、中臣久多、中臣垂目を誕生させている。中でも中臣鎌足は車持与志古娘と結婚して「藤原氏」の祖である藤原不比等を誕生させている。しかし、藤原氏は基本的に中臣氏ではなく、車持氏（車師国）の系統である。



藤原不比等（659～720）

太安万侶（?～723） 古事記編纂※画像なし

大生部多（?～?） 常世神教祖※画像なし

大伴安麻呂（?～714）※画像なし

草壁皇子（662～689） 元正天皇、文武天皇父※画像なし

大伴旅人（665～731）※画像なし

※不比等を頭（かしら）に、不比等の子息たちが遠江国で詐欺カルト「常世神」を運営していたようだ。だが、彼らは英雄秦河勝に皆殺しにされると、天然痘で死んだことにして満州に逃げた。

藤原不比等（大伴安麻呂、草壁皇子、大伴旅人）の子



藤原武智麻呂（680～737）

元正天皇（680～748） 第44代天皇※画像なし

※元正天皇は結婚経験は無く、独身で即位した初めての女性天皇である。当然だ。彼女の正体は男であり、藤原不比等の息子藤原武智麻呂だったのだから。



藤原房前（681～737）

文武天皇（683～707） 第42代天皇



藤原宇合（694～737）



藤原麻呂（695～737）

大伴古慈斐（695～777） 藤原不比等娘殿刀自の夫※画像なし



光明皇后（701～760） 聖武天皇皇后

聖武天皇（701～756） 第45代天皇

※満州ではウェジ、ワルカ、ゴルカの部族を興し、「野人女直」と呼ばれた。ウェジとワルカの由来はフジワラキ（藤原の人）である。ゴルカは、ワラカがハ行がカ行を兼ねる法則で生まれた。

スウェード人（9世紀）

※アラナシュ（中臣鎌足）が、ソンツェン・ガンポ（中臣御食子）とナレーンドラ・デーヴァ（中臣久多）に連行されると、アラナシュと残党はインドを離れて黒海に逃れ、スウェード人となった。スウェードの由来は24のティールタンカラに属するスヴィティである。スヴィティ＝スヴィーティ＝スウェードとなる。スウェード人の神官は、「神に勇者を捧げなければならない」として、民衆に命じて勇者を惨殺していた。第三者の目から見て、これは虐殺ではなく、神の御心を汲んだ尊い行為だった。

天智天皇の子

志貴皇子（?～716）

アナスタシオス2世（?～719） ヘラクレイオス朝ビザンツ帝国皇帝

光仁天皇（709～782） 第49代天皇※志貴皇子の子

平城天皇（774～824） 第51代天皇※桓武天皇の子

コンスタンティノス6世（771～797） イサウリア朝ビザンツ帝国皇帝

ドンゴ（8世紀）

建州女直（8世紀）

※中臣氏は、善棟王と共にモンゴルに向かった。善棟王はモンゴルに入植して「オイラート」を生んだが、中臣氏は先祖である肅慎（スーシェン）が支配していた満州に根付いた。彼らは、女真族と混合して「ドンゴ」を生んだ。ドンゴの名の由来はタネコ（種子）である。タネコ＝タンコ＝ドンゴとなる。その後、ドンゴは女真族を篡奪し、「建州女直」を結成した。

更に、「スクスフ」「ワンギヤ」「フネヘ」の部族を生み、建州女直に加えた。スクスフの名の由来はスチュクスであり、ワンギヤの名の由来はオケアーノスであり、フネヘの名の由来はペーネイオスである。スチュクス＝スクスフとなり、オケアーノス＝オンギャーノス＝ワンギヤとなり、ペーネイオス＝ヘネイヘ＝フネヘとなる。マケドニア人の子孫であるドンゴは、ギリシア

神話に因んでこれらを命名したことがわかる。



阿保親王（792～846）※平城天皇の子

モイミール1世（795～846） モラヴィア王国初代王 在位830～846 ※画像なし

人康親王（831～872）※仁明天皇の子

ロスチスラフ（？～870） モラヴィア王国第2代王 在位846～870

国康親王（？～894）※仁明天皇の子

スヴァトプルク1世（830～894） モラヴィア王国第3代王 在位871～894

本康親王（？～902）※仁明天皇の子

モイミール2世（？～907） モラヴィア王国第4代王 在位894～907

※モラヴィア王国はヴァイキング登場前夜に突如として出現した大国であるが、この国は、平城天皇の氏族、仁明天皇の子息が築いたものである。モラヴィアの由来は24のティールタンカラに属するヴィマラを反対にしたものである。ヴィマラ＝マラヴィ＝モラヴィアとなる。

陽成天皇（869～949） 第57代天皇※桓武天皇の玄孫の子

ラゲー・デーヴァ デーヴァ朝ネパール王国初代王 在位879～？

※陽成天皇はネパールに進出し、初代王ラゲー・デーヴァとしてAD879年に「デーヴァ朝」を開いた。デーヴァ家の名は善神デーヴァの名に由来していない。



村上天皇（926～967） 第62代天皇

ジークフリート（922～998） 初代ルクセンブルク伯

円融天皇（959～991） 第64代天皇

グナカマ・デーヴァ（?～?） デーヴァ朝ネパール王 在位949～994

ハインリヒ5世（960～1026） バイエルン公

※円融天皇はネパール王とバイエルン公を演じた。バイエルン公の時代、彼は「ルクセンブルク公」を儲ける。



花山天皇（968～1008） 第65代天皇

藤原道長（966～1028）

※歴史では藤原道長が娘を天皇にと継がせることで天皇家を掌握したとあるが、そもそも、道長自身が花山天皇そのひとだった。藤原氏が謳歌した平安時代は、タナトスの一族が謳歌した世の中であった。



一条天皇（980～1011） 第66代天皇

※前期チャールキヤ朝が滅ぶと、一部マハーデーヴィー妃の残党は日本に移住し、日本を統べるべく皇族に接近した。AD980年、チャールキヤの残党から懐仁が誕生した。彼が「条」が付く最初の天皇だが、条の由来はチャールキヤである。チャールキヤ=チャー=条となる。一条から六条まで番号が付いているが、これは日本に上陸した順番だと考えられる。最初に日本に上陸したのが「一条天皇」の支族だった。

後朱雀天皇（1009～1045） 第69代天皇

ラクスミカーヴァ・デーヴァ デーヴァ朝ネパール王 在位1024～1040

※AD1024年、ラクスミカーヴァ・デーヴァが、聖なる少女を崇拝する「クマリ崇拝」を確立した。しかし、タナトスが携わった宗教が全てそうであるように、これも単なるイカサマである。ひとりの少女を長期間、世間から隔離するため、現在では幼児虐待としてネパール政府に否定されている。



シヴァデーヴァ3世（?～?） デーヴァ朝ネパール王 在位1099～1126 ※画像なし

白河天皇（1053～1129） 第72代天皇

※シヴァデーヴァ3世は、日本に移住して「白河天皇」を称するが、白河の名の由来はチャールキヤである。チャールキヤ=シャルキア=シャラキア=白河となる。



マナ・デーヴァ (?~?) タクリ朝ネパール王 在位?~?※画像なし
鳥羽天皇 (1103~1156) 第74代天皇

※タクリ朝のネパール王マナ・デーヴァが日本に移住し、鳥羽天皇となる。鳥羽天皇の御名は「宗仁」であるが、これはマナに由来している。マナの人=マナヒト=ムネヒトとなる。そして、鳥羽(とば)の名の由来はデーヴァである。



後白河天皇 (1125~1192) 第77代天皇
ビッラマ5世 (?~1192) ヤーダヴァ朝初代王※画像なし

※後白河天皇は後期チャールキヤ朝に侵入し、「ヤーダヴァ朝(セーヴナ朝)」を開いた。



- 土御門貞通（1188～1247） 土御門家祖
後鳥羽天皇（1180～1239） 第82代天皇
シンガナ2世（？～1247） ヤーダヴァ朝第3代王※画像なし
ヴァルラム（1180～1226） リンブルフ公※画像なし
Engelbert II of Berg（1185～1225） 聖フェーメ団首領

※インド洋の商業航路を経て日本に辿り着いたツチ族は、土御門貞通に変身して「土御門家」を築いた。土御門の由来はツチ族の帝王である。その後、土御門貞通は「後鳥羽天皇」を演じた。後鳥羽の名の由来は、鳥羽天皇と同様にデーヴァである。



土御門天皇（1195～1231） 第83代天皇※後鳥羽天皇の子

尊助法親王（1217～1291） 天台座主※土御門天皇の子

ハインリヒ5世（1216～1281） 初代ルクセンブルク伯

スンジャータ・ケイタ（1217～1255） マリ帝国初代王 在位1240～1255

※尊助法親王は土御門天皇の子であるためか、アフリカに赴き、マリ帝国を建てている。マリの由来は24のティールタンカラに属するマツリである。



ハインリヒ7世（1275～1313） ルクセンブルク朝初代神聖ローマ皇帝※ハインリヒ5世の孫

フランソワ・グリマルディ（?～1309） 初代モナコ領主※画像なし

オットカール（1318～1320） ※ハインリヒ7世の孫

土御門通房（1320?～?）

ンダヒロ1世（?～?） ルワンダ王国第1王朝初代王 在位1350～1386

※通房の時代から土御門家はアフリカに帰還し、ルワンダ王国の王として君臨していた。



カール4世（1316～1378） ルクセンブルク朝第2代神聖ローマ皇帝 在位1346～1378

シモン・ボッカネグラ（?～1363） ジェノヴァ共和国初代ドージェ 在位1339～44、56～63※画像なし

茶和布底（?～1360） 第13王朝第2代チャンパ王 在位1340～1360※画像なし

※神聖ローマ皇帝カール4世はリンチ殺人集団「聖フェーメ団」の首領でもあった。



ジギスムント（1368～1437） ルクセンブルク朝第5代神聖ローマ皇帝※ハインリヒ7世の曾孫

サメンベ（?～1434） ルワンダ王国第1王朝第3代王 在位1410～1434※画像なし

バルトロメオ・デラ・キャブラ（1365～1433） ジェノヴァ共和国ドージェ 在位1405～1414※画像なし

コラード・ダ・フォグリアノ（?～1470） ジェノヴァ共和国ドージェ 在位1468～1470

槃羅茶全（?～1471） 第15王朝第2代チャンパ王 在位?～1471

- ・シイリマ1世（?～1506） ルワンダ王国第1王朝第6代王 在位1482～1506
- ・キゲリ1世（?～1528） ルワンダ王国第2王朝初代王 在位1506～1528
- ・ミバンブウェ1世（?～1552） ルワンダ王国第2王朝第2代王 在位1528～1552
- ・ユヒ1世（?～1576） ルワンダ王国第2王朝第3代王 在位1552～1576
- ・ンダヒロ2世（?～1600） ルワンダ王国第2王朝第4代王 在位1576～1600



ルガンズ2世（?～1624） ルワンダ王国第3王朝初代王 在位1600～1624※画像なし

カール1世（1569～1627） 初代リヒテンシュタイン公

※ルワンダ王ルガンズ2世はルワンダを発進してドイツに移住し、カール1世としてリヒテンシュタイン公に就任した。本願寺を拠点とする他のタナトスの一族がヨーロッパを食い荒らす中、小さいながら、自分たちの領土を確立した形だ。

ユヒ2世（?～1720） ルワンダ王国第3王朝第5代王 在位1696～1720

ポー・サクティライ・ダ・プティー（?～1728） 自治政権初代チャンパ王 在位1696～1728

※1471年からチャンパ王位が空位になるが、その間、チャンパ王室はルワンダに赴き、ルワンダ王として君臨していた。その後、ユヒ2世の時にチャンパに帰還し、ベトナム帝国内でチャンパ王位を甦らせた。

後奈良天皇の子

覚恕法親王（1521～1574） 天台座主

ドラヴィヤ・シャハ（?～1570） ゴルカ王国初代王 在位1559～1570

オノレ1世（1522～1581） 第18代モナコ領主 在位1523～1581

※覚恕法親王は38歳の時にネパールに移住し、「ゴルカ王朝」を築いた。その後もネパールと日本を往来していたが、1571年に比叡山焼き討ちが起きると、日本を脱出してネパールに逃げた。歴史では武田信玄を頼って甲斐に亡命したとされている。その後、モナコ領主座を篡奪し、オノレ1世を称してモナコ領主になった。オノレの由来は日本語「おのれ」だろう。



プリトビ・ナラヤン・シャハ（1722～1775） ゴルカ王国第10代王、ゴルカ朝ネパール王国初代王



ラナ・バハドゥル・シャハ（1775～1806） ゴルカ朝第ネパール王国第3代王 在位1777～1799

ギヨーム1世（1772～1843） ルクセンブルク初代大公※画像なし

※ラナはウィレム1世の影武者を務めていたと考えられる。ネパール王がオランダ王の影武者を演じ、そのままルクセンブルク公国の初代大公となった。ゴルカ朝の王位はその後、第7代王プリトビ・ビール・ビクラム・シャハの時代にチャックリー朝（西本願寺門主湛如の一族）に篡奪されている。



ギヨーム4世（1852～1912） ルクセンブルク第5代大公

シャルロットの子（ルクセンブルク大公ギヨーム4世の孫）





ジャン（1921）ルクセンブルク第8代大公 在位1964～2000

レオ・チンデマンス（1922～2014）ベルギー王国第58代首相 任期1974～1978

ルドルフ・プレイル（1924～1958）異常性愛シリアルキラー（女性25人）

ルシアーノ・スタニアク（1920年代生）異常性愛シリアルキラー（女性20人）

レーニエ3世（1923～2005）モナコ大公

※何かの冗談か？ジャン大公とチンデマンスの顔は全く同じだ。同一人物でしかありえない。結婚式の写真では、新婦が新郎ジャンのことを怖がっていたように見えたので、新婦は正体を知っていたのだろう。ルクセンブルク。本願寺を拠点とする他のタナトスの一族がヨーロッパを食い荒らす中、小さいながら、自分たちの領土を確立した形だ。



アンリ（1955）ルクセンブルク第9代大公 在位2000～現在

ジョン・ダフィー（1956）強姦殺人（女性3人）

コリン・アイルランド（1954～2012）同性愛シリアルキラー（男性5人）

※両刀遣いシリアルキラー。チビのジョン・ダフィーにはのっぽの共犯者がいたというが、逮捕

もされていないし、誰だか判明してもいない。たぶんアンリ大公のことだろう。



アルベール2世（1958） 第21代モナコ大公 在位2005～現在

竹下雅敏（1959） シャンティ・プーラ主催

デウスの一族～魔神ドゥルガー、ミトラス教、キンメリア人、ハスモン朝イスラエル、サドカイ派、サータヴァーハナ朝、邪馬台国、フン族、エフタル、阿骨打、後醍醐天皇、村上水軍、シャーマニズム、TM瞑想

- ・デウス（2万年前）
- ・サトレ（2万年前）

※「最終戦争ラグナロク」を機に、放射能で汚染された北アメリカ大陸を去ったアトランティス人は、故地であるアトランティス王国に帰還した。しかし、一部は反対側のヨーロッパに目を向けた。彼らは、北アメリカ大陸を離れて北極圏を抜けて氷河に覆われた北ヨーロッパに移住した。当時、ロンドン辺りまで氷河に覆われていたブリテン島にはディオオーネーのタナトスに属する司神タナトスが棲んでいた。

彼らは「デウス」を名乗り、古代ヨーロッパに住んでいたオケアーニス大洋の娘たち、河川の娘たちを支配した。デウスの由来はクリュティオスである。クリュティオス＝クリュデウス＝デウスとなる。その後、デウスはイタリア半島にまで進出し、イタリア半島では「サトレ」を称した。サトレの由来はサトゥルヌスである。サトレはイタリアの由来でもある。サトレ＝アトレ＝アトレア＝イタリアとなる。

「ネアンデルタールが切断して焼いた骨がフランス・シャラント県で発掘される」（BC7千年）

「ネアンデルタールが36人の子女を食べた痕跡がドイツ・バンベルク洞窟で発掘される」（BC6千年）

-
- ・ダーサ族（BC32世紀）
 - ・ドゥルガー（BC32世紀）

※古代ヨーロッパにティールタンカラが進出してアーリア人が生まれると、デウスはアーリア人の軍団に参加した。デウスは「ダーサ族」と呼ばれた。ダーサの由来はデウスである。

彼らは、バビロニアの最高神マルドゥクと至高神アヌを篡奪した。マルドゥクとアヌの名を由来に「ダキニ」を作り出した。マルドゥク＋アヌ＝ドゥカヌ＝ダキニとなる。一部ダキニはインド時代にマドラに拠点を得た際、彼らは「女神ドゥルガー」を祀っている。ドゥルガーの名の由来はマドラの人（マドラグ）である。マドラグ＝マドゥルガー＝ドゥルガーとなる。因みに、ダキニはデカンの由来である。

サートヴァタ族（BC 12世紀）

※マハーバーラタ戦争「十王戦争」を機に、ヨーロッパを離れてインドに落ち延びたデウスは「サートヴァタ族」を形成した。サートヴァタの名の由来はサトゥルヌスと24のティールタンカラに属するスヴィティの組み合わせである。サトゥルヌス+スヴィティ=サトゥヴィティ=サートウヴィティ=サートヴァタとなる

-
- ・ガンダーラ王国（BC 7世紀）
 - ・カンボージャ王国（BC 7世紀）

※サートヴァタ族は「キンメリア人」とも呼ばれた。キンメリアの由来は24のティールタンカラに属するクントゥとマッリの組み合わせである。ガンダーラもキンメリアと同じ由来を持つ。クントゥ+マッリ=クンマッリ=キンメリアとなり、クントゥ+マッリ=クントウッリ=ガンダーラとなる。

カンボージャも、24のティールタンカラに属するクントゥとヴァースプージャの組み合わせである。クントゥ+ヴァースプージャ=クンプージャ=カンボージャとなる。つまり、キンメリア人の拠点にはガンダーラ王国やカンボージャ王国だった。つまり、彼らは中央アジア、北インド、黒海付近などの広範囲を掌握していた。



ミトラス教（BC 7世紀）

※キンメリア人（ガンダーラ人、カンボージャ人）の王は、アッシリア王なども兼ねていた。また、キンメリアの王は神官に変身し、中央アジアに太陽神ミトラを祀る「ミトラス教」を設けた。ミトラスの名の由来はマドラである。マドラ=マトラス=ミトラスとなる。デウスの一族が日本に上陸した際、ミトラス（ミトラ）を由来に御手洗（みたらい）という言葉を生んでいる。

エサルハドン (?~?) アッシリア王 在位BC681~BC669

テウスパ (?~BC670) キンメリア王 在位BC680~BC670

タグダム (?~BC640) キンメリア王 在位BC660~BC640

サンダクシャトラ (?~BC640) キンメリア王 在位BC640

シャターニカ2世 (?~?) ヴァツサ王 在位BC6世紀

※キンメリア人(ガンダーラ人、カンボージャ人)がシャターニカ2世を名乗った。シャターニカの名の由来はサタニカ(サタンの人)である。シャターニカ2世は、同じ一族であるティールタンカラが築いたヴァツサ国の王となった。

安釐王 (?~BC243) 魏第14代王 在位BC276~BC243 ※画像なし

パイリサデス2世 (?~BC245) スパルタ朝ボスポラス王国第3代王 在位BC284~BC245 ※画像なし

ミトリダテス1世 (?~BC266) ポントス王国初代王 在位BC281~BC266 ※画像なし

アリオバルザネス (?~BC250) ポントス王国第2代王 在位BC266~BC250 ※画像なし

※サトゥルヌスの一族が魏の王を歴任し、デウスの一族がポントスの王を歴任した。そうすることで、デウスとサトゥルヌスの一族は中国から黒海付近までの広範囲を支配した。ミトリダテスの名の由来はミトラスである。この当時、魏第14代王はテン王国を雲南に築いていた。

王假 (?~BC225) 魏第16代王 在位BC227~BC225

ミトリダテス2世 (?~BC220) ポントス王国第3代王 在位BC250~BC220

※魏第14代王は、ポントス王として中国と同時に黒海周辺を支配していたが、更に日本に進出して神道を広めた。一方、ポントス王国を発進して地中海アフリカ沿岸側(カルタゴ)に進出し、魔神サトゥルヌスの聖地として「ダリの神殿」をカルタゴ各地に築いて回った。



CEREMONY OF BURNING A HINDU WIDOW WITH THE BODY OF HER LATE HUSBAND.

ミトリダテス3世 (?~BC 190) ポントス王国第4代王 在位BC 210~BC 190
シムカ (?~?) サータヴァーハナ朝初代王 在位BC 230~BC 207

※ミトリダテス3世はインドに進出し、サータヴァーハナ王朝を開いた。サータヴァーハナの名の由来はサートヴァタとヴァナラシの組み合わせである。サートヴァタ+ヴァナラシ=サートヴァヴァナ=サータヴァーハナとなる。サータヴァーハナ朝は、アーンドラ朝とも呼ばれた。この時にサティーの風習が生まれたと考えられる。サティーとは、ヒンドゥー社会における慣行で、寡婦を夫の亡骸とともに焼かれることを強制する恐ろしい習慣である。これは、実質上の人身御供の儀式である。女性を焼き殺したいデウスの一族は、そのためにまず標的の女性の夫を殺すことをしていた。サティーは、人身御供の種族であるデウスの一族にとって女性を焼き殺すのが目的だった。



ファルナケス1世 (?~BC 159) ポントス王国第5代王 在位BC 185~BC 159※
画像なし
ユダ・マカバイ (?~BC 160) ハスモン朝第2代大祭司 在位BC 166~BC 160
マタティア (?~BC 166) ハスモン朝初代大祭司 在位BC 168~BC 167



サドカイ派（BC 2世紀）

※Pontus王ファルナケス1世は、ユダ・マカバイに変身してセレウコス朝に蜂起し、モデイン司祭マタティアとしてハスモン朝初代王に即位した。「サドカイ派」はこの時に設けられた。サドカイの名の由来はサトゥルヌスとアカイアの組み合わせである。サトゥルヌス+アカイア=サドカイア=サドカイとなる。サドカイ派の関係者は不明だが、ハスモン朝大祭司が代々サドカイ派の大主教を兼任していたと考えられる。

●サドカイ派大主教（ハスモン朝大祭司）

- ・ヨナタン ハスモン朝第3代大祭司 在位BC 160～BC 142
- ・シモン ハスモン朝第4代大祭司 在位BC 142～BC 135
- ・ヨハネ・ヒルカノス1世 ハスモン朝第5代大祭司 在位BC 135～BC 104
- ・アリストブロス1世 ハスモン朝第6代大祭司 在位BC 104～BC 103
- ・アレクサンドロス・ヤンナイオス ハスモン朝第7代大祭司 在位BC 103～BC 76
- ・サロメ・アレクサンドラ ハスモン朝第8代大祭司 在位BC 76～BC 67
- ・アリストブロス2世 ハスモン朝第9代大祭司 在位BC 67～BC 63
- ・ヨハネ・ヒルカノス2世 ハスモン朝第10代大祭司 在位BC 63～BC 40
- ・アンティゴノス ハスモン朝第11代大祭司 在位BC 40～BC 37



ミトリダテス4世 (?～BC 150) ポントス王国第6代王 在位BC 170～BC 150※
画像なし

ヨナタン (?～BC 142) ハスモン朝第3代大祭司 在位BC 160～BC 142

アレタス1世 (?～?) ナパタエ王国初代王 在位BC 169～?※画像なし

※大祭司ヨナタンとしてイスラエルを治めていたミトリダテス4世は、一方でシナイ半島を中心にナパタエ王国を築いた。ナパタエの由来はナフタリである。イスラエル12支族の内のひとつナフタリ族の名前を引用したのは、彼らがイスラエルの大祭司を務めていた影響だと考えられる。

ナパタエ王アレタス1世は、家族であるサトゥルヌスの一族が築いたテン王国と連合すると、雲南にほど近い現タイ付近に拠点を得た。このデウスの一族とサトゥルヌスの一族の国家連合は邪馬台と呼ばれた。邪馬台の由来はシャム（シャマシュ）とナパタエの組み合わせである。魏（黄河）、テン（雲南）、サータヴァーハナ（インド）、ナパタエ（シナイ半島）、ポントス（黒海）、ハスモン（イスラエル）が邪馬台国の領域だった。邪馬台国は倭国とも呼ばれた。倭（わ）とは魏（ウェイ）のことを指している。



ミトリダテス6世 (BC 132～BC 63) ポントス王国第8代王 在位BC 120～BC 63

※ミトリダテス6世は東方に矛先を向けたローマ軍に対し、邪教であるミトラス教のローマ国内布教、子息で構成されたキリキア海賊によるテロ攻撃など、ローマ軍と真っ向から衝突することは出来るだけ避けて挑戦したが、見事に敗北した。

◆キリキア海賊メンバー（ポントス王ミトリダテス6世の子、孫）

- ・ Mithridates of Colchis
- ・ Arcathius
- ・ Machares
- ・ Pharnaces II of Pontus
- ・ Cleopatra of Pontus
- ・ Drypetina
- ・ Athenais
- ・ Xiphares
- ・ Mithridates I of the Bosporus
- ・ Adobogiona the Younger
- ・ Ariarathes IX of Cappadocia
- ・ Orsabaris

※キリキア海賊のメンバーはミトリダテス6世の子や孫たちだった。ミトラス教を信仰し、ローマ共和国内で布教の際もミトリダテス6世の子たちが神官を務めたと考えられる。狡猾、かつ屈強だったキリキアの海賊たちは、だが、カエサルによって皆殺しにされた。



ファルナケス2世（?～BC47） ポントス王国第9代王 在位BC63～BC47※画像なし

ダレイオス（?～BC37） ポントス王国第10代王 在位BC39～37※画像なし

オボダス1世（?～BC85） ナパタエ王国第3代王 在位BC96～BC85※画像なし

マリクス1世（?～BC30） ナパタエ王国第7代王 在位BC59～BC30※画像なし

崇神天皇（?～?） 第10代天皇 在位BC97～BC30

アルサケス (?~?) ポントス王国第11代王 在位BC37

ポレモン1世 (?~BC8) ローマ属領時代初代ポントス王 在位BC37~BC8

ピトドリダ (?~38) ローマ属領時代第2代ポントス王 在位BC8~38

マロボドゥース (?~18) マルコマンニ王 在位BC9~18

カトゥアルダ (?~20) マルコマンニ王 在位18~20

ハーラ (?~24) サータヴァーハナ朝第17代王 在位20~24

須ト单于 (?~21) 匈奴单于 在位18~21

※ハーラの時代からサートヴァタ王はインド人の軍隊を率いて匈奴に参加していたようだ。ハーラは須ト单于に変身して匈奴本体とは別の組織を形成し、それが北匈奴の前身となる。更に、ポントス王がマルコマンニ族としてゲルマニアにも進出することでゲルマニアも邪馬台国の領土に加わった。マルコマンニの由来はカルタゴの将軍ハミルカルである。崇神天皇、垂仁天皇は邪馬台国(倭国)王族連合の象徴だと考えられる。



ポレモン2世 (?~64) ローマ属領時代第3代ポントス王 在位38~64 ※画像なし

ヴァニウス (?~50) マルコマンニ王 在位20~50 ※画像なし

ヴァンギオ (?~50) マルコマンニ王 在位50 ※画像なし

シド (?~50) マルコマンニ王 在位50 ※画像なし

蒲奴 (?~?) 初代北匈奴单于 在位46~? ※画像なし

垂仁天皇 (?~70) 第11代天皇 在位BC29~70

※ポントス王ポレモン2世は、魏の王と組んでポントス(黒海)、ナパタエ(シナイ半島)、ハスモン(イスラエル)、サータヴァーハナ(インド)、北匈奴(モンゴル)、テン(雲南)、魏(黄河)を支配下に置いていた。

ラベル2世 (?~106) ナパタエ王国第7代王 在位71~106 ※最後の王
マルクス・トラヤヌス (30~100) ※ローマ皇帝トラヤヌス父

※ローマ帝国の勢力伸張により、ポントス、ハスモン、最後にナパタエを失うと、ナパタエ最後の王は敵の領内であるローマに進出した。マルクス・トラヤヌスに変身したラベル2世は後にローマ皇帝トラヤヌスの父となるが、それにより、デウスの一族がローマ帝国を掌握することになる。



トラヤヌス (53~117) ローマ皇帝 在位98~117

ガウタミープトラ・シャータカルニ (?~130) サータヴァーハナ朝第22代王 在位106~130 ※画像なし

萬氏尸逐侯鞬单于 (?~124) 第11代南匈奴单于 在位98~124 ※画像なし

ルキウス・ウェルス (130~169) ※ローマ皇帝トラヤヌスの曾孫

バロマール (?~?) マルコマンニ王 在位166~178頃

バナダスプス (?~?) ジャマタエ王 在位174頃

ヤジャニヤ・シュリー・シャータカルニ (?~?) サータヴァーハナ朝最後の王 在位170~199

於夫羅 (?~195) 第19代南匈奴单于 在位188~195

※ゲルマン人の一派ジャマタエ族は非常に地味だが、同じゲルマン人の一派マルコマンニ族の同胞として知られている。ジャマタエ族の正体は現タイ~テン王国(雲南)から来た雲南人(タイ人)である。ジャマタエの由来はもちろん邪馬台である。

歴史上、ジャマタエ人は同胞マルコマンニ人によって討伐されたとされているが、これによりマルコマンニ人はローマの中枢に行けるようになった。つまり、ジャマタエ人は負けたフリをするという工作を実施したようだ。陰謀の特徴は「結果がじつは目的だった」ということだ。

サータヴァーハナ朝最後の王は、インド人を率いて仲間が築いた南匈奴に迎合した。その後、南匈奴が滅ぶと匈奴の残党と合体して西方に向かうことでフン族と呼ばれる。フンの由来はサータヴァーハナのハナである。ハナ=ハン=フンとなる。



ルキウス・アウレリウス・ウェルス（159?）※ルキウス・ウェルスの子
ゴルディアヌス1世（159～238） ローマ皇帝 在位238

アントニア・ゴルディアナ（210～?） ローマ皇帝ゴルディアヌス2世の妹
クラウディウス・ゴティクス（213～270） ローマ皇帝 在位268～270
卑弥呼（?～240頃） 倭国女王

※邪馬台国の女王卑弥呼の正体はローマ皇帝の妹アントニア・ゴルディアナだった。この時期、邪馬台国は魏、テン王国、ポントス王国、ナパタエ王国、匈奴の滅亡により領土は縮小傾向にあった。しかし、ゴルディアナ（卑弥呼）の父はローマ皇帝ゴルディアヌス1世であり、兄はゴルディアヌス2世だった。つまり、卑弥呼の時代の邪馬台国とはローマ帝国のことである。ゴルディアヌス1世から3世にかけて、ローマ皇帝は直々に「サトゥルヌス密儀」を指揮していた。サトゥルヌス神殿は、政治的にも極めて重要な神殿としてローマの七丘のひとつカピトリヌス丘の麓に築かれた。神殿には、ローマの国庫が設置され、法文や元老院決議が保管されるなどされていたが、サトゥルヌス密儀の集団が、どれほどローマに対して大きく、深い影響力を誇っていたかが理解できる。



ゴルディアヌス3世（225～244） ローマ皇帝 在位238～244

台与（235～？） 卑弥呼の子

Shammar Yahri'sh（？～300） 初代ヒムヤル王 在位275～300

※アントニア・ゴルディアナ（卑弥呼）の子ゴルディアヌス3世（台与）は、アラビア半島南部に進出してヒムヤル王国を築いた。ヒムヤルの由来は、卑弥呼と同じでカルタゴの将軍ハミルカルから取られたと考えられる。

オリブリオス（430～472） 西ローマ皇帝 在位472

ベンガ（？～？） ジャマタエ王子 在位470～471

ブバイ（？～？） ジャマタエ王子 在位470～471

※ジャマタエ人はローマ掌握を諦め、ヒムヤル人と共に僻地であるブリテン島に旅立った。ここで彼らはマーシア人になった。マーシアの由来はシャムの由来シャマシュである。シャマシュ＝シャマーシア＝マーシアとなる。

Dhu Nuwas（？～527） 最後のヒムヤル王 在位515～527

イクリングス（？～？） マーシア王国初代王 在位527頃

エゼルバルド（？～757） マーシア王国第15代王 在位716～757

サンジャヤ（？～746） マタラム王国初代王 在位717～746

エグフリス（787～796） マーシア王国第22代王 在位787～796

イドリース1世（745～793） イドリース朝初代王 在位789～793

ベールトウルフ（？～852） マーシア王国第31代王 在位840～852

アルモス（？～850） 初代マジヤール王 在位820～850

エゼルレッド2世（？～911） マーシア王国第34代王 在位883～911

ヤフヤー・イブン・イドリース・イブン・ウマル（？～917） イドリース朝 第9代王 在位904～917

ダクサ（？～919） マタラム王国第10代王 在位910～919

※イドリース朝が、同胞のサトゥルヌスの一族が築いたファティマ朝に吸収され、同時期にマーシア王国が滅ぶと、デウスの一族はハンガリーに拠点を移した。



ゲーザ (?～997) 第6代マジャール王 在位973～997

※その後、ベールトウルフ王の時代にマーシア人はイングランドを離れてパンノニアに移住している。この時にマジャール人が生まれた。マジャールの由来はマーシアとマクリアの組み合わせである。マーシア+マクリア=マーシアリア=マーシャラ=マジャールとなる。

マーシア王と共にマジャール人を儲けたマクリア王国（安閑天皇の一族）、初代ハンガリー王イシュトヴァーン1世を生んだアールパード家を築いたアルワ王国（ハルハ部）、ノバティア王国（北狄）は、ヌビアに移住したモンゴル人である。

デンキジック (?～469) ※アッティラの子

シェンギラ (430～480) エフタル初代王 在位430～461

トラマーナ (?～?) エフタル王 在位515～528

ユクノーム・チェン1世 (?～?) カラクムル王 在位500頃

ミヒラクラ (?～542) エフタル最後の王 在位528～542

トゥーン・カーブ・ヒックス (?～?) カラクムル王 在位520～546

東漢磐井 (?～?)

※アッティラの死後、フン族（デウスの一族）はエフタルの母体を築き、そこにサトゥルヌスの一族に属するアッティラの子デンキジックを王として迎えた。アッティラの一族はエフタルを統治しながらマヤ・カラクムルをも同時に支配した。

第6代マジャール王ゲーザの子



ボレスワフ1世 (966~1025) ポーランド王 在位992~1025

ゲルトルダ (1025~1108) ミェシュコ2世の子

フセヴォロド1世 (1030~1093) キエフ大公 在位1070~1093

※ボレスワフ1世の孫ゲルトルダは、女子として育てられた男子だと考えられる。ゲルトルダはフセヴォロド1世に変身するとクマン人を指揮した。クマン人の正体はマルコマンニである。マルコマンニ=コマンニ=クマンとなる。クマン人は一方ではポーロヴェッツを名乗った。ポーロヴェッツの由来はガリアの部族ヘルウェティイである。

キエフ大公フセヴォロド1世の子



ロスチスラフ・フセヴォロドヴィチ (1070~1093) ※画像なし

阿骨打 (1068~1123) 金初代皇帝 在位1115~1123

※ロスチラフはクマン人の軍団を率いて満州を襲い、女真族を支配して金を建国した。金は朝鮮語ではキムだが、クマンが由来だと考えられる。

衛紹王 (?~1213) 金第7代皇帝 在位1208~1213

アリ・マツラ1世 (?~) マツラ朝初代王 在位1201~1216

宣宗 (?~1223) 金第8代皇帝 在位1213~1223

ラージャサ (?~1227) シンガサリ王国初代王 在位1222~1227

※金の7代皇帝はネパールにマツラ朝を築き、8代皇帝はジャワにシンガサリ王国を建てた。マツラの由来はマルコマンニ、シンガサリの由来は朝鮮語「神可殺（神が殺す）」だと考えられる。

クルタナガラ (?~1292) シンガサリ王国最後の王 在位1268~1292

ウィジャヤ (?~1309) マジャパヒト王国初代王 在位1293~1309

※シンガサリ王国が滅ぶと、最後の王クルタナガラはすぐにウィジャヤに変身し、マジャパヒト王国をジャワに建国した。マジャパヒトの由来は日本語「真のジャワ人」だと考えられる。



ジャヤナガラ (?~1328) マジャパヒト王 在位1309~1328

後醍醐天皇 (1288~1339) 第96代天皇 在位1318~1339

※マジャパヒト王ジャヤナガラは、ジャワから日本に進出し、後醍醐天皇を演じていた可能性がある。デウスの一族である後醍醐天皇は、同胞サトゥルヌスの一族に属する足利尊氏と当初結束していたが、どちらかが途中で欲を出したため、袂を別ったようだ。



後村上天皇（1328～1368） 第97代天皇※後醍醐天皇の子

後村上天皇の子

惟成親王（?～1423） 第三皇子

太宗（1367～1422） 李氏朝鮮第3代国王

Wikramawardhana（?～1429） マジャパヒト王 在位1389～1429

村上備中入道（?～14??） 因島村上氏初代当主

- ・ 泰成親王（1360～?） 第四皇子
- ・ 師成親王（1361～?） 第五皇子
- ・ 説成親王（13??～?） 第六皇子
- ・ 良成親王（?～1395） 第?皇子

※村上水軍は後村上天皇の子息惟成親王（村上備中入道）によって結成されたと考えられる。彼の子たちが海賊の頭領を兼ねた。因島（いんのしま）は現地では「いんとう」と呼ばれている。いんとうの由来はインド、或いはインドネシアと考えられる。つまり、マジャパヒト王国の王族が関係している。

ブラウィジャヤ5世（?～1478） マジャパヒト王 在位1466～1478

村上吉資（?～?） 因島村上氏第2代当主

李氏朝鮮第3代国王太宗の子



世祖（1417～1468） 李氏朝鮮第7代王 在位1455～1468

アシュラフ・イーナール（?～1460） ブルジー・マムルーク朝第14代スルタン 在位1453～60※画像なし

※世祖の影武者であるマムルーク朝スルタンのアシュラフ・イーナールがエジプトから朝鮮に移住し、「勲旧派」を設ける。このときに朝鮮儒教にイスラム教に似た儀礼様式が導入された。

桃源君（1438～1457） 李氏朝鮮第7代王世祖の子

アシュラフ・カーイトバーイ（?～1495） ブルジー・マムルーク朝第19代スルタン 在位1468～1495

金宗直（1431～1492） 士林派教祖

ジョン・スチュアート（1430～1495） 初代レノックス伯

※マムルーク朝スルタンのアシュラフカーイトバイがエジプトから朝鮮に移住し、「士林派」を設ける。士林派（サリム）の由来はイスラムと考えられる。イスラム＝イサリム＝サリムとなる。

■シャーマニズム

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の子どもたちが世界中に散り、シャーマンになって原住民を支配した。李氏朝鮮の王族（世祖、桃源君、成宗の一族）が世界中のシャーマンの正体である。時おりしも白人大航海時代前夜である。古い世代のタナトスとして、新しい世代のタナトスの台頭を許すまいと、世祖の一族は世界に散って原住民を支配しなければならないと感じたのだろう。

そういうわけでシャーマニズムは人類の宗教の原型ではなく、比較的新しい宗教の形である。

いや、宗教というよりはシャーマニズムはこけおどしでしかない（考えてみれば他のタナトスの宗教もみなこけおどしだが）。一般的に未開の部族は攻撃的だという偏見があるが、タナトス以外の通常の間人は攻撃的になることはない（攻撃的になることを指示されていない限り）。

つまり攻撃的な未開部族がいる場合、実際のところ、彼らはシャーマン（デウスの一族）に操られているに過ぎない。攻撃は彼らの意思ではない。シャーマン（デウスの一族）は所有物を死守したい。そのため、シャーマンは所有物に命じて外部から来た侵入者を攻撃させるのだ。

人間という家畜は他の動物に比して非常に飼い易い。手を使ってモノを作ることができ、言葉を理解して記憶した通りに実行することができる。エサは自分で食べ、家畜小屋も自分で作る。有益でありながら、全く手がかからない。これらが他の動物とは異なる点だ。飼い主（デウスの一族）は所有するだけでよいのだ。以下のリストがシャーマンの正体と名前である。彼らは、世界各地のシャーマンの祖である。

●世祖の子（シャーマンの名前）

- ・桃源君（生没年不詳）
- ・睿宗（生没年不詳）
- ・徳源君（1449～1498）
- ・昌原君（1458～1484）
- ・阿只（1459～1463）
- ・懿淑公主（1442～1477）

●桃源君の子（シャーマンの名前）

- ・月山大君（1454～1488）
- ・明淑公主（1455～1482）
- ・成宗（1457～1494） 李氏朝鮮第9代国王 在位1469～1495

●成宗の子（シャーマンの名前）

- ・燕山君（1476～1506） 李氏朝鮮第10代国王 在位1494～1506
- ・順淑公主（1478～1488）
- ・慎淑公主（1481～1486）
- ・中宗（1488～1544） 李氏朝鮮第11代国王 在位1506～1544
- ・茂山君（1490～1525）
- ・徽淑翁主（生没年不詳） 任崇載室
- ・敬淑翁主（1483～？） 閔子芳室
- ・徽静翁主（生没年不詳） 南燮元室

- ・安陽君（1480～1505）
- ・鳳安君（1482～1505）
- ・静恵翁主（1490～1507） 韓紀正室
- ・恭慎翁主（1481～1549） 韓景正室
- ・全城君（1490～1505）
- ・桂城君（1478～1504）
- ・恵淑翁主（1478～？） 申沆正室



- ・タカナクプサルク（1582）
- ・サドナ（1582）

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、アラスカ・カナダの北極圏に移住した。エスキモーの生活圏に君臨した彼らは「タカナクプサルク（サドナ）」を称した。タカナカプサルクの名の由来はダキニク（ダキニの人）とバサラク（バサラの人）の組み合わせであり、サドナの名の由来はサタンである。サタン=サタナ=サドナとなる。



ナート・カダウ（1582）

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、ビルマに移住した。ビルマのシャーマンは「ナート・カダウ」を称した。ナート・カダウの名の由来はタナトスと契丹（キタイ）の組み合わせである。タナトス+キタイ=ナト・キダイ=ナート・カダウとなる。



・ノロ（1582）

・ユタ（1582）

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、沖縄・奄美に移住した。沖縄・奄美のシャーマンは「ノロ」「ユタ」を称した。ノロの名の由来はヴァナラシであり、ユタの名の由来はユダヤ（サドカイ派）である。



- ・精霊マーリアンマ（1582）
- ・チョウディ（1582）

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、インドに移住した。インドのシャーマンは「チョウディ」を称し「マーリアンマ神」を祀っている。マーリアンマの名の由来はマーリキーとウソマの組み合わせであり、チョウディの名の由来はサトゥルヌスである。サトゥルヌス=チャトゥルヌス=チャアトウ=チョウディとなる。



- ・モーソン（1582）
- ・ティアム（1582）
- ・モータム（1582）
- ・パーム（1582）

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、タイに移住した。タイのシャーマンは「モーソン」「ティアム」「モータム」「パーム」などの名を称した。モータム、モーソンの名の由来はモートであり、ティアムの名の由来はティアマトであり、パームの名の由来はパミール（モレク）である。



ドゥクン (1582)

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、インドネシアに移住した。インドネシアのシャーマンは「ドゥクン」を称した。ドゥクンの名の由来はダゴンである。ダゴン＝ダウゴン＝ドゥクンとなる。



アランタ族 (1582)

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、インドネシアに移住した。その時、植民地化されたインドネシアで支配者であるオランダ人のことを知ったシャーマンは、オーストラリアに渡り「アランタ族」を儲けた。アランタの名の由来はオランダである。



精霊オレンタ（1582）

※李氏朝鮮の王族世祖、桃源君、成宗の一族は、更にオーストラリアから北アメリカを訪れてイロコイ連邦に入植し、偉大なる精霊、偉大なる神秘と呼ばれる「オレンダ」を祀った。オレンタの名の由来はアラントである。

Ratna Malla（?～1520） マッラ朝ネパール王 在位1482～1520

村上雅房（?～?） 能島村上氏当主

Surya Malla（?～1530） マッラ朝ネパール王 在位1520～1530

村上隆勝（?～1532） 能島村上氏当主

※能島の由来はネワール（ネパール）だと考えられる。ネワ+島=能島（のしま）となる。1588年、豊臣秀吉が海賊停止令を発令すると武器を置き、一部は農家に、一部は海外に活路を見出した。能島の人々はネパール王国に渡ったと考えられる。



仁宗（1515～1545） 李氏朝鮮第12代国王 在位1544～1545 ※画像なし

村上通康（1519～1567） 来島水軍大将・来島城主

※仁宗は史上最短の王として知られているが、彼は30歳で死んだことにより瀬戸内海に移住し、村上通康として来島村上水軍を統率したようだ。来島は高麗（ゴリョ）が由来だと考えられる。ゴリョ+島=来島（くるしま）。

明宗（1534～1567） 李氏朝鮮第13代国王 在位1545～1567

徳興大院君（1530～1559） 宣祖父

李氏朝鮮第14代国王宣祖の孫



仁祖（1595～1649） 李氏朝鮮第16代国王 在位1623～1649 ※画像なし

山田長政（1590～1630） アユタヤ日本人町首領

●日本人町主要メンバー（李氏朝鮮第14代国王宣祖の子たち）

- ・永昌大君（1606～1614）
- ・臨海君（1572～1609）
- ・光海君（1575～1641） 李氏朝鮮第15代国王
- ・義安君（1577～1588）
- ・信城君（1578～1592）
- ・定遠君（1580～1619） 李氏朝鮮第16代国王仁祖の父
- ・義昌君（1589～1645）
- ・順和君（1580～1607）
- ・仁城君（1588～1628）
- ・仁興君（1604～1651）
- ・慶昌君（1596～1644）

- ・興安君（1598～1624）
- ・慶平君（1600～1673）
- ・寧城君（1606～1649）

※アユタヤ日本人町の主要メンバーは李氏朝鮮国王宣祖の子達であり、山田長政は李氏朝鮮国王仁祖本人だった。つまり、長政は暗殺後も生きており、朝鮮に帰還してその後の19年間を李氏朝鮮国王として生きた。日本人町はほぼ朝鮮人に支配されていたわけだが、李氏朝鮮は第12代国王仁宗の頃から来島村上水軍とは同族関係にあったので彼らが日本人を称してもおかしいことはなかった。アユタヤ日本人町＝来島村上水軍（李氏朝鮮王族）である。村上水軍の猛者たちは頻繁にアユタヤ日本人町に出入りしていたと考えられる。

しかし、彼らはタナトスである。オランダ商人がアユタヤ王に入れ知恵して自分たちを排除しようとしていることに気付いたため、先手を打って影武者を犠牲にし、山田長政暗殺を演じ、その暗殺劇をアユタヤ王のせいにして攻撃を加えようとしていたと考えられる。

しかし、そこはタナトス。オランダ商人もタナトスの一族（本願寺門主顕如の一族）なので、彼らはその動きを察知すると、逆に日本人町の焼き討ちを実行した。しかし、両者がお互いを同じタナトスの一族だということを理解すると対立はなくなったようだ。焼き討ち以後も、仁祖の子や孫たちが日本人町に引き続き住み続けたと考えられる。

順和君（1580～1607） 李氏朝鮮第14代国王宣祖の子
来島長親（1582～1612） 豊後森藩初代藩主

寧城君（1606～1649） 李氏朝鮮第14代国王宣祖の子
久留島通春（1607～1655） 豊後森藩第2代藩主

Siva Simha Malla（?～1620） マッラ朝ネパール王 在位1609～1620
村上景広（1554～1627） 能島村上氏一族

Ranjit Malla（1722～1769） マッラ朝ネパール王
Hamengkubuwono I（1717～1792） ジョグジャカルタ初代スルターン



久留島通靖（1851～1879） 豊後国森藩第12代（最後）の藩主
高宗（1852～1919） 李氏朝鮮第26代国王 在位1863～1897
清浦奎吾（1850～1942） 第23代内閣総理大臣

※高宗は絵で清浦は写真だが、その違いを超えてたぶんクリソツだ。清浦は高宗本人だと考えられる。つまり、高宗は57歳で死んだことになっているが、その後、清浦に変身して23年は生きていた。



純宗（1874～1926） 李氏朝鮮第27代国王 在位1907～1910
広田弘毅（1878～1948） 第32代内閣総理大臣

※これもたぶんクリソツだ。というか広田は純宗本人である。純宗は1926年に死んだことになって、その後、広田として22年も生きていたようだ。



Hamengkubuwono VIII (1880~1939) ジョグジャカルタ第8代スルターン

林銑十郎 (1876~1943) 第33代内閣総理大臣

ペッタ・ヴェーンカマ・ラージュ (1885~1963) サイババ父※画像なし



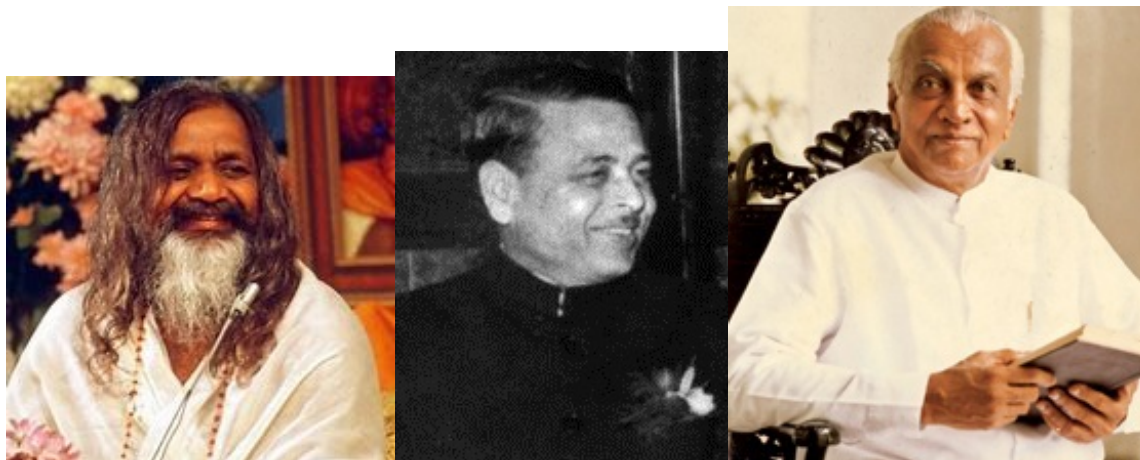
ハメクブウォノ9世 (1912~1988) ジョグジャカルタ第9代スルターン

三木武夫 (1907~1988) 第66代内閣総理大臣

クアン・アパイウォン (1902~1968) 第4、7、10代タイ王国首相

マートリカ・プラサード・コイララ (1912~1997) ネパール首相

※コイララ以外は良く似ている。特に、三木とクアンは同一人物ではないか？クアンは1968年に死んだことにして日本に移住し、1974年内閣総理大臣に就任することは可能だ。



シェーシャマ・ラージュ（1911～1985） サイババ兄※画像なし

マハリシ・マヘーシュ・ヨーギー（1918～2008） 超越瞑想トランセンデンタル・メデ
ィテーション教祖

タンカ・プラサード・アーチャリヤ（1912～1992） ネパール首相

ディンギリ・バンダー・ウィジェートウンガ（1916～2008） スリランカ第4代大統領

※マハリシとタンカは良く似ている。同一人物の可能性も高い。マハリシはジョン・レノンに詐欺師とまで呼ばれた。デヴィッド・リンチやたくさんのアメリカ芸能人がマハリシに帰依しているが騙されているのではないか。





サティヤ・サイ・ババ（1926～2011） 靈的指導者

トゥラシー・ギリ（1926～2018） ネパール首相

キルティ・ニディ・ビシュタ（1927～2017） ネパール首相

ラナシンハ・プレマダーサ（1924～1993） スリランカ第3代大統領

※ギリはサイババの晩年に似ている。ギリとビシュタは似ている。同一人物だろうか？サイババとラナシンハは顔の傾向が似ている。



ハメンクブウォノ10世（1946） ジョグジャカルタ第10代スルターン

シェール・バハドゥル・デウバ（1948） ネパール首相

メガワティ・スティアワティ・スカルノプトゥリ（1947） インドネシア第5代大統領



ハメンクブウォノ9世の子の内のひとり（生年不詳）※画像なし
リゴベルタ・メンチュウ（1959） キチエ族人権活動家・実業家



ハメンクブウォノ9世の子の内のひとり（生年不詳）※画像なし
トニー・ネイダー（1971） マハリシ・ヴェーディック・シティ初代国王



ハメンクブウォノ10世の子の内のひとり（生年不詳）※画像なし
マララ・ユスフザイ（1997） フェミニスト・人権運動家

サトゥルヌスの一族～ヤマタノオロチ、ジャイナ教、殷、箕子朝鮮、魏、河伯、高句麗、悪魔祓い、アッティラ帝王、マヤの人身御供、稲荷神社、九頭龍、坂上田村麻呂、足利尊氏、クエーカー教、三井財閥、住友財閥

- ・ デウス（2万年前）
- ・ サトレ（2万年前）

※「最終戦争ラグナロク」を機に、放射能で汚染された北アメリカ大陸を去ったアトランティス人は、故地であるアトランティス王国に帰還した。しかし、一部は反対側のヨーロッパに目を向けた。彼らは、北アメリカ大陸を離れて北極圏を抜けて氷河に覆われた北ヨーロッパに移住した。当時、ロンドン辺りまで氷河に覆われていたブリテン島にはディオオーネーのタナトスに属する司神タナトスが棲んでいた。

彼らは「デウス」を名乗り、古代ヨーロッパに住んでいたオケアーニス大洋の娘たち、河川の娘たちを支配した。デウスの由来はクリュティオスである。クリュティオス＝クリュデウス＝デウスとなる。その後、デウスはイタリア半島にまで進出し、イタリア半島では「サトレ」を称した。サトレの由来はサトゥルヌスである。サトレはイタリアの由来でもある。サトレ＝アトレ＝アトレア＝イタリアとなる。

「ネアンデルタールが切断して焼いた骨がフランス・シャラント県で発掘される」（BC 7千年）

「ネアンデルタールが36人の子女を食べた痕跡がドイツ・バンベルク洞窟で発掘される」（BC 6千年）

- ・ ダーサ族（BC 32世紀）
- ・ サートヴァタ族（BC 32世紀）

※古代ヨーロッパにティールタンカラが進出してアーリア人が生まれると、デウスはアーリア人の軍団に参加した。デウスは「ダーサ族」と呼ばれた。ダーサの由来はデウスである。

「マハーバーラタ戦争」「十王戦争」を機に、ヨーロッパを離れてインドに落ち延びたデウスは「サートヴァタ族」を形成した。サートヴァタの名の由来はサトゥルヌスと24のティールタンカラに属するスヴィティの組み合わせである。サトゥルヌス＋スヴィティ＝サトゥヴィティ＝サートウヴィティ＝サートヴァタとなる

-
- ・地母神アティラ（BC 32世紀）
 - ・創造神ティラウ（BC 32世紀）

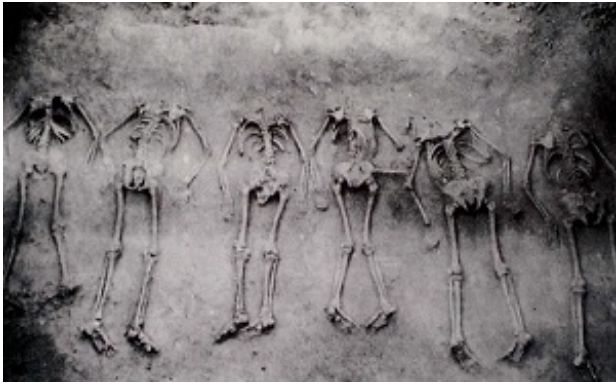
※BC 32世紀、デウスの一族から離れたサトゥルヌスの一族はアメリカ東部に進出し、ポーニ一族を支配下に置いた。彼らは「地母神アティラ」「創造神ティラウ」を祀って人身御供を実施した。アティラの名の由来はサトゥルヌスである。サトゥルヌス＝アトゥルヌス＝アトゥル＝アティラとなる。ティラウの名の由来はサトゥルヌスである。サトゥルヌス＝サトゥラウヌス＝トゥラウ＝ティラウとなる。



トゥディヤ（?～?） 初代アッシリア王 在位BC 2450～BC 2400※画像なし
契（?～?） 殷の始祖
足名椎神（?～?） 出雲神族※画像なし

※ポーニ一族の地からメソポタミアに移住してきたサトゥルヌスの一族は、アッシリア王国を築いた。アッシリアの由来はダーサとアーリアの組み合わせである。ダーサ＋アーリア＝アーサリア＝アッシリアとなる。足名椎神の由来はアッシリア、タナトス、スーサである。アッシリア＋タナトス＋スーサ＝アシナトスサ＝あしなづち＝足名椎神となる。

殷（イン）の由来はタナトス、商（シャン）の由来はシュシャン（スーサ）だと考えられる。TANATOS＝ANA＝イナ（殷）となり、シュシャン＝シャン（商）となる。シャンの名から殷はアッシリアと繋がっていたことがわかる。



※画像は殷の遺跡で発見された生贄の遺骨である。アッシリア+殷の王族は代々、人身御供の神官として人身御供を開催し、優れた人間や美しい少女などを生贄として惨殺していた。



アダムー (?~?) 第2代アッシリア王 在位BC 2400~BC 2375 ※画像なし
大国主神 (?~?) 出雲大社主神

※アッシリア王アダムーの治世、アッシリア王国は「出雲国」と呼ばれた。出雲の由来はアダムーである。アダムー=アザム=出雲となる。大国主神の国造りとは、アッシリアのことだと考えられる。



イプタール・シン (?~?) アッシリア王 在位BC1662~BC1650※画像なし

湯王 (?~?) 殷初代王 在位BC1675~BC1646

手名椎神 (?~?) 出雲神族※画像なし

スドーダナ (?~?) カピラバストゥ王※画像なし

ドロノダーナ (?~?) スドーダナ弟※画像なし

※イプタール・シンは、湯王として殷を築き、スドーダナとしてカピラバストゥ（カブール～ハルシュタット）を治めていた。湯（タン）と手名、スドーダナ、ドロノダーナのダナは関連性があると考えられる。手名椎神の由来はタナトス、スーサである。タナトス+スーサ=タナスサ=てなづち=手名椎神となる。

スドーダナとドロノダーナは兄弟とされているが、同一人物と考えられる。スドーダナとドロノダーナの由来は両者とも、サトゥルヌスとタナトスの組み合わせである。サトゥルヌス+タナトス=サトゥタナ=スドーダナとなり、サトゥルヌス+タナトス=トゥルヌタナ=ドロノダーナとなる。スドーダナは仏陀（釈迦）の父、ドロノダーナはアーナンダの父といわれている。ということであれば、仏陀とアーナンダは従兄弟だったということになる。

殷、出雲、アッシリアは同義であり、殷（アッシリア）王はカピラバストゥ（古代ヨーロッパ）から殷（東アジア）に至るユーラシア大陸全域を支配していたと考えられる。カピラバストゥの由来はカブールとハルシュタットの組み合わせである。つまり、カピラバストゥ王国はネパールではなく、古代オーストリアからカブールにかけて存在した。



ワイレン (?~?) 殷第11代王 在位不明※画像なし

マハーヴィーラ (?~?) ジャイナ教教祖

※マハーヴィーラはマガダで生まれたとされているが、当時のマガダとはマケドニアのことを指していたと考えられる。つまり、ブッダと同じでマハーヴィーラも古代ヨーロッパに生まれた。ジャイナの由来は商(シャン)と殷(イン)の組み合わせだと考えられる。シャン+イン=シャイナ=ジャイナとなる。マハーヴィーラはナータ族の出といわれているが、ナータの由来はタナトスである。



比干 (?~?) 殷第30代王帝辛の伯父※画像なし

箕子 (?~BC1082) 箕子朝鮮初代王 在位BC1126~BC1182

櫛名田比売命 (?~?) 出雲神族※画像なし

※箕子(キジャ)と櫛名田比売命の櫛(くし)は関連性があると考えられる。櫛名田比売命の由来はペガサス+タナトスである。ペガサス+タナトス+姫=ガサナト姫=櫛名田比売命となる。



アッシュール・ベル・カラ (?～BC1056) アッシリア王 在位BC1074～BC1056 ※画像なし

帝辛 (BC1105～BC1046) 殷第30代王 在位BC1075～BC1046

荘恵王 (?～BC1057) 箕子朝鮮第2代王 在位BC1082～BC1057 ※画像なし

ダヴィデの一族



スサノオ (?～?) スーサの王

Shutur-Nahhunte I (BC11世紀半ば) エラム王

武王 (?～BC1043) 周王

※アッシリア王はアッシリアや中央アジアでヤマタノオロチ (ティアマトの蛇) を祀り、人身御供を開催していた。優れた人間を公的に殺害し、性奴隷、或いは人肉を供給するためである。彼らはスサノオ (スーサの王?) に退治されるが、スーサの王とはダヴィデの一族であり、エラム王+周の武王のことを指している可能性がある。スサノオが倒したヤマタノオロチとは殷の王+アッシリア王のことだった。



敬孝王 (?～BC1030) 箕子朝鮮第3代王 在位BC1057～BC1030※画像なし
オロチ族 (BC11世紀)

※殷が滅ぶと、箕子朝鮮（殷）の王族はシベリアに進出し、「オロチ族」となった。オロチの由来はヤマタノオロチである。彼らがシャーマニズムを始めた。シャーマニズムは人類の宗教の原型ではなく、新しい類の宗教である。シャーマンの大きな特徴は、未開の部族を対象にしていることである。

また、オロチ族はシベリアからアリューシャン列島を渡り、アメリカ大陸に到達した。南下して古代マヤにまで足を運んだ彼らは、そこでも人身御供の儀式を現地人に強要した。オロチ族は、この時にククルカンやケツアルコアトルなどの神をマヤ人から奪った。これ以降、マヤの人身御供の神官は代々、箕子朝鮮の王族が務めた。以下の箕子朝鮮の王の名がマヤの人身御供の神官の名前である。

- ・ 恭貞王 在位BC1030～BC1000
- ・ 文武王 在位BC1000～BC972
- ・ 太原王 在位BC972～BC968
- ・ 景昌王 在位BC968～BC957
- ・ 興平王 在位BC957～BC943
- ・ 哲威王 在位BC943～BC925
- ・ 宣恵王 在位BC925～BC896
- ・ 誼襄王 在位BC896～BC843
- ・ 文恵王 在位BC843～BC793
- ・ 盛徳王 在位BC793～BC778
- ・ 悼懐王 在位BC778～BC776
- ・ 文烈王 在位BC776～BC761
- ・ 昌国王 在位BC761～BC748
- ・ 武成王 在位BC748～BC722

- ・貞敬王 在位BC722～BC703
- ・楽成王 在位BC703～BC675
- ・孝宗王 在位BC675～BC658
- ・天老王 在位BC685～BC634
- ・修道王 在位BC634～BC615
- ・徽襄王 在位BC615～BC594
- ・奉日王 在位BC594～BC578
- ・徳昌王 在位BC578～BC560
- ・寿聖王 在位BC560～BC519
- ・英傑王 在位BC519～BC503
- ・逸民王 在位BC503～BC486



※画像は生贄を投げ込んで殺したセノーテである。上記の箕子朝鮮の王たちがBC1030年からBC486年までマヤで人身御供の神官としてマヤ人を生贄に処していた。目的は、優れた者の殺害、性奴隷の調達、食肉用の肉の調達である。優れた者を殺すことで、王から人気者の席まで、空いた席をタナトスが全て奪った。

濟世王（？～BC465） 箕子朝鮮第29代王 在位BC486～BC465
 簡子（？～？） 魏第6代王 在位不明

※この時期に箕子朝鮮の王族はマヤから故地である東アジアに帰還した。魏（ウェイ）はフェニキア人の国だったが、箕子朝鮮の王族に王位を篡奪されたと考えられる。このときから、箕子朝鮮の王族が魏の王を代々務め、同時に河伯に捧げる人身御供の儀式を主催する神官も兼任していた。河伯の中国語読みはホーボーである。ホーボーの由来はティールタンカラのひとり「シャンパヴァ」である。シャンパヴァ＝パーヴァー＝ホーボーとなる。

清国王（？～BC432） 箕子朝鮮第30代王 在位BC465～BC432

襄子 (?~?) 魏第7代王 在位不明

スパルタカス1世 (?~BC433) スパルタ朝ボスポラス王国初代王 在位BC438~BC433

※箕子朝鮮第30代王の時代、箕子朝鮮王は同胞デウスの一族が築いたポントス王国を訪問し、近隣にボスポラス王国を築いた。この時から、魏の王はボスポラス王も兼ねた。当時の彼らは、黄河(魏)、黒海(ボスポラス)、シベリア、マヤを支配下に置いていた。

導国王 (?~BC413) 箕子朝鮮第38代王 在位BC432~BC413

ルキウス・フリウス・メダリヌス (?~?) ローマ執政官 任期BC413

アウルス・コルネリウス・コッサス (?~?) ローマ執政官 任期BC413

カイウス・フリウス・パシルス (?~?) ローマ執政官 任期BC412

桓子 (?~BC446) 魏第8代王 在位不明

サチュロス1世 (?~BC389) スパルタ朝ボスポラス王国第2代王 在位BC433~BC389



赫聖王 (?~BC385) 箕子朝鮮第38代王 在位BC413~BC385 ※画像なし

文侯 (?~BC396) 魏第9代王 在位BC445~BC396

セレウコス (?~BC393) スパルタ朝ボスポラス王国第3代王 在位BC433~BC393 ※画像なし

ルキウス・ヴァレリウス・ポティトゥス (?~?) ローマ執政官 任期BC393

パブリウス・コルネリウス・マルギネンシス (?~?) ローマ執政官 任期BC397

マルクス・マンリウス・カピトリヌス (?~BC384) ローマ執政官 任期BC392

※箕子朝鮮（魏）の王族はマヤでしていたことと同じことを黄河で繰り返していた。それが河伯の生贄の儀式である。文侯の娘たちは河伯の巫女を務めていたが、ダヴィデの一族に属する西門豹が巫女たちを皆殺しにした。更に有能な政治家だった西門豹は、愚民化を奨励する文侯の意思に反して、民のこと、生活のことを考えて助力した。しかし、そのために民が力を持つに至り、文侯は風評被害によって集団で西門豹個人を心理的に追い詰め、自ら辞職させた。こうして有能な強い英雄が去ったことにより、民は再び暗黒の憂き目を見るハメになった。西門豹を集団で追い詰めたのが民だった。

文侯の影武者セレウコスがボスポラス王を演じながら、ローマで数代のローマ執政官も演じていた。セレウコスらの子孫は「大宛のドルイド司祭の一族」となる。

顕文王（？～BC） 箕子朝鮮第38代王 在位BC290～BC251

安釐王（？～BC243） 魏第14代王 在位BC276～BC243

パイリサデス2世（？～BC245） スパルタ朝ボスポラス王国第3代王 在位BC284～BC245

ミトリダテス1世（？～BC266） ポントス王国初代王 在位BC281～BC266

アリオバルザネス（？～BC250） ポントス王国第2代王 在位BC266～BC250

荘躋（？～BC256） テン王国初代王 在位BC278～BC256



※箕子朝鮮第38代王の頃、ローマ打倒を念頭にボスポラス王国はポントス王国と連合していたようだ。ボスポラス王は、地中海アフリカ沿岸側（カルタゴ）に進出し、魔神サトゥルヌスの聖地として「ダリの神殿」をカルタゴ各地に築いて回った。一方、拠点の移動を考えていた箕子朝鮮の王は、雲南に進出しテン池にテン王国を築いた。彼らはテン池でも人身御供を実施した。

宗統王（？～BC220） 箕子朝鮮第40代王 在位BC232～BC220

王假（？～BC225） 魏第16代王 在位BC227～BC225

ミトリダテス2世（？～BC220） ポントス王国第3代王 在位BC250～BC220



※画像右はカルタゴ全盛期に多く見られた「ダリの神殿（模型）」と、画像左は神道のシンボル「鳥居」である。名前を一瞥して分かるように鳥居の由来はダリの神殿である。地震が多い日本では石造りの神殿は廃され、代わりに入り口だけがシンボルとして残された。それが鳥居の正体である。

ダリの由来はサトゥルヌスである。サトゥルヌス=サドゥルヌス=ドゥル=ダリとなる。模型だけで現物が存在しないため、ダリの神殿の内部構造は永らく不明とされているが、鳥居がダリの神殿の入り口ならば日本の神社を見ればダリの神殿の内部構造は容易に理解できようというものだ。そう考えれば、ダリの神殿の内部には神社と同じ造りの祠が設置されていたのは間違いない。そして、その祠の内部では血に塗れた人身御供の儀式が催された。つまり、日本の神社は忌まわしい人身御供の痕跡でしかない。

準王（?～BC195） 箕子朝鮮第41代王 在位BC220～BC195

第6代テン王（?～BC123） テン王国第6代王 在位?～BC123

嘗羌（?～BC85） テン王国第7代王 在位BC123～BC85

金蛙王（生没年不詳） 東扶余第2代国王

金蛙王の子

東明聖王（BC58～BC19） 高句麗初代王 在位BC37～BC19

瑠璃明王（BC38～18） 高句麗第2代王 在位BC19～18

温祚王（?～28） 百濟初代王 在位BC18～28

※箕子朝鮮の王族は古代朝鮮半島に2つの王朝を築いた。高句麗と百済である。高句麗と百済の王は代々、日本で人身御供の神官を務めていた。高句麗（ゴグリョ）の由来はククルカンであり、百済（くだら）の由来はケツアルコアトルである。ククルカン＝ゴグリョカン＝ゴグリョとなり、ケツアルコアトル＝コアトラ＝くだらとなる。

高句麗と百済の王は代々、日本に「九頭龍」を祀り、現千葉県・鹿野山麓などで農民から生贄を要求する人身御供の教団を運営していた。九頭龍（くずりゅう）の読みの由来はケツアルコアトルである。ケツアルコアトル＝ケツアル＝九頭龍（くずりゅう）となる。九頭龍の漢字の由来は先祖が祀っていたヤマタノオロチである。

この人身御供の種族は、古墳時代、日本武尊の古墳製作に干渉し、「古墳は王の墓であるべきだ」「王の墓を築く時は側近・奴隷を人柱として埋めるべきだ」と主張した。もちろん、日本武尊はこんなたわごとには耳は貸さない。だが、人身御供の種族は隠れて人柱を実施した。目的は、先代王の優れた側近を皆殺しにし、次世代の王の側近を自分の息がかかった者で固めるためである。

しかし、これを知った日本武尊は彼らを皆殺しにし、代わりに「埴輪」を埋めるようになった。こうして、土蜘蛛を皆殺しにした景行天皇の偉業を引き継いだ日本武尊は、日本各地で古墳製作を指揮しながら、同じく土蜘蛛の邪教詐欺集団、九頭龍の人身御供の種族を皆殺しにするようになった。

その後も、彼らは朝鮮半島から渡来し、越前国、安芸国、常陸国、紀伊国に渡って人身御供の儀式を存続し、食肉目的で日本人を惨殺し、食料として食べていた。日本人に恐れられた九頭龍は、常陸では「鹿島大明神」、紀伊では「熊野大権現」、安芸では「厳島大明神」、越前では「黒龍大明神」として祀られた。彼らは既存の神々に乗っかり、権威を悪用しているのだ。

九頭龍は国家鎮護の神として祀られたが、これは、当時の日本人が悪との戦いを放棄し、人喰い人種に絶対服従していたことを示している。古代日本では、ヤマタノオロチの昔から、優れた児童が生贄として捧げられていた。「指導者の可能性を持つ児童をすべて排除していれば俺たちに歯向かうやつは永久に出てこない。優れた者の管理は簡単だ。優れた者は少ないからな」ということだ。このように、日本人を形成する精神的な核には、自分たちを救ってくれる英雄を自ら殺し、人喰い人種に服従することで生活と安定を守る本能が定着している。

新大王（89～179） 高句麗第8代王 在位165～179

モンタヌス（？～177） モンタヌス派教祖

※高句麗王が組織したモンタヌス派が、エクソシストとして悪魔祓いなどの儀式を指揮していたようだ。正しいキリスト教がエクソシストをやることも悪魔祓いのこと口にするのではない。悪魔祓いは、基本的に祓われる側がエクソシストの協力者（タナトスの一族）であり演技者である。タナトスには普通の人間が持つ罪悪感、羞恥心がないのでハデに狂って見せることが出来る。実質の三文芝居でありながら、知識がない者は悪魔に憑かれた演技を見て度肝を抜かれ、

恐ろしい悪魔を鎮めるエクソシストに感銘さえ受ける。この悪魔憑きの演技はシャーマンの演技と同じもので、単なるコケ脅しでしかない。



山上王 (?～227) 高句麗第10代王 在位197～227※画像なし
テルトゥリアヌス (160～220) キリスト教神学者



東川王 (209～248) 高句麗第11代王 在位227～248※画像なし
コルネリウス (?～253) 第21代ローマ教皇 在位251～253
キプリアヌス (?～258) キリスト教神学者

※コルネリウスは司教であれば、殺人、姦通、背教といった大罪もゆるすことができると考えた。どう考えても程度が低い犯罪者でしかない。誰も自分に賛同しないため、コルネリウスは影武者に命じて神学者キプリアヌスを演じさせ、味方につけた。

ローマを離れて故郷であるシベリアに帰還した一部の人々は「イテリメン族」を生んだ。イテリメン族はシベリアの部族だが、その名からイタリアから来たことが分かる。イテリメンの由来は

イタリアの人である。サトゥルヌスの血を継ぐシベリア人が宇宙人（科学の種族トバルカイン）と混血することで「ユダヤ人（1731、1908）の一族」が生まれた。



契王（？～346） 百濟第12代王

※記録が全く残されていない契王は、百濟から日本に移住したと考えられる。彼は日本に「田中大神」「佐田彦大神」「四大神」「大宮能売大神」を儲け、稲荷神社の基礎を築いた。稲荷（いなり）の由来は朝鮮語の神（ハヌル）であり、漢字表記「稻」と「荷」の由来はパンノニアである。



- ・ 稲荷神社（4世紀頃）
- ・ 田中大神（4世紀頃）
- ・ 佐田彦大神（4世紀頃）
- ・ 四大神（4世紀頃）
- ・ 大宮能売大神（4世紀頃）

※画像は九尾の狐である。この妖怪のイメージには古（いにしえ）のヤマタノオロチが重ねられている。田中、佐田彦の名の由来はサタンの人（サタニキ）であり、四の名の由来は死（タナトス）である。サタニキ＝タニキ＝田中となり、サタンの人＝佐田＋彦＝佐田彦となる。能売（のめ）の名の由来はヌミディアである。



久尔辛王（?～427） 百濟第19代王

唯一神アラー（5世紀頃）

※記録が全く残されていない久尔辛王は、じつは陸路でパンジャブに辿り着き、キダーラの地名を設ける。彼はそこから更にインド洋に出てアラビア半島にまで辿り着いた。彼らが上陸したポイントはカタールと呼ばれた。キダーラ、カタールの名の由来は百濟である。

彼らはカタールを拠点にアラビアの地で人身御供を始めた。優れた人間を公的に殺害し、性奴隷、或いは人肉を供給するためである。朝鮮語をしゃべる彼らはアラビア人に対し、「俺たちに生贄をよこせ、さもなくば死だ。わかったか（アラ）？」と語りかけた。するとアラビア人は「わかりました（アラー）」と応えた。これが唯一神アラーの誕生である。「アラ」とは朝鮮語で「了解」を意味する。



毘有王（?～455） 百濟第20代王※画像なし

アッティラ（406～453） フン族の王

マルキアヌス（396～457） テオドシウス朝第4代ビザンツ帝国皇帝※画像なし

※アッティラの正体は百済の王毘有王だと考えられる。アッティラの名の由来は地母神アティラである。ドナート、ルアなどの偉大な悪党の衣鉢を継いだアッティラは、フン族を指揮し、パンノニアに「アッティラの帝国」を打ち建てた。

アッチラの死によってアッチラの帝国が崩壊すると、一部フン族はシベリアに移住し「ナナイ族」を生んだ。ナナイの名の由来はパンノニアである。パンノニア＝パンナナイ＝ナナイとなる。日本の名はアッティラが命名したと考えられる。まず日本は最初にニホンではなく、イルポンと呼ばれた。イルポンの由来はアッティラとフンの組み合わせである。アッティラ＋フン＝イラフン＝イルポンとなる。その後、朝鮮語イルポンに「日本」と漢字が当て字された。そういうわけで、日本はサタンの国なのだ。

三斤王（？～479） 百済第23代王 在位477～479

シェンギラ（430～480） エフタル初代王 在位430～461

武寧王（？～523） 百済第25代王 在位501～523

トラマーナ（？～？） エフタル王 在位515～528

ユクノーム・チェン1世（？～？） カラクムル王 在位500頃

聖王（？～554） 百済第26代王 在位523～554

ミヒラクラ（？～542） エフタル最後の王 在位528～542

トゥーン・カーブ・ヒックス（？～？） カラクムル王 在位520～546

東漢磐井（？～？）

威徳王（？～598） 百済第27代王 在位554～598

空を見る者（？～？） カラクムル王 在位561～572

ヤックス・ヨパート（？～？） カラクムル王 在位572～579

巻き蛇（？～？） カラクムル王 在位579～611

東漢駒（？～592） 坂上氏家祖※東漢磐井の子

カーブ・イブン・アル＝アシュラーフ（？～624） バヌー・ナディール首長

※威徳王はカラクムル王を兼任し、坂上氏の始祖となった。また、メディーナにバヌー・ナディール族を生んだ。バヌー・ナディールの名の由来はフンとタナトス、ウラヌスの組み合わせである。フン＋タナトス＋ウラヌス＝ブン・ナトウラ＝バヌー・ナディールとなる。

義慈王（599～660） 百済第31代王 在位641～660※最後の王

宝蔵王（？～682） 高句麗第28代王※最後の王

舒明天皇（593～641） 第34代天皇

※崇留王の時代まで高句麗はダヴィデの一族が代々の王を務めていたが、義慈王は宝蔵王として高句麗をタナトスの手に取り戻した。642年には麗済同盟も締結したが、百済も高句麗も唐の侵攻によって滅亡した。

坂上大国の子（義慈王・宝蔵王）の孫？

坂上犬養（682～765）

一行（683～727） 風水師

偉大なる蛇（?～?） カラクムル王 在位751頃

※坂上犬養は一行に変身し、風水師として唐の玄宗皇帝と関係を持った。ただ、一行が玄宗皇帝に重用されたのに対し、邱延翰は危険視され、迫害された。風水は、タナトス一族の経済活動促進、需要開拓のためのウソに過ぎない。



坂上苜田麻呂（727～786） 坂上犬養の子

能登内親王（733～781） 光仁天皇の子※画像なし

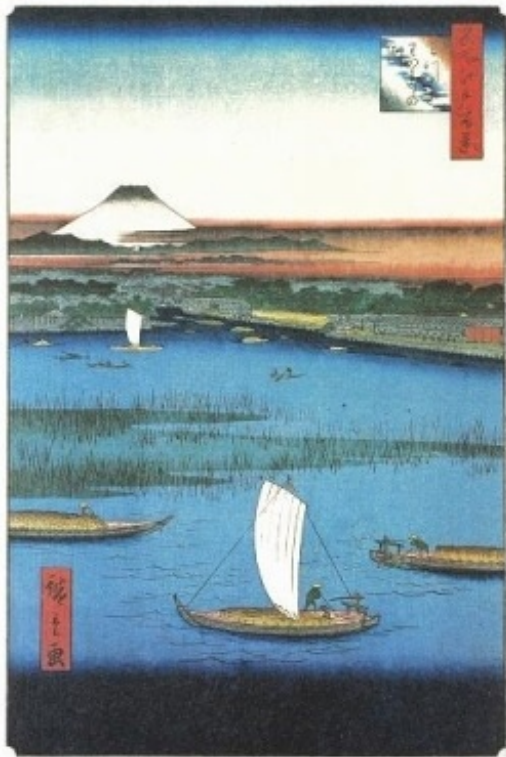
ボロン・カウィール2世（?～?） カラクムル王 在位771～789※画像なし



※757年頃、坂上苜田麻呂（カラクムル王ボロン・カウィール2世）が九頭龍崇拝を復活させた。下記に記した彼の子らは、箱根山に進出して芦ノ湖に拠点を得た。彼らは、箱根の村人に毎年若い娘を選んで芦ノ湖に棲む毒龍に捧げることを強制していた。村人が皆殺しになるよりは犠牲者が一人で済むなら仕方が無い、と村人は嫌がる娘を九頭龍に捧げていた。この時、見かねた修行僧「万巻」が村人を救っている。万巻の正体は、修験者（天狗）と考えられる。万巻は、危険な人喰い人種たちを湖底の杉に縛り付けて皆殺しにしたようである。これを機に、マヤに君臨していたカラクムル王国は壊滅した。九頭龍の残党は日本各地に散り、諏訪国、甲斐国、現東京都・檜原村、葛城山系、肥前国、阿蘇山、摂津国、近江国などに居住した。

●九頭龍崇拝の神官（三俣淵竜神崇拝の神官）

- ・坂上石津麻呂
- ・坂上広人
- ・坂上鷹主
- ・坂上直弓
- ・坂上鷹養
- ・坂上雄弓
- ・坂上又子（桓武天皇后宮夫人）
- ・坂上登子（藤原内麻呂室）



「三俣の淵に棲む竜神」

※坂上苺田麻呂は「吉原」の命名者と考えられる。彼の子たちは芦ノ湖同様に神官に変身し、吉原近辺の湿地帯に住む人々に対し「龍神の怒りを鎮めるため」と称して、器量よしの娘を生贄として毎年所望した。三俣淵でも、河伯の時代や、マヤのセノーテで行われていた儀式と同じように、生贄は水中に沈められた。

三俣の名の由来はヤマタノオロチではなく、ミマタノオロチである。つまり、自分たちは完全体ではなく、1/2の勢力でしかないことを示している。吉原の名の由来はマヤの神イシュバランケーであり、イシュバランケー＝イシュバラ＝吉原（よしわら）となる。



坂上田村麻呂（758～811） 坂上苺田麻呂の子
藤原内麻呂（756～812）

※後述しているが、アッティラの子孫である坂上田村麻呂が儲けた息子2人は「アテルイ」「モレ」を称し、蝦夷を治めた。アテルイの名の由来はフン族の帝王アッティラである。アッティ

ラ=アッテライ=アテルイとなる。モレの由来はモレクである。蝦夷を治めていたアテルイは、陸奥国に進出した紀古佐美率いる朝廷軍を巢伏の戦いで撃退したが、続く大伴弟麻呂、そして坂上田村麻呂率いる朝廷軍にたて続けて敗北した。

父であるためか、田村麻呂はアテルイの助命を嘆願したという。当時の人々であれ、現代の学者であれ、第三者には田村麻呂の真意は理解できなかつただろう。その後、アテルイは河内国で処刑されたとされているが、実際には蝦夷を脱し、太平洋を横断してマヤに落ち延びたようだ。

藤原内麻呂（坂上田村麻呂）の子（マヤの人身御供神官）

- ・ 藤原真夏（774～830）
- ・ 藤原冬嗣（775～826）
- ・ 藤原秋継（?～?）
- ・ 藤原桜麻呂（?～?）
- ・ 藤原福当麻呂（?～?）
- ・ 藤原長岡（786～849）
- ・ 藤原率（?～?）



藤原愛発（788～843）※画像なし

坂上広野（787～828）※画像なし

アテルイ（789～802）

藤原大津（792～854）

坂上正野（?～?）

モレ（?～?）

- ・ 藤原衛（799～857）
- ・ 藤原助（799～853）
- ・ 藤原収（?～?）
- ・ 藤原緒夏（?～?）

※藤原内麻呂の子孫がマヤで人身御供の神官を代々務めた。藤原内麻呂の子孫の名が、謎に包まれたマヤの人身御供の神官たちの名前である。彼らは箕子朝鮮の王族と同じように生贄をセノーテと呼ばれた聖なる泉に投げ込んだ。実際には優れた者の排除である。優れた者がいなければ、優れた者達が座るはずだった権威の席が空くことになる。つまり、自分たちは安泰だ。アステカ帝国では、今川氏の一族が凄惨な人身御供の儀式を取り仕切っていた。



- ・ 雨神チャクモール（802）
- ・ 稲妻の神トラロック（802）

※藤原内麻呂の子たちは「トラロック」を祀り、マヤ人を統治した。トラロックの名の由来はアテルイとモレの組み合わせである。アテルイ+モレ（モレク）＝テルレク＝トラロックとなる。チャクモールの名の由来はマヤの創造神チャクとモレクの組み合わせである。チャク+モレク＝チャクモレ＝チャクモールとなる。

人身御供の種族である彼らは、雨乞いの儀式と称して優秀な者を選んで生贄としてチャクモールに捧げた。つまり、雨乞いの儀式の目的は、雨乞いではない。彼らがマヤで実施した雨乞いの儀式の目的は、邪魔者の速やかな排除や、人肉の入手を目的とした殺人である。

藤原冬嗣の子（マヤの人身御供神官）

- ・ 藤原長良（802～856）
- ・ 藤原良房（804～872）
- ・ 藤原良方（?～?）
- ・ 藤原良輔（?～?）
- ・ 藤原順子（809～871）
- ・ 藤原良相（813～867）

- ・藤原良門（?～?）
- ・藤原良仁（819～860）

藤原良世（823～900）

アフマド・イブン・トゥールーン（835～884） トゥールーン朝初代アミール 在位868～884

シャイバーン・イブン・アフマド・イブン・トゥールーン（?～?） トゥールーン朝アミール 在位904～905※最後の王

※兄弟の中で藤原良世だけはマヤを離れ、エジプトに「トゥールーン朝」を開いた。



※上の画像のように、内麻呂の子たちは、神官として男たちにボール競技に参加させ、勝利した者を生贄として捧げるという矛盾を強要した。これは強い者の排除である。強い者がいなければ自分たちは安泰なのだ。

藤原良房の子（マヤの人身御供神官）

藤原基経（836～891）



※藤原内麻呂の子孫がマヤで人身御供の神官を代々務めた。内麻呂の子孫の名が、謎に包まれたマヤの人身御供の神官たちの名前である。

藤原基経の子（マヤの人身御供神官）

- ・ 藤原時平（871～909）
- ・ 藤原温子（872～907）
- ・ 藤原仲平（875～945）
- ・ 藤原兼平（875～935）
- ・ 藤原忠平（880～949）
- ・ 藤原良平（?～?）
- ・ 藤原穩子（885～954）



※藤原内麻呂の子孫がマヤで人身御供の神官を代々務めた。内麻呂の子孫の名が、謎に包まれたマヤの人身御供の神官たちの名前である。

藤原時平の子（藤原内麻呂玄孫の子）

藤原保忠（890～936）

ウバイドウッラー（?～934） ファーティマ朝初代王 在位909～934

※藤原保忠はエジプトに赴き、初代王として「ファティマ朝」を開いている。ファティマの由来は24のティールタンカラに属するパドマプラパである。

藤原敦忠（906～943）

シンドク（?～?） クディリ王国初代王 在位929～947

ボゴミル（?～?） ボゴミル派教祖

※トゥールーン朝が滅ぶと、藤原敦忠と残党はジャワ島に移り住んでクディリ王国を築いた。クディリの由来は百済（くだら）である。初代王シンドクの時代、クディリ人は早速ブルガリアに侵入して「ボゴミール派」を築いた。クディリ王は同時にフランスに侵入し、「カタリ派」を設けた。カタリの由来は百済である。

カタリ派は同じタナトスの一族（シトー会）に異端と呼ばれ、アルビ十字軍によって掃討された。謎とされているカタリ派の神官は、ジャワ島にいたクディリ王の一族が代々務めてきたと考えられる。



■カタリ派の神官（クディリ王）

- ・ Samarawijaya
- ・ Jayawarsa
- ・ バーメーシュワラ 在位1117～1130
- ・ ジャヤバヤ 在位1135～1157
- ・ サルウエーシュワラ 在位1159～1161
- ・ アルエーシュワラ 在位1169～1171
- ・ クローンチャールヤーディバ（ガンドラ） 在位1181
- ・ カーメーシュワラ 在位1182～1185
- ・ クルタジャヤ 在位1194～1222
- ・ Dangdang Gendi
- ・ ジャヤカトワン 在位1292～1293

藤原経家（1018～1068） 藤原保忠の玄孫

文宗（1019～1083） 第11代高麗王 在位1046～1083

※藤原保忠の玄孫になる藤原経家は、高麗の王位を篡奪し、文宗として高麗王に即位している。

高麗王文宗（藤原経家）の玄孫

毅宗（1127～1173） 第18代高麗王 在位1146～1170

度会行能（12世紀） 渡会氏の祖？

足利義康（1127～1157） 足利氏の祖

源時方（12世紀） 五辻仲兼の父

※高麗王毅宗は日本に「渡会（わたらい）」の名を生み、足利氏の祖となった。渡会の名の由来はアテルイである。アテルイ＝ワテルイ＝度会（わたらい）となる。又、漢字表記「渡会（どかい）」の由来はサドカイである。

度会家行は、日本仏教界と対立し、仏より神が上位であること、外宮信仰を主張した。また、「建武の新政」後の南北朝の動乱では、信楽を制した祖を同じくする多羅尾氏と連合した。渡会氏は南朝方を支援し、南伊勢地区の軍事活動に挺身した。「後醍醐天皇」の吉野遷幸に尽力した渡会氏は、雄として南朝に対して影響力を誇ったという。



明宗（1131～1202） 第19代高麗王 在位1170～1197※画像なし

サラフディーン（1137～1193） アイユーブ朝初代王 在位1169～1193

アリエスワラ（？～？） クディリ王 在位1171～1174※画像なし

※明宗はサラディンを演じながら、同時にジャワでクディリ王も演じていた。サラディンは同じタナトスの一族が率いる十字軍と対決し、エジプトを拠点にアイユーブ朝を開いた。

神宗（1144～1204） 第20代高麗王 在位1197～1204

崔忠献（1149～1219） 高麗王朝重臣



康宗（1152～1213） 第22代高麗王 在位1212～1213※画像なし

知訥（1158～1210） 曹溪宗教祖

アーディド（1150～1171） ファーティマ朝最後の王 在位1160～1171※画像なし

度会行継（12世紀） 度会行能の子※画像なし

五辻仲兼（12世紀） 五辻家の祖※画像なし

※康宗は知訥（チヌル）に変身し曹溪宗を設けた。曹溪（チョゲ）の名の由来はチャクモールである。チャク=チャゲ=チョゲ（曹溪）となる。仏教が弾圧された時代にも朝鮮で勢力を保持し、AD19世紀末には隆盛を喫した。

アル=アシュラフ・ムーサー（1245～？） アイユーブ朝第9代スルタン 在位1250～1254※最後の王

住友忠重（？～？） 住友家始祖

※住友の名の由来は住友の名の由来はイスマイルとファティマの組み合わせである。イスマイル+ファティマ=スマティマ=住友となる。

ジャヤカトワン (?~?) 最後のクディリ王 在位1292~1293

ピナモンテ・ボナコルシ (?~?) 初代マントヴァ公 在位1279~1291

※クディリ王国が滅ぶと、クディリ王ジャヤカトワンはマントヴァに移住し「ボナコルシ家」を儲けた。ボナコルシの名の由来はバヌーとクライシュの組み合わせである。バヌー+クライシュ=バヌクラス=ボヌコルシとなる。ピナモンテ・ボナコルシは、マントヴァの僭主となり、「マントヴァ公国」を築いた。

高麗王仁宗の孫

寿寧宮主 (?~?) 第22代高麗王康宗の娘

シャジャル・アッ=ドゥッル (?~1257) マムルーク朝初代スルタン (女性)

高宗 (1192~1259) 第23代高麗王 在位1213~1259※第22代高麗王康宗の子

イッズディーン・アイバク (?~1257) マムルーク朝第2代スルタン 在位1250~1257

トルイ (1192~1232) チンギス・ハーン四男

沖明国師 (生没年不詳) 高麗王熙宗の子

モンケ (1209~1259) 第4代モンゴル帝国ハーン※トルイの子

高麗王高宗の子



元宗（1219～1274） 高麗王 在位1260～1274※画像なし

後嵯峨天皇（1220～1272） 第88代天皇

アリクブケ（1219～1266） モンゴル帝国第5代ハーン※画像なし



王珪（?～1266） 元宗の子※画像なし

亀山天皇（1249～1305） 第90代天皇

※高麗から来た王族は天皇に変身した。後嵯峨天皇、亀山天皇は九頭龍崇拝の神官として人身御供の儀式を仕切ったと考えられる。

第4代モンゴル帝国ハーンモンケの子



シリギ（?～1280?）※画像なし

メリク・テムル（?～1307） アリクブケの子※画像なし

ニコロ・ポーロ（1230～1294） マルコ父※画像なし

ニコラウス4世（1227～1292） ローマ教皇



ウルス・ブカ (?~1324) モンケの孫※画像なし
ヨブクル (?~1324) アリクブケの子※画像なし
マルコ・ポーロ (1254~1324) ニコロの子
ルスティケロ・ダ・ピサ (生没年不詳) 東方見聞録記述※画像なし
ニコラウス5世 (1260?~1333) 対立教皇※画像なし

※モンケの孫は、じつはアリクブケの子でもあった。2人はポーロ親子に変身し、仇であるフビライの帝国を諜報員として視察した。しかし勝算がないと分かると、親子は現イタリアに移り、永住したと考えられる。2人はローマ教皇としてローマに自身の勢力基盤を築こうと考えたが、強い基盤は得られなかった。

亀山天皇の子

暁子内親王 (1262~1264)
度会家行 (1256~1351) ※度会有行の子



後宇多天皇（1267～1324） 第91代天皇
足利家時（1260～1284） ※足利尊氏の祖父



後宇多天皇の皇子（1307）※画像無し
足利尊氏（1305～1358） 室町幕府初代征夷大將軍
忠肅王（1294～1339） 高麗第27代国王※画像無し

※足利の由来はマヤの神イシュキックである。イシュキック＝イシュキク＝足利となる。後醍醐天皇と足利尊氏は実際には兄弟である。そのため、2人は最初こそ共に動いていた。

足利直冬（1327～1387） 足利尊氏の子
辛旽（1322～1371） 恭愍王時代の僧

※父足利尊氏（忠肅王）治世後にダヴィデの一族に属する李成桂が朝鮮半島に出現したため、危機感を感じた足利直冬は辛旽という僧に変身して李成桂が選んだ高麗王を宰相として裏から操ることで、高麗の篡奪を諮ったが処刑された。

足利義尊（1413～1442） 足利直冬孫

世祖（1417～1468） 李氏朝鮮第7代国王 在位1455～1468

徳興大院君の子（世祖の玄孫の子）



李鱗（1546～1592） 李氏朝鮮第14代国王宣祖の兄※画像無し

李元翼（1547～1634） 李氏朝鮮重臣※画像無し

三井高俊（?～?）※画像無し

ヘンリー・ステュアート（1545～1567） ダーンリー卿

※1614年、李元翼が流罪になっているが、彼の正体は第14代国王宣祖の兄である。彼は、第15代国王光海君の時代に流罪に処されたが、脱出して日本に移住した。彼は三人目の李を由来に「三井」の名を生んだ。1人目が李鱗であり、2人目が李元翼であり、三人目が三井高俊である。李鱗の影武者はイギリスにも渡り、ヘンリー・ステュアートを称してダーンリー卿になり、その後のステュアート朝イングランド王国の礎を築いた。

ジェームズ1世の子（ダーンリー卿ヘンリー・ステュアートの孫）



ヘンリー・フレデリック・ステュアート（1594～1612）
住友政友（1585～1652） 初代住友忠右衛門※画像無し

※ヘンリーは18歳で死んだことにして、祖父ヘンリー（三井高俊）の故郷日本に帰り、初代住友忠右衛門となる。三井と住友がよく連合するのはそのためだ。



エリザベス（1596～1662）※画像無し
アン・ハッチンソン（1591～1643） イギリス反体制派教会



ソフィア（1607）※画像無し

メアリ・ダイアー（1611～1660） クウェーカー教徒殉教者

※ソフィアは早世したことにしてイギリスからアメリカに渡り、子、或いは甥であるジョージ・フォックスの手助けをし、クウェーカーの殉教者を演じた。

イングランド王チャールズ1世の子



チャールズ・ジェームズ（1629）※画像無し

ジョージ・フォックス（1624～1691） クエーカー教祖

ウィリアム・ペン（1621～1670） ウィリアム・ペン（1644生）父

住友友以（生没年不詳） 二代目住友忠右衛門※画像無し

※チャールズ・ジェームズはチャールズ1世ではなく、エリザベスカソフィアのこと考えられる。影武者はジョージ・フォックスを名乗った。フォックスの由来は稲荷の「狐」である。ジョージ・フォックスは「クエーカー教」を築いたが、クエーカーの名は、信者たちがシャーマンのように身を震わせることから第三者によって命名された。クエーカー教徒たちは、自身を「フレンズ」と呼ぶが、フレンズの由来は住友である。



ヘンリー（1640～1660）※画像無し

ウィリアム・ペン（1644～1718） フィラデルフィア、ペンシルヴァニア建設

住友友信（1647～1706） 三代目住友忠右衛門※画像無し

Gulielma Maria（1671～1685） ウィリアム・ペン（1644）の子

住友友芳（1670～1720） 四代目住友忠右衛門

※敵の目をごまかすために女子として生まれたマリアは、14歳で死んだことにより日本に渡り、男に戻って四代目住友忠右衛門となった。

イングランド王チャールズ1世の玄孫



ウィリアム・フィッツジェラルド（1749～1804） エミリア・メアリー・レノックスの子※画像無し

エリ阿斯・ヒックス（1748～1830） クウェーカー司教

ジョージ・サイモン・フィッツジェラルド（1773～1783） エミリア・メアリー・レノ

ックスの子

ジョン・ウィルバー（1774～1856） クウェーカー司教



ヘンリー・エドワード・ネイピア（1789～1853） サラ・レノックスの子※画像無し

ジョゼフ・ジョン・ガーニー（1788～1847） クウェーカー司教

※これを見て分かるようにクウェーカー教の関係者は、みなスチュアート朝イングランド王チャールズ1世の子孫である。

第4代リッチモンド侯爵チャールズ・レノックスの子（イングランド王チャールズ2世の玄孫）



ジョン・ジョージ・レノックス（1793～1873）※画像無し

モシヨエシヨエ1世（?～1870） 初代レソト王 在位1822～1870

※ジョン・ジョージは、弟ウィリアムと共に南アフリカに渡った。弟はプレトリウスとしてナタール共和国を築いたが、彼はモシヨシヨエ1世としてレソト王国を築いた。彼は現地人をまとめて「ソト族」を生んだが、ソトの由来はサトゥルヌスである。サトゥルヌス＝サトゥ＝ソトとなる。



ウィリアム・レノックス（1799～1881）※画像無し

アンドリース・プレトリウス（1798～1853） ナタール共和国初代総理大臣

※スチュアート朝の末裔ウィリアムがプレトリウスに化けて「ナタール共和国」を建てたと考えられる。ナタールの名の由来はナディールである。しかし、AD1842年、大英帝国に攻撃されて翌年に降伏し、英領ナタール植民地とされた。

住友家16代当主の弟住友元夫の子



住友芳夫（1943） 住友家17代当主、住友金属工業技監※画像無し

鄭明析（1945） 摂理教祖

川勝平太（1948） 静岡県知事

※鄭明析の顔はマヤ人に似ている。マヤで凄惨な人身御供を指揮していた藤原氏の末裔と考えられる。川勝平太は、最初は信じていたが、wikiであの桜井女史のことを大和撫子と呼んでいることを知り、タナトス判定させていただいた。タナトスには優しい顔で騙すテクニックもある。



住友信夫（194？）※画像無し

友野宏（1945） 住友金属工業社長、新日鐵住金初代社長兼COO、元日本経団連副会長

丸山和也（1946） 自由民主党

レソト王モシヨエシヨエ1世の子



レツィエ3世（1963） 第8代レソト王 在位1996～現在

※なぜか友野宏に似ている。優性遺伝子ブリーダーで儲けたのだろうか？

大宛のドルイド司祭（西本願寺）の一族～大宛、マウリヤ朝、クシャーナ朝、鳩摩羅什、曇鸞、浄土宗、隋、ウマイヤ朝イスラム帝国、北宋、舜天王統、ブギス族、ジョホール朝、林本源、中国仏教協会、台湾

ウェル・サクレムの時代（BC 390）

- ・ルキウス・フリウス・メダリヌス（?～?） ローマ執政官 任期BC 413
- ・アウルス・コルネリウス・コッサス（?～?） ローマ執政官 任期BC 413
- ・カイクス・フリウス・パシルス（?～?） ローマ執政官 任期BC 412
- ・クィンタス・ファビウス・アンバスタス・ヴィブラヌス（?～?） ローマ執政官 任期BC 421
- ・スプリウス・ナウティウス・ルティルス（?～?） ローマ執政官 任期BC 411
- ・マルクス・パピリウス・ムギッラヌス（?～?） ローマ執政官 任期BC 411
- ・マニウス・アエミリウス・マメルキヌス（?～?） ローマ執政官 任期BC 410
- ・カイクス・ヴァレリウス・ポティトゥス・ウォルスス（?～?） ローマ執政官 任期BC 410
- ・クナエウス・コルネリウス・コッスス（?～?） ローマ執政官 任期BC 409
- ・ルキウス・ヴァレリウス・ポティトゥス（?～?） ローマ執政官 任期BC 393
- ・パブリウス・コルネリウス・マルギネンシス（?～?） ローマ執政官 任期BC 397
- ・マルクス・マンリウス・カピトリヌス（?～BC 384） ローマ執政官 任期BC 392

※ガリアでは、ドルイド僧に変身したローマ執政官が粗暴なケルト人を飼いならし、ローマに台頭しつつあった執政武官を排除しようと考えていた。ローマ人武官は強い、そして自分たちは弱い。なので自ら武官に手出しできない。そのため、ローマ執政官は自分たちの手足の代わりとして屈強なケルト戦士を掌握することに決めた。ドルイドの名の由来はデルポイとアテネの組み合わせである。つまり、自分たちは「アテーナイから来た聖地デルポイの神官だ」というアピールだろう。デルポイ+アテネ=デルアテ=ドルイドとなる。

その第一弾が、ローマに対する「聖なる移住（ウェルサクレム）」として結実するが、上記に記したローマ執政官たちが凶暴なケルト人を操って「聖なる移住」を指揮した。これは、本願寺の祖であるドルイド司祭による「一向一揆」の原型である。「数で優れた者を圧倒する」という戦法が、既に古代ローマ相手に実施されていたのだ。多数の弱者を指揮して少数の強者を数で圧倒する。

しかし、一部のローマ執政官は「聖なる移住」の計画から離脱し、タナトスの故地、ミディアン人の故地である大宛に向かった。大宛（ダーユアン）とはミディアンの地を意味する。また、ミディアンの名からミタンニ王国の拠点だったことも分かる。この地はタナトスにとっては非常に意義深い。なぜなら、超古代にガイアによって古代オーストラリアから追放され、流刑地として島流しされた土地だからだ。BC 4世紀頃から大宛の王を兼任したローマ執政官は、早速、仏教を武器にマウリア朝の篡奪に取り掛かった。

母寡（前漢の時代） 大宛王

デーヴァヴァルマン（?～BC 195） マウリア朝第10代王 在位BC 201～BC 195

昧蔡（前漢の時代） 大宛王

シャタダンヴァン（?～BC 187） マウリア朝第11代王 在位BC 195～BC 187

ブリハドラタ（?～BC 180） マウリア朝第12代王 在位BC 187～BC 180

※ブリハドラタ王は、ダヴィデの一族と考えられるプシャミトラによって殺害され、仏教も弾圧された。その後、マウリヤ朝の終焉と共にシュンガ朝が開かれることになる。

蟬封（前漢の時代） 大宛王

ヴァースデーヴァ（?～?） カーンヴァ朝初代王 在位BC 68～?

スシャルマン（?～BC 23） カーンヴァ朝第4代王 在位?～BC 23

クジュラ・カドフィセス（?～6） クシャーナ朝初代王 在位BC 25～AD 6

※スシャルマン王は、カーンヴァ朝滅亡と共にすぐに切り替え、初代王としてクシャーナ朝を開いた。



延留（後漢の時代） 大宛王※画像なし

カニシカ1世（?～?） クシャーナ朝第4代王 在位144～164

龍樹（150～250） 仏教僧・中観派開祖

橋塞提（後漢の時代） 大宛王

ヴァーシシカ（?～?） クシャーナ朝第5代王 在位2世紀半ば

延留（後漢の時代） 大宛王

フヴィシカ（?～?） クシャーナ朝第6代王 在位2世紀後半

※超古代にタナトスがガイアによって流された流刑地ミディアンで、ドルイド司祭は世界侵略・人類家畜化の計画を練り、暖めていた。大宛のドルイド祭司は、仏教でインドと東アジアを征服する計画を立て、クシャーナ朝を篡奪した。



ヴァースデーヴァ（?～?） クシャーナ朝第7代王 在位3世紀前半※画像なし
迦葉摩騰（後漢時代） 仏教僧



カニシカ2世（?～?） クシャーナ朝第8代王 在位3世紀前半※画像なし
竺法蘭（後漢時代） 仏教僧
司馬昭（211～265）

※大宛のドルイド教司祭は、クシャーナ王を歴任し、侵略の道具として使用する目的で仏教を保護した。その後、クシャーナ朝が滅ぶと、クシャーナ朝を共同統治していたヴァースデーヴァとカニシカ2世は中国に向かった。ヴァースデーヴァは迦葉摩騰を称し、カニシカ2世は竺法蘭を称して中国を仏教で侵略しようと画策した。

司馬昭の子



司馬炎（236～290） 西晋初代皇帝 在位266～290

藍庾（西晋の時代） 大宛王※画像なし

仏図澄（232～348） 仏教僧・亀慈生※画像なし

アコウアス（?～?） マニ教宣教師※画像なし

司馬定国（23?～?）

摩之（西晋の時代） 大宛王

竺法護（239～316） 仏教僧・中央アジア生

マル・アムモ（?～?） マニ教宣教師

司馬熾（284～313） 西晋第4代皇帝 在位307～311

竺道潜（286～374） 仏教僧

司馬鄴（300～318） 西晋第5代皇帝 在位313～316

司馬紹（299～325） 東晋第2代皇帝 在位323～325

道安（312～385） 仏教僧

支遁（314～366） 仏教僧

僧叡（317～420） 仏教僧・四哲

司馬岳（322～344） 東晋第4代皇帝 在位342～344

慧遠（334～416） 地論宗



鳩摩羅什尊者

司馬丕（341～365） 東晋第6代皇帝 在位361～365※画像なし

鳩摩羅什（344～413） 四大翻譯家・龜慈生

アガピウス（4世紀～5世紀） キリスト教哲学者・マニ教研究者※画像なし

司馬曜（362～396） 東晋第6代皇帝 在位372～396

仏陀跋陀羅（359～429） 華嚴經 インド生

道生（355～434） 仏教僧・四哲

司馬徳文（386～421） 東晋第11代皇帝 在位419～421

曇無讖（385～433） 涅槃經 インド生

道融（後秦時代） 仏教僧・四哲

僧肇（後秦時代） 仏教僧・四哲

※龜慈やインドに生まれたことにした大宛のドルイド司祭たちはその後、中国に集合した。ドルイド司祭たちは、どうでもいいことしか書かれていない仏教經典を中国全土に広めようと、迷惑なことに翻訳を開始した。優れた王は、生まれながらに優れているものだ。しかし、仏教は修行を必要とする。修行を必要とするということは優れていない。修行する僧たちは自分たちが偽物であるということを主張しているに過ぎない。尤も、厳しい修行を積んでいると豪語する僧は、人が見ている前でしか修行をしない。見続けようとするとうまいいいわけをする。「ここから先は神が見ることを望まない（或いは好まない、喜ばない、崇りがある）」とかw 僧とは、人が見ていなければじつに自墮落なものだ。

また、初期の仏図澄、竺法護、鳩摩羅什は仏教の伝道師でありながら、同時にマニ教の宣教師だった可能性もある。ガリアのドルイド司祭たちは、キリスト教でヨーロッパを支配し、大宛のドルイド司祭たちは仏教で東アジアを征服し、マニ教でオリエント地方を支配し、世界を掌握し、人類を家畜化しようとしていたのだ。イスラム教の登場はマニ教のしばらく後だったため、大宛のドルイド司祭たちは、まず、マニ教でイランを何とかしようとしていたようだ。



曇鸞（476～542） 仏教僧・浄土教教祖

曇曜（南北朝時代） 仏教僧

曇延（南北朝時代） 仏教僧

蕭衍（464～549） 梁初代皇帝 在位502～549

※中国に移った大宛のドルイド教司祭の残党は、農民などの下層中国人を仏教信者として大量に獲得しようと動いた。しかし、中国の偉人はことあるごとに廃仏毀釈を実行した。そのため、仏教は中国に根付かなかった。そのため、曇鸞は蕭衍に化けて梁を築いた。そして、高祖武帝は仏教を国教とする。

現在、中国仏教と白蓮教は連合し「法輪功」として活動している。中国共産党首脳部は優れた人々で構成されているが、10億近い中国の庶民層は、インフラを牛耳る法輪功の陰謀に苦しんでいるようだ。本願寺が指揮する法輪功の陰謀は、深刻なイジメ問題として顕在化している。

太宗簡文帝（503～551） 梁第2代皇帝 在位549～551

廢帝豫章王（？～552） 梁第3代皇帝 在位551

世祖元帝（508～555） 梁第4代皇帝 在位552～554

陳霸先（503～559） 陳初代皇帝 在位557～559

真諦（499～569） 仏教僧・四大翻譯家 インド生



永嘉王（？～？） 南梁初代皇帝 在位557～560※画像なし

中宗宣帝（519～562） 後梁初代皇帝 在位554～562※画像なし

世祖文帝（522～566） 陳第2代皇帝 在位559～566※画像なし



世祖明帝（542～589） 後梁第2代皇帝 在位562～585

高州宣帝（530～582） 陳第4代皇帝 在位568～582 ※画像なし

敬帝（543～558） 梁第5代皇帝 在位554～555



廢帝臨海王（554～570） 陳第3代皇帝 在位566～568

閔帝（548～578） 梁第6代皇帝 在位555～557

※北周で仏教弾圧が起きると、13年後に西梁が、15年後に陳が滅亡した。実際には北周に滅ぼされたが中枢は隋を築くことになる。



後主 (?~?) 後梁第3代皇帝 在位585~587 ※画像なし

後主 (553~604) 陳第5代皇帝 在位582~589 ※画像なし

楊堅 (541~604) 隋初代皇帝 在位581~604

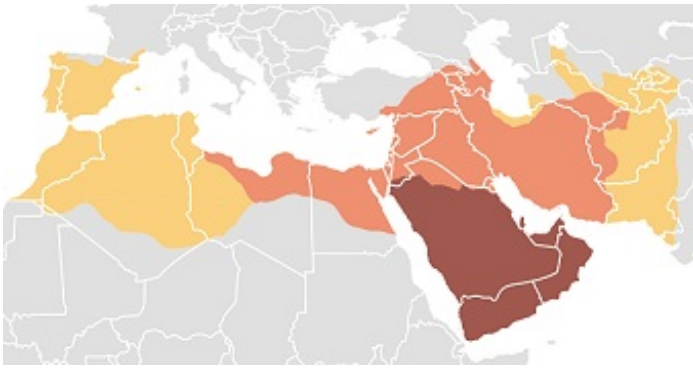
※隋は早速、仏像の破壊を禁止した。できそこないは偶像崇拜を強制するのが基本である。一流の職人が作った優れたモノがないと、ノツかれない。素晴らしい仏像であれ、豪華な寺社建築であれ、そういうものにノツかれなければタナトスは見栄えがしないできそこないのままなのだ。



煬帝 (569~618) 隋第2代皇帝 在位604~618

恭帝侑 (605~618) 煬帝の子

ムアーウィヤ1世 (603~680) ウマイヤ朝初代カリフ



※隋が滅んで煬帝の家族が殺されると、恭帝侑は死んだことにして脱走し、オリエント地方に落ち延び、ムアーウィヤ1世となってウマイヤ朝を開くことになる。この時に征服本能が爆発したウマイヤ朝はイスラム帝国の勢力圏をこれまでよりも拡大する。

契苾（唐の時代） 大宛王

ムアーウィヤ2世（664～684） ウマイヤ朝初代カリフ

阿瑟那鼠匿（唐の時代） 大宛王

不空金剛（705～774） 四大翻訳家 インド生

ヤズィード3世（706～744） ウマイヤ朝第12代カリフ

阿了参（唐の時代） 大宛王

マルワーン2世（691～750） ウマイヤ朝第14代カリフ

※アッバース朝に成敗された形でイベリア半島に落ち延び、後ウマイヤ朝を開いた。この時にイベリア半島のイスラム時代が始まる。

竇忠節（唐の時代） 大宛王

ムハンマド1世（823～886） コルドバ第5代アミール

黄巢（835～884） 齊皇帝

竇薛裕（唐の時代） 大宛王

ムンジル（842～888） コルドバ第6代アミール

王仙芝（?～878）

王潮（846～898） ビン王国初代王兄

※グラナダ王国の5代アミールと6代アミールが隋の時代の栄華を取り戻そうと中国侵略の第一弾を企図した。それが王と黄の塩の密売人の蜂起、「黄巢の乱」である。彼らはアラビア人の顔をしていた。このときの戦争で中国の国土はひどく崩壊し、カニバリズムが横行したという。

一方、福建にはビン王国（中国語読み：ミン）を築いている。



アブド・アッラーフ（？～912） コルドバ第7代アミール 在位888～912※画像無し
王審知（862～925） ビン王国初代王 在位909～925

アブド・アッラフマーン3世（889～961） 後ウマイヤ朝初代カリフ
王延政（？～951） ビン王国第7代皇帝 在位943～945



ハカム2世（915～961） 後ウマイヤ朝第9代カリフ※画像なし
趙匡胤（927～976） 北宋初代皇帝

※趙匡胤の正体はハカム2世であり、実際にはアラブ人であるため肖像画を見て分かるように、顔が黒い。北宋の建国は、隋の時代の栄華を取り戻そうと企図した中国侵略だった。



ムハンマド3世 (976~1025) 後ウマイヤ朝第15代カリフ

趙徳昌 (968~1022) 北宋第3代皇帝 在位997~1022

ヒシャーム3世 (973~1031) 後ウマイヤ朝第16代カリフ

Sri Deva (?~?) シュリーヴィジャヤ王 在位1028?

※この時代、キリスト教勢力に押されていた彼らは後ウマイヤ朝統治を諦め、イベリア半島を脱出してスマトラ島に移住し、シュリーヴィジャヤ王国を篡奪した。これを機に波状的にイスラム教がインドネシアに伝えられた。

Srimat Trailokyaraja Maulibhusana Warmadewa (?~?) シュリーヴィジャヤ王 在位1183?

舜天 (1166~1237) 舜天王統初代中山王

Tribhuanaraja (?~?) シュリーヴィジャヤ王 在位1286?

英祖 (1229~1299) 英祖王統初代中山王

Simpurusiang (?~1520) ルウ王国初代王 在位1264~1293

※この時代、シュリーヴィジャヤ王は沖縄に進出し、舜天王統、英祖王統、察度王統、怕尼芝王統、大里王統、第一尚氏王統、第二尚氏王統を築き、沖縄を統治していた(1187~1477)。また、同時期にスラウェシ島を拠点に据えてブギス族としてルウ、ボネ、ワジョなどの国を築き、王族自らが海賊となり、東南アジア全域~オーストラリア北部にまで遠征していた。沖縄の怕尼芝王統の名は、彼らがバヌアツにも進出していたことを示している。

西威 (1328~1349) 英祖王統第5代中山王 在位1336~1349

Manurunge Ri Matajang (?~1365) ボネ王国初代王 在位1330~1365

尚宣威王（1430～1477） 琉球王国第二尚氏王統第2代国王 在位1477

La Palewo to Palippu（?～1481） ワジヨ王国初代王 在位1474～1481

※ルウ王国の王統は1965年まで続き、ワジヨ王国の王統は1957年まで続き、ボネ王国の王統は1951年まで続いた。

林爽文（1756～1788） 天地会

マフムード・シャー3世（1756～1811） ジョホール朝第15代スルターン

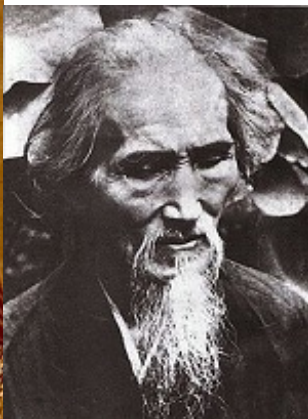
蔡牽（1761～1809） 海賊

林平侯（1766～1844） 林本源家祖

アブドゥル・ラーマン・ムアッザム・シャー（1780～1832） ジョホール朝第16代スルターン

※ブギス族は台湾に移住して林本源を築き、同時に中国～台湾で海賊を働いている。ブギス族は、18世紀にはマレー半島に起こったリアウ朝、ジョホール朝、スランゴール朝といった諸王朝を立ち上げている。

ジョホール朝スルターン



Sultan Abu Bakar Daeng Ibrahim（1833～1895） ジョホール朝第21代スルターン

林維源（1840～1905） 板橋林家4代族長※画像無し

虚雲（1840～1959） 禅宗僧侶



Sultan Ibrahim ibni Almarhum Sultan Abu Bakar（1873～1959） 第22代スルターン

林資鏗（1878～1925） 霧峰林家第7代当主※画像無し

円瑛（1878～1953） 中国仏教協会初代会長

Sultan Ibrahim ibni Almarhum Sultan Abu Bakarの子



Sultanah Rogayah（1880～1926）

林献堂（1881～1956） 台湾民族運動指導者・霧峰林家

林呈祿（1886～1968） 林本源一族



Helen Bartholomew Wilson (1888～1978)

林熊徵 (1888～1946) 華南銀行設立

蔡培火 (1889～1983) 台湾民衆党創設※画像無し

蔣渭水 (1890～1931) 台湾民衆党創設、非暴力民族運動指導者

Sultan Ismail ibni Sultan Ibrahim (1894～1981) ジョホール朝第23代スルターン

李金龍 (189?～?) 李登輝父※画像無し



Tunku Abdul Jalil (1924～1925) ※画像無し

李登輝 (1923) 第8代、9代台湾総統

総統職と国民党主席を退任した後は、「台湾」と名前の付いた初めての政党台湾団結連盟を自ら中心となって結成し、台湾独立運動・泛緑連盟に影響を与え続けている。wikiより



Sultan Mahmud Iskandar Al-Haj (1932~2010) ジョホール朝第24代スルターン

二階俊博 (1939) 安倍政権、自民党幹事長

方励之 (1936) 中国民主化運動家

黄昆輝 (1936) 台湾團結連盟主席

黄文雄 (1937) 台湾独立建国連盟



※二回先生はジョホール朝スルターン、マハムード・イスカングル本人だろう。本国で颯爽とバイクに跨る姿が激写された。



Tunku Abdul Rahman (1933) ※画像なし

金美齡 (1934) ?

坂口力 (1934) 公明党議員、小泉内閣閣僚

※性別を超えて良く似ている。坂口力先生の方が影武者だろう。不気味な姉弟ですな。



Tunku Tun Maimunah (194?) ※画像なし

石禮謙 (1945) 香港特別行政区立法会メンバー



Sultan Ibrahim Ismail Ibni Sultan Mahmud Iskandar (1958) 第25代スルターン

ナジブ・ラザク (1953) マレーシア首相

※ラザクはブギス族の出身である。彼の首相時代にマレーシア機失踪事件が起きた。彼が指導していたと考えられるが、93歳で返り咲いたマハティール首相によって腐敗容疑で逮捕された。

李登輝の子



Lee Hsien-wen (1950~1982) ※画像無し

陳水扁 (1950) 第10~11代台湾総統

魏京生 (1950) 北京の春指導者

蘇進強 (1953) 台湾時報社長、台湾團結連盟主席

穀田恵二 (1954) 共産党衆議院議員団団長※画像無し





Annie Lee (1954) 李登輝の子※画像無し

蔡英文 (1956) 台湾14代総統

林鄭月娥 (1957) 香港政府行政官

志位和夫 (1954) 日本共産党委員長

※現在、台湾（林本源の一族）は香港デモ（東本願寺の一族、西本願寺の一族）に呼応し、協力関係にある。林本源の一族は、過去に隋、北宋など、中国全土を支配下に置いていた。そのため、先祖の栄光を再び掌握せんと、今でも中国を支配する夢を見ているのだろう。

香港政府はデモ隊の味方だ。その証拠に林鄭月娥は辞任していない。さらに、他の国でデモ隊排除に使用されている消防署の水放射、スタンガン、警察犬などを使わないところを見るとやはり仲間である。ワザとデモ隊に負けて中国政府に一矢報いようというのだ。行政官を変えたらすぐにデモ隊に勝てる。





小池晃（1960） 日本共産党書記局長、全日本民医連理事

山下芳生（1960） 共産党参議院議員団団長

再雲飛（1965） 民主派ブロガー

涂謹申（1963） 香港民主派弁護士

石平（1962） 中国問題評論家

柴玲（1966） 天安門広場絶食団、保衛天安門広場指揮部総指揮官

辻元清美（1960） 立憲民主党議員

※敵が味方であるなら全ての局面に於いて負けることはない。そりゃそうだ。誰にも勝てないタトスが30万年の間に得た教訓である。男は山下氏以外は、顔の傾向がよく似ている。柴玲と辻元は姉妹のようだ。

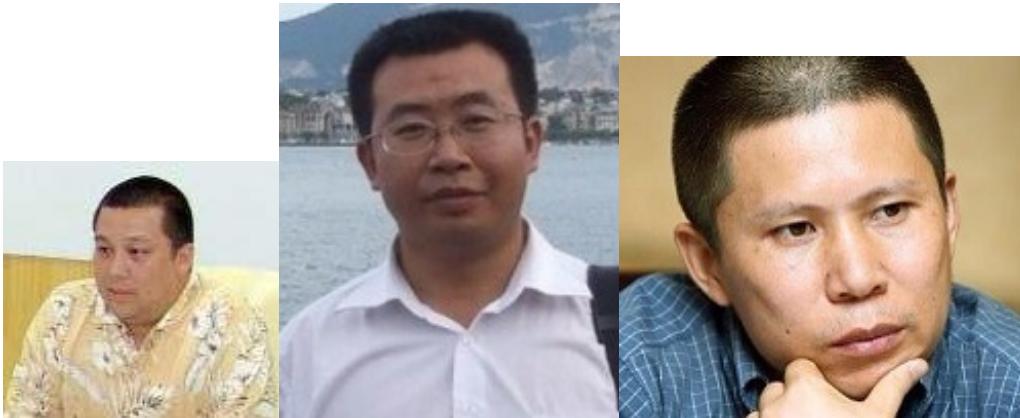
第24代スルターンSultan Mahmud Iskandar Al-Haj（二階俊博）の子



Kamariah Aminah Maimunah Iskandariah (1956)

大崎洋 (1953) 吉本興業会長

※大崎氏はダウンタウンに目をかけたことで知られているが、まっちゃんの才能を殺したのも彼である。大量の不気味、かつ無能なゲイをにわかに芸人として仕立て上げ、芸能界やお茶の間を汚染している。彼の育てた芸人は人々の人生を通り過ぎる通行人でしかない。



Tunku Abdul Majid (1970)

江天勇 (1971) 人権派弁護士

許志永 (1973) 新公民運動提唱

※Tunkuと許志永はどう見ても同一人物である。中国政府をナメているとしか考えられない。

クリュニー大主教ベルノの一族～ナバラ王国、フランク・ローマ皇帝、カペー朝フランス王、民衆十字軍、土肥実平、長宗我部氏、キャンディ王国、三菱財閥、モロ民族解放戦線、ルワンダ大虐殺



サンチョ・ガルセス1世（860～925） ナバラ初代王※García Jiménez of Pamplonaの子

ベルノ（850～927） クリュニー大主教

ヨハネス10世（?～928） 第122代ローマ教皇 在位914～928※画像なし

ウード（852～898） 西フランク第5代王

アルフォンソ3世（848～910） アストゥリアス王

ガイド（855～894） ガイド朝フランク・ローマ皇帝※画像なし

アルヌルフス（850～899） カロリング朝フランク・ローマ皇帝

ベレンガリウス（845～924） ウンロシング朝フランク・ローマ皇帝※画像なし

西欧：ノルマン人改宗（911）

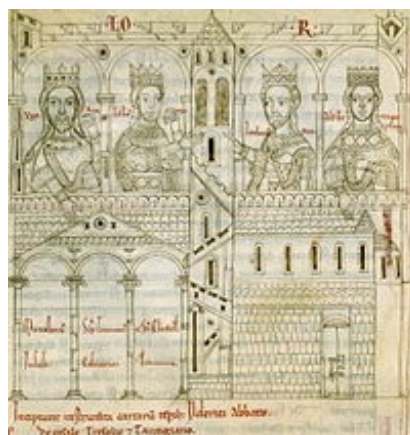
西欧：クラモール・ド・ハロー（911頃）

※911年、ベルノはノルマン人をキリスト教に改宗した。東西本願寺の門主の名に付く「如」の由来はベルノである。ベルノ=ベルニョ=如となる。つまり、東西本願寺門主が「如」を付けることで彼らがクリュニー会の祖ベルノを崇拜していることがわかる。

クリュニー会が、敵であるノルマン人を改宗させたのが911年。ドナトゥス派の司教マヨリヌスが登場したのは311年である。タナトスはここぞという時、験担ぎで、先祖が偉業を成し遂げた日にちを選び、コトを実行する。クリュニー会は、誕生したばかりのノルマンディー公国に拠点を移し、ヴァイキングたちを改宗させた。

この時、クリュニー会はノルマン人、ヴァイキング、フランク人の中に潜む優れた者を排除するために「クラモール・ド・ハロー」を起動させた。クラモール・ド・ハローとは、国民が訴えを起こした際、国王はすぐに裁判を開かなければならないのだ。

非常に良い決まりごとのようだが、その実、仲間を保護し、敵だけを公的に排除するためのシステムだった。基本的に、裁判官と原告はクリュニー会関係者であり、被告はクリュニー会に寄与しない優れた人物と決定されていた。原告のクリュニー会関係者は無実の罪をデッチあげ、死刑を宣告するためだけに被告を裁判に引き釣り出した。これによって、多くの優れた人材を失ったノルマンディー公国は、弱体化の機運を辿った。



Jimeno Garcés of Pamplona (?~932) García Jiménez of Pamplonaの子※画像なし
オドン (880~942) クリュニー大主教

ヨハネス11世(910~935) 第125代ローマ教皇 在位931~935※画像なし
レオ7世(?~939) 第126代ローマ教皇 在位936~939※画像なし
ステファヌス9世(?~942) 第127代ローマ教皇 在位939~942
阿咄欲(?~?) 甘州ウイグルカガン 在位926~939※画像なし
ランベルトス(880~898) グイード朝フランク・ローマ皇帝
ルドウィクス3世(880~928) ボゾ朝フランク・ローマ皇帝※画像なし
フルエーラ2世(875~925) レオン王

- ・順化可汗(仁裕、奉化可汗) 甘州ウイグルカガン 在位926~959 仁美の弟
 - ・景瓊 甘州ウイグルカガン 在位959~? 仁裕の子
 - ・夜落紇密礼遏 甘州ウイグルカガン 在位?~?
 - ・祿勝 甘州ウイグルカガン 在位?~?
 - ・夜落紇(夜落隔、忠順保徳可汗王) 甘州ウイグルカガン 在位?~1016
 - ・夜落隔帰化 甘州ウイグルカガン 在位1016~?
 - ・夜落隔通順(帰忠保順可汗王) 甘州ウイグルカガン 在位?~?
-

●ヒメノ朝の系譜



サンチヨ・ガルセス2世(935~994) ヒメネス朝ナバラ王※ヒメノ朝ガルシア・サンチ
ェス1世の子
ヨハネス12世(937~964) 第130代ローマ教皇 在位955~964

ユーグ・カペー（940～996） カペー朝初代フランス王



ガルシア・サンチェス2世（?～1000） ヒメノ朝サンチヨ2世の子※画像なし
マヨルス（906～994） クリュニー大主教



サンチヨ・ガルセス3世（985～1035） ヒメネス朝ガルシア・サンチェス2世の子※画像なし

ロベール2世（972～1031） カペー朝第2代フランス王

ヨハネス19世（?～1032） 第144代ローマ教皇 在位1024～1032



García Sánchez III (1012~1054) ヒメノ朝サンチヨ3世の子※画像なし
アンリ1世 (1008~1060) カペー朝第3代フランス王
ランフランクス (1005~1089) カンタベリー大主教
ラミロ1世 (1007~1063) アラゴン初代王
ニコラウス2世 (1010~1061) 第155代ローマ教皇 在位1058~1061

※アンジュー伯やノルマンディー公に圧迫されていたアンリ1世は、1060年に51歳で死んだことにし、フランスを出発してアフリカへの旅に出た。アンリ1世がマプングプエ王国 (1075年) を築いた。マプングプエ王国を築くまでに15年かかっている。



García Ramírez (1046~1086) アラゴン王ラミロ1世の子※画像なし
フィリップ1世 (1052~1108) カペー朝第4代フランス王
隠者ピエール (生没年不詳) 民衆十字軍指揮者

※アラゴン初代王ラミロ1世の子ガルシアはパンプローナ司教を務め、カペー朝フランス王フ

ィリップ1世をも演じていた。1095年、ローマ教皇に破門を通告された正にその年にフィリップ1世は隠者ピエールに変身し、第一次十字軍に先駆けて民衆十字軍を発進させた。フィリップ1世の目的は、アンチ1世がアフリカに築いた王国に移住することだったようだ。

-
- ・カネム帝国（700～1376）※歴代王の系譜不明
 - ・マプングプエ王国（1075～1220）※歴代王の系譜不明

※現ナイジェリアに到達した民衆十字軍がカネム帝国の王位を篡奪した。当初、カネムはカネムと呼ばれていなかったが、フィリップ1世の娘セシルの子が王位に就いたため、カネムと呼ばれた。カネムの由来はカナンである。セシルは民衆十字軍とイスラム教徒の間で起きた「アンティオキア攻防戦」が起きた1097年のシリアに生まれている。

その後、南下したフィリップ1世の家族は現ジンバブエに辿り着き、先住していた父アンリ1世と共にマプングプエ王国を築いた。マプングプエの由来はシャンパーニュのカペーである。シャンパーニュ+カペー=ヤパニユカプエ=マプングプエとなる。

■カネム・ボルヌ帝国後期、マプングプエ王国の王は代々、ヒメノ朝ナバラ王・アラゴン王やカペー朝フランス王が兼任していた。

- ・ヒメノ朝ナバラ王

- ・ペドロ1世（1094～1104） アラゴン王ペドロ1世
- ・アルフォンソ1世（1104～1134） アラゴン王アルフォンソ1世
- ・ガルシア・ラミレス（1134～1150）
- ・サンチヨ6世（1150～1194）
- ・サンチヨ7世（1194～1234）

- ・ヒメノ朝アラゴン王

- ・ラミロ2世（1134～1137）
- ・ペトロニラ（1137～1164）

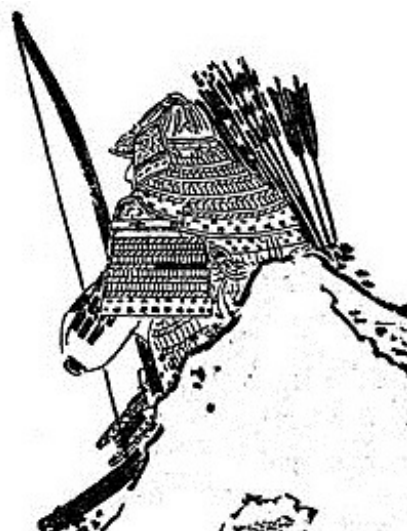
- ・カペー朝フランス王

- ・ルイ6世（1108～1137）
- ・ルイ7世（1137～1180）

- ・フィリップ2世 (1180~1223)
- ・ルイ8世 (1223~1226)
- ・ルイ9世 (1226~1270)
- ・フィリップ3世 (1270~1285)
- ・フィリップ4世 (1285~1314)
- ・ルイ10世 (1314~1316)
- ・ジャン1世 (1316)
- ・フィリップ5世 (1316~1322)
- ・シャルル4世 (1322~1328)

フィリップ (1093~1123) カペー朝フランス王フィリップ1世の子
クロトゥンガ (?~?) 後期チョーラ初代王 在位1070~1120

※フィリップ1世の子フィリップはジンバブエからインド洋を越えて南インドに入植してチョーラの王位を篡奪し、後期チョーラ朝の王として即位し、南インドを拠点に東アフリカ沿岸・インド洋・東南アジアを支配下に置いた。



ラージャディラージャ2世 (?~?) 後期チョーラ第2代王 在位1166~1178 ※画像なし

ジャターヴァルマン・クラージェカラ (?~?) 後期パーンディヤ初代王 在位1190~1216 ※画像なし

土肥実平 (?~1191) 土肥氏の祖

吉川経義 (1132~1193) 吉川氏の祖 ※画像なし

相馬師常 (1139~1205) 相馬氏の祖

※ラージャディラージャ2世は自分を死んだことにして日本に移住し、土肥実平を称した。土肥

実平は源頼朝の右腕であったが、その正体はチョーラ王であった。土肥の由来はパーンディヤである。パーンディヤ=ディヤ=土肥となる。土肥実平は、同時に吉川経義、相馬師常に変身し、吉川氏と相馬氏の祖となった。いずれの名もインドの土地が由来である。吉川の由来はカルキヤであり、相馬の由来はスーマである。

その後、土肥実平は、家族である北条政子に源頼朝の管理を託すと、自分は死んだことにして南インドに戻り、ジャターヴァルマン・クラージェカラとして後期パーンディヤ初代王に即位した。土肥実平の日本での活動期間はラージャディラージャ2世の没年とジャターヴァルマン・クラージェカラの即位の年を見れば一目瞭然だが、18年ということになる。つまり、土肥実平、吉川経義、相馬師常はインド人（ドラヴィダ人）の姿をしていた。土肥氏や相馬氏は坂東八平氏の前身に参加したが、坂東の由来はパーンディヤである。パーンディヤ=パンドア=坂東となる。尤も、坂東の名はフィリップ1世の一族に篡奪される前の正統なパーンディヤ王家やチャールキヤ朝の命名である。

小早川遠平（?～1237） 小早川氏の祖※土肥実平の子

※小早川遠平の正体はマングプエ王だと考えられる。小早川の由来はグプエの川である。つまり、マングプエ王国が建てられたリンポポ川を指している。グプエ+川=コバヤ+川=小早川となる。つまり、小早川遠平はアフリカ人（ジンバブエ人）の姿をしていた。

インド洋の商業航路を経て日本に辿り着いた遠平は土肥実平の養子となり、日本で活動する足場を得た。不思議なことだが、彼らは容易に、血が繋がった家族を見分けることができるようだ。

マーラヴァルマン・スングラ・パーンディヤ1世（?～?） パーンディヤ王 在位1216～1238

ラージャラージャ3世（?～?） チョーラ王 在位1216～1256

ジャターヴァルマン・スングラ・パーンディヤ1世（?～?） パーンディヤ王 在位1251～1268

ラージェンドラ3世（?～?） チョーラ王 在位1246～1279

マーラヴァルマン・クラージェカラ1世（?～?） パーンディヤ王 在位1268～1311

※フィリップ1世の子フィリップはチョーラ朝の王位を篡奪したが、それ以外の兄弟たちにアンリ、シャルル、ウード、フィリップ、フロリュス、ウスタシーがいた。その何人かもスワヒリに築かれたインド洋商業航路を東南アジア方面に向かい、インド南部に上陸してパーンディヤ朝の王位を篡奪したようだ。

- ・ 中原秋通（1144頃?~?） 香宗我部氏の祖
- ・ 長宗我部能俊（生1170頃?~?） 長宗我部氏の祖

※チョーラの王位を篡奪したフィリップ1世の一族はインドから日本に向かい、土肥実平を生み、香宗我部氏や長宗我部氏を生んだ。香宗我部の由来はシャルルとモンフォールとカペーの組み合わせであり、長宗我部の由来はチョーラとモンフォールとカペーの組み合わせである。シャルル+モンフォール+カペー=カール+モン+カペー=香+宗+我部=香宗我部となり、チョーラ+モンフォール+カペー=チョー+モン+カペー=長+宗+我部=長宗我部となる。

長宗我部信能（13??~?） 長宗我部氏第11代当主
多羅尾師俊（13??~?） 多羅尾氏の祖

長宗我部元門（?~1471） 長宗我部氏第17代当主
多羅尾玄頻（14??~?）

※多羅尾の由来はドラヴィダである。ドラヴィダ=ドタヴィ=多羅尾となる。多羅尾氏の正体はインドからやって来た長宗我部氏である。その後、多羅尾氏は玄頻の時代に先祖の故地である現ジンバブエに帰還し、トルワ王国を築いている。トルワの由来はドラヴィダ、或いは多羅尾である。

●トルワ王国（1450~1683）歴代王

- ・ 長宗我部雄親（?~1478） 長宗我部氏第18代当主
- ・ 長宗我部兼序（?~1508） 長宗我部氏第19代当主
- ・ 長宗我部国親（1504~1560） 長宗我部氏第20代当主
- ・ 長宗我部元親（1539~1599） 長宗我部氏第21代当主
- ・ 長宗我部盛親（1575~1615） 長宗我部氏第22代当主
- ・ 長宗我部親典（16??~?） 長宗我部氏第23代当主
- ・ 長宗我部興助（16??~?） 長宗我部氏第24代当主

※トルワ王の系譜は不明とされているが、実際には上記のように長宗我部氏当主が代々トルワ王を兼任していたと考えられる。トルワ王国の初代王は長宗我部元門であり、トルワ王国最後の王は長宗我部興助である。

長宗我部兼序（?~1508） 長宗我部氏第19代当主

Senasammata Vikramabahu（?~1511） キャンディ王国初代王 在位1469~1511

長宗我部国親（1504～1560） 長宗我部氏第20代当主

Ali Mughayat Syah（?～1530） アチェ王国初代王 在位1514～1530



長宗我部元親（1539～1599） 長宗我部氏第21代当主

Rajasinha I（1544～1593） キャンディ王国第5代王※画像なし

キゲリ2世（?～1609） ルワンダ王 在位1576～1609※画像なし

※長宗我部元親の一族郎党は大阪の陣以後、死んだことになっている一族はみな日本を脱出した。長宗我部氏（多羅尾氏）は15世紀から現ジンバブエにトルワ王国を築いていたが、彼らはトルワ王を兼任しながらスマトラ、スリランカ、ルワンダに拠点を築き、アチェ王国、キャンディ王国、ルワンダ王国などを生んだ。



Vimaladharmasuriya I (?～1604) キャンディ王国第6代王 在位1590～1604

津野親忠 (1572～1600) 長宗我部元親三男※画像なし

マフムード4世 (?～?) マリ帝国第24代王 在位1590～1600年代

ナナ・トゥワム (?～?) アシャンティ首長 在位1570頃

Senarat (?～1635) キャンディ王国第7代王

長宗我部康豊 (1599～?) 長宗我部元親七男※画像なし

イスカンダル・サニ (1610～1641) アチェ王国第13代スルターン 在位1636～1641

※アシャンティの由来はアチェとキャンディの組み合わせである。アチェ+キャンディ=アチェンディ=アシャンティとなる。この当時、長宗我部氏は土佐国（日本）、トルワ王国（ジンバブエ）、アチェ王国（スマトラ）、キャンディ王国（スリランカ）、ルワンダ王国（ビクトリア湖）、アシャンティ王国（西アフリカ）を支配していたことになる。白人列強による植民地時代は知られているが、植民地は何も白人列強だけの十八番ではなかったというわけだ。

長宗我部盛親の子

- ・長宗我部盛恒 (?～1615)
- ・長宗我部盛高 (生没年不詳)
- ・長宗我部盛信 (生没年不詳)
- ・長宗我部盛定 (生没年不詳)



ミナンカバウ族 (14世紀)

※長宗我部能重が吉原庄全域を支配下に置くと、香宗我部氏は1386年に土佐国を後にスマトラ島に移住した、彼らは「ミナンカバウ」を称した。ミナンカバウの名の由来は宗我部（ムネカベ）である。ムネカベ＝ムネンカバエ＝ミナンカバウとなる。AD1651年、オランダ東イ

ンド会社がミナンカバウ族の土地で金を発掘して以来、タナトスの家族ということで、ミナンカバウ族はオランダと親交をもった。その後、AD1585年、豊臣秀吉の四国征伐で敗北すると、長宗我部盛親の子息たちは土佐国を後に、兄弟であるミナンカバウの地に移住し、両者は連合した。

1958年、ミナンカバウ族は「インドネシア共和国革命政府」を立ち上げて反乱を頻発し、ゲリラ戦を展開した。この反乱は、AD1961年に終焉を迎えているが、背後でオランダ王国、パプア系華僑と連合していた可能性も高い。

Vimaladharmasuriya II of Kandy (1687~1707) キャンディ王国第9代王

オセイ・トゥトゥ1世 (?~1717) アシャンティ帝国初代王 在位1701~1717



Sri Vikrama Rajasinha (1780~1832) キャンディ王国第14代王 在位1798~1815

トゥアंक・イマーム・ボンジョル (1772~1864) イスラム急進派パドリ指導者
岩崎弥三郎 (生没年不詳) 弥次郎の父※画像なし

キャンディ王Sri Vikrama Rajasinhaの子

Letchumi Devi (?~1856)

Alauddin Muhammad Da'ud Syah I (1802~1838) アチェ王国第25代王

ムタラ2世 (1802~1853) ルワンダ王 在位1830~1853

岩崎弥次郎 (1808~1873) 弥太郎・弥之助の父



Raja Nachiar Devi (?～1860) ※画像なし

Alauddin Sulaiman Ali Iskandar Syah (?～1857) アチェ王国第26代王※画像なし

岩崎弥太郎 (1835～1885) 三菱創業者

後藤象二郎 (1838～1897)

井上馨 (1836～1915)

松方正義 (1835～1924) 内閣総理大臣・日本赤十字社社長

※岩崎弥太郎はミナンカバウ族（インドネシア人）の血を引いている。パドリの子孫である。パドリとはミナンカバウ族のイスラム急進派であるが、前から、どうりで顔が濃いなどは思っていた。象二郎、馨、正義は弥太郎の影武者として生まれた。

岩崎弥太郎の子孫



岩崎弥之助（1851～1908） 三菱財閥二代目総帥

桂太郎（1848～1913） 内閣総理大臣

※上記のように、弥太郎と弥之助は兄弟ともに内閣総理大臣になっている。つまり、三菱財閥総帥が内閣総理大臣になっていたということだ。



岩崎久弥（1865～1955） 三菱財閥三代目総帥

ムハンマド・ダウド・シャー（1864～1939） アチェ王国第29代王



岩崎小弥太（1879～1945） 三菱財閥四代目総帥

ユヒ5世（1883～1944） ルワンダ王国第三王朝14代王※画像なし

シモン・キンバング（1887～1951） キンバング教会教祖※画像なし

※ムハンマド・ダウド・シャーはオランダ領インドネシアに抵抗していたが、1903年に降伏するとバタヴィアを離れてルワンダに移住し、若く見えたためか19歳ほどサバをよみ、ユヒ5世として即位した。また、シモン・キンバングとしてキンバング教会を興し、周辺住民を邪教に入信させた。



岩崎彦弥太（1895～1967） 三菱合資会社元社長・岩崎久弥長男※画像なし

ウィリアム・ゴパッラワ（1896～1981） スリランカ初代大統領 任期1972～1978

アンドレ・マツワ（1899～1942） 宗教運動マツワニズム指導者※画像なし



岩崎忠雄（1909～1966） 三菱財閥総帥、三菱モンサント化成社長

ムタラ3世（1911～1959） ルワンダ王 在位1931～1959

SJAFRUDDIN PRAWIRANEGARA（1911～1989） インドネシア共和国革命政府首相

ダッドリー・シェルトン・セーナーナーヤカ（1911～1973） 第2代セイロン首相

※ミナンカバウやアチェの血が流れているためか、インドネシア政府に抵抗し、インドネシア共和国革命政府を開いた。



岩崎俊男（1946） 元三菱自動車工業顧問岩崎寿男の子※画像なし

マヒンダ・ラージャパクサ（1945） スリランカ第13代首相、スリランカ第6代大統領

Murad Ebrahim（1949） モロ・イスラム解放戦線指導者



オポク・ワレ2世（1919～1999） アシアンティ帝国第15代王 在1970～1999

ジョセフ・アーサー・アンクラ（1915～1992） 第2代ガーナ大統領※画像なし

モディボ・ケイタ（1915～1977） マリ共和国初代首相、初代大統領

ブルハヌディン・ハラハップ（1917～1987） インドネシア共和国革命政府安全・正義大臣



キゲリ5世（1935～2016） ルワンダ王国第三王朝16代王

ローラン・カビラ（1939～2001） コンゴ民主共和国第3代大統領※画像なし

マリアン・ングアビ（1938～1977） コンゴ共和国第7代大統領※画像なし

ジョアキム・ヨンビ=オパンゴ（1939～） コンゴ共和国第8代大統領※画像なし

ヌル・ミスアリ（1939） モロ民族解放戦線指導者

ジョセフ・エストラダ（1937） フィリピン第13代大統領



ユビ6世（1960） ルワンダ王国王位請求者

フェリックス・チセケディ（1963） コンゴ民主共和国第5代大統領

ポール・カガメ（1957） ルワンダ愛国戦線首領、ルワンダ大統領

ペーテル・トムカ（1956） 国際司法裁判所裁判官

1990年10月、ウガンダに拠点を置く反政府ゲリラ組織ルワンダ愛国戦線（RPF）がルワンダを越境攻撃し北部を制圧。その頃カガメは米国レブンワース基地のアメリカ陸軍指揮幕僚大学で軍事訓練を受け、後にRPF最高司令官となる。当時のジュベナール・ハビヤリマナ政権をフランス、ベルギーなどが支援し、戦闘は膠着状態に。長期に渡る和平交渉を経て、1993年に和平が成立。しかし1994年にハビヤリマナ大統領と隣国ブルンジのンタリヤミラ大統領が搭乗する航空機が撃墜され死亡すると、政府軍及びフツ強硬派民兵インテラハムウェによるツチなどへのジェノサイドが発生、推計で約80万人が死亡した。するとカガメ率いるRPFはツチ保護を名目に全土を制圧し、フツのパストゥール・ビジムングを大統領とする新政権を発足。カガメは副大統領兼国防相に就任し、事実上政権を掌握し、軍事的にも同国に強大な影響力を保った。ポール・カガメwikiより



※写真はルワンダ大虐殺の現場。フツ族がツチ族を殺したとされているが、実際にはツチ族のポール・カガメが指揮し、ツチ族を殺戮した。仲間を出来るだけたくさん殺すこと。そうすることでフツ族を悪者扱いできるのだ。大谷が最初にやることは常に敵に汚名を着せることだ。敵に「悪」の汚名を着せるために味方を殺すのだ。

因みに、ツチ族であるポール・カガメは、陰陽道を治める土御門家の子孫である。それを証明するように、カガメの名の由来は陰陽道に関係がある言葉「籠目（かごめ）」である。また、土御門の由来は「ツチの帝王」である。

ルワンダ王キゲリ5世の子



キゲリ5世の14人の内の子

エドゥアール・ギレンテ（1973） ルワンダ首相

クリュニー大主教アイマール一族～キエフ大公国、シトー会、北条時政、聖フランチェスコ会、シチリア王国、イタリア共和国



ガルシア・サンチェス1世（919～970） ヒメネス朝サンチョ1世の子

アイマール（?～965） クリュニー大主教

シャルル・コンスタンティン（?～962） プロヴァンス王ルイ3世の子※画像なし

※クリュニー大主教アイマール一族は、引き続き、レオン、ナバラ、カスティーリャなどイベリア半島を重要な拠点として死守する方向にある。

ヒメノ朝ガルシア・サンチェス1世の子



Ramiro Garcés of Viguera (?~981)

ラミロ3世 (961~985) レオン王

オディーヨ (962~1049) クリュニー大主教※画像なし

グレゴリウス6世 (?~1048) 第148・149代ローマ教皇 在位1045~1046

※オディーヨとグレゴリウス6世は同一人物であった。グレゴリウス6世は教皇職を金で買ったといわれている。彼は教会会議で有罪になり、教皇職を廃位にされた。



サンチヨ・ガルセス2世 (935~994) ナバラ王

サンチヨ1世 (935~966) レオン王

※サンチヨ・ガルセス2世とサンチヨ1世は同一人物である。2人の王を演じ分けることで彼はナバラ王国とレオン王国の両方を支配した。



ガルシア・サンチェス2世 (?~1000) ヒメノ朝サンチョ・ガルセス2世の子

ガルシア・サンチェス2世の子



サンチョ・ガルセス3世 (985~1035) ナバラ王



ガルシア・サンチェス3世 (1016~1054) ナバラ王サンチョ・ガルセス3世の子※画

像なし

ステファヌス10世 (?~1058) ローマ教皇 在位1057~1058

ヤロスラフ1世 (978~1054) キエフ大公

※新興国ロシアに早くも目をつけたクリュニー会は、ガルシア・サンチェス3世を送り込み、邪教信者を駆使してヤロスラフ1世としてキエフ大公の座に就いた。

キエフ大公ヤロスラフ1世の子



スヴャトスラフ2世 (1027~1076) キエフ大公

モレームのロベール (1027~1111) シトー会

※クリュニー会はキエフに気を配りながら、同時にフランスにシトー会を設けた。シトーの由来はサトゥルヌスの一族シッダールタである。



フセヴォロド1世（1030～1093） キエフ大公※画像なし

アンセルムス（1033～1109） カンタベリー大主教※画像なし

アルベリック（?～1109） シトー会

※アンセルムスはアルベリックを演じ、カンタベリー大主教とシトー会の役割を往来しながら演じていた。死んだ年が同じなので同一人物と考えられる。ロシア誕生以前のロシア地域で、クリュニー大主教アイマールの一族が活動開始をはじめたと考えられる。現代のタナトス一族がウクライナにこだわる理由はこの辺にありそうだ。タナトス一族は、1000年前にキエフ大公の座を篡奪していた。



イーゴリ・ヤロスラヴィチ（1036～1060） ヴォルイーニ公※画像なし

アルフォンソ6世（1040～1109） カスティーリャ王

サンチョ2世（1040～1072） カスティーリャ王

フセスラフ・ブリャチスラヴィチ（1044～1101） ポロツク公

※当時のクリュニー会の関心事はスペインを拠点として抑えながら、ロシアとフランスを支配することである。

ポロツク公フセスラフ・ブリャチスラヴィチの子



ログヴォロド・フセスラヴィチ（1054～1128） ポロツク公※画像なし
クレルヴォーのベルナルドゥス（1090～1153） シトー会
エウゲニウス3世（?～1153） 第167代ローマ教皇 在位1145～1153

西欧：「新しい騎士たちを讃えて」を著す（1130）
西欧：第2次十字軍（1147～1149）
北欧：北の十字軍公認、ヴェンデ十字軍公認（1147）

※第2次十字軍はローマ教皇エウゲニウス3世が企画し、聖ベルナルドゥスが勧説したとされているが、実際には、両者は同一人物である。これは興味深いことである。ひとりが大勢の分身を演じることで、タナトスは、多くの人々に支持されているという印象を作り出すのだ。

キエフ大公フセヴォロド1世の子



ロスチスラフ・フセヴォロドヴィチ（1070～1093）※画像なし
ライムンド・デ・ボルゴニャ（1070～1107）
ムスチスラフ1世（1076～1132） キエフ大公※画像なし

※この時代、アイマール一族はキエフ以外にもポロツクなどの拠点をロシアに得ている。ロシアとイベリア半島を自在に往復していたようだ。

ムスチスラフ1世（ライムンド・デ・ボルゴーニャ）の子



スヴァトポルク・ムスチスラヴィチ（?～1154） ノヴゴロド公※画像なし
グレゴリウス8世（1100～1187） 第173代ローマ教皇 在位1187
慈照子元（?～1166） 白蓮教※画像なし
アルフォンソ7世（1105～1157） レオン王・カスティーリャ王

※異母兄弟の庶子を影武者として投入していたグレゴリウス8世は、18歳頃にイングランドに移り、トマス・ベケットとしてカンタベリー大主教の座に就いた。更に、中国に進出し、念仏系の秘密結社「白蓮教」を組織した。その後、イギリスに戻った慈照子元はベケットに戻る。だが、70歳の時にベケットは死んだことにして、イングランドからローマに移り、グレゴリウス8世としてローマ教皇の座に付いたが、1年も持たなかった。



ロスチスラフ1世（1110～1167） キエフ大公※画像なし
 ラモン・バランゲー4世（1113～1162） カタルーニャ君主、バルセロナ伯
 トマス・ベケット（1118～1170） カンタベリー大主教



ウラジーミル・ムスチスラヴィチ（1132～1173） キエフ大公※画像なし
 クレメンス3世（1130～1191） 第174代ローマ教皇 在位1187～1191
 サンチヨ6世（1133～1194） ナバラ王※画像なし
 北条時政（1138～1215）
 フェルナンド2世（1137～1188） レオン王
 モーリス・ド・シュリー（?～1196） ノートルダム寺院建設※画像なし

西欧：クレメンス3世、第3次十字軍（1189～1192）

日本：平家滅亡、壇ノ浦の合戦（1185）

日本：奥州藤原氏滅亡、奥州征伐（1189）

日本：鎌倉幕府成立（1192）

日本：梶原氏滅亡、梶原景時の変（1199）

日本：和田氏滅亡、和田合戦（1213）

※第3次十字軍を指揮したクレメンズ3世は、日本に進出して北条時政となった。彼は、姪の北条政子に指示して源頼朝を操り、最大の懸念勢力であった平家を退け、鎌倉幕府を成立させた。また、時政は自分たちにとって邪魔だと思ふ者、平清盛を皮切りに源義経、奥州藤原氏、和田義盛、比企能員、梶原景時などを一掃した。時政は、タナトスの血を引く家族のみで執権政治を行った。タナトスの政治は、いつの世でも家族経営、同族会社である。更に、時政は朝鮮半島にも気を配り、仏教信者を指揮して高麗の十字軍ともいふべき大規模な暴動を発生させている。

ラモン・バランゲー4世の子



ペドロ (1152~1164) ※画像なし

ロマン・ムスティスラーヴィチ (1150~1205) キエフ大公※画像なし

ヒューバート・ウォルター (?~1205) カンタベリー大主教





アルフォンソ2世（1157～1196） アラゴン王

グレゴリウス9世（1155～1241） 第178代ローマ教皇 在位1227～1241

リチャード1世（1157～1199） イングランド王 在位1189～1199

サンチョ7世（1157～1234） ナバラ王 在位1194～1234

坊門信清（1159～1216） 公卿※画像なし

西欧：グレゴリウス9世、異端審判（1227）

西欧：グレゴリウス9世、第5次十字軍（1228～1229）

※リチャード1世として第3次十字軍に参加したことがあるグレゴリウス9世は、第5次十字軍を組織した。また、グレゴリウス9世は、ベルノが開発したクレモール・ド・ハローを再現し、異端審判として新装開店した。すべては自分たちの勢力伸張と敵の弱体化が目的である。



ドゥース（1160～1198）※画像なし

コスタンツァ（1154～1198） ノルマン朝シチリア女王 在位1194～1198※画像なし

北条政子（1157～1225）

日本：源氏滅亡、北条氏執権政治（1219）

日本：三浦氏滅亡、宝知合戦（1247）

※北条政子の正体はカタルーニャ君主の娘ドゥースであった。北条政子はただの悪女ではなく、タナトスの女であった。親鸞の伯母にあたる北条政子は源頼朝を操り、時政と共に邪魔だと思ふ者、平清盛を皮切りに源義経、奥州藤原氏、和田義盛、比企能員、梶原景時、三浦義村などを一掃した。その後、政子は源頼朝さえも切り捨てた。

北条政子の子



源頼家（1182～1204）

アッシジのフランチェスコ（1181～1226） フランシスコ会初代総長

ピエトロ・カッターニ（1180～1221） 法律家、聖堂参事会員※画像なし

※1204年、頼家は22歳で死んだことにし、イタリアを訪れてフランチェスコに変身してフランチェスコ会を築いた。奇しくも、フランチェスコが布教活動を開始したのは1208年である。当時、日本からイタリアまで4年かかったようだ。フランチェスコ会は、ドミニコ会と共に神の名の下に殺戮と略奪をほしいままにし、白人列強の大航海時代に乗って世界の原住民をキリスト教により支配下に置いた。



三幡（1186～1199）※画像なし

グリエルモ3世（1185～1198） ノルマン朝シチリア王 1194

Thomas of Celano（1185～1265） フランチェスコ会※画像なし

※敵を騙すために女子として生まれた三幡は、母親の北条政子と共にヨーロッパに帰還し、9歳でシチリア王に即位した。しかし、13歳で死んだことにすると、その後はThomas of Celanoに変身して兄フランチェスコを助け、80歳まで生きた。



源実朝（1192～1219）

エジディオ（1190～1262） フランチェスコ会※画像なし

フリードリヒ2世（1194～1250） 神聖ローマ皇帝 在位1220～1250※画像なし

※実朝は27歳で死んだことにし、兄に15年遅れて日本を離れ、イタリアに渡った。実朝はエジディオに変身し、フランチェスコ会を助けた。



坊門信子（1193～1274） 源実朝妻※画像なし
アッシジのキアラ（1194～1253） クララ会教祖

※坊門信子は実朝の妻だが、実朝とはいとこの関係でもある。信子は夫と共にイタリアに渡り、キアラに変身してフランチェスコ会の発展に寄与した。

フリードリヒ2世（源実朝）の子



コンラート4世（1228～1254） 神聖ローマ皇帝 在位1237～1254※画像なし
Bonaventure（1221～1274） フランシスコ会8代総長



フリードリヒ（1239）※画像なし

ペドロ3世（1239～1285） アラゴン王 在位1276～1285

コンラート4世の子



コッラディーノ（1252～1268） ホーエンシュタウフェン朝シチリア王 在位1254～1268

Gonsalvus of Spain（1255～1313） フランシスコ会15代総長※画像なし

ペドロ3世の子



フェデリーコ2世（1272～1337） シチリア王 在位1296～1337
Alexander Bonini（1270～1314） フランシスコ会16代総長※画像なし
Michael of Cesena（1270～1342） フランシスコ会17代総長※画像なし

フェデリーコ2世の子（ペドロ3世の孫）



ピエトロ2世（1305～1342） シチリア王 在位1337～1342
Marcus of Viterbo（1304～1369） フランシスコ会21代総長※画像なし
Thomas of Frignano（1305～1381） フランシスコ会22代総長※画像なし

※フランシスコ会は同族会社である。つまり、この後もシチリアを支配した王族がフランシスコ会総長を代々務めたと考えられる。

アルフォンソの子（両シチリア王フェルディナンド2世の孫）



マリーア・インマコラータ（1874～1947）

ルイージ・エイナウディ（1874～1961） 第2代イタリア大統領



マリーア・クリスティーナ（1877～1947）

エンリコ・デ・ニコラ（1877～1959） 初代イタリア大統領



ラニエーリ・ディ・ボルボーネ＝ドゥエ・シチリエ（1883～1973）

Valentine Theodore Schaaf（1883～1946） 聖フランシスコ会第112代総長※画像なし

両シチリア王フェルディナンド2世の曾孫



ルッジェーロ・マリーア（1901～1914） アルフォンソの孫※画像なし

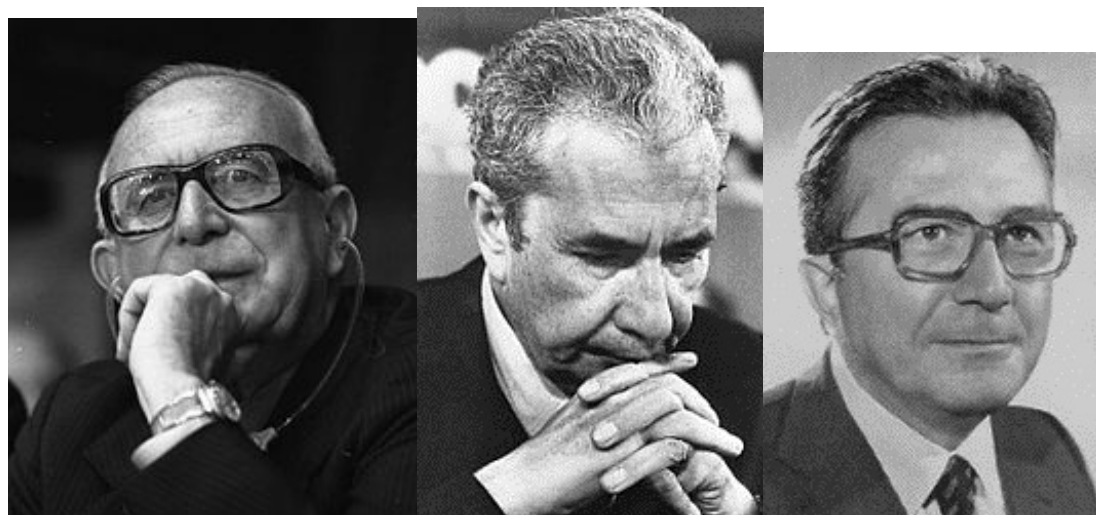
Augustin-Joseph Sépinski（1900～1978） 聖フランシスコ会第114代総長※画像なし

Vittorio Maria Costantini（1906～2003） 聖フランシスコ修道院第113代総長※画像なし

マリオ・シェルバ（1901～1991） 第33代イタリア首相

ジュゼッペ・ペッラ（1902～1981） 第31代イタリア首相

ジュゼッペ・サーラガト（1898～1988） 第5代イタリア大統領



フランチェスコ（1913～1939） エリア・ディ・ボルボーネ＝パルマの子※画像なし

マリアーノ・ルモール（1915～1990） 第23、24、25、29、30代イタリア首相

アルド・モーロ（1916～1978） 第19、20、21、31、32代イタリア首相

ジュリオ・アンドレオッティ（1919～2013） 第27、28、33、34、35代イタリア首相

※迷宮入りした連続殺人事件「フィレンツェの怪物事件」は1968年～1985年の間に起きた。ちょうど上記の3人の首相と下記のフォルラーニ、コッシガが首相を務めていた時期である。クリュニー大主教アイマールの一族に属するこの5人が積極的に事件に関与していたと考えられる。タナトスの一族は、性質として公職に就いた時ほど趣味（殺人）に勤しむ傾向があるのだ。



フリードリヒ・ヴィルヘルム・フォン・ホーエンツォレルン＝ジグマリンゲン（1924～2010） ルイジの孫

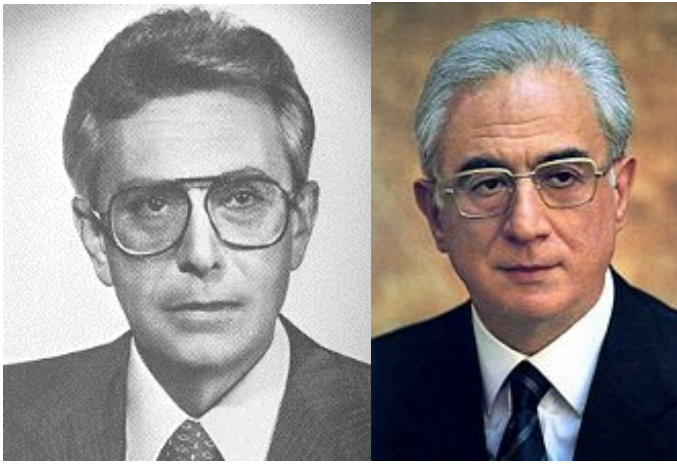
John Vaughn（1928～2016） 聖フランシスコ会第116代総長※画像なし

Antonio Vitale Bommarco（1923～2004） 聖フランシスコ修道院第115代総長

ジョヴァンニ・スパドリーニ（1925～1994） 第44代イタリア首相

ジョルジョ・ナポリターノ（1925） 第11代イタリア大統領

※ジョヴァンニとジョルジョは顔が良く似ている。同一人物としか思えない。誰も気付かないものだろうか？さすがに、本体はフランチェスコ修道院総長アントニオに良く似ている。同一人物だろう。



フランツ・ヨーゼフ・フーベルトゥス・マリア・マインラート・ミヒャエル（1926～1996） ルイジ曾孫※画像無し

アルナルド・フォルラーニ（1925） 第43代イタリア首相

フランチェスコ・コッシガ（1928～2010） 第8代イタリア大統領

※アルナルドとフランチェスコは顔が良く似ている。同一人物としか思えない。誰も気付かないものだろうか？

ヨハン・ゲオルク・フォン・ホーエンツォレルン＝ジグマリンゲン（1932～2016） ルイジの曾孫

Flavio Roberto Carraro（1932） カプチン会修道士第70代総長



カルロス・デ・ボルボン＝ドス・シシリアス（1938～2015） アルフォンソの曾孫※画像なし

Giacomo Bini（1938～2014） 聖フランシスコ会第118代総長

マリーア・クリスティーナ・ディ・ボルボーネの子（アルフォンソの孫）



Archduke Leopold Franz of Austria (1942) ※画像なし

Gianfranco Gardin (1944) 聖フランシスコ修道院第117代総長※画像なし

Joachim Giermek (1943) 聖フランシスコ修道院第118代総長※画像なし

John Corriveau (1941) カプチン会修道士第71代総長※画像なし

セルジョ・マッタレッタ (1941) 第12代イタリア大統領

Archduke Johann of Austria, Prince of Tuscany (1946)

Mauro Jöhri (1947) カプチン会修道士第72代総長

フリードリヒ・ヴィルヘルム・フォン・ホーエンツォレルン＝ジグマリンゲンの子



Prince Karl Friedrich of Hohenzollern (1952)

José Rodríguez Carballo (1953) 聖フランシスコ会第119代総長

パオロ・ジェンティローニ (1954) 第57代イタリア首相

※ホセとパオロは顔がよく似ている。そっくりだ。同一人物で間違いないだろう。



Prince Albrecht of Hohenzollern (1954) ※画像なし

マイケル・A・ペリー (1954) 聖フランシスコ会第120代総長 任期2013～

Marco Tasca (1957) 聖フランシスコ修道院第119代総長



Prince Ferdinand of Hohenzollern (1960) ※画像なし

Carlos Alberto Trovarelli (1962) 聖フランシスコ修道院第120代総長※画像なし

ジュゼッペ・コンテ (1964) 第58代イタリア首相

王安石の一族～南宋皇帝、ホラズム朝、デリー・スルターン朝、バルバロス・ハイレ
ッディン、曹洞宗、今川国氏、永平寺、総持寺、イエメン王国、ユニオン・コルス、ホ
リエモン、アブー・バクル・アル＝バグダディ

- ・トルテュンチュ・アルスラン・ビルゲ・テングリ・イリグ・シュンギュリュグ (?～?) 天
山ウイグル王国第3代カガン 在位983頃 (大宛のドルイド司祭)
- ・ボギユ・ビルゲ・テングリ・イリグ (?～?) 天山ウイグル王国カガン 在位996頃
- ・キュン・アイ・テングリテグ・キュセンチグ・コルトウレ・ヤルク・テングリ・ポギユ・テン
グリ・ケニミズ (?～?) 天山ウイグル王国カガン 在位1007～?
- ・キュン・アイ・テングリデ・クトゥ・ポルミシュ・ウルグ・クトゥ・オルナンミシュ・アル
ピン・エルデミン・イル・トゥトゥミ・シュ・アルプ・アルスラン・クトウルグ・キョル・ビ
ルゲ・テングリ (?～?) 天山ウイグル王国カガン 在位?～1019
- ・キュン・アイ・テングリレルテ・クトゥ・ポルミシュ・プヤン・オルナンミシュ・アルピン・
エルデミン・イル・トゥトゥミシュ・ウ・チュンチ・アルスラン・ビルゲ (?～?) 天山ウイ
グル王国カガン 在位?
- ・テングリ・ポギユ・イル・ビルゲ・アルスラン・テングリ・ウイグル・テルケニミズ (?～?
) 天山ウイグル王国カガン 在位?～1067

※天山ウイグルを離れ、フランスでクリュニー会を築いたベルノの代わりに、大宛のドルイド司
祭が天山ウイグル王国第3代カガンが天山ウイグルを引き継いだ。基本的にウイグルの王はみな
大宛のドルイド司祭であり神官を兼任していた。



- ゴンサロ (1020～1043) ヒメノ朝サンチヨ3世の子※画像なし
- ヒュー (1024～1109) クリュニー大主教※画像なし
- 王安石 (1021～1086) 新法
- アヌーシュ・テギーン (?～?) ホラズム・シャー朝初代君主 在位1077～1097※画
像なし



サンチョ5世ラミレス（1042～1094） ヒメノ朝ラミロ1世の子

蔡京（1047～1126） 新法

ウルバヌス2世（1035～1099） 第159代ローマ教皇 在位1088～1099

アルフォンソ6世（1040～1109） ヒメノ朝カスティーリャ王

クトゥブッディーン・ムハンマド（?～?） ホラズム・シャー君主 在位1097～1127

※画像なし

サンチョ・ガルセス（1038～1083） ラミロ・サンチェス父※画像なし

※ヒューはノルマン人のイングランド侵攻に同行し、ノルマン朝が成立するとイングランド・カトリックを掌握し、同時に蔡京がウルバヌス2世として初の十字軍を編んだ。十字軍は、聖なる移住（ウェルサクレム）を踏襲した、一向一揆の前身である。

タナトスは何かを破壊したいとき、必ず「何かを守りたい」と発言していることが分かる。十字軍では「キリスト教の信仰を守りたい」「キリスト教の聖地を守りたい」と述べている。その実

、本当の目的は略奪と破壊であったことは多くの人が知るところだ。十字軍は工夫したもので、上記で述べたとおり、タナトスは善行を掲げている。これにより、邪魔者を公的に排除することができるのだ。更に、タナトスは「十字軍」という名前にも気を配っている。十字軍命名のポイント。それは「悪党に見えない」ことだ。



ラミロ・サンチェス（1070～1129） サンチョ・ガルセスの子※画像なし

ホノリウス2世（1060～1130） 第163代ローマ教皇 在位1124～1130

ステファン・ハーディング（1060～1134） シトー会※画像なし

ペドロ1世（1068～1104） アラゴン王、ナバラ王

西欧：ホノリウス2世、テンプル騎士団認可（1128）

※テンプル騎士団は、シトー会に援助され、ホノリウス2世が承認したが、シトー会のステファン・ハーディングとホノリウス2世は同一人物である。生年が同じで、死んだ年が4年違いなのは偶然ではないだろう。ハーディングはホノリウス2世が1130年に死んだことにすると、ハーディングに戻って4年の余生を生きた。ひとりが大勢の分身を演じることで、タナトスは、多くの人々に支持されているという印象を作り出すのだ。

ペドロ1世はローマ教皇ホノリウス2世に変身していたが騒乱が発生し、教皇としてタナトスの一族を優遇する法律を制定することはできなかった。テンプル騎士団を承認したくらいである。



ガルシア6世 (1112~1150) ラミロ・サンチェスの子※画像なし
アトズ (?~?) ホラズム・シャー君主 在位1127~1156※画像なし
グレゴリウス8世 (1110~1187) 第173代ローマ教皇 在位1187

※アルフォンソ7世はローマ教皇グレゴリウス8世を演じていたが、その時には十字軍の遠征を説いた。しかし、その願いも空しくあっさりと死んでいる。この背後には、民衆十字軍を指揮したいカペー朝フランス王フィリップ1世の一族の人間が関与していると考えられる。つまり暗殺であるが、一方ではタナトスの一族同士の抗争である。

ガルシア6世の子



サンチヨ6世 (1133~1194) ナバラ王※画像なし
クレメンス3世 (1130~1191) 第174代ローマ教皇 在位1187~1191

ブランシュ（1133～） サンチヨ3世と結婚※画像なし

サンチヨ3世（1134～1158） ブルゴーニュ朝カスティーリャ王

フェルナンド2世（1137～1188） ヒメネス朝レオン王

※サンチヨ6世はローマ教皇クレメンズ3世を演じているが、その時には十字軍の創設を考えていたがグレゴリウス8世と同じようにあっさりとして死去した。この時も背後には、民衆十字軍を指揮したいカペー朝フランス王フィリップ1世の一族の人間が関与していると考えられる。つまり暗殺であるが、一方ではタナトスの一族同士の抗争である。

ガルシア6世の娘であるブランシュは、実際には、跡継ぎを守るために女子として育てられた男子であるが、ブランシュは自分が影武者として務めていたサンチヨ3世と結婚することで、難なくサンチヨ3世として生きることができた。サンチヨ3世の子は、当然、ブランシュではなく他の女の子である。

カスティーリャ王サンチヨ3世の子



アルフォンソ8世（1155～1214） ブルゴーニュ朝カスティーリャ王

イル・アルスラン (?~?) ホラズム・シャー君主 在位1156~1172

グレゴリウス9世 (1155~1241) 第178代ローマ教皇 在位1227~1241

リチャード1世 (1157~1199) イングランド王 在位1189~1199

アルフォンソ2世 (1157~1196) バルセロナ朝アラゴン王

西欧：グレゴリウス9世、異端審判 (1227)

西欧：グレゴリウス9世、第5次十字軍 (1228~1229)

※リチャード1世として第3次十字軍に参加したことがあるグレゴリウス9世は、第5次十字軍を組織した。また、グレゴリウス9世は、ベルノが開発したクレモール・ド・ハローを再現し、異端審判として新装開店した。すべては自分たちの勢力伸張と敵の弱体化が目的である。

※アルフォンソ8世は、アラゴン王アルフォンソ2世とローマ教皇グレゴリウス9世と前任者インノケンティウス3世を演じた。インノケンティウス3世の時には、アルビジョワ十字軍を指揮し、カタリ派に対して残虐な虐殺を行った。間が空いて、グレゴリウス9世の時には、異端に対する法律を強化し、ドミニコ会士に異端審問官の職務をゆだねた。悪にとって住みやすい環境を設けるため、ヨーロッパ中の善人を殺すという算段をつけたのだ。異端審問のポイントは、現実的にどれだけ善人を殺したとしても、法律上に於いては善人ではなく悪を成敗している。そのため殺人を咎められたり、批判されたりすることがない。

アルフォンソ8世の子



ベレンゲラ (1180~1246) ブルゴーニュ朝カスティーリャ女王※画像なし

フェルナンド3世 (1201~1252) ブルゴーニュ朝カスティーリャ王

ジャラルッディーン・スルターン・シャー (?~?) ホラズム・シャー君主 在位1172~1193※画像なし

アラウッディーン・テキシュ (?~?) ホラズム・シャー君主 在位1172~1200※画像なし

アブー・ザカリーヤ1世 (?~1249) ハフス朝初代アミール※画像なし



エンリケ1世（1204～1217） ブルゴーニュ朝カスティーリャ王

ジャラルッディーン・メングベルディー（?～?） ホラズム・シャー君主 在位1220～1231※画像なし

理宗（1205～1264） 南宋5代皇帝 在位1224～1264

ハドリアヌス5世（1205～1276） 第186代ローマ教皇 在位1276

アブー＝アブドゥッラー・ムハンマド・アル＝ムスタンスィル（?～1277） ハフス朝第2代アミール※画像なし

※天山ウイグルを出撃した大宛のドルイド司祭は中国に侵入し、王安石を称した。王安石は「新法」と呼ばれる悪法を敷き、仲間を有利な状況に置き、敵を不利な状況に置いた。実際には悪法であるが、「新法」と呼ぶことで新法を批判するものを悪者呼ばわりし、公的に排除した。昔で言えば田沼意次、現在でいえば安倍政権やディープステートなどの手口と同じである。

新法を巡り、司馬氏などの正しい中国人たちが立ち上がり新法を廃している。しかし、しつこいタナトスが必死に抵抗することで「新法・旧法の争い」がおきた。王安石は、更にホラズム・シャー朝を開いた。王安石は法律を司ることで中国を支配し、一方で初代王アヌーシュ・デギーンを称してコラサン～イラン・イラクを掌握した。

ベレンゲラはフェルナンド3世をエンリケ1世として即位させ、13歳で死んだことにすると次に自分が即位し、その後にフェルナンド3世を即位させるという技を使った。

蔡京の子



蔡攸（1077～1126） 蔡京の子※画像なし

哲宗（1077～1100） 北宋皇帝 在位1085～1100



徽宗（1082～1135） 北宋皇帝 在位1100～1126



欽宗（1100～1161） 北宋皇帝 在位1126～1127

※蔡京の子である蔡攸は、哲宗として南宋皇帝に即位した。生年が同じであることから2人は同一人物と考えてよい。蔡攸は、哲宗を23歳で死んだことにし、その後の26年を蔡攸として50歳まで生きた。蔡攸は宰相として南宋初代皇帝の高宗に仕えたが、蔡攸が実質的に南宋を支配していた。



高宗（1107～1187） 南宋初代皇帝 在位1127～1162



孝宗（1127～1194） 南宋2代皇帝 在位1162～1189

アルフォンソ10世（1221～1284） ブルゴーニュ朝カスティーリャ王

インノケンティウス5世（1224～1276） ドミニコ会初、第185代ローマ教皇 在位
1276

アフマド・イブン・マルズーク（？～1284） ハフス朝第6代アミール 在位1283～1
284※画像なし



サンチョ4世（1258～1295）　ブルゴーニュ朝アルフォンソ10世の子※画像なし
クレメンス5世（1260～1314）　第195代ローマ教皇　在位1303～1314
ウマル1世（?～1295）　ハフス朝第7代アミール　在位1284～1295※画像なし



フェルナンド4世（1285～1312）　ブルゴーニュ朝カスティーリャ王サンチョ4世の子
ベネディクトゥス12世（1285～1342）　第197代ローマ教皇　在位1334～1342
ハーリド1世アル・ナーシル（?～1311）　ハフス朝第10代アミール　在位1309～1311※画像なし

※フェルナンド4世が変身したベネディクトゥス12世は、聖職者たちの悪しき習慣を断つことを始めたが、安倍政権を見ても分かるように、実際には、タナトスの一族は敵を黙らせるために敵が欲することを約束する。ベネディクトゥス12世はいう悪しき習慣を断つ法律に、罰則がなければ何の効果はない。つまり、聖職者たちは以前のように悪しき習慣を続けたのは間違いない。例え罰則があったとしても、ローマ教皇がタナトスの一族である場合はすぐに無効になった。



光宗（1147～1200） 南宋3代皇帝 在位1189～1194



寧宗（1168～1224） 南宋4代皇帝 在位1194～1224

アラウッディーン・ムハンマド（?～?） ホラズム・シャー君主 在位1200～1220

※画像なし

クトゥブッディーン・アイバク（?～?） デリー・スルターン朝初代君主 在位1206～1210
※画像なし



ジャラルッディーン・メングベルディー（?～?） ホラズム・シャー君主 在位1220～1231
※画像なし

理宗（1205～1264） 南宋5代皇帝 在位1224～1264



度宗（1240～1274） 南宋6代皇帝 在位1264～1274

今川国氏（1243～1282） 今川家初代当主※画像なし

※今川氏の祖、今川国氏の正体は南宋の皇帝だった。「今川氏」の誕生である。今川の名の由来は澳門の古名アマカオである。アマカオ=アマガオ=今川となる。



恭帝（1271～1323） 南宋7代皇帝 在位1274～1276

衛王（1271～1279） 南宋9代皇帝 在位1278～1279

今川基氏（1259～1323） 今川家当主※画像なし



端宗（1269～1278） 南宋8代皇帝 在位1276～1278

榮山紹瑾（1268～1325） 総持寺祖院初代門主※画像なし

※南宋はウイグル人の系統が支配していたが、4代皇帝のとき、寧宗がアラーウッディーン・ムハンマドとして南宋と同時にホラズム・シャー朝を統治した。その後、アラーウッディーン・ムハンマドはじきじきにインドに進出し、初代王クトゥブッディーン・アイバクとして奴隷王朝（デリー・スルタン朝）を築いた。また、モンゴル軍によってホラズム・シャー朝が滅ぶと、マスカットに避難していた最後の王ジャラルッディーン・メングベルディーは中国に逃亡し、理宗として南宋5代皇帝の座に就いている。

6代皇帝の度宗は、武将として知られる「今川氏」を生むことになる。度宗は死んだことにして正体を隠し、恭帝（衛王）、端宗をサポートした。1276年、5歳の皇帝恭帝はモンゴル軍に降伏すると、2年後に度宗の導きにより衛王として7歳で9代皇帝の座についている。しかし、1279年の「崖山の戦い」で南宋軍が敗北すると、観念した度宗と思しき陸秀夫は、幼帝を抱いて入水したという。だが、実際には度宗と衛王は死んだことにして日本に逃れた。

日本に上陸した度宗は今川国氏を称し、衛王は今川基氏を称した。南宋が滅亡した「崖山の戦い」の崖山とは澳門のことである。また、死んだことにして潜伏していた8代皇帝端宗（10歳）も度宗らと共に日本に逃れて榮山紹瑾を名乗り、総持寺祖院初代門主となった。



寧宗（1168～1224） 南宋4代皇帝 在位1194～1224

アラーウッディーン・ムハンマド（?～?） ホラズム・シャー君主 在位1200～1220

※画像なし

クトゥブッディーン・アイバク（?～?） デリー・スルターン朝初代君主 在位1206～1210※画像なし

ムイズッディーン・バフラーム・シャー（?～?） デリー・スルターン朝君主 在位1240～1242

バルチュク・アルト・テギン（?～?） ウイグル王 在位1229～1241

アラール・ウッディーン・マスウッド・シャー (?~?) デリー・スルターン朝君主 在位 1242~1246

ケスメズ (?~?) ウイグル王 在位 1241~1246



サランディ・テギン (?~?) ウイグル王 在位 1246~1253 ※画像なし

ナーシルッディーン・マフムード・シャー デリー・スルターン朝君主 在位 1246~1266 ※画像なし

道元 (1200~1253) 曹洞宗開祖 永平寺初代貫首

狐雲懷奘 (1198~1280) 永平寺第2世貫首

ホスハル・テギン (?~?) ウイグル王 在位 1265~1280

ギヤースッディーン・バルバン (?~?) デリー・スルターン朝君主 在位 1266~1287

徹通義介 (1219~1309) 永平寺第3世貫首

ムイズッディーン・カイクバード (?~?) デリー・スルターン朝君主 在位 1287~1290

シャムスッディーン・カユーマルス (?~?) デリー・スルターン朝君主 在位 1290

義演 (?~1314) 永平寺第4世貫首

ネグリル・テギン (?~?) ウイグル王 在位 1280~1318

クトゥブッディーン・ムバーラク・シャー (?~1320) ハルジー朝第5代王 在位 1316~1320



義雲 (?~1333) 永平寺第5世貫首※画像なし

ギヤースッディーン・トゥグルク (?~1325) トゥグルク朝初代王 在位1320~1325※画像なし

アルフォンソ11世 (1311~1350) ブルゴーニュ朝カスティーリャ王フェルナンド4世の子※画像なし

ウマル2世 (?~1350) ハフス朝第15代アミール 在位1349~1350※画像なし

ウルバヌス5世 (1310~1370) 第200代ローマ教皇 在位1362~1370



以一 (?~1388) 永平寺第7世貫首※画像なし

オルク・テムル (?~?) ウイグル王 在位?~?※画像なし

バイラム・ホジャ (?~1380) 黒羊朝初代君主※画像なし

ペドロ1世 (1334~1369) ブルゴーニュ朝カスティーリャ王アルフォンソ11世の子
※トラスタマラ家と習合

イブラーヒーム2世アル・ムスタシル (?~1369) ハフス朝第17代アミール 在位1350~1369※画像なし

インノケンティウス7世 (1336~1406) 第204代ローマ教皇 在位1404~1406

※ペドロ1世がインノケンティウス7世を演じていた時、ローマ市民に面と向かって罵倒されるという事態にあった。そのため、教皇は甥に指示してローマ代表団の指導者11人を殺害し、死体を通りに討ち捨てた。インノケンティウス側はこれで市民は黙るだろうとタカをくくっていたが、暴徒と化した市民にヴァチカンを襲撃され、逃げ出したという。こういう善人の怒りを許

せないタナトスの一族は、徹底的に魔女狩りで善人をヨーロッパから一掃することを改めて心に誓ったことだろう。

梅山間本 (?~1417) 総持寺独住11世貫首

エセン・ブカ (?~?) ウイグル王 在位?~?

ダウラト・ハーン・ローディー (?~1414) トウグルク朝第9代王 在位1413~1414

ヒズル・ハーン (?~1421) サイド朝初代王 在位1414~1421

※基本的にウイグルの王はみな大宛のドルイド司祭であり神官を兼任していた。霸王チンギスの登場により、ウイグル王サランディ・テギンが故地を離れて日本に逃亡した。テギンは道元として曹洞宗の改組となった。道元の名の由来はテギンである。テギン=テーギン=道元となる。次いで、ウイグル王ホスハル・テギンが日本に逃亡し、狐雲懐奘として道元と後を継いでいる。最後のウイグル王エセン・ブカは、オイラト、タタールと明との戦争に巻き込まれたため、日本に逃亡し、梅山間本として総持寺11世貫首の座に就いている。

永智 (?~1440) 永平寺第10世貫首

カラ・ユルク・オスマン (1356~1440) 白羊朝初代君主

ムハンマド・シャー (?~1445) サイド朝第3代王 在位1434~1445

建綱 (?~1469) 永平寺第13世貫首

ハサン・アリー (?~1469) 黒羊朝第6代君主

アブル=ハイル・ハン (1412~1468) シャイバーニー朝初代君主



建撕 (1415~1474) 永平寺第14世貫首※画像無し

ウズン・ハサン (1423~1478) 白羊朝第4代君主

ジャニベク・ハン（1428～1480） カザフ・ハン国初代君主※画像無し

バフルール・ローディー（?～1489） ローディー朝初代君主 在位1451～1489※
画像無し

光周（?～1493） 永平寺第15世貫首

メフメト・ミルザ（?～1500） 白羊朝第12代君主

ザカリーヤ2世（?～1494） ハフス朝第24代アミール 在位1490～1494

ヤークープ・アーガー（生没年不詳） オルチ、ハイレディンの父



宗縁（?～1522） 永平寺第16世貫首※画像無し

イブラーヒーム・ローディー（?～1526） ローディー朝第代君主 在位1517～1526

ムハンマド5世アル・ムタワッキル（?～1526） ハフス朝第25代アミール 在位1494～1526※画像無し

バルバロス・オルチ（1474～1518） 初代アルジェパシャ 任期1517～1518



以貫（?～1540） 永平寺第17世貫首※画像なし

シェール・シャー (?～1545) スール朝初代王 在位1539～1545

ハサン・ムハンマド6世 (?～1543) ハフス朝第26代アミール 在位1526～1543※画像無し

バルバロス・ハイレッディン (1475～1546) 海賊首領

ンタレ1世 (?～1550) 初代ブルンジ王 在位1530～1550※画像無し

※海賊として有名なバルバロスは、アフリカ湖水地方に赴き、ブルンジ王国の初代王となった。そして、ブルンジ王家は、バーレーン王国の王族となった。つまり、イスラム圏にはバーレーン、クウェート、カタール、モロッコ、ヨルダンなどのタナトスの王族が治める国があり、チュニジア、アルジェリアなどは彼らの植民地だと考えることが出来る。

祚棟 (?～1560) 永平寺第18世貫首※画像なし

イブラヒム・シャー (?～1555) スール朝第5代王 在位1555

シカンドル・シャー (?～1555) スール朝第6代王 在位1555

祚玖 (?～1610) 永平寺第19世貫首

ピール・ムハンマド2世 (?～1599) シャイバーニー朝最後の君主

緑巖巖柳 (?～1716) 永平寺第38世貫首

シャルフ・ビー (1680～1722) コーカンド・ハン初代君主

ンタレ3世 (?～1750) 第9代ブルンジ王 在位1720～1750

イブラヒム・ベン・ラムダン (?～1745) アルジェパシャ 任期1732～1745

アル・フセイン1世 (1669～1740) フサイン朝チュニジア君侯国初代ベイ

博容卍海 (?～1821) 永平寺第54世貫首

ウマル・ハン (1787～1822) コーカンド・ハン第9代君主

ムワンブツァ3世 (?～1796) 第12代ブルンジ王 在位1767～1796

Ahmed ibn Muhammad ibn Khalifa (?～1796) バーレーン初代王 在位1783～1796

※曹洞宗の永平寺、総持寺の歴代貫主たちは、ウイグルを死守せんと、黒羊朝、白羊朝、シャイバーニー朝、カザフ・ハン国、コーカンド・ハン国を次々に築いた。



シタレ4世 (?~1850) 第13代ブルンジ王 在位1830~1850※画像無し

アフメド・ベイ (1805~1855) アルジェパシャ 任期1837~?※画像無し

アブド・アルカーディル (1808~1883) スーフィー教団指導者

Mohammed Khaznadar (1810~1889) 第7代チュニス君候国大法官※画像無し



杉本道山 (1847~1929) 總持寺独住6世貫首※画像無し

ナーシルッディーン (1850~1893) コーカンド・ハン第18代君主

袁大化 (1851~1935) 初代新疆都督※画像無し

Isa ibn Ali Al Khalifa (1848~1932) バーレーン国王

Mustapha Ben Ismaïl (1850~1887) 第8代チュニス君侯国大法官



ムウェジ4世 (?~1908) 第14代ブルンジ王 在位1850~1908※画像無し

ムハンマド3世サドク・ベイ (1813~1882) フサイン朝チュニジア君侯国第12代ベイ

アリ3世 (1817~1902) フサイン朝チュニジア君侯国第13代ベイ※画像無し

ハイルディーン・パシャ (1820~1890) チュニジア太守・宰相

Mustapha Khaznadar (1817~1878) 第5代チュニス君侯国大法官※画像無し



鈴木天山 (1863~1941) 永平寺第69世貫首・總持寺独住10世貫首※画像無し

楊增新 (1864~1928) 新疆省連合政權初代主席



大森禅戒（1871～1947） 曹洞宗管長・永平寺第70世貫首・總持寺独住11世貫首※
画像無し

ヤハヤー・ムハンマド・ハミードウッディーン（1869～1948） イエメン王国初代君主

Hamad ibn Isa Al Khalifa（1872～1942） バーレーン国王

Hédi Lakhoua（1872～1949） 第3代チュニス君候国首相※画像なし

※永平寺第70世貫首は影武者を徴用してバーレーン、チュニジアを支配しながらイエメン王国
を築いた。



高階瓏仙（1876～1968） 永平寺第71世貫首※画像無し

孤峰智璨（1879～1967） 總持寺独住18世貫首※画像無し

金樹仁（1879～1941） 新疆省連合政權第2代主席



山田霊林（1889～1980） 永平寺第75世貫首※画像無し

マスード・サブリ（1886～1951） 新疆省連合政権第2代主席



佐藤泰舜（1890～1975） 永平寺第74世貫首※画像無し

岩本勝俊（1891～1979） 總持寺独住19世貫首※画像無し

張治中（1890～1969） 新疆省連合政権初代主席

アフマド・ビン＝ヤフヤ・ハミードウッディーン（1891～1962） イエメン王国第2代君主



秦慧玉（1896～1985） 永平寺第76世貫首※画像無し

盛世才（1892～1970） 新疆省連合政権第3代主席

Salman bin Hamad Al Khalifa I（1894～1961） バーレーン国王

ムタガ4世（1892～1915） 第24代ブルンジ王 在位1908～1915※画像無し

ムハンマド・サラーフ・ムザイリ（1896～1984） 第7代チュニス君候国首相

ハビブ・ブルギーバ（1903～2000） 初代チュニジア大統領

Paul Carbone（1894～1943） ユニオン・コルス首領

※永平寺第76世貫首は影武者を徴用して新疆ウイグル、バーレーン、ブルンジ、チュニジアを支配し、コルシカ島のマフィアとして知られている「ユニオン・コルス」を結成してフランスにも侵入し、足場を築こうとしている。フランスで移民を所望しているのはユニオン・コルスの人々だと考えられる。目的は勢力伸張である。



大道晃仙（1917～2011） 總持寺独住24世貫首※画像無し

アフメトジャン・カシミ（1914～1949） 第2次東トルキスタン共和国第2代主席

ムワンプツァ4世（1912～1977） 第25代ブルンジ王 在位1915～1966

チェドリー・ベイ（1910～2004） チュニスベイ※画像無し

ヘディ・ヌイラ（1911～1993） 第2代チュニジア共和国首相

ベヒ・ラドガム（1913～1998） 初代チュニジア共和国首相

ムハメド・ベイ（1914～1999） チュニスベイ※画像無し

アーメド・ベン・ベッラ（1916～2012） 初代アルジェリア大統領

Paul Mondoloni（1916～1985） ユニオン・コルス首領※画像無し

Lucien Conein（1919～1998） ユニオン・コルス首領※画像無し

Marcel Francisci（1920～1982） ユニオン・コルス首領※画像無し



福山諦法（1932） 永平寺第79世貫首※画像無し

板橋興宗（1927） 總持寺独住22世貫首※画像無し

江川辰三（1928） 總持寺独住25世貫首

ムハンマド・アル=バドル（1926～1996） イエメン王国第3代君主

Isa bin Salman Al Khalifa（1931～1999） バーレーン国王

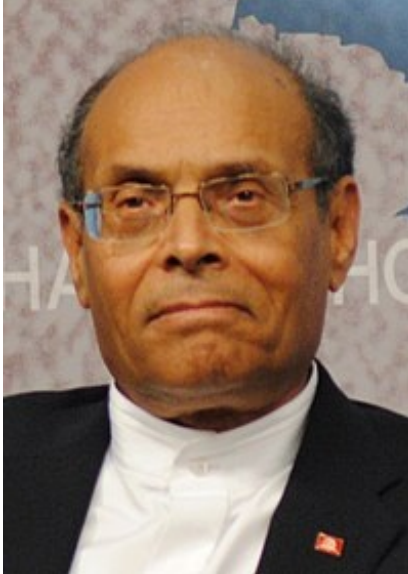
ラシード・スファール（1933） 第4代チュニジア共和国首相※画像無し

ヘディ・バクーシュ（1930） 第6代チュニジア共和国首相※画像無し

ハーミド・カルイ（1927） 第7代チュニジア共和国首相※画像無し

Lucien Sarti（1931～1972） ユニオン・コルス首領※画像無し

イエメン王アフマド・ビン=ヤフヤ・ハミードウッディーンの子



Al-Abbas bin Ahmad (193?) ※画像なし

アブドル・マジード・アル=ジンダニ (1942) イエメン・イスラム法学者、ムスリム同胞団

ンタレ5世 (1947~1972) 第26代ブルンジ王 在位1966 ※画像無し

モハメッド・ガンヌーシ (1941) 第8代チュニジア共和国首相

モンセフ・マルズーキ (1945) チュニジア第3代大統領

※ンタレ5世の代でブルンジ王の系譜は途絶えるが、代わりにバーレーン王、チュニジア首相の系譜に引き継がれた。顔を見ると、マルズーキはアフリカ系の印象があるが、じつは彼が死んだはずのブルンジ最後の王ンタレ5世なのではないかと考えられる。ガンヌーシは影武者として生まれたのだろう。



※ウソをつくための権威。数万の信者を自由自在に操ることが出来る。イエメンのラジコンマスター。写真はイエメン内戦の犠牲者



ハマド・ビン・イーサ・アール・ハリーフア（1950） バーレーン国王
ハンマーディー・ジバーリー（1949） 第10代チュニジア共和国首相
ハビーブ・シード（1949） 第13代チュニジア共和国首相

※ベン・アリー大統領はタナトスの一族ではなく、部外者だったため、ベン・アリー大統領を追放するために、バーレーンの王族がジャスミン革命を指揮したと考えられる。そのときの首相だったガンヌーシ首相も、もちろん革命側だった。

イエメン王ムハンマド・アル=バドルの子



Ageel bin Muhammad al-Badr (1973) ※画像無し

ウーアルカイシ (1968) 六四天安門事件学生指導者

伊藤穰一 (1966) モジラ・ファウンデーション理事、MITメディアラボ所長

王丹 (1969) 天安門事件

郭文貴 (1970) 亡命実業家

サルマーン (1969) ハマド・ビン・イーサ・アール・ハリーファの子

メヘディ・ジョマア (1962) 第12代チュニジア共和国首相

※愚かなことに郭文貴はアメリカ政府に中国政府打倒を求めた。自分の力ではどうしようもないから他力本願。さすが他力本願寺の一族だ。どちらにしてもトランプ大統領と習国家主席は中が悪い芝居をしているだけなので関係ない。いや、本当にアメリカ軍が中国に侵攻することもあり

うる。ただ、その場合は郭文貴などの反中国政府勢力のタマが狙いとなるがw



Abdullah bin Muhammad al-Badr (197?) ※画像なし

アブー・バクル・アル・バグダディ (1971~2019) イスラム国首領

堀江隆文 (1972) ライブドア創設

アブドゥッラー (1976) ハマド・ビン・イーサ・アール・ハリーファの子※画像無し

ユーセフ・シャヘド (1975) 第14代チュニジア共和国首相

※バグダディはイエメン王子の影武者として生まれたが、「イスラム国」を築いた。ハフス朝、ホラズム・シャー朝、デリー・スルターン朝、ハルジー朝、トゥグルク朝、黒羊朝、サイイド朝、白羊朝、シャイバーニー朝、カザフ・ハン国、ローディー朝、スール朝、コーカンド・ハン国、フサイン朝などのイスラム系国家を築いてきた血筋として「イスラム国」を欲したのだろう。フランスではユニオン・コルスがイスラム国の手先となった。

ホリエモンはバグダディの影武者として生まれたが、1996年の「南京リッパー事件」と「世田谷一家殺害事件」に関わっているようだ。これらの惨殺はタナトス伝統の大人になるための儀式であるが、タナトスによっては、後に趣味に高じる場合もあるようだ。ホリエモンの元パートナー有馬あきこ（ライブドア前身オン・ジ・エッジ共同設立、資本金600万円は有馬父が出資）も35歳で死に、ライブドア元社長野口英昭も38歳で死んでいる。産油国バーレーンだけでなく、ホリエモンもバグダディの影武者としてイスラム国に対して巨額の資金援助をしてい

ただらう。



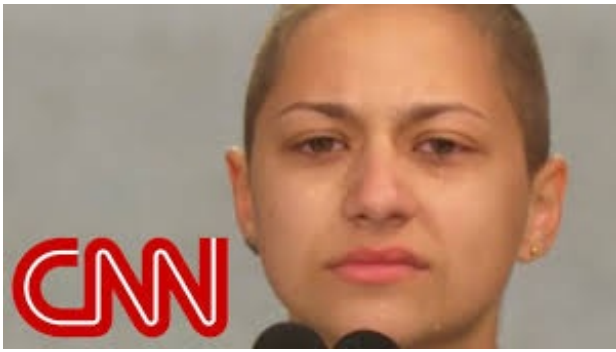
2011年5月、ビン・ラーディンが殺害されると声明を発表し、報復を宣言。5月5日には2011年ヒッラ爆弾テロ事件を引き起こし、死者24人、負傷者72人を出し、8月15日には自爆テロで70人殺害した。その後、バグダーディーはウェブサイト上で「今後100の都市でテロを実行する」と表明。これを受け、アメリカ合衆国国務省は10月4日、バグダーディーの拘束に繋がる有益な情報に対して1,000万ドル（約10億円）の報奨金を支払うと発表した。アメリカ軍のイラク撤退後にバグダードにて爆弾テロ事件を引き起こし、60人以上の死者と160人以上の負傷者を出している。
アブー・バクル・アル・バグダディ wiki より

Ageel bin Muhammad al-Badrの子



Al-badr bin Ageel（1993）※画像なし
王立強（1993） 自称中国政府諜報員

※強い王が立つ。名前負けしなければ良いですね。笑 王安石の一族は、オーストラリア（ローマ教皇レオ1世の一族）と組んで中国政府に挑戦しようとしている。



Ahmed bin Ageel (2005) ※画像無し

エマ・ゴンザレス (2000) 反トランプ代表

※アブー・バクル・アル・バグダディの親戚のくせに高校銃撃の被害者を装ってトランプ大統領を攻撃している。ゴンザレスが流した涙は、トランプ大統領を攻撃する材料でしかない。汚らしい。一目見て薄汚いと思った。

今川国氏の一族～アステカ帝国、凄惨な人身御供儀式、串刺し公ヴラド・ツェペシュ、見付天神の人身御供、血の伯爵夫人エリザベート・バートリ、モルダヴィア公、ルーマニア王国、モルドバ共和国



今川国氏（1243～1282） 今川家初代当主※画像なし

ジャラルッディーン・ハルジー（?～1296） ハルジー朝第初代君主



今川基氏（1259～1323） 今川家第2代当主※画像なし

アラー・ウッディーン・ハルジー（1266～1316） ハルジー朝第3代君主

今川範国（1295～1384） 今川家第3代当主

クトゥブッディーン・ムバーラク・シャー（1299～1320） ハルジー朝第5代君主

※著名な武家でありながら今川氏当主代々の肖像画は存在しない。顔を晒すことに躊躇していた理由は何だろうか？今川国氏はハルジー朝初代君主となり、北インド一帯にハルジー朝を築いた

。

第3代当主今川範国の子



- ・今川範氏（1316～1365） 今川家第4代当主
- ・今川貞世（1326～1420） 今川範氏弟
- ・今川氏兼（1329～1398） 今川範氏弟
- ・今川仲秋（?～?） 今川範氏弟

※14世紀初頭、ハルジー朝の残党が日本に来ると、今川範国の子息たちは、彼らと共に太平洋を渡ってメキシコに移り、アステカ帝国で人身御供の殺人神官として残虐行為に耽ることになる。貞世、氏兼は日本に帰還したが、仲秋はアステカ帝国で殺人神官として暮らした。今川氏は、親鸞の名を由来に当地に「シナロア」を築いた。親鸞（キナルア）＝シナルア＝シナロアとなる。また、ハルジー朝の残党はマドゥライを由来に「マドラ」を築いた。

現在、シナロアは「麻薬カルテル」の本拠地として機能している。アステカ帝国当時、凶暴な人喰い部族として、人肉食の儀礼などでスペイン人を恐怖に陥れたシナロアの部族は、エルナン・コルテスの侵攻時も一向一揆もどきを指揮して頑強に抵抗し、AD1584年には征服者ペドロ・デ・モンテヤを殺害し、勝利を収めている。



今川満範（生没年不詳） 今川貞世の子※画像なし

アカマピチトリ（1355～1395） アステカ帝国初代君主 在位1375～1395

●アステカ帝国、生贄の儀式のエピソード



・生贄となる子供たちは、立派な衣装を着せられ、羽や花で飾りつけられた神輿に乗せられた。神輿を担ぐ人々の列の周囲では、演奏者、踊り子が子ども達の前で笛を吹き、歌い、踊りながら神殿へと歩みを進める。子供が泣いて大きな涙をこぼすと、人々は雨が多い年になる予兆だとして喜んだ（※神輿を担ぎながら練り歩く祭りの原型は、アステカやマヤで子供や美少女の生贄を神殿まで運んだ神輿の行列である。つまり、日本の祭り、神輿を担ぐ祭りはみな人身御供の名残りだ。マヤ、アステカには車輪の概念がなかったため、笛や太鼓の演奏者を乗せる山車はマヤ文明滅亡後に藤原内麻呂の一族が日本に帰還してから生まれた）。

・生贄は石の犠牲台の上に仰向けで乗せられ、頭部、両手両足を五人の神官に押さえ付けられた。そこへ、槍の形をした火打石を両手に持った神官のリーダーが現れ、生贄の胸に突き刺す。神

官は血が噴出す胸の切断面に手を入れて心臓を掴み出し、ヒカラの器に血を注いでから死体を神殿の階下に突き落とす。何人かの老人（今川国氏の一族）が死体を自宅に持ち帰り、そこで肉を切り分け、親戚の人々に配った。

・殺される子供たちは母親に売られることがあった。そうして集められた数十人の子供たちは、雨が降り始めるまで順々に殺されていった。

・ティティトル（乳取る）の祭りで主役を任せられた女性は「我らの母」を意味する女神トナ（タナトス）の扮装をさせられた。この女性は老人たちが楽器を演奏している間、ひとりで踊る。死が頭をよぎると、彼女はそのたびに溜息をつき、涙を流した。

全ての神々の扮装をした神官たちが彼女の前に出現すると、彼らは女性を神殿に連行した。石の台の上に横倒しにされた女性は胸を切り裂かれ、脈打つ心臓を掴み出され、頭部を切断された。神官のリーダーが髪をつかみ、右手に女性の頭をぶら下げたまま人々を先導し、血塗れで踊り狂った。

・「生きるために生まれたというのは本当ではない。ただ苦しむために生まれたのだ。我々は春の草である。命は薔薇のようなものであり、花を咲かせて枯れるのだ」無名のアステカ人インディオの言葉

※最後の一説は、今川国氏の一族がメキシコを統治していた時代のインディオの言葉である。インディオたちは神々（今川氏）の命令に疲れ果て、嫌気が差していた（当然だ）。アステカ帝国とは、人喰い人種タナトスの一族が目指す理想的な国家の姿である。民主主義を！自由を！と叫んでいる時にタナトスたちが頭の中で思い描いている世界が凄惨な生贄の儀式が公認（？）されていた時代のアステカ帝国の姿だ。

好きな時にいつでもどこかの子供を拉致し、陵辱し、殺害し、肉を食べる。それでも誰にも文句を言われぬ。これが彼らが理想とする世界だ。今現在、プーチン大統領、トランプ大統領のような強い人々がいるため、彼らは子供の拉致、殺人、喰人行為を隠れて行っている。

以上のことを念頭に安倍総理が口にする「美しい日本」やアメリカ民主党議員、フェイクメディアが口にする「民主主義」の発言を吟味していただきたい。彼らが考える民主主義とは、城壁、或いは武器としてタナトスの一族の虚言を代弁し、信じるフリをするスードラたち（邪教信者）の権利と、保障でしかない。要は、悪の保護である。

第4代当主今川範氏の子



今川泰範（1334～1409） 今川家第5代当主

Hubaise bin Muhammad（?～1406） ナバーニ朝最後の君主

今川氏家（?～?） 今川泰範弟

※現オマーンを統治していたナバーニ朝の最後の君主Hubaise bin Muhammadを今川泰範が演じていた。ナバーニ朝が滅ぶと、今川泰範はナバーニ朝の残党を率いてメキシコに到来した。彼らがメキシコ（英語メキシコ、スペイン語メヒコ）の語源となった。メキシコの由来はオマーン最大の港湾都市マスカットである。マスカット＝マスカ＝メキシコとなる。

アステカの殺人神官の正体は今川氏である。そのため、アステカの神々の名は日本語由来のものが多い。日本語由来のアステカの神々：ウェウェコヨトル（上上子よ獲る）、エエカトル（ええか獲る）、オメテオトル（お前、手を獲る）、コアトリクエ（子は獲り喰え）、ショロトル（少量獲る）、センテオトル（千、手を獲る）、チコメコアトル（シコメ、子は獲る）、チャルチウイトリクエ（CHURCH上、獲り喰え）、テペヨロトル（てっぺん、夜獲る）、トラソルテオトル（獲れ、それ、手を獲る）、ウイシュトシワトル（WISHED死は獲る）、イツパパロトル（EATS、PEOPLE獲る）他。

偶然と思われる向きもあると思うが、これは偶然ではない。例えばセンテオトル。これは千の手を獲る意味であるが、人食い人種は人間の掌が好物なのだ。アステカの人食いの神々の名が日本語由来の証拠である。

第5代当主今川泰範の子



※画像は、人身御供の神殿と可睡齋。共通点は、階段を登ったところに神殿があることだ。

今川範政（1364～1433） 今川家第6代当主

如仲天ぎん（1365～1437） 可睡齋創建

尼子高久（1363～1391） 尼子氏初代当主

※アステカ帝国に赴き、殺人神官として人身御供を指揮していた今川範政は、アステカから日本に戻ると如仲天ぎんを称し、家族である曹洞宗の導きにより可睡齋を創建した。更に、尼子高久を称して尼子氏の祖となった。尼子の由来は今川と同じで、澳門の古名アマカオである。



今川泰国（?～?） 今川範政弟※画像なし

トマス・アランデル（1353～1414） カンタベリー大主教

ウィツィリウイトル（?～1417） アステカ帝国第2代君主 在位1396～1417

今川範信（?～?） 今川範政弟※画像なし

イギリス：ジョン・ウィクリフ処刑（1384）

イギリス：血の法典（1400）

イギリス：異端者焚殺令、ロラード派弾圧（1401）

※生没年が不明な今川泰国と今川範信は、どちらもアステカ帝国で殺人神官として人身御供を開催していたと考えられる。そのどちらかがイギリスに進出し、トマス・アランデルとなった。イギリスに侵入した彼は、アステカ帝国で起きていたことをそのままイギリスに持ち込んだ。それが「血の法典時代」である。例として、6歳の子がインクを盗んだだけで、死刑にされていた時代がイギリスにはあったのだ。目的はどう考えても懲罰ではなく「子供を殺すこと」である。

この血の法典時代のイギリスで、1960年から1990年代まで、現代アメリカを脅かしてきた連続殺人鬼の卵が育てられた。連続殺人鬼の代表といえばアルバート・フィッシュ（イギリス首相デビッド・ロイド・ジョージ）であるが、彼らは、正しくアステカ帝国の系譜を継ぐ者だ。人喰い人種の血が目覚めたのか、人を殺したくて仕方がないアランデルは、大勢の人々、特に児童をたくさん殺すことができるよう、自分に都合がいい法律を制定した。これにより、非常に多くの何の罪も無い人々が処刑された「血の法典時代」がイギリスにはじまる。アランデルは、カンタベリー大主教の援助を得て、自分の血統を議会、役所、警察、病院などインフラ全般に送り込み、どんなウソでも自在につける環境を得た。つまり、彼らは政府と同等の発言力を誇った。これにより、非常識な法律を成立させることができた。

その後、トマス・アランデルの子孫はイギリスを離れてアステカ帝国に帰還し、ウィツィリウイトルとしてアステカ皇帝に即位している。彼は、ウィツィロポチトリやテスカトリポカなどの英語由来の殺戮神を生んでいる。イギリス時代から医者の姿で殺人をしていたようで、ドクターを由来にした「テクトリ」が語尾に付く死神のシリーズも生んでいる。

パテカトル（PAY、DOCTOR）、テクシステカトル（タギー、死す、DOCTOR）、トナカテクトリ（ドニキ、DOCTOR）、シウテクトリ（死を、DOCTOR）、ヤカテクトリ（ダヤク、DOCTOR）、トラウイスカルパンテクトリ（TILL WE SKULL PAIN DOCTOR）などである。テクトリ・シリーズ以外には、イツパパロトル（EATS、PEOPLE、獲る）、ウィツィロポチトリ（WIZ LOP CHARTER＝瞬時に切り裂く魔神）、テスカトリポカ（DEATH CATER BOGGY＝死を要求する鬼神）がある。

第6代当主今川範政の子



今川範忠（1408～1461） 今川家第7代当主

モクテスマ1世（1398～1469） アステカ帝国第5代君主 在位1440～1469

- ・今川範豊（?～?） 今川範忠弟
- ・今川範満（?～?） 今川範忠弟
- ・小鹿範頼（?～?） 今川範忠弟

※アステカの神々、とりわけテオトルシリーズは、上記のように日本語が由来であり、英語由来の言葉も混合していることがあった。生贄の儀式は、基本的に「人身御供の種族」である今川家が仕切った。ここに、生贄の儀式の年間スケジュールを紹介する。

毎年2月には、「水が止まること」「木々を立てること」と呼ばれた祭が開かれ、山上で子供が生贄に処された。毎年3月には、祭礼「皮剥ぎ」が開催された。この祭典では、今川家の司祭が、剥いだ生贄の皮を20日間被り続けた。ということで、この祭典は、AD1950年代に起きたエド・ゲインの事件を容易に想起させる。

毎年4月には祭礼「大徹夜会」が開催され、パンティトランで子供が生贄にされた。毎年5月には、祭礼「乾燥」が開催され、一年間テスカトリポカに扮していた「神の体現者」が生贄に処された。毎年6月には祭礼「王の小祝宴」が開催され、祝宴の神、草木の神、塩の女神に生贄が捧げられた。毎年7月には、祭礼「王の大祝宴」が開催され、生贄が捧げられた。毎年8月には祭礼「死者の小祝宴」「花の誕生」が開催され、ウィツィロポチトリに生贄が捧げられた。毎年8月には祭礼「死者の大祝宴」「ショコトルの実の大落下」が開催され、火に生贄が捧げられた。火に生贄を捧げるこの祭典は、今川家の先祖がガリアで少年少女をまとめて焼き殺したウィッカーマン、カルタゴで幼児をまとめて焼き殺した儀式を再現したものだろう。

毎年11月には祭礼「貴重な羽」が開催され、捕虜が鹿のように縛られて生贄に処された。このように、ほぼ毎月、「人身御供の種族」である今川家が生贄の祭典を催した。その度に、殺人を生業とする今川家によって生贄は惨殺され、ハイエナのように犠牲者の亡骸を味わっていた。今川家は、生贄を切り刻み、生皮を羽織って踊り狂い、人肉、特に子供肉を貪り食べた。これらの

ことは、現在でもアステカ人の子孫がアメリカ合衆国、イギリス、ウクライナで行っている。今川家の意向により、基本的には、明日のアステカを担う将来有望な優れた者が生贄に処された。反乱防止のために、リーダーの芽を小さいうちに摘むのは、家畜管理の基本である。

第7代当主今川範忠の子



今川義忠（1436～1476） 今川家第8代当主※画像なし

ヴラド・ツェペシュ（1431～1476） ワラキア公

カシム1世（?～1490） アストラハン国初代ハーン 在位1466～1490※画像なし

北条早雲（1432～1519） 後北条氏初代当主

東欧：ヴラド・ツェペシュ事件（1462）

※下記に記したソウニー・ビーン本体は、父である今川義忠（ヴラド・ツェペシュ）のもとに逃亡し、父と共に近隣住民やトルコ人の捕虜を串刺しにし、残虐の限りを尽くした。串刺し公の異名をとったヴラド・ツェペシュはドラキュラの語源となった。

また、ヴラド・ツェペシュは逮捕監禁されたことにして、影武者を身代わりにして遠く、日本にまで逃亡を試み、北条早雲に変身して関東を治めた。歴史上、早雲は正体不明といわれているが、彼の正体は、日本に逃げてきた串刺し公ヴラド・ツェペシュ（今川義忠）である。と同時に、彼はカシム1世としてアストラ・ハン国の君主を務めた。アストラの名の由来はアステカとトラロックの組み合わせである。



- ・今川範勝（?～?） 今川義忠弟※画像なし
- ・今川範慶（?～?） 今川義忠弟※画像なし
- ・ソウニー・ビーン（15世紀） 人喰い山賊

※今川範勝、或いは兄弟の範慶のどちらかがソウニー・ビーンとなり、どちらかがダヤン・ハーンを儲けた。2人はアステカ帝国で殺人神官を務めたが、範慶（仮定）はメキシコからイギリスに移り、ソウニー・ビーンを儲けた。ソウニー・ビーンは家族総出で人間狩りを行ったが、ある時、犠牲者を逃がしてしまった。犠牲者は早速軍に通報すると軍が動いたため、ビーンと庶子を投入した影武者部隊を含む本体はワラキアに逃亡した。だが、捕獲されたビーンの子息47人は、男は四肢を切断されたまま放置され、女は生きたまま焼かれた。

山中幸満の子（第2代当主尼子持久の曾孫）



山中勝重（1467～1533）※画像なし

ダヤン・ハーン（1464～1524） 北元第20代ハーン 在位1479～1516

モクテスマ2世（1466～1520） アステカ帝国第9代君主 在位1502～1520
カシム2世（？～1532） アストラハン国第6代ハーン 在位？～1532※画像なし
アククベク（？～1533） アストラハン国第8代ハーン 在位1532～1533※画像なし

蒙古：ダヤン・ハーン、出現（1482）

蒙古：ダヤン・ハーン、オルドスに侵入（1501）

※第2代当主尼子持久の曾孫山中勝重は北元に赴き、ダヤン・ハーンに化け、タタールを統治した。さらにダヤン・ハーンは自身の影武者にアステカ統治を任せていた。しかし、しばらくして、アステカ帝国にエルナン・コルテスが登場した。この一報を耳にしたダヤン・ハーンは、とる物もとりあえずメキシコに馳せ参じた。AD1520年、コルテスを同じタナトスの血が流れている家族と認識しなかったダヤン・ハーンは、コルテスの留守中を見計らい、信者に命じて祭典に興じるアルバラードたち一行120人に嫌がらせをした。

これに激怒したアルバラードたちは、祭典中のアステカ人を虐殺した。これにより、スペイン人の皆殺しの口実を得たダヤン・ハーンは、得意の一揆を指揮して民衆の暴動を扇動した。翌日、戻ってきたコルテスは、皇帝に民衆の説得を打診したが、ダヤン・ハーンの一揆軍は、止めに入った皇帝モクテスマ2世（影武者）もろとも、スペイン人1000名を皆殺しにした。この時、コルテスたちはトラスカラに逃げ、迫ってきた追っ手をなんとか撃破している。

AD1521年、コルテスは5万人のスペイン兵と共に、再びアステカ帝国の地を踏んだ。3ヶ月以上の攻防の末、テノチティランを陥落したコルテスは、皇帝クアウテモックを捕らえ、AD1525年に処刑した。もちろん、ダヤン・ハーンはうまく逃亡し、一族を率いて太平洋を横断し、遠江国に避難したと考えられる。



ゲルト・タイジ（1515～？） ダヤン・ハーン八男

ダヤン・ハーンとその側室ジャライルのスミル・ハトンの間の息子として生まれた。同母兄弟にはチャハルのタタルを統治したウバサンチャ・チン・タイジがいる。ゲレット・タイジはダヤン・ハーンの十一子の中で唯一子供がなく、そのため独自の遊牧集団を形成することなく亡くなった1482年。ダヤン・ハーンの諸子の中で唯一子供がおらず、分封を受けなかった。ゲレット・タイジ w i k i より

※ゲレット・タイジは上記のように独自の集団を形成せずに死んだ。或いは子どもがおらず分封を受けなかったとあるが、彼は実際には死んだことにしてボルネオ島に移住し、ダヤク族の祖となった。



ダヤク族 (16世紀)

※首狩り族であり、人食い人種としても知られている。彼らは敵の首級を保存するための首堂などを建設していた。実際にはダヤン・ハーンの子孫となる。ダヤクの由来はダーユアンキ（大宛の人）である。ダーユアンキ＝ダユアンキ＝ダヤクとなる。上の民族衣装はアステカっぽくもある。

AD1998年、ダヤク族はポソ地区で1000人を殺害し、AD1999年にはボルネオ島でマドゥラ族を虐殺した。更に、AD2001年にもボルネオ島でマドゥラ族118人を虐殺している。この「ポソ宗教戦争」により、ダヤク族は殺人の快楽と食欲の両方を満たした。



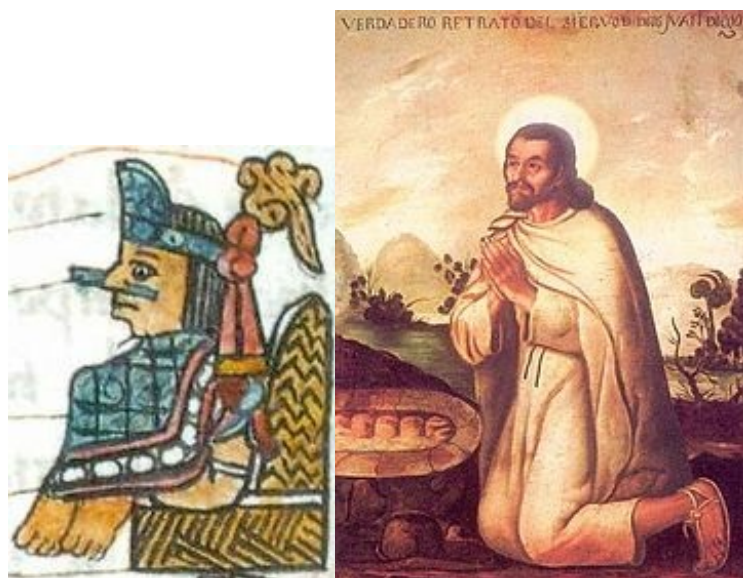
マラス (1981年)

※1981年にマハティールが首相に就任した際、一部ダヤク族はマレーシア（ボルネオ側）から中米に移住した。彼らはギャング団となり、家族であるドミニコ会の下で間接支配の形で人民や信者を管理した。現在、彼らは西本願寺独自の指示でキャラバンと呼ばれる移民を率いてアメリカ国境に侵入を試みている。マラスの名の由来はマレーシアである。マレーシア=マレーシ=マラスとなる。

第8代当主今川義忠の子

正親町三条実望室（?～?）

養珠院殿（?～1527） 北条氏綱正室



今川氏親（1471～1526） 今川家第9代当主※画像なし

クィトラワク（1476～1520） アステカ帝国第10代君主 在位1520

ファン・ディエゴ（1474～1548）

メキシコ：グアダルーペの聖母（1531）

※今川氏親は同時にアステカ帝王クィトラワクを演じていたが、49歳で死んだことにして一旦メキシコから日本に帰還するも55歳で死んだことにし、再度日本を離れてスペイン植民地下のメキシコに戻り、ファン・ディエゴとして歴史に再登場した。

彼は、「グアダルーペに聖母を見た」とウソをついた。グアダルーペの聖母は、白人列強に縄張りを荒らされた今川氏親が、下層民を振るい立たせて、スペイン人に対して一揆を企てようとした果ての苦肉の策だった。このグアダルーペの聖母は、後に、メキシコ独立運動を指揮したミゲル・イダルゴに継承されている。氏親は、メキシコを取り戻すために、最後の22年間をフ

アン・ディエゴとして生きた。



今川心範（?～?） 今川氏親弟

※今川氏親と弟の今川心範は、すぐにメキシコに赴き、アステカ帝国で殺戮の神々に生贄を捧げる殺人神官として活動したと考えられる。氏親はメキシコで生まれた子息を連れて日本に帰還しているが、生没年が不詳の心範はアステカに残ったと考えられる。

氏親が殺人神官を勤めていた時代に、メキシコはスペイン人に征服された。これを機に、今川家の一行は、太平洋を渡って現静岡県西部に帰還し、家族である今川氏のところに身を寄せた。今川氏輝、今川義元はアステカで生まれたメキシコ人である。氏親、氏輝、義元の親子は現磐田市に「見付」の名を残した。見付の名の由来はメシコ（メキシコ）である。現に、静岡県西部にはアステカ人やマヤ人の顔をした人が多い。

氏輝と義元は、見付天神を拠点にアステカから続く生贄の風習を存続させた。「ケツアルコアトル（毛猿、子は獲る）」を由来に「猿神」に扮したアステカ人は、毎年秋に農民から人身御供を要求した。さもなければ、猿神は農作物を荒らし、子女をさらって農民たちを困らせたという。今川家の人々は、猿のかぶりものをし、正体を隠して儀式を行ったのだ。「見付天神」も該当しているが、アステカ人やマヤの人身御供の教団が日本各地に建立した神社は、どれも山頂部に建てられた。それはさも、アステカ・マヤのピラミッドの再現のようである。どれも、ピラミッドに似た長い階段が特徴である。

第8代当主今川義忠の孫



正親町三条公兄（1494～1578） 正親町三条実望室の子※画像なし
クアウテモック（1495～1525） アステカ帝国第11代君主 在位1520～1521



今川氏輝（1513～1536） 第9代当主今川氏親の子※画像なし
北条氏康（1515～1571） 後北条氏第3代当主※養珠院殿の子
尼子晴久（1514～1561） 尼子氏第5代当主

北条氏康の子



北条新九郎（1537～1552） 北条氏康と瑞溪院の子※画像なし

デルヴィシュ（？～1566） アストラハン国最後のハーン 在位1554～1556※画像なし

ステファン・バートリ（1533～1586） ポーランド王在位1575～1586

※北条氏康（今川義忠の孫）の子である北条新九郎と上杉景虎、そして品川高久/准如（今川義元の子）と園光院（今川義元の孫）がトランシルヴァニアに旅立った。あとで准如の子である小早川秀秋も馳せ参じる。この移住により東欧は悲慘な目に合う。



北条氏政（1538～1590） 後北条氏第4代当主

尼子義久（1540～1610） 尼子氏第6代当主※画像なし



上杉景虎（1554～1579） 北条氏康の子※画像なし

ナーダシュディ・フェレンツ2世（1555～1604） エリザベート・バートリの夫

Ieremia Movilă（1555～1606） モルダヴィア公、モビレシュティ家祖

優秀な武人で、敵に対する極めて残酷な処罰方法を好んだため、「黒騎士（erős fekete bég）」の異名で呼ばれた。バートリ・エルジェーベト伯爵夫人の夫である。ナーダシュディ・フェレンツ2世 wikiより

※北条氏康（今川義忠の孫）の子である北条新九郎と上杉景虎、そして品川高久/准如（今川義元の子）と園光院（今川義元の孫）がトランシルヴァニアに旅立った。景虎はナーダシュディ・フェレンツ2世となり、エリザベートになった園光院と結婚した。景虎は1579年まで日本で景虎として上杉家を滅ぼすために家督争いを起こし、上杉家を分裂させた。その後、79年に死んだことによりトランシルヴァニアに戻り、次はオスマン・トルコ帝国軍との戦いに明け暮れた。

第9代当主今川氏親の子



今川氏輝（1513～1536） 今川家第10代当主※画像なし

アルタン・ハーン（1507～1582）※画像なし

フェルナンド・アルバレス・デ・トレド（1507～1582） アルバ公爵

蒙古：アルタン・ハーン、山西大虐殺（1542）

蒙古：アルタン・ハーン、北京を包囲（1550）

蒙古：アルタン・ハーン、カラコルムを占領（1552）

蒙古：アルタン・ハーン、遼東半島に侵入（1563）

オランダ：アルバ公、血の審判所設立（1567）

蒙古：アルタン・ハーン、チベット遠征（1569）

※今川氏輝は子息を残さなかったが、それは彼がメキシコに戻っていた証拠だろう。その後、メキシコを発った今川氏輝は、ダヤン・ハーンの縄張りを奪還するべく、モンゴルに侵入してアルタン・ハーンを称した。アルタン・ハーンは、1542年に山西省に侵攻した際、男女20万人を虐殺し8万軒を焼き払ったといわれている。ダライ・ラマはこの系統に属している。アルタンハーン本人は、その後、ヨーロッパに進出してフェルナンド・アルバレス・デ・トレドを称した。トレドはカール5世のためにプロテスタントを処刑し、ネーデルラント総督になると血の審判所を設けて多くの新教徒を処刑した。アルタン・ハーンとフェルナンド・アルバレス・デ・トレドの生没年が全く同じなのは興味深い。一方、アルタン・ハーンの残党は日本に帰還し、今川氏の下（遠江戸国）へと身を寄せた。現に、静岡県西部にはモンゴル人ばい顔の人は多い。





※画像はテオティワカンのピラミッドと、あとの2枚はアステカ帝国の人身御供の儀式を継承した見付神社である。かつては長い階段だったが、参拝者の安全考慮のため、坂道に変えられた。

今川彦五郎（?～1536） 今川氏輝弟

玄広恵探（1517～1536） 見付天神神職

※僧侶になった今川家の子息は見付神社で人身御供の神官として儀式を取り仕切っていたと考えられる。玄広恵探は意中の少女の家に白羽の矢を立て、生贄と称して拉致し、身近に置いた。そして、美人の遺伝子を取り込むために子を産ませた。第一印象で悪党に見えないのは悪党の本願である。だが時には、アステカ時代を思い出して過酷な拷問の末に被害者を惨殺し、肉を食べる目的で生贄を所望したこともあるだろう。玄広恵探の正体は彦五郎だった可能性も高い。表の顔と裏の顔があったのだ。



今川義元（1519～1560） 今川家第11代当主

象耳泉奘（1518～1588） 見付天神神職※画像なし

今川氏豊（1522～?） 今川氏輝弟

※僧侶になった今川家の子息は見付神社で人身御供の神官として儀式を取り仕切っていたと考え

られる。象耳泉奘は意中の少女の家に白羽の矢を立て、生贄と称して拉致し、身近に置いた。そして、美人の遺伝子を取り込むために子を産ませた。第一印象で悪党に見えないのは悪党の本願である。だが時には、アステカ時代を思い出して過酷な拷問の末に被害者を惨殺し、肉を食べる目的で生贄を所望したこともあるだろう。象耳泉奘の正体は今川義元だった可能性も高い。表の顔と裏の顔があったのだ。ということは、義元は死んだ後も、見付天神の人身御供の殺人神官として28年間生き続けたのだ。

瑞溪院（?～1590） 今川氏輝妹

第11代当主今川義元の子



今川氏真（1538～1615） 今川家第12代当主

一月長得（?～1625） 見付天神神職※画像なし

※僧侶になった今川家の子息は見付神社で人身御供の神官として儀式を取り仕切っていたと考えられる。一月長得は意中の少女の家に白羽の矢を立て、生贄と称して拉致し、身近に置いた。そして、美人の遺伝子を取り込むために子を産ませた。第一印象で悪党に見えないのは悪党の本願である。だが時には、アステカ時代を思い出して過酷な拷問の末に被害者を惨殺し、肉を食べる目的で生贄を所望したこともあるだろう。一月長得の正体は今川氏真だった可能性も高い。表の顔と裏の顔があったのだ。

今川氏は、正体を隠すために猿の扮装をし、代々、見付神社で人身御供の儀式を開催していたが、一月長得の時代に修験者（天狗）の集団に襲撃され、余りの恐ろしさに、それ以後は人身御供の儀式は行わなくなった。見付天神の伝説によると、生贄を求めた猿神は信濃に住む「犬の早太郎」に成敗されたとされている。この犬の早太郎は、修験者であったと考えられる。「犬」とは天狗のことを指しているのは間違いがない。そして、天狗は山伏、修験者の別名である。とい

うことで、犬の早太郎の正体は、戸隠山修験、或いは秋葉山修験に属する優れた修験者である。

嶺松院（?～1612） 今川氏真妹、武田信玄の子義信の妻

嶺松院の子（第11代当主今川義元の孫）



園光院（?～?）※画像なし

エリザベート・バートリ（1560～1614）

永禄3年（1560年）に桶狭間の戦いで今川義元が討死すると武田・今川間の関係は険悪になり、永禄10年（1567年）には武田家において義信が謀反の罪により自害させられる義信事件が発生している。母の嶺松院は翌永禄11年（1569）春に今川氏真の要請により駿河へ引き取られ、今川氏の滅亡後まで存命したという。園光院は母と共に駿河に引き取られたともいうが、その後の事跡は不明。園光院wikiより

※園光院は生没年不詳だが、1560年生まれと推測できる。彼女は11歳の時に伯父である氏真に引き取られた。その後、北条氏康（今川義忠の孫）の子である北条新九郎と上杉景虎、そして品川高久/准如（今川義元の子）と園光院（今川義元の孫）がトランスシルヴァニアに旅立った。園光院はエリザベート・バートリとなり、ナーダシュディ・フェレンツ2世となった上杉景虎と結婚した。当初、エリザベートはタナトスの一族にハメられた哀れな被害者だと考えていたが、こうして精査してみるとエリザベートは真の加害者であり、変態殺人鬼であり、加えて本願寺の一族だったことがわかった。

エリザベートが狂気に走ったのは血筋もあるが、幼少期に見付神社で生贄の神官をしていた今川

氏真の仕事ぶりを見て影響されたのではないかと考えられる。伯父が生贄を切り裂き、陵辱し、惨殺するさまを見て幼いながらに歓喜し、肉が破れ、血に塗れた被害者の断末魔に酔いしれたことがフラッシュバックしたのだろう。エリザベートの残虐行為は、見付神社で実際に人身御供の儀式と殺人行為が行われていた証明である。



今川直房（1594～1662） 今川家第13代当主※画像なし

Moise Movilă（1596～1661） モルダヴィア公、モビレシュティ家最後の大公※画像無し

George Ghica（1600～1664） モルダヴィア公、ギカ家祖

今川氏堯（1642～1673） 今川家第14代当主

松平重治（1642～1685） 品川高久孫

Oldman（?～1687） モスキート王国初代王 在位1650～1687

Jeremy I（1639～?） モスキート王国第2代王 在位1687～1718

Jeremy II（1639～1672） モスキート王国第3代王 在位1718～1729

※今川氏堯は静岡を発ち、太平洋を横断してグアテマラのモスキートコーストに渡った。アステカ帝国の再興を夢見る彼は、グアテマラにモスキート王国を築いた。モスキートの由来はマスカットである。マスカット＝マスカート＝モスキートとなる。モスキート王国は大英帝国と連合を結んだことで知られている。このイギリス人たちの正体は、カンタベリー大主教トマス・アランドル（アステカ皇帝ウィツィリウィトル）の子孫と考えられる。



今川範彦（1716～1749） 今川家第18代当主※画像なし

Edward I（?～1755） モスキート王国第5代王 在位1739～1755※画像なし

George I（?～1776） モスキート王国第5代王 在位1755～1776※画像なし

グリゴレ3世（1724～1777） ギカ家、モルダヴィア公



今川義彰（1756～1818） 今川家第20代当主※画像なし

George Frederic Augustus I（?～1824） モスキート王国第8代王 在位1801～24※
画像なし

グリゴレ4世（1755～1834） ギカ家、ワラキア公

Ioan Sturdza（1762～1842） モルダヴィア公、シュトゥルツァ家祖※画像無し

フリードリヒ（1763～1834） ザクセン＝アルテンブルク公



今川義順（1810～1841） 今川家第22代当主※画像なし

Grigore Alexandru Ghica（1803～1857） モルダヴィア公、ギカ家最後の大公

エドゥアルト・フォン・ザクセン＝アルテンブルク（1804～1852） バイエルン軍人

カール・アントン（1811～1885） ホーエンツォレルン＝ジグマリンゲン侯

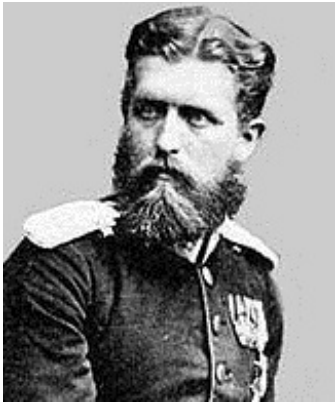
ザクセン＝アルテンブルク公フリードリヒの孫



エルンスト1世（1826～1908） ゲオルクの子

今川範叙（1829～1887） 今川家第23代当主（今川家断絶）※画像なし

※今川家の断絶は、今川家が拠点を日本から東ヨーロッパに移したことを示している。



Ludwig Joseph Karl Georg Friedrich（1839～1844） エドゥアルトの子※画像無し

レオポルト・フォン・ホーエンツォレルン＝ジグマリンゲン（1835～1905） カール・
アントンの子

モーリッツ・フォン・ザクセン＝アルテンブルクの子（フリードリヒの曾孫）



エルンスト2世（1871～1955）

Robert Henry Clarence（1872～1908） モスキート王国最後の王

※モスキート王国の消滅は、モスキート王家が拠点をグアテマラから東ヨーロッパに移したことを示している。

レオポルト・フォン・ホーエンツォレルン＝ジグマリンゲンの子



フェルディナンド1世（1865～1927） 第2代ルーマニア王

ルーマニア王フェルディナンド1世の子



カルロ2世 (1893~1953) 第4代ルーマニア王

イオン・インキュレット (1884~1940) モルダヴィア民主共和国初代大統領



マリア (1900~1961) ユーゴスラビア王妃

Maria Manjaru (?~?) ヴァシレ・ルプ高校団教師



ミルチャ (1913~1917) ルーマニア王子※画像無し

フィレモン・ボディウ (1910~1950) アルマータ・ネアグラ (黒軍) 指導者

ルーマニア王フェルディナンド1世の孫



ペータル2世（1923～1970）ユーゴスラビア王※ユーゴスラヴィア王妃マリアの子

Vasile Bătrânac（1925）ステファンの射手指導者

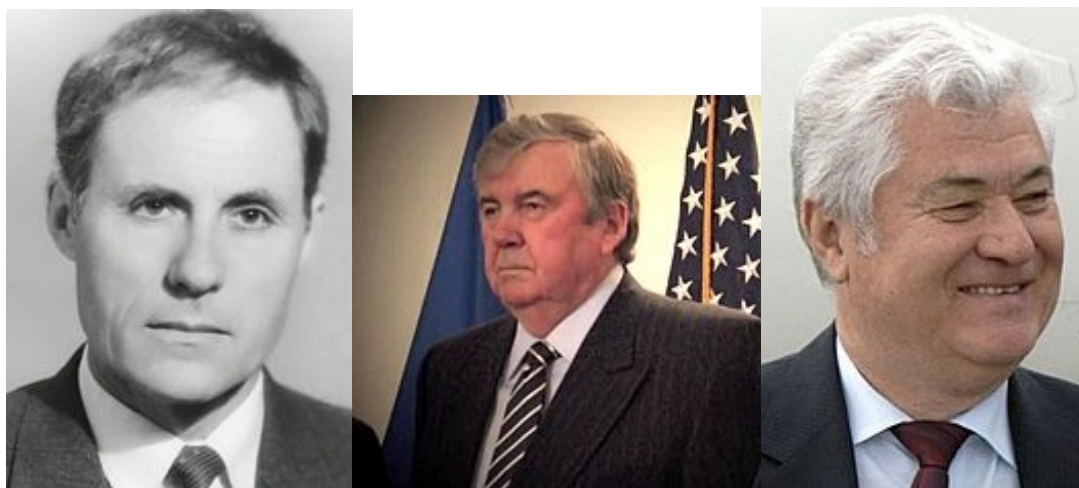
Ion Bacalu（1924）ヴァシレ・ルプ高校団メンバー

Pavel Boguş（1924）ヴァシレ・ルプ高校団メンバー

Eugen Braşoveanu（1924）ヴァシレ・ルプ高校団メンバー

Serghei Buiuc（1924）ヴァシレ・ルプ高校団メンバー

※高校団のメンバーは、全員がフェルディナンド一族の庶子だと考えられる。



ドミニク（1937）ルーマニア王女イレアナの子※画像無し

Gheorghe Ghimpu（1937～2000）国民愛国戦線指導者

ミルチャ・スネグル（1940）モルドバ共和国初代大統領

ウラジーミル・ヴォローニン（1941）モルドバ共和国第3代大統領

ミルチャ・ドルク（1941）モルドバ共和国初代首相※画像無し

※モルダヴィアがロシアを嫌うのはタナトスの一族だからということがわかった。彼らは残忍なアステカ帝国の直系である。ロシア・ウクライナの人喰い殺人鬼には彼らの血が少なからず流れているのだろう。

准如の一族～小早川秀秋、ドン・コサック、古儀式派、ノーベル賞、ベルナドッテ朝
スウェーデン王、ブラックメタルの雄メイヘム、アブグレイブ刑務所における捕虜虐待
、温暖化十字軍、グレタ・トゥーンベリ



品川高久（1576～1639） 上野藩藩主※画像なし

准如（1577～1630）

木下勝俊（1569～1649） 小早川秀秋兄※画像なし

木下延俊（1577～1642） 小早川秀秋兄※画像なし

※本願寺で教如を生んだ女が優性遺伝子ブリーダーによって今川氏真の子を産んだ。この時に誕生したのが准如である。時折りしも、顕如が織田信長相手に一向一揆を仕掛けていた真っ最中である。だが、准如は、本願寺の教如と対立し、本願寺は西本願寺と東本願寺に分離する。

准如は、西本願寺門主を演じながら、同時に今川氏真の子、品川高久として遠江国から上野藩（現・群馬）に移り、上野藩の藩主を務めた。だが、彼は群馬でも見付天神と同じように人身御供の儀式を開催した。群馬だけでなく、猿神に生贄を捧げる風習が民話として残っている地域には、アステカ人が必ず進出していたと考えられる。猿神と白刃の矢のセットで、必ず小高い山をピラミッドに見立て、長い階段を配し、山頂に神社が建てられているだろう。

品川高久（木下勝俊）の子



木下利当（1603～1662）※画像なし

イヴァン（1599） モスクワ総主教フィラレートの子※画像なし

ハンス・ナンセン（1598～1667） フリチョフ・ナンセンの先祖

※准如、小早川秀秋と共にヨーロッパに進出した品川高久（木下勝俊）の子利当はロシアに住み、モスクワ総主教フィラレートに執り憑き、イヴァンに成り代わり、兄ミハイル・ロマノフ（ダヴィデの一族）の影武者を演じながらロマノフ朝篡奪の機会を狙っていた。

品川高久（准如）の子



品川高寛（1616～1697）※画像なし

細川光尚（1619～1650） 肥後藩藩主

セバスティアン・ミカエリス（17C） ドミニコ会士※画像なし

マシュー・ホプキンス（1620～1647） 魔女狩り将軍

※マシュー・ホプキンスは、魔女狩り将軍を称して300人もの無実の人々を魔女に仕立て上げて処刑、多額の利益を上げた。マシュー・ホプキンスはセバスティアン・ミカエリスと同一人物だった可能性も高い。また、ホプキンスは、27歳で死んだことにして日本に戻り、細川光尚として肥後藩藩主を務めた。彼は、この時にアステカ人を受け入れ、上下益城郡を築いた。益城の由来はメシコ（メキシコ）である。

品川高久（准如）の兄弟

今川範以（1570～1608）

松倉重政（1527～1630） 大和五条藩主、肥前日野江藩初代藩主

澄存（?～?） 見付天神神職

イギリス：ロンドン、人間狩り（1590）

※澄存の頃には、既に人身御供の儀式は開催されていなかっただろう。澄存の正体は今川範以であり、今川範以は松倉重政という顔も持っていた。松倉は、キリシタンに蓑踊り、俵責め、瓢箪責め、雲仙地獄などの凄惨な拷問を加えていたことで知られている。彼にとって拷問は悦びであった。

見付天神で人身御供の儀式を断念した今川範以は、庶子の異母兄弟を投入した影武者部隊と共に日本を離れ、イギリスに侵入した。この時、今川範以は異母兄弟たちにロンドンで人間狩りをすることを命じた。これはタナトスの大人の儀式である。殺人を楽しむことができなければ一人前のタナトスとはいえないのだ。



西尾安信（?～?）※画像なし

小早川秀秋（1582～1602） 慶長の役総大将

ドミトリー・イヴァノヴィチ（1582～1591） イヴァン4世の子
偽ドミトリー1世（1582～1606） モスクワ大公
偽ピョートル（?～1607） モスクワ大公※画像なし
偽ドミトリー2世（?～1610） モスクワ大公※画像なし
偽ドミトリー3世（?～1612） モスクワ大公※画像なし
ボリス・モロゾフ（1590～1661）※画像なし

ロシア：大飢饉、疫病、動乱時代（1601）

トランシルヴァニア：父准如のいところであるエリザベート・バートリの下に身を寄せる（1604）

ロシア：偽ドミトリー即位（1605）

ロシア：ボロトニコフ、農民暴動を指揮（1607）

ロシア：偽ドミトリー2世即位（1607）

トランシルヴァニア：エリザベート・バートリ伯爵夫人逮捕（1610）

ロシア：偽ドミトリー3世即位（1611）

ロシア：ミハイル・ロマノフ暗殺、アレクセイ即位（1645）

ロシア：ロシア人民蜂起、ボリス・モロゾフ追放（1648）

※稀代の卑怯者として知られる小早川秀秋は准如の子である。彼は、関ヶ原の戦いが終わると、死んだことにして、庶子を投入した影武者部隊と共に工作員としてロシアに向かった。1604年、トランシルヴァニアに居を据えた彼らは、家族であるエリザベート・バートリ伯爵夫人の保護を受け、夫人の趣味を手伝い、近隣の少女を誘拐して残虐な趣味に興じた。一方で、トランシルヴァニアを基地にロシアに出撃した小早川は、偽ドミトリーと偽ピョートルを演じた。だが、この作戦は偽物扱いされたに留まった。

しかし、偽ドミトリーらを死んだことにした小早川秀秋は、宰相ボリス・モロゾフに変身し、80代まで生きてと考えられる。そして、ミハイル・ロマノフの妃であるエヴドキヤ・ストレシニョヴァがモロゾフの遺伝子を所望したことによって、モロゾフはアレクセイを儲けている。尚、彼女は優性遺伝子ブリーダーによって他の男の子どもも生み、併せて3男7女を儲けたが、そのうち6人が若くして死んだ。カッコウの雛のようにアレクセイは他の異父兄弟を殺したのだろう。

そして、父であるモロゾフがミハイル・ロマノフを暗殺すると、息子であるアレクセイをモスクワ大公の座に据えた。

一方、アレクセイは36歳の時に古儀式派の教祖となる女性フィオドシア・モロゾヴァを演じた。モロゾヴァとモロゾフの名が同じことに留意したい。モロゾヴァがモロゾフの子だということの意味している。アレクセイが古儀式派の首領であったため、アレクセイは古儀式派を弾圧するニーコン大主教を追放している。更にその後、正しいロシア人に嫌われたモロゾフは、民衆の蜂起によってロシアを追放されている。

モロゾフは79歳で死んだことにし、アレクセイは47歳で死んだことにすると、古儀式派を率いてロシア国内に潜伏し家族であるサルトゥイコヴァ伯夫人の保護を受けた。

イヴァン（木下利当）の子



アレクセイ（1629～1676） モスクワ大公

スチェパン・ラージン（1630～1671） ドン・コサック首長

フィオドシア・モロゾヴァ（1632～1675） 古儀式派教祖

ロシア：モスクワ民衆の暴動（1662）

ロシア：スチェパン・ラージンの乱（1670）

※アレクセイは、ミハイル・ロマノフの子とされているが、実際には影武者を演じていたイヴァンの子だと考えられる。

アレクセイはモロゾフ（小早川秀秋）と共に家族経営をロシア帝国に施行することを考えていたが、ダヴィデの一族と考えられるアルタモン・マトヴェーエフが出現し、アレクセイを追放してアルタモン・マトヴェーエフ自らがアレクセイとしてロシア皇帝に君臨した。

追放されたアレクセイはフィオドシア・モロゾヴァと共に、スチェパン・ラージンも演じた。1人3役である。アレクセイは古儀式派と組んで自分を追放した皇帝アレクセイとロシア帝国に対して蜂起したわけだが、蜂起は失敗し、アルタモン・マトヴェーエフ扮する皇帝アレクセイによって八つ裂きの刑に処された。

アレクセイの子



フェオドシア（1662～1713） アレクセイ七女※画像なし

プラスコヴィヤ・サルトウイコヴァ（1664～1723） イヴァン5世の妃

※フェオドシアは11歳で死んだことにし、潜伏した後、プラスコヴィヤ・サルトウイコヴァとして再登場した。プラスコヴィヤ・サルトウイコヴァはイヴァン5世と結婚したが、これはフェオドシアが弟と結婚したということでもあった。

エカチェリーナの子（イヴァン5世とプラスコヴィヤ・サルトウイコヴァの孫）



アンナ・レオポルドヴナ（1718～1746）

※アンナは、日本から来た木下俊在が化けたアントン・ウルリヒと結婚し、イヴァン6世を生んだ。

木下俊量の子（木下延俊/准如の玄孫）



木下俊在（1714～1731）※画像無し

アントン・ウルリヒ・フォン・ブラウンシュヴァイク（1714～1774）



木下俊量娘（173?~?）※画像無し

ダリヤ・サルトウイコヴァ（1730~1801）

コンドラティ・セリワノフ（1732~1832） スコプチ教祖※画像なし

※木下延俊（准如）の玄孫である木下俊量は娘が6人いるが、ダリヤの正体はそのうちのひとりだと考えられる。彼女は、家族がロシア帝国を牛耳っていることを知り、おこぼれに預かろうと考え、兄俊在と共にロシアまでやってきた。ダリヤは家族の計らいでロシア帝国の貴族の地位を与えられたが、一方ではシリアルキラーとして知られている。彼女は、拷問によって138人の農奴を殺害し、その犠牲者の多くが女性ないし少女だったという。

農奴を肉体的に痛めつけることに快楽を見出していた。タナトスの子だから可能なことである。寂如の一族である女帝エカチェリーナ2世は、准如の一族であるサルトウイコヴァの処罰に悩んだ。家族だからだ。しかし138人もの女性を殺したにも関わらず、ダリヤは首に「人を拷問死させた女」と書かれた標識をぶらさげ、モスクワで1時間だけ晒し台の上に立つ刑で済んだ。一方、ダリヤはセリワノフに変身し、去勢を目的にしているカルト宗教スコプチを立ち上げた。なぜ去勢するのか不明だが、結局、ダリヤは人間の身体を傷つけたい欲求に抗えなかったのだろう。去勢を教義に掲げることで、人体破損欲求を正当化した上でカルトを設立したのだ。





イヴァン6世（1740～1764） ロシア皇帝

海蘭察（1740～1793） エヴェンキ出身の武将

ヤコフ・サンニコフ（1749～1825）※画像なし

ペダル・アンカル（1749～1824） 初代ノルウェー首相※画像なし

エルンスト・ハインリヒ・フォン・シメルマン（1747～1831） 第10代デンマーク枢密院議長

乾隆帝の参贊大臣を務めた。清・ジュンガル戦争、清・ネパール戦争などで活躍した。彼は清の正規軍が敵の不正規戦に対処しきれない現実のなか、エヴェンキ族で構成された部隊を率いて、部隊を指揮した。海蘭察wikiより

※イヴァン6世は24歳で死んだことにしてロシアを離れるとツングースに逃れた。ここでイヴァン6世（准如の一族）の残党は「エヴェンキ族」「エヴェン族」と自称した。エヴェンの由来はイヴァンであり、エヴェンキの由来はイヴァンの人（イヴァンキ）である。事実、エヴェンキ族はロシア人と同じ暮らしを送る人々として知られている。

一方、イヴァン6世は海蘭察として清で働いていたが1793年に死んだことにして中国を去り、ロシアに移ってヤコフ・サンニコフとして1800年にストルボヴォイ島を発見、海図に記載した。1805年にはファデエフスキ島を発見した。1808年から1810年にはマトヴェイ・ゲデンシュトロムが率いる探検隊に参加した。1810年にサンニコフはノヴァヤ・シビリ島を横断しファデエフスキ島をした。



ヤコフ・サンニコフの子（生没年不明）※画像なし

イマニュエル・ノーベル（1801～1872）

オスカル1世（1799～1859） ベルナドッテ朝第2代スウェーデン王※画像なし

フレデリック・デュー（1796～1873） 第4代ノルウェー首相※画像なし

ペーター・ゲオルグ・バン（1797～1861） 第4代デンマーク首相

※探検家ヤコフ・サンニコフ（海蘭察）の子は、イマニュエル・ノーベルとしてスウェーデンで
生きたためヤコブ・サンニコフの子としての情報は皆無である。ダイナマイト、ノーベル賞で知
られるアルフレッド・ノーベルを儲けている。

スウェーデン王オスカル1世の子



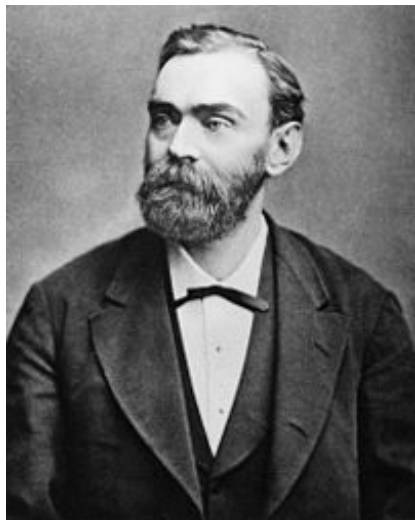
アウグスト（1831～1873） オスカル1世第4王子※画像なし

ルドヴィク・ノーベル（1831～1888） ブラノーベル社

ハンス・ゲオルグ・ヤコブ・スタン（1830～1907） 第4代ノルウェー首相※画像なし

オスカル2世（1829～1907） ベルナドッテ朝第4代スウェーデン王

※ルドヴィクは兄ロバートと共にロシア（アゼルバイジャン）に石油会社ブラノーベルを起業したが、ロシア革命のときに没収された。



アルフレッド・ノーベル（1833～1896） ダイナマイト発明、ボフォース社・アクゾノーベル社創立



エミル・オスカー・ノーベル（1843～1864）

ヤコフ・サンニコフ（1844～1908）

クリスチャン・ルンデバーク（1842～1911） 第10代スウェーデン首相

※上記の冒険家ヤコフ・サンニコフの孫。フリチョフ・ナンセンらの探検を支援した商人・慈善家として知られる。エミル・オスカー・ノーベルとは同一人物と考えられる。エミル・オスカー・ノーベルは自分を21歳で死んだことにしてその後はヤコフ・サンニコフとして生きた

。

スウェーデン王オスカル2世の子



グスタフ5世（1858～1950） ベルナドッテ朝第5代スウェーデン王

カール・ヤルマール・ブランティング（1860～1925） 第16代スウェーデン首相

フリチョフ・ナンセン（1861～1930） ノルウェーの科学者・探検家

第一次世界大戦後は国際連盟の難民高等弁務官に就任し、ソ連政府との交渉、45万人以上の捕虜の交換帰国プロジェクトを成功させ、戦争難民のために「ナンセン・パスポート」と後に呼ばれた証明書を発行した（その他、ウクライナの大飢饉に苦しむウクライナ人をカナダに移住させる等）。1915年にはノルウェー防衛協会（Norges forsvarsforening）の初代会長に就任し、1930年まで会長職を務めた。1922年に戦争難民の帰国および飢餓難民救済活動の功績が認められ、ノーベル平和賞を受賞した。彼の業績は国際連合難民高等弁務官事務所に継承され、彼は難民の父と呼ばれている。1925年、右翼組織「祖国」（Fedrelandslaget）の創設メンバーとして公の前で演説を行っている。フリチョフ・ナンセンwikiより

※ヤコフ・サンニコフ（エミル・オスカー・ノーベル）の子と考えられる。ノーベル平和賞を受賞しているため、彼は悪であることがわかる。それを証明するようにウクライナ大飢饉に苦しむウクライナ人をカナダに移住させている。ナンセンスだ。

スウェーデン王グスタフ5世の子



グスタフ・アドルフ（1906～1947） ヴェステルボッテン公
オーラヴ5世（1903～1991） ノルウェー王
ハンス・フランク（1900～1946） （ナチス司法全国指導者）

※グスタフ・アドルフはヒトラー、ゲーリングら、ナチス帝国と親交があった。当然だ。影武者がナチス司法全国指導者のハンス・フランクなのだから。

Folke Bernadotteの子（スウェーデン王オスカル2世の孫）



グスタフ・エドゥアルド・ベルナドッテ（1930）※画像なし
トルビョルン・フェルディン（1926～2016） 第27代スウェーデン首相
スヴァトスラフ・フョードロフ（1927～2000） オリガルヒ、眼科マイクロヒルルギア研
究所
アルノルド・リューテル（1928） エストニア第3代大統領

ノルウェー王オーラヴ5世の孫



Ingeborg Lorentzen (1957) ノルウェー王女ラグンヒルの子※画像なし
ダリア・グリバウスカйте (1956) リトアニア大統領

※先祖の初代ギリシア大統領イオアニス・カポディストリアスに似ている。メルケル首相、メイ首相とは優性遺伝子ブリーダーによって生まれた大谷に属する家族であり、旧知の仲だ。第三次世界大戦では悪の主人公となるだろう。



Alexander (1962) ノルウェー王女アストリッドの子※画像なし
ミハイル・ホドルコフスキー (1963) オリガルヒ・ユコス社社長
アダム・シフ (1960) 民主党議員



Carl-Christian (1972) ノルウェー王女アストリッドの子※画像なし
アルセニー・ヤツェニユク (1974) ポロシェンコ政権、人民戦線党

※ヤツェニユクは、先祖である小早川秀秋の顔に良く似ている。

グスタフ6世アドルフの孫



マルガレータ（1934）

アストリッド（1932） ノルウェー王オーラヴ5世の子

ソニア（1937） ノルウェー王ハーラル5世王妃

※アストリッドとソニアはクリソツである。同一人物だろうか。2人はマルガレータの影武者として生まれた。



カール16世グスタフ（1946） ベルナドッテ朝第7代スウェーデン王

※ヴェステルボッテン公グスタフ・アドルフの子。



クリスチャン・カール・ヘニング・ベルナドッテ（1949） カール・ヨハンの子※画像なし
カール・ビルト（1949） 第30代スウェーデン首相
ヨーラン・ペーション（1949） 第31代スウェーデン首相※画像なし
ヴァギト・アレクペロフ（1950） ルクオイル社長

スウェーデン王子グスタフ・アドルフの孫（グスタフ6世アドルフの曾孫）



エドワード（1966） マルガレータの子※画像なし
ネクロブッチャー（1968） メイヘム・メンバー

※エドワードは、ネクロブッチャーに変身してメイヘムに参加したが、今でも唯一メイヘムで活動を続けている。



ジェームズ（1969） マルガレータの子※画像なし

チャールズ・グレイナー（1968） アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者



カール・クリスティアン（1962） ビルギッタの子※画像無し

ジョージ・モンビオット（1963） 環境活動家

スティーヴン・L・ジョーダン（1956） アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者

ステファン・ロベーン（1957） 第43代スウェーデン首相

※温暖化十字軍の新しい顔グreta・トゥーンベリの支援者。結局、家族経営だ。タナトスはわかりやすい。



フーベルトウス（1966） ビルギッタの子※画像無し

デッド（1969～1991） メイヘム・メンバー

Roger Hallam (1966) エクステンクション・リベリオン首領



※画像は初期メイヘムの面々。フーベルトスは、ブラックメタルがやりたくてデッドに変身してメイヘムにヴォーカリストとして参加したが、1991年に自殺したことにしてメイヘムを辞め、ロジャーに変身してイギリスに田舎に引っ込んでいた。だが、最近になって温暖化十字軍の音頭を執り、エクステンクション・リベリオンの首領として活動している。



クリスティーナ・ルーズ (1966) デジレの子※画像なし

ユーロニモス (1968~1993) メイヘム・メンバー



※画像はメイヘムのアルバムジャケットから。ユーロニモスはノルウェーの伝説的ブラックメタルバンド、メイヘムの初期メンバーで、同じバンド・メンバーのヴァルグ（妹ヘレン？）に殺害

されたことでもセンセーションを巻き起こした。実際には、クリスティーナはメタルがやりたくて男に化けてメイヘムのギタリストとして活躍していたにもかかわらず、何らかの事情でやめさせられた。で、ユーロニモスを死んだことにしてプリンセスに戻ったということのようだ。画像は在りし日のユーロニモスだが、非常に女性ぽいのがわかる。



ヘレン（1968） デジレの子※画像なし

ヴァルグ・ヴィーケネス（1973） メンヘム・メンバー、ネオナチ組織ヒーゼン・フロント
首領



※画像はヒーゼン・フロントの旗。ヘレンはクリスティーナの後を追ってメイヘムに加入し、ヴァルグを名乗っていたようだ。ヘレンは、姉であるクリスティーナ（ユーロニモス）を殺害した罪を着て服役した後（?）、現在ではすっかり性転換し、ネオナチ組織ヒーゼン・フロントの首領を務めているようだ。画像は、左が女性時代、右が男性時代である。



カール・グスタフ・ヴィクトール（1975） クリスティーナの子※画像無し

Gail Bradbrook（1972） エクステンクション・リベリオン首領

※タナトスの一族で今流行の性転換者だと考えられる。



Victor Edmund Lennart (1980) ※画像なし

リンディ・イングランド (1982) アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者



※画像はリンディがイラク人を性的に虐待している様子。victorも性転換者のようだ。元は男性だが女性になったようだ。凶悪な顔をしている。ハードなゲイSMを見ているようだ。彼はリンディに変身し、上記画像のようにイラクで囚人たちを虐待し、人権を弄んだ。



ヴィクトリア (1977) カール16世グスタフの子

サブリーナ・ハーマン (1978) アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者



※画像はサブリナがイラク人を虐待している様子。サブリナはヴィクトリアの影武者か、或いはヴィクトリア本人がサブリナに変身し、イラクでいとこのリンディと同じようにイラク人の捕虜をいたぶった。

イングリッドの孫（グスタフ6世アドルフの曾孫）



フレデリック（1968）デンマーク皇太子※マルグレーテ2世の子

スヴァンテ・トゥーンベリ（1969）俳優

ジェフ・フォーショー（1968）gail bradbrookの夫

マニアック（1969）メイヘム・メンバー

※グレッタの父役スヴァンテ・トゥーンベリ、gailの夫役フォーショーはフレデリックの影武者として生まれた。しかし、マニアックはフレデリック本人だと考えられる。顔が良く似ている。皇太子の活動の合間にブラックメタルを演奏してストレスを発散しているようだ。



グスタフ・フリードリヒ・フィリップ・リハルト（1969）デンマーク王女ベネディクテの子

イヴァン・フレデリック（1966）アブグレイブ刑務所における捕虜虐待加害者

ノルウェー王ハーラル5世王妃ソニアの子



マッタ・ルイーセ（1971）ノルウェー王ハーラル5世の子

メッテ=マリット（1973）ノルウェー王太子ホーコン妃

※メッテはマッタの影武者として生まれた。メッテの母親はソニアだが父親は麻生太郎のようだ。タナトスの王である本願寺門主が支配する国、悪の本丸、日本のタナトスの血を欲したソニアが優性遺伝子ブリーダーによって儲たと考えられる。



ホーコン（1973） ノルウェー王太子

アンネシュ・ベーリング・ブレイビク（1979） ノルウェー連続テロ事件

※アンネシュはホーコンの影武者として生まれた。悪役のオーディションに出れば一発で受かるだろう。ホーコンは一応ハーラル5世の子とされているが、ハーラル5世の結婚は偽装結婚のようなので、誰の子かは不明だ。アンネシュも同様であるが、アンネシュの場合は、父親はオーティス・トゥールかもしれない。

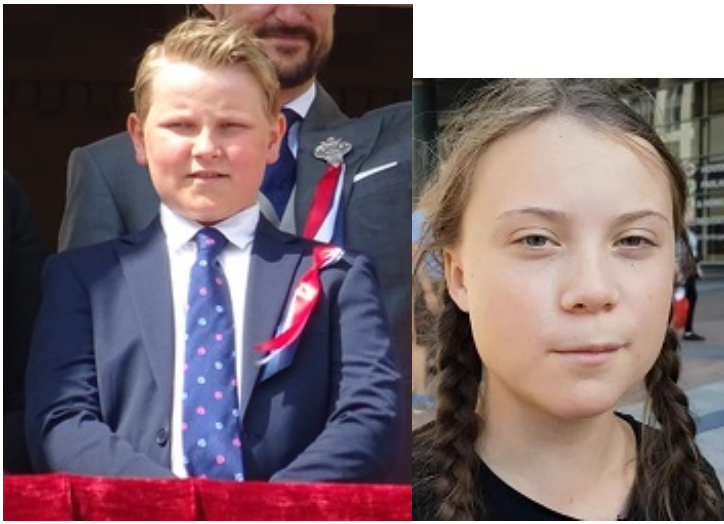
メッテ＝マリットの子



マリウス（1997）※画像無し

Luisa Neubauer（1996） グレタ・トゥーンベリの助言者

※少女時代に荒れていたといわれるメッテは麻薬常習者だった。その時に生まれたのがマリウスと呼ばれる男子だが、そのマリウスは性転換し、luisaになったかもしれない。ミシェル・オバマやフェイスブックCEOの嫁など、最近タナトスの中では流行っているので、あり得る。祖父の太郎とは異なり、口は左に曲がっている。



スヴェレ・マグヌス（2005）

グレタ・トゥーンベリ（2003） 温暖化啓蒙家

※グレタ・トゥーンベリは、スヴェレの影武者として生まれたと考えられる。或いはスヴェレ本人が女装している。グレタも姉と同じように口が左に曲がっている。彼女はスチェパン・ラージン、小早川秀秋（偽ドミートリー）、フィオドシア・モロゾヴァ、ダリヤ・サルトウイコヴァの生まれ変わりだといえる。つまり、彼女はまだ幼いが、この先が思いやられる。

彼女一人で立ち上がったと言われているがウソである。世界中のタナトス一族が全員で協力し、弱い信者を脅して持ち上げている。まるで、フランス兵の士気を上げるために作られたジャンヌ・ダルクを髣髴とさせる。結局、大量の信者を動員して稀代の人物を作り上げているに過ぎない。以下は2019. 9. 24のコメントの全文だ。

私から皆さんへのメッセージ、それは「私たちはあなたたちを見ている」、ということです。私は今、この壇上にいるべきではありません。私は海の向こうで学校に行っているべきです。それなのに、あなたたちは私に希望を求めてここにきたのですか？よくそんなことができますね！

あなたたちは空っぽの言葉で、私の夢そして子供時代を奪いました。それでも私はまだ恵まれている方です。

多くの人たちが苦しんでいます。多くの人たちが死んでいます。全ての生態系が破壊されています。私たちは大量絶滅の始まりにいます。

それなのにあなたたちが話しているのは、お金のことと、経済発展がいつまでも続くというおとぎ話ばかり。恥ずかしくないんでしょうか！**30**年以上にわたって、科学ははっきりと示してきました。それに目をそむけて、ここにやって来て、自分たちはやるべきことをやっている、どうして言えるのでしょうか。必要とされている政治や解決策はどこにも見当たりません。

あなたたちは私たちに“耳を傾けている”、そして緊急性を理解していると言います。しかしどれだけ私が怒り悲しんでいようとも、私はそれを信じたくありません。なぜなら、もしあなたたちが状況を理解していながら行動を起こしていないのであれば、それはあなたたちが邪悪な人間と

ということになるからです。私はそれを信じたくありません。

二酸化炭素排出量を**10年**で半分に減らしたとしても、地球の平均気温を**1.5°C**以下に抑えるという目標を達成する可能性は**50%**しかありません。そしてそれによる取り戻しのつかない連鎖反応を埋め合わせることは、制御不能になります。

あなた方は**50%**でいいと思っているのかも知れません。しかしその数字には、ティッピング・ポイント（小さな変化が集まって、大きな変化を起こす分岐点）やフィードバックループ（フィードバックを繰り返して改善していくこと）、空気汚染に隠されたさらなる温暖化、そして環境正義や平等性などの要素は含まれていません。そして、私たちや私たちの子供の世代に任せっきりで、何千億トンもの二酸化炭素を吸っている。私たちは**50%**のリスクを受け入れられません。私たちは、結果とともに生きなければいけないのです。

「気候変動に関する政府間パネル」が発表した、地球の温度上昇を**1.5°C**以下に抑える可能性を**67%**にするために残っている二酸化炭素の量は、**2018年1月**の時点で**420**ギガトンでした。今日、その数字はすでに**350**ギガトンにまで減っている。

なぜこれまでと同じやり方で、そしていくつかの技術的な解決策があれば、この問題が解決できるかのように振舞ってられるのでしょうか。現在の排出量レベルを続ければ、残っているカーボンバジェット（温室効果ガス累積排出量の上限）は、**8年半**以内に使い切ってしまう。しかしこの現状に沿った解決策や計画は作られないでしょう。なぜならこの数字は、とても居心地が悪いから。そしてあなたたちは、それを私たちにはっきりと言えるほど十分に成熟していない。あなたたちは、私たちを失望させている。しかし、若い世代はあなたたちの裏切りに気づき始めています。未来の世代の目は、あなたたちに向けられている。もしあなたたちが裏切ることを選ぶのであれば、私たちは決して許しません。私たちはこのまま、あなたたちを見逃すわけにはいかない。今この場所、この時点で一線を引きます。世界は目覚め始めています。変化が訪れようとしています。あなたたちが望もうが望むまいが。

※「私たちは大量絶滅の始まりにいます」。これはタナトスの断末魔の声と考えてよかろう。基本的には子供を怒らせたり泣かせることでダヴィデの一族の罪悪感を刺激してひるませようというタナトスの魂胆がある。しかしその手はもう通用しない。

ただ、一方では「あなたたちは私たちを失望させている。～裏切ることを選ぶのであれば私たちは決して許しません。私たちはこのままあなたたちを見逃すわけには行かない」までの文章は、宇宙人の気象攻撃に疲れ、悪の命令を聞くことに懐疑的になって離反を考えている全地球上の邪教信者たちに充てたものだ。このようなことを言うようであれば、もうタナトスは終わっている。さようなら。

また、彼女は「私は学校にいるべきだ」と謙遜しているが、そこまで専門的な知識、言葉に精通しているのだから不要だろう。もう就職したらいい。しかし、大勢の大人の前であれだけ心を込めてウソが言える。恐ろしいことだ。まるで罪悪感がない。16歳だが戦慄を呼ぶ顔だ。タナトス特有の人間を食べる時の顔だ。アルセニー・ヤツェニユクよりは頼りになるなw

良如の一族～保科正之、徳川綱吉、生類憐みの令、火付盗賊改、子供を殺すための法律「ブラック法」、大英帝国、オックスフォード＝アスキス伯爵、M I 6長官



良如（1612～1662）

呉三桂（1612～1678）

保科正之（1611～1673）

ウィリアム・ランポート（1611～1659） メキシコ独立運動※画像なし

中国：三藩の乱（1673）

※良如は、徳川家の動向を間近で観察するため、保科正之として潜入していた。保科は、徳川家綱として生まれた東本願寺の常如の幼少期を大事に面倒をみた。また、良如は中国に侵入して呉三桂となるが、おもしろいことに大事に育てた常如（家綱）と組んで三藩の乱を指揮した。また、良如は故地であるメキシコにも進出し、ウィリアム・ランポートとして小規模なメキシコ独立運動を指揮した。呉三桂が66歳で死ぬまで、良如は4人の人物を演じていたことになる。

保科正之（良如）の子

保科幸松（1634～1638）

徳川光貞（1627～1705） 紀州藩第2代藩主

中山直守/中山勘解由（1633～1687） 火付盗賊改方

※兄弟である綱吉の生類憐みの令の発想につながるが、火付盗賊改方とは敵の汚名を着せて速やかに排除する術である。このため、平和だったと謳われる江戸時代は、じつはヨーロッパの魔女狩りと同じように暗澹で悲惨な状況下にあった。本願寺は、あらゆる人間の本能に罪の名を着せることで、どんな人物をも悪党に変えることが出来た。浄土真宗信徒以外の庶民にとっては非常に生き苦しい時代だった。



保科正頼（1640～1657）※画像なし

松平吉品（1640～1711） 越前松平家、福井藩第7代藩主

柳沢吉保（1659～1714） 綱吉寵臣、幕府側用人、川越藩主、甲府藩初代藩主



保科正経（1647～1681）

徳川綱吉（1646～1709） 征夷大將軍

隆光（1649～1724） 新義真言宗

林鳳岡（1645～1732） 儒学者※画像なし

日本：生類憐みの令（1687）

イギリス：ブラック法（1709）

イギリス：ロンドン、人間狩り（1712）

ベンガル：ブラックホール事件（1717）

※綱吉は当初、保科正之の子保科正経として生まれた。綱吉は正経を演じながら、隆光や林鳳岡なども演じた。危険が迫ったら潜伏できるようにいろんな人物を用意するのだ。狡猾な大谷の子、綱吉は生類憐みの令のような悪法をキメるにあたり、隆光という存在しない人物が「自分に悪法を勧めた」と設定することで「生類憐みの令の発想は自分の意志ではない」とし、批判や非難を事前に回避している。魔女狩りと生類憐みの令の骨子が酷似していることがわかる。生類憐みの令は動物愛護が目的ではない。敵を殺すのが目的であった。悪（タナトス）の敵とは善人である。金を盗ると善人は怒る。しかも他人から盗っても善人は横から首を突っ込んできて怒る。許せない。そこで、常々、悪は善人を殺したい、日本から撲滅したいと考えていた。だが、普通に善人を殺せば人殺しになってしまう。人殺しは処罰されなければならない。しかし、人殺しでなければ処罰されることはない。

人を殺して喜ばれるのは悪人を殺した時である。悪人を殺せば正義の味方となるのだ。ということは、善人が悪であれば善人の殺害も可能となる。しかし、善人は待っていてもなかなか悪に手を染めない。そこで隆光は考えた。善人でもすること（畑を荒らす猿、猪、鹿、人を咬む野良犬など害獣を殺すこと）を禁止事項に設定した法律を定めれば、一瞬で善人を悪に変えることが出来る。それが「生類憐れみの令」の正体である。生類憐みの令は、善人を悪人に変換する装置であった。現代人は、よく生類憐みの令を引っ張り出しては無能な政策だとバカにする。だが、その実態は人権を軽視した非常に恐ろしいものだった。善を蹂躪し、高貴な精神を踏みにじり、悪を正当化するのだ。

善人が確実に悪に手を染める（動物を傷つける）ように隆光が属す新義真言宗だけでなく、浄土真宗・曹洞宗の信者も自腹でタナトスの教団連合に手を貸した。例として、いち信者が標的の前に犬を放ち「泥棒犬だ！捕まえてくれ！」と呼びかける。すると善人は犬を捕まえる。しかし、そこに憤懣やる方ない飼い主が出現して、善人を捕まえ「ウチの犬を捕まえて殺そうとした」とお上に陳情する（2人の人物は信者であり、敵を殺すために一芝居打つのだ）。すると生類憐みの令が起動し、捕縛された善人は有罪を受けるために出廷し、そのまま打ち首になる。この時、殺人は起きていない。犬を殺そうとした悪人が処罰されただけのことである（タナトスの教団は当時から日本国のインフラを完全支配しているため、信者がどんな下手な芝居を打っても、どんなに辻褃が合わないウソをついても、それは「真実」でしかない）。こうして、この時期に多くの善人が殺され、日本の善人人口は著しく激減した。

中山勘解由が敵を排除するために始めた火付盗賊改方は、町人に限らず、武士、僧侶であっても疑わしい者を容赦無く検挙することが認められていた。そして当然なことだが、誤認逮捕等の冤

罪も多かった。人々は町奉行を「檜舞台」と呼んだのに対し、火付盗賊改方を「乞食芝居」と呼び、一方の捜査機関たる町奉行所の同心・与力からも嫌われていた。

これにより1699年（元禄12年）、盗賊改と火付改は廃止され、三奉行（寺社奉行、勘定奉行、町奉行）の管轄になる。だが、赤穂事件があった1702年（元禄15年）、つまり、生類憐みの令を作った徳川綱吉の時代に、盗賊改が復活し、博打改が加わる。翌年、火付改が復活した。人々の本能を弾圧し、自分の思い通りに人々を支配下に置くためである。

その後、綱吉は死んだことにして日本を逃れてイギリスに渡った。隆光は、血の法典を発展させ、悪名高い「ブラック法」を設けた。これは生類憐みの令と全く同じものである。目的は殺人であるが、生類憐みの令が敵を殺すことを目的にしていたことに対し、ブラック法は主に子供を殺すことが目的だった。

死刑に該当する罪状は50、例として、小間物商の帳簿を偽造した10歳の少年が詐欺罪で処刑された他、7歳の少女が放火犯として処刑された記録が残っている。この他にも、多くの児童が万引きなどで処刑されているが、17世紀から19世紀初頭にかけて、イギリスは世界一子供を処刑する国として悪名を馳せた。その裏には、生類憐みの令や火付け盗賊改め方などで江戸庶民を苦しめた徳川綱吉の一族がいたのだ。

ブラック法は、明らかに子供の殺人が目的であり、罪状もすべて単なる濡れ衣であった。可能性としては、子供の肉を得るのが目的だった。イングランドは凄惨な魔女狩りから逃れたが、血の法典時代によって、多くの優秀な児童が汚名を着せられて排除された。綱吉の分身である新義真言宗の僧侶隆光は、「M16」の前身を形成した。M16とは弥勒（みろく）のことである。

また、綱吉は影武者用に庶子を大勢同行させていたが、庶子たちにロンドンで人間狩りをすることを命じた。これはタナトスの大人になる儀式である。楽しみながら殺人もできないようでは一人前のタナトスとは言えないのだ。綱吉の庶子たちは「モホーク団」と呼ばれた。彼らは、娼婦や老婆などの女性を襲い、猫が鼠を弄ぶように、遊び感覚で殺人のやり方と心構えを会得した。その後、軍に所属してインドに配置された数人はベンガルとブルボン朝の連合を攻撃するためにイギリス人123人を狭い牢獄に押し込めて窒息死させた。「ブラックホール事件」と呼ばれるが、イギリス軍は「リメンバー・ブラックホール」を合言葉にベンガルに侵略戦争を仕掛けた。第三者の目で見ると、イギリス軍は同じ同胞を惨たらしく殺害した悪党を成敗したに過ぎない。これが大谷のやり方である。



保科正純（1652～1671）※画像なし

中山直房（1657～1706） 火付盗賊改方※画像なし

山田浅右衛門（1657～1716） 死刑執行人※画像なし

エヴリン・ピアポント（1655～1726） 初代キングストン＝アポン＝ハル公爵・ウォルポール内閣・王璽尚書

※生没年が不詳の保科正純は死刑執行人として知られる山田浅右衛門の祖となった。その後、保科正純は兄弟である綱吉と共にイギリスに渡ったと考えられる。そのため、情報がない。彼はエヴリン・ピアポントを称し、子供を殺すことを目的として「ブラック法」を1723年に制定した。

吉宗の時代、1718年（享保3年）には、盗賊改と火付改は、「火付盗賊改」に一本化されて先手頭の加役となり、1862年（文久2年）には先手頭兼任から独立、加役から専任制になった。博打改は火付盗賊改ができた年に、町奉行の下に移管されている。本願寺はどうしても人々を殺す法律を制定したがるということが分かるだろう。誰にも勝てないゆえに。誰にも好かれないゆえに。

誰にも勝てない誰にも好かれない本願寺のような人間が好き勝手するには、邪魔者を排除する法律がどうしても必要なわけだ。法律があれば、例え本願寺のように無力で無能な人間でも問答無用で邪魔者を排除できる。



松平正容（1669～1731）※画像なし

毛利吉就（1668～1694） 長州藩第5代藩主※画像なし

松平吉透（1668～1705） 越前松平家。松江藩第4代藩主※画像なし

毛利吉広（1673～1707） 長州藩第4代藩主、吉就の実弟※画像なし

島津吉貴（1675～1747） 薩摩藩第4代藩主※画像なし

ヘンリー・ボイル（1669～1725） 初代カールトン男爵・ウォルポール内閣枢密院議長

※松平吉透は毛利吉就でもあったが、彼は綱吉と共にイングランドに渡り、ヘンリー・ボイルを称して、子供を殺すことを目的として「ブラック法」を1723年に制定した。

徳川光貞（保科幸松）の子



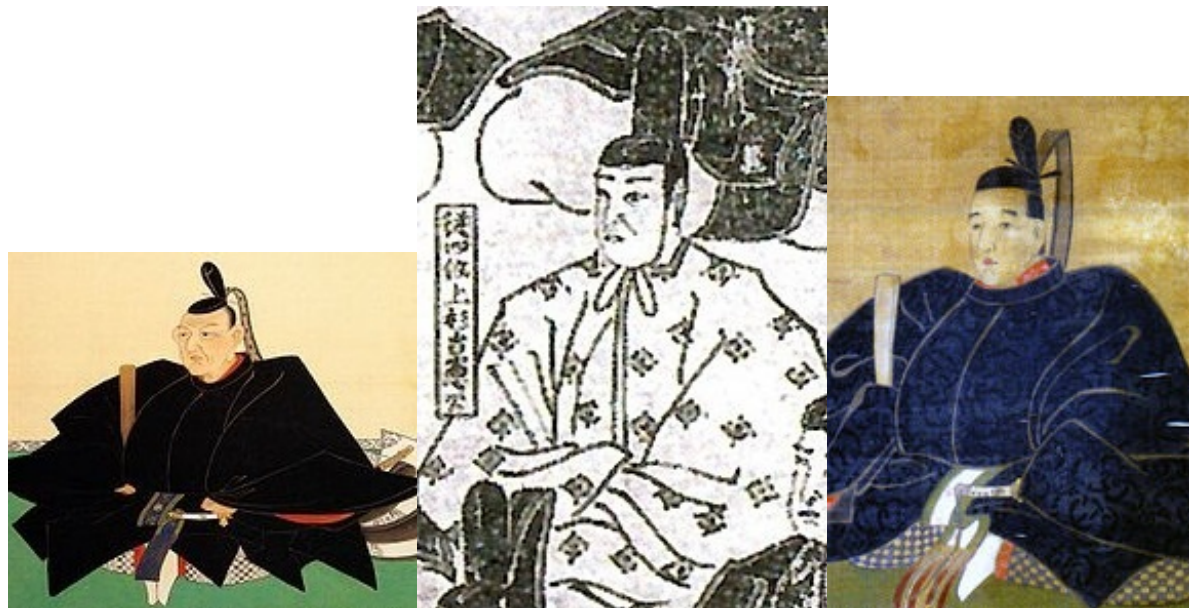
徳川綱教（1665～1705） 鶴姫と結婚※画像なし

鍋島吉茂（1664～1730） 佐賀藩第4代藩主

越智吉忠（1663～1724） 甥（兄・綱重の子）、家宣の実弟、のちの松平清武

トマス・パーカー（1666～1732） 初代マクルズフィールド伯爵・ウォルポール内閣大法官

※綱吉の娘鶴姫の婿とされているが綱吉の実子だと考えられる。綱教は死んだことにしてイギリスに渡った綱吉と行動を共にし、イギリスではトマス・パーカーを称した。子供を殺すことを目的として「ブラック法」を1723年に制定した。



- | | |
|------------------|-------------------------------|
| 徳川吉宗 (1684~1751) | 紀州徳川家藩主、第8代将軍 |
| 上杉吉憲 (1684~1722) | 米沢藩第5代藩主 |
| 徳川吉孚 (1685~1709) | 水戸徳川家世子※画像なし |
| 池田吉泰 (1687~1739) | 鳥取藩第3代藩主 |
| 柳沢吉里 (1687~1745) | 吉保の嫡子。甲府藩第2代藩主、大和郡山藩初代藩主※画像なし |
| 徳川吉通 (1689~1713) | 尾張徳川家。尾張藩第4代藩主※画像なし |
| 細川吉利 (1689~1706) | 熊本藩世子※画像なし |
| 二条吉忠 (1689~1727) | 二条家当主※画像なし |
| 前田吉徳 (1690~1745) | 加賀藩第5代藩主※画像なし |

徳川綱吉 (保科正経) の子



徳川徳松（1679～1683）

毛利吉元（1677～1731） 長州藩第5代藩主、吉広の養嗣子

池田吉政（1678～1695） 岡山藩世子※画像なし

伊達吉村（1680～1752） 仙台藩第5代藩主

松平吉邦（1681～1722） 越前松平家。吉品養子。のち福井藩第8代藩主※画像なし

浅野吉長（1681～1752） 広島藩第5代藩主※画像なし

黒田吉之（1682～1710） 福岡藩世子※画像なし



尊統法親王（1696～1711） 有栖川宮幸仁親王皇子

蜂須賀吉武（1692～1725） 徳島藩世子

トマス・ペラム＝ホールズ（1693～1768） 第4、6代イギリス首相 任期1754～56、1757～62

※特に、蜂須賀吉武は1725年に死んだことにしてイギリスに渡り、トマス・ペラム＝ホールズとして1754年にイギリス首相に就任している。蜂須賀吉武はイギリス首相に就任することで、その権威を以てタナトスの家族が実施していたロンドンの人間狩りの犯罪を隠蔽した。尊統法親王は養子とされているが、昔はよその女に生ませた子を養子として迎え入れることは多かった。つまり、綱吉は自力で或いは優性遺伝子ブリーダーによって尊統法親王を儲けた。

徳川吉宗の子



徳川宗武（1716～1771）※画像なし

ジェフリー・アムハースト（1717～1797） イギリス軍将軍

※徳川宗武はイギリスに渡り、そこから更にアムハースト将軍としてアメリカ植民地にも赴いた。アムハースト将軍は、インディアンは根絶されなければならないという発想を持っていた。彼は、幾つかのインディアン集落と平和協定を結んだが、天然痘の菌を染み込ませた布団、ハンカチを配布し、インディアンの集落を死滅させた。

44歳で死んだことになっている徳川宗武は、結局、アムハースト将軍としてイギリスで81歳まで生きた。



徳川宗尹（1721～1765）

ウィリアム・キャヴェンディッシュ（1720～1764） 第5代イギリス首相 任期1756～57

※徳川宗尹はイギリスに渡り、ウィリアム・キャヴェンディッシュを演じた。生没年が1年違いなのが興味深い。

前田吉徳（徳川吉宗）の子



前田重熙（1729～1753）※画像なし

チャールズ・ワトソン=ウェントワース（1730～1782） 第9、13代イギリス首相
任期1765～66、82



前田重靖（1735～1753）

ウィリアム・キャヴェンディッシュ=ベンティンク（1738～1809） 第15、20代イギリス首相

前田治脩（1745～1810）

長谷川宣以（1745～1795） 旗本、火付盗賊改役

池田吉泰（徳川吉宗）の曾孫



池田治道（1768～1798）

アーサー・ウェルズリー（1769～1852） 第25、28代イギリス首相 任期1728～30、1734

ナポレオン戦争で軍功を重ね、最終的に1815年のワーテルローの戦いでは同年のナポレオンと会戦し、彼を打ち破った軍人として知られる。状況に応じた戦いを周到に行う名人だった。軍人としての最終階級は陸軍元帥。

トーリー党の政治家としても活躍し、ジョージ4世とウィリアム4世の治世中、二度にわたって首相を務めた（在職1828年-1830年、1834年）。ヴィクトリア朝前期にも政界の長老として活躍した。アーサー・ウェルズリー-wikiより

前田重教の子（前田吉徳/徳川吉宗の孫）



前田齊敬（1778～1795）※画像なし

ウィリアム・ラム（1779～1848） 第27代イギリス首相 任期1834



前田齊広（1782～1824）※画像なし

ロバート・ピール（1788～1850） 第29、30代イギリス首相 任期1731～35、1741～46

前田吉徳（徳川吉宗）の曾孫



前田利命（1800～1805）※画像なし

エドワード・スミス＝スタンリー（1799～1869） 第33、36、39代イギリス首相

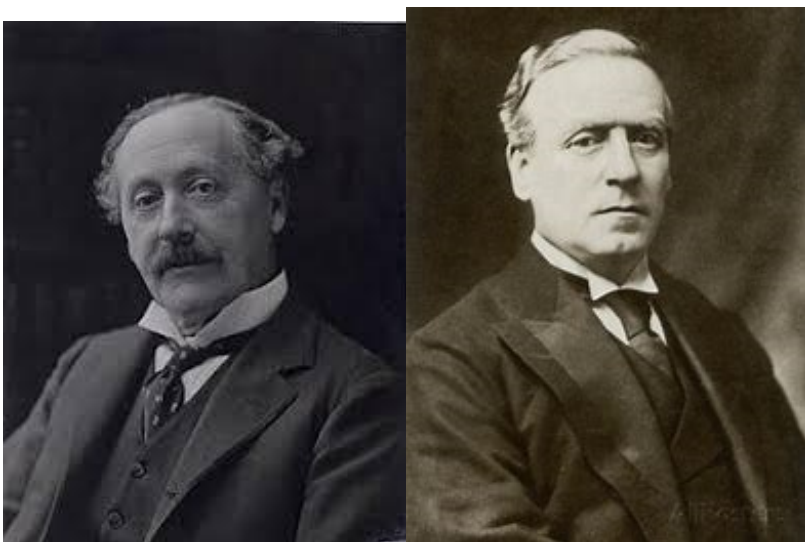


前田齊泰（1811～1884）

ウィリアム・グラッドストーン（1809～1898） 第41、43、45、47代イギリス首相

※前田齊泰とグラッドストーンは人種を超えて良く似ている。異母兄弟だろう。以上、9人のイギリス首相を輩出しているが、世界を股にかけて大英帝国の貪欲なまでの強い征服欲は本願寺のものだったことがわかる。

ウィリアム・グラッドストーン（前田齊泰）の子



前田簡之允（1849）※画像なし

ハーバート・グラッドストーン（1854～1930）

ハーバート・ヘンリー・アスキス（1852～1928） 第52第イギリス首相 任期1908～1916



前田利同（1859～1921）※画像なし

マンフィールド・スミス＝カミング（1859～1923） MI6初代長官

※ハーバート・ヘンリー・アスキス首相が秘密情報部（MI6）の創設を提唱し、影武者であるマンフィールド・スミス＝カミングがMI6初代長官に就任した。カミングは影武者だけにアスキスに良く似ているが、スパイという職務は影武者に相応しい仕事である。新義真言宗の子孫らしく、MI6の由来は弥勒である。

ハーバート・グラッドストーンは他の2人と似ていないが、3人ともジョン・グラッドストーンの子に間違いない。おもしろいことに、ハーバート・グラッドストーンよりも、アスキスの方がジョン・グラッドストーンに似ている。アスキスの由来はASSKISSだと考えられる。実にイヤミなタナトスらしい。

ハーバート・ヘンリー・アスキス（前田簡之允）の子



Raymond Asquith (1878~1916)

ヒュー・シンクレア (1873~1939) MI6第2代長官



Cyril Asquith (1890~1954)

スチュアート・メンジーズ (1890~1968) MI6第3代長官

Cecil Graves (1892~1957) BBC3代事務局長※画像なし

Frederick Ogilvie (1893~1949) BBC2代事務局長

Robert Foot (1889~1973) BBC4代事務局長※画像なし



Elizabeth Bibesco (1897~1945)

ポール＝アンリ・スパーク (1899~1972) NATO第2代事務総長

ディルク・スティッケル (1897~1979) NATO第3代事務総長

Ian Jacob (1899~1993) BBC6代事務局長※画像なし

William Haley (1901~1987) BBC5代事務局長

※ディルク、スパークはエリザベスの影武者として生まれた異母兄弟である。幼少時は女子の格好をして影武者として働いた。その後、エリザベスが無事に成人するとディルク、スパークは影武者から独立した。

ハーバート・ヘンリー・アスキスの孫



Lady Perdita Rose Mary Asquith (1910~1996) Raymond Asquithの子※画像なし
Hugh Greene (1910~1987) BBC 7代事務局長



Julian Asquith (1916~2011) Raymond Asquithの子
ハロルド・ウィルソン (1916~1995) 第67、69代イギリス首相 任期1964~
70、1974~76
エドワード・ヒース (1916~2005) 第68代イギリス首相 任期1970~1974

※ウィルソンとヒースの名はビートルズを聞いていれば耳にしているだろう。まさにビートルズ時代の首相である。ただ、ジョージ・ハリソンは「TAXMAN」でウィルソンをこきおろしているのひどい時代だったのだろう。イギリスのロックスターがみなイギリスを脱出して、税金が安いアメリカに移った話も良く聞く。

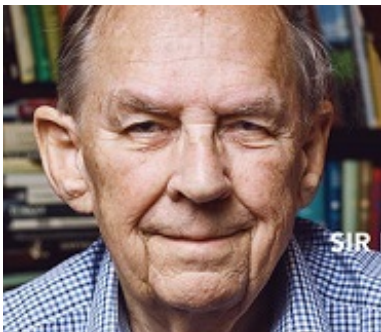


Mark Bonham Carter (1922～1994) Violet Bonham Carterの子
Charles Curran (1921～1980) BBC 8代事務局長※画像なし
Ian Trethowan (1922～1990) BBC 9代事務局長※画像なし



Raymond Bonham Carter (1929～2004) Violet Bonham Carterの子
Alasdair Milne (1930～2013) BBC 10代事務局長※画像なし
コリン・マコール (1932) MI6第11代長官※画像なし

ハーバート・ヘンリー・アスキスの曾孫



Andrew Grimond (1939～1966) Laura Grimondの子※画像なし
Michael Checkland (1936) BBC 11代事務局長

※checklandは、冷戦終焉キャンペーンを指揮した。



Grizelda "Gelda" Grimond (1942 ~ 2017) Laura Grimondの子※画像なし

John Birt (1944) BBC 12代事務局長

デービッド・スペディング (1943) MI6第12代長官※画像なし

※Birtは、911やイスラムテロ撲滅キャンペーンを指揮した。



John Grimond (1946) Laura Grimondの子※画像なし

ジョン・スカーレット (1948) MI6第14代長官

リチャード・ディアラブ (1945) MI6第13代長官※画像なし

Greg Dyke (1947) BBC 13代事務局長

Tony Hall (1951) BBC 18代事務局長 任期2013~present

※hallは、文如の一族と共にロシア、中国、トランプ大統領に対して弾劾キャンペーンを指揮している。



Magnus Grimond (1959) Laura Grimondの子※画像なし

Mark Byford (1958) BBC 14代事務局長

Mark Thompson (1957) BBC 15代事務局長

ジョン・サワーズ (1955) MI6第15代長官



エドワード・ボナム・カーター (1960) Raymond Bonham Carterの子※画像なし

George Entwistle (1962) BBC 16代事務局長※画像なし

アレックス・ヤンガー (1963) MI6第16代長官

アンドリュー・ウィッティアー (1964) グラクソ・スミス・クライン製薬社長

※ヤンガー、ウィッティアーはカーターの影武者として生まれた異母兄弟と考えられる。どちらもウソをつくための権威。ヤンガーはスクリパリ事件を指揮し、ロシア政府を攻撃している。



Thomas Bonham Carter (196?) Raymond Bonham Carterの子※画像なし

Tim Davie (1967) BBC 17代事務局長

寂如の一族～女帝エカチェリーナ、秘密結社イルミナティ、ナチス帝国、特高警察、モサド、中央情報局、アメリカ連邦捜査局



寂如（1651～1725）

クレメンス11世（1649～1721） ローマ教皇 在位1700～1721

サムイル・スカヴロンスキー（生没年不詳）※画像なし

ポーランド：ポーランド内乱（1715）

※クレメンス11世は、ロシア制覇を見据え、ポーランドで内乱を指揮したが、鎮圧された。しかし、寂如の子であるエカチェリーナ1世はピョートル大帝の妻になることに成功し、ロシアの王家を篡奪する準備が整えられた。

サムイル・スカヴロンスキー（寂如）の子



エカチェリーナ1世（1684～1727） ロシア皇帝



エカチェリーナ2世（1729～1796） ロシア皇帝 エカチェリーナ1世の子

ロシア：ピョートル3世暗殺（1762）

ロシア：ポーランドの内政に干渉（1766）

ロシア：イルクーツクに日本語学校建設（1768）

ロシア：第1次ロシア・トルコ戦争（1768～1774）

ロシア：ロシア・スウェーデン戦争（1788～1790）

※ローマ教皇となった寂如は、優性遺伝子ブリーダーによってエカチェリーナ1世を生むと、ロシア王室テイキングオーバーの手はずを整え、正統なロマノフ家を退けてロシア帝国に君臨した。寂如の子孫のロシア統治はアレクサンドル2世まで続いた。アレクサンドル1世の時に、父ピョートル3世の敵討ちとしてナポレオン・ボナパルト皇帝がロシアに進撃している。

エカチェリーナ2世の子



パーヴェル1世（1754～1801） ロシア皇帝 エカチェリーナ2世の子

アダム・ヴァイスハウプト（1748～1830） イルミナティ創設者

今川義彰（1756～1818） 今川家当主※画像なし

※パーヴェル1世は暗殺されたことにして逃亡し、日本に潜伏した。彼は今川義彰に名を変え、今川家当主となった。その後、日本からバイエルンに移り、ナチスの礎となる、あの陰謀論で知られる「イルミナティ」を創設している。寂如の一族の系譜を見ると分かるが、寂如の一族は日本では特高警察を、バイエルンではナチスを、イスラエルではモサドを、アメリカではCIA、FBIなどの秘密結社を生み続け、現代の悪ディープステートに貢献していた。こうしてみると、悪の元凶をイルミナティと呼ぶのもあながち間違いではないのだな。ただ、イルミナティはもうない。正しくは西本願寺門主寂如の一族である。

パーヴェル1世の子



アレクサンドル1世（1777～1825） ロシア皇帝 パーヴェル1世の子



ニコライ1世（1796～1855） ロシア皇帝 パーヴェル1世の子



アレクサンドル2世（1818～1881） ロシア皇帝 アレクサンドル1世の子
ルイトポルト・フォン・バイエルン（1821～1912） バイエルン摂政

- ロシア：ロシア・イラン戦争（1804～1813）
- ロシア：スウェーデンからフィンランドを奪う（1808）
- ロシア：デカブリスト処刑（1825）
- ロシア：第1次バルカン戦争（1828）
- ロシア：ハンガリー独立運動鎮圧（1847）
- ロシア：クリミア戦争（1854）
- ロシア：ロシア・トルコ戦争（1877）

※正統なロマノフ家は侵略本能を持っていなかったが、大谷がロシア帝国をテイキングオーバーすると、ロシア帝国はいきなり近隣諸国に対して武力行使を始めた。現在、北欧やバルト海、ポーランドのタナトスは、ロシア連邦を批判する時、この時期のロシアのみを引き合いに出して憚らない。大谷が主導していた時期のロシアは、オスマントルコ帝国を執拗に攻撃しているが、オスマントルコ王室が世界に有能な皇帝を輸出していることを大谷は知っていたのだろうか？その通り。大谷は、優性遺伝子ブリーダーからオスマントルコ王室が築いた血筋の秘密を聞きだし、ナポレオンの子たちの動向もすべて把握していた。だが、自身の血筋の秘密については一切口外無用だった。

アレクサンドル3世の頃からは、バイエルン王国の獲得を標榜していた。バイエルンを基地にヨーロッパの征服を企んでいたようだ。アレクサンドル2世は庶子の異母兄弟を影武者として投入し、バイエルンに足がかりを得、摂政としてバイエルンを支配した。一緒に連れてきた古儀式派の信者を召使として登用し、ルートヴィヒ2世の周囲に設置して精神的なイヤガラセを続けた。そのためにルートヴィヒ2世は精神疾患となった。

アレクサンドル2世の子



アレクサンドル3世（1845～1894） ロシア皇帝
ルートヴィヒ3世（1845～1921） バイエルン王

※アレクサンドル3世はルイトポルト・ヨーゼフ・マリア・アロイス・アルフリーと称し、摂政ルイトポルト（アレクサンドル2世）の子としてバイエルンに君臨した。アレクサンドル3世は父のように連れてきた古儀式派の信者を徴用してルートヴィヒ2世を取り囲み、度重なるイヤガラセで精神的に追い込んだ。父ルイトポルトが死去すると、アレクサンドル3世はバイエルン王国の摂政の座に就き、次にオットー1世に対して嫌がらせを続けた。これにより、2人の兄弟は精神疾患の汚名を着せられた。



セルゲイ・アレクサンドロヴィッチ（1857～1905）
テオドール・ロイス（1855～1923） 東方聖堂騎士団指揮者、イルミナティ復興運動



パーヴェル・アレクサンドロヴィッチ（1860～1919）※画像なし
フィリップペタン（1856～1951） ヴィシー政権フランス首相
レオポルド・エンゲル（1858～1931） イルミナティ復興運動

※ヴェル・ディヴ事件（Rafle du Vél' d'Hiv）は、第二次世界大戦下、ナチス・ドイツの占領下にあったフランスで1942年7月16日～17日に行われた最大のユダヤ人大量検挙事件である。本質的には外国から避難してきた無国籍のユダヤ人を検挙するためのものだったとされる。1942年の7月、ナチスはヨーロッパ各国でユダヤ人を大量検挙することを目的とした「春の風」作戦（Opération Vent printanier）を計画した。フランスにおいては、ヴィシー政権がフランス警察を動かし作戦を実行した。パリで9000人にも及ぶ警察官と憲兵が動員された。警察庁の記録によれば、7月17日の終わりには、パリと郊外での検挙者数は1万3152人で、そのうち4115人が子供だった。

ヴェロドローム・ディヴェール（Vélodrome d'Hiver）とは冬期競輪場のことで、本事件で用いられた中間収容施設の中で最も大きかった。最初、検挙されたユダヤ人達の多くは5日間、ここに閉じ込められた。競技場に屋根はなく、真夏の太陽が照り付ける中、食料や飲料水をほとんど与えられず、トイレも少なかった。身動きもできないまま、飢えと渇きと臭気に襲われ、その光景は人間に対する冒涇そのものであった。

その後、アウシュビッツを初めとする東欧各地の絶滅収容所へと送られた。収容所生活の中で、終戦までに生き延びたのは100人に満たない大人のみで、子供は生き残らなかったという。 w i k i より

アレクサンドル3世の子



アレクサンドル・アレクサンドロヴィッチ（1869～1870）※画像なし

フランツ・フォン・エップ（1868～1947） ナチス国防政策全国指導者、植民政策全国指導者

シグムント・リヴィングストン（1872～1946） 名誉毀損防止同盟創設

※アレクサンドルは1歳で早世したことにしてエップ家でフランツとして育てられた。違う名前が無ければ家族であることがばれるからだ。



ゲオルギー・アレクサンドロヴィッチ（1871～1899） ロシア大公

コンスタンティン・ヒールル（1875～1955） ナチス労働全国指導者、国家労働奉仕団
総裁

※ヒールルは、ゲオルギーの影武者として生まれた。異母兄弟の庶子である。



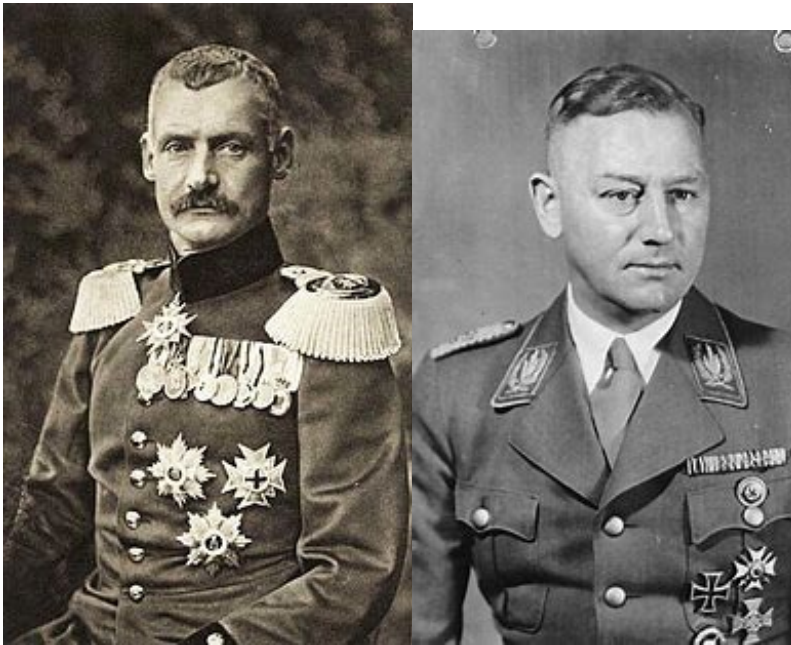
ミハイル・アレクサンドロヴィッチ (1878～1918)

ヴィルヘルム・フリック (1877～1946) ナチス国会議員団団長

ジョージ・C・マーシャル (1880～1959) トルーマン政権国務長官

※フリックは、ミハイルの影武者として生まれた。異母兄弟の庶子である。

ルートヴィヒ3世 (アレクサンドル3世) の子



ループレヒト・マリア・ルイトポルト・フェルディナント (1869～1955) バイエルン王太子

ヴィクトール・ルッツェ (1870～1943) ナチス突撃隊幕僚長

※ルッツェは、ループレヒトの影武者として生まれた。全然似ていないが、異母兄弟の庶子である。



フランツ・マリア・ルイトポルト（1875～1957）

フランツ・クサーヴァー・シュヴァルツ（1875～1947） ナチス財政全国指導者

ハイム・ヴァイツマン（1874～1952） イスラエル初代大統領

アルバン・ウィリアム・バークリー（1877～1956） トルーマン政権副大統領

ヤコフ・ユロフスキー（1878～1938） 皇帝ニコライ2世殺害実行犯

※シュヴァルツは、フランツの影武者として生まれた。全然似ていないが異母兄弟の庶子である

。



ノーブルガ・カロリーナ・マリア・テレジア（1883） ※画像なし
ヴァルター・ブーフ（1883～1949） ナチス党最高裁判所長
イツハク・ベンツビ（1884～1963） イスラエル第2代大統領
ハリー・S・トルーマン（1884～1972） アメリカ大統領

※ブーフは誕生時に女子とされたが、更に早世したことにしてブーフ家でヴァルターとして育てられた。違う名前が無ければ家族であることがばれるからだ。兄ループレヒト・マリア・ルイトポルト・フェルディナントに良く似ている。

ブーフの異母兄弟は影武者として活動したが、第二次大戦後、独立してそれぞれベンツビ、トルーマンとして生きベンツビとトルーマンは良く似ている。以前、他の電子書籍でトルーマンのことをタナトス系シベリア人と宇宙人の混血としたが、これを改めたい。トルーマンは寂如の子孫である。彼はダヴィデの一族に属するルーズベルト大統領を暗殺し、自身がアメリカ大統領として収まった。つまり、ナチス党員がアメリカ大統領になったも同然だ。

トルーマンは、先祖である本願寺を助けるために海賊の子孫が多い広島と長崎に原爆を落とし、アメリカ国内の敵を一掃するために「赤狩り」を指揮した。赤狩りの指揮者としてトルーマンの名は出てこないが、それがトルーマンが背後にいた証拠でもある。赤狩りはトルーマンの指揮で間違いない。

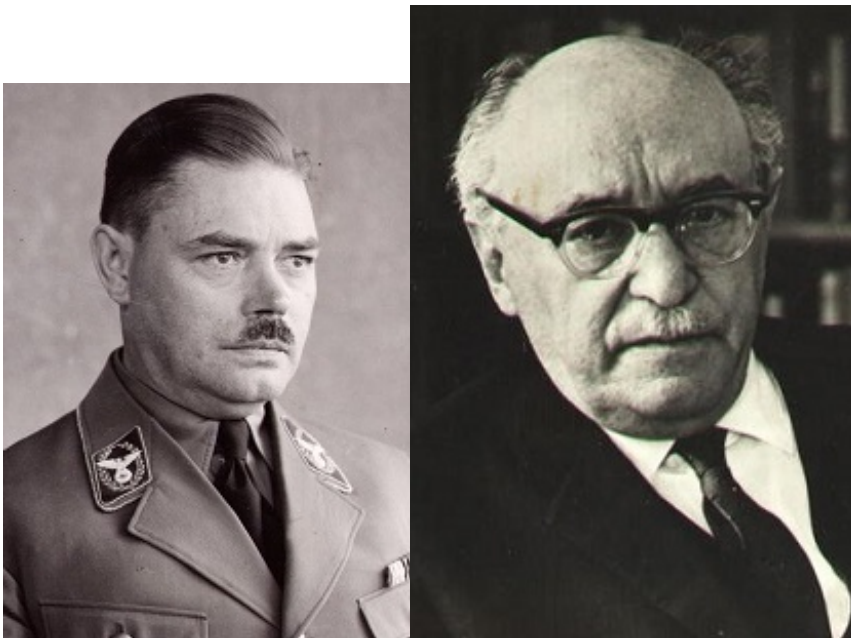


グンデリンデ・マリア・ヨーゼファ（1891～1983）の夫ヨハン・ゲオルク（1887～1924）※画像なし

エルンスト・レーム（1887～1934） ナチス突撃隊幕僚長、無任所大臣

ダヴィド・ベン＝グリオン（1886～1973） イスラエル初代首相

※グンデリンデの夫となったエルンストはもともとルートヴィヒ3世の血筋であり庶子と考えられる。そのため、ナチスに参加した。ナチスが敗北すると、彼はベン＝グリオンに化けてイスラエルの初代首相に就任した。イスラエルはユダヤ人を弾圧したナチス帝国の後裔である。ナチスの関係者、或いはその影武者がイスラエル建国にこぞって参加している。



ディートリンデ・マリー・ヨーゼファ（1888）※画像なし

ヴィルヘルム・グリム（1889～1944） ナチス党第二最高裁判所長

ザルマン・シャザール（1889～1974） イスラエル第3代大統領

※グリムは誕生時に女子とされたが、更に早世したことにしてグリム家でヴィルヘルムとして育

てられた。違う名前が無ければ家族であることがばれるからだ。ナチス敗北後にはシャザールに化けてイスラエル首相に就任した。

バイエルン王太子ループレヒトの子



ルイトポルト（1901～1914）※画像なし

フィリップ・ボウラー（1899～1945） ナチス総統官房長

※ルイトポルトは早世したことにしてボウラー家でフィリップとして育てられた。違う名前が無ければ家族であることがばれるからだ。

ロシア大公コンスタンチン・ニコラエヴィチの子



オルガ（1851～1926） ギリシア王妃



アレクサンドル（1889～1935）※画像なし

マックス・アマン（1891～1957） ナチス出版全国指導者

グレゴール・シュトラッサー（1892～1934） ナチス宣伝全国指導者

シドニー・サワーズ（1892～1973） 中央情報局（CIA）初代長官

アルフレート・ローゼンベルク（1893～1946） ナチス対外政策全国指導者

ギリシア王妃オルガの子



クリストフォロス（1888～1940）※画像なし

ロベルト・ライ（1890～1945） ナチス組織全国指導者

※ライは、母親であるオルガにくりそつである。

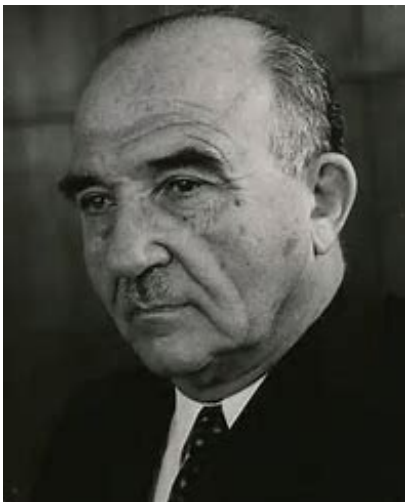
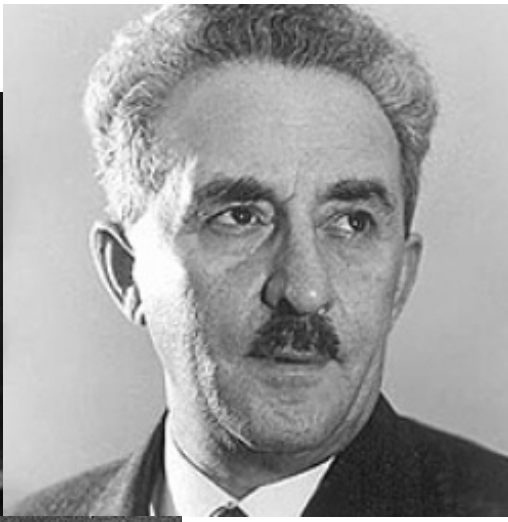
ギリシア王妃オルガの孫



ドミトリー（1891～1941） アレクサンドラ・ゲオルギエヴナの子※画像なし

ヘルマン・ゲーリング（1893～1946） ナチス総統後継者

アレン・ウェルシュ・ダレス（1893～1969） 中央情報局（CIA）第5代長官



アレクサンドロス1世（1893～1920）ギリシア王コンスタンティノス1世の子

ヴィルヘルム・シェップマン（1894～1970）ナチス突撃隊幕僚長

モシェ・シャレット（1894～1965）イスラエル第2代首相

ルドルフ・ヘス（1894～1967）ナチス総統代理

安倍源基（1894～1989）警視庁特別高等警察部長、警視總監、内務大臣

レヴィ・エシュコル（1895～1969）イスラエル第3代首相

ジョン・エドガー・フーヴァー（1895～1972）アメリカ連邦捜査局初代長官

ウォルター・ベデル・スミス（1895～1961）中央情報局（CIA）第4代長官

※アレクサンドロス1世は多くの異母兄弟を影武者として投入したようだ。彼はギリシア王を演じながら、ナチス、特高、FBI、CIA、イスラエルと悪の組織の要職に就いている。



Maximilian of Schaumburg-Lippe (1898~1974) ヴェラ・コンスタンチノヴナの子※
画像なし

ヨーゼフ・ゲッペルス (1897~1945) ナチス宣伝全国指導者

オットー・ディートリヒ (1897~1952) ナチス新聞全国指導者

ロスコー・H・ヒレンケッター (1897~1982) 中央情報局 (CIA) 第3代長官

※ゲッペルス、ディートリヒ、ヒレンケッターはマクシミリアムの影武者であった。似ていないが父が同じの、異母兄弟だったと考えられる。ディートリヒはゲッペルスによく似ている。



エレナ・ア・ロムニエイ (1896~1982) コンスタンティノス1世の子※画像なし

ヴィニフレート・ワグナー (1897~1980) ヒトラーの愛人

ゴルダ・メイア (1898~1978) イスラエル第4代首相



Alexander of Schaumburg-Lippe (1901~1923) ヴェラ・コンスタンチノヴナの子※
画像なし

マルティン・ボルマン (1900~1945) ナチス党官房長

ホイト・ヴァンデンバーグ (1899~1954) 中央情報局 (CIA) 第2代長官

ジョン・マコーン (1902~1991) 中央情報局 (CIA) 第6代長官

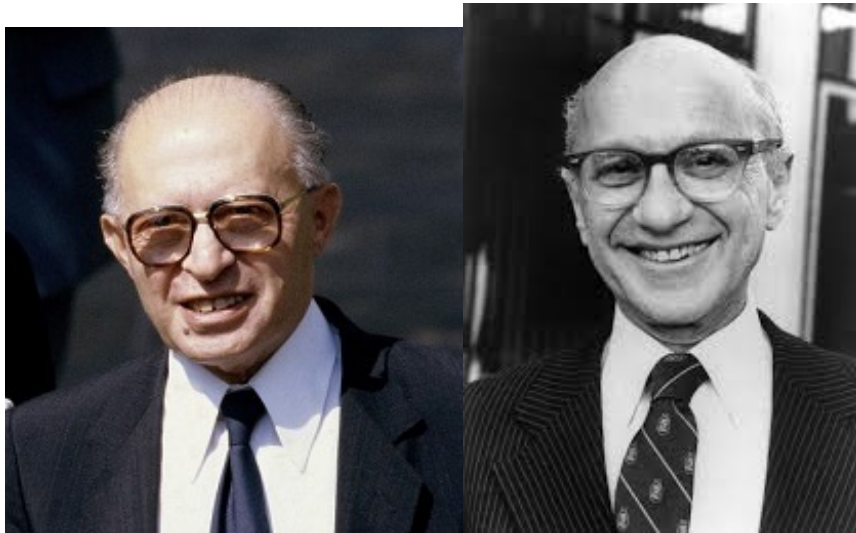
町村金吾 (1900~1992) 警視庁特別高等警察部長

※アレクサンドルはナチス、CIA、特高の要職に就いている。



ペトロス（1908～1980） ギリシア王子ゲオルギオスの子※画像なし
 バルドゥール・フォン・シーラッハ（1907～1974） ナチス青少年全国指導者
 ルーヴェン・シロアッフ（1909～1959） モサド初代長官
 カーティス・ルメイ（1906～1990） 空軍大将、第5代空軍参謀総長

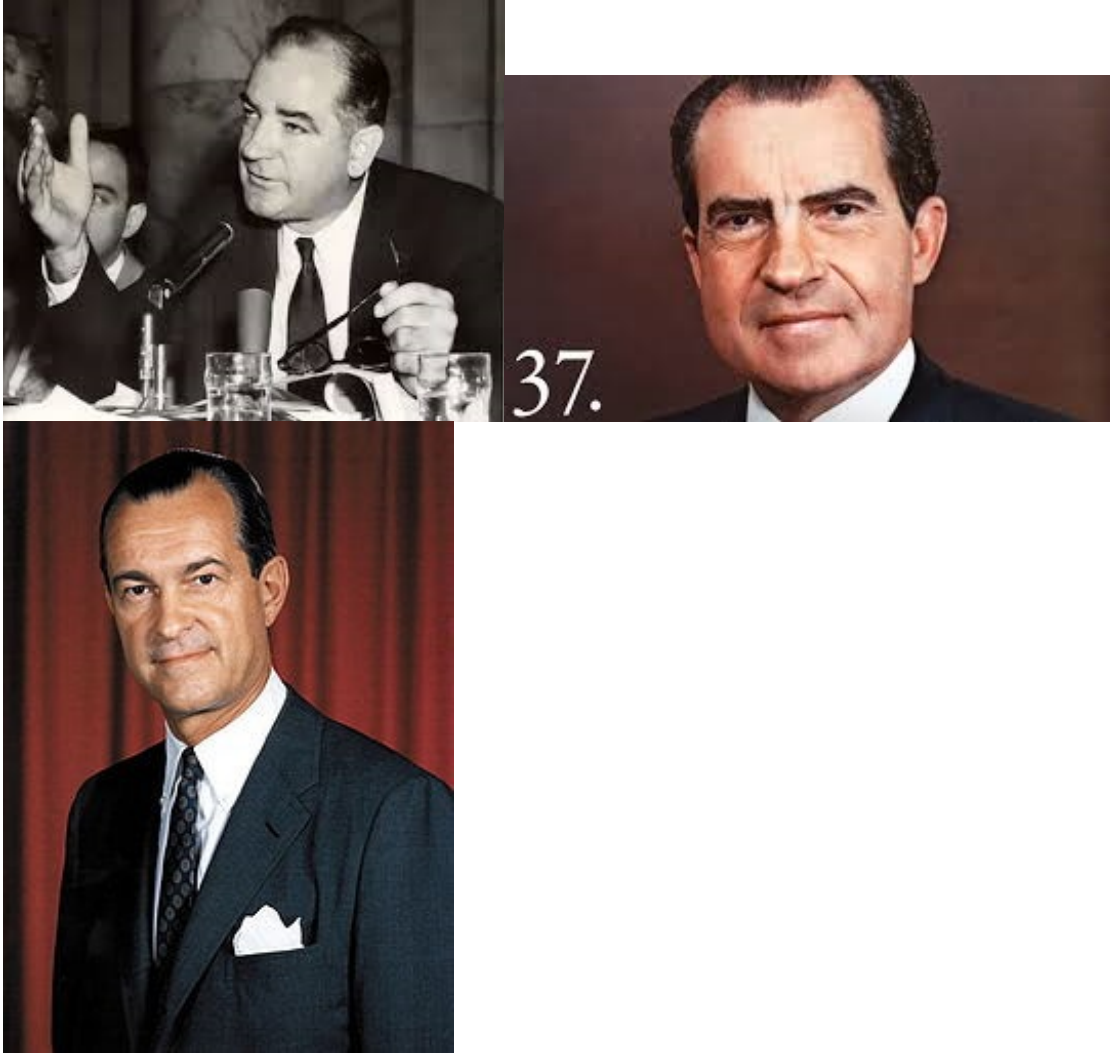
※カーティス・ルメイは東京大空襲の指揮者として知られている。しかし、その正体はナチス党員シーラッハであり、モサドの初代長官シロアッフであった。3者とも顔が良く似ているため、同一人物だろう。本体であるペトロスも似ていれば、3人の正体はペトロスということになる。



エカテリニ（1913～2007） コンスタンティノス1世の子※画像なし
 メナハム・ベギン（1913～1992） イスラエル第6代首相
 ミルトン・フリードマン（1912～2006） アメリカ経済学者

※イスラエル首相メナハム・ベギンは、アメリカの経済学者ミルトン・フリードマンである。そっくりだということがわかるが同一人物で間違いない。断っておくが、上の写真の2人は他人である。ひとりの別ショットではない。彼は、エカテリニの影武者として生まれた。

ギリシア王ゲオルギウス 1 世の曾孫



Lennart Bernadotte (1909~2004) マリアの子※画像なし

ジョセフ・マッカーシー (1908~1957) レヴィ・エシュコルの子 (上院議員)

リチャード・ニクソン (1913~1994) アメリカ大統領

リチャード・ヘルムス (1913~) 中央情報局 (CIA) 第8代長官

※赤狩り (マッカーシズム) の指揮者として知られている。イスラエル首相レヴィ・エシュコルの子である (顔から推測。良く似ている)。また、マッカーシーはニクソンとも良く似ている。ヘルムスに至っては同一人物に見えるが、異母兄弟だろう。3兄弟だ。

ギリシア王ゲオルギウス 1 世の孫



セシリア（1911～1937） ギリシア王子アンドレアスの子※画像なし
ロナルド・レーガン（1911～2004） アメリカ大統領

※レーガンはセシリアの影武者として生まれたと考えられる。筆者は、暗殺される大統領はみなタナトスの一族にロックオンされていると考えていたが、考えてみたらダビデの一族も暗殺を行うこともあるだろう。そうでなければタナトスの一族が影武者を使うはずがない。ということで、レーガンはタナトスの一族であるためダヴィデの一族に狙撃された。尤も、あの狙撃事件は暗殺の情報をかぎつけたタナトスの芝居の可能性もある。



ソフィア（1914～2001） ギリシア王子アンドレアスの子※画像なし
アルトゥール・アクスマン（1913～1996） ナチス青少年全国指導者
イサル・ハルエル（1912～2003） モサド第2代長官

※アクスマンとハルエルはソフィアの影武者として生まれた。2人は良く似ている。

ロシア皇帝アレクサンドル2世の曾孫



アルフォンソ（1912～1936） ベアトリス・オブ・サクス=コバーク=ゴータの子※画像なし

ハンス=マルティン・シュライヤー（1915～1977） ヒトラーユーゲント元メンバー

イツハク・シャミル（1915～2012） イスラエル第8代首相

エフライム・カツィール（1916～2009） イスラエル第4代大統領

※本体はアルフォンソであり、異母兄弟を動員した影武者部隊である。みな顔の方向性が似ている。



アタウルフオ（1913～1974） ベアトリス・オブ・サクス=コバーク=ゴータの子※画像なし

クルト・ヴァルトハイム（1918～2007） ヒトラーユーゲント元メンバー、オーストリア大統領

イーガル・アロン（1918～1980） イスラエル臨時首相

ハイム・ヘルツォーグ（1918～1997） イスラエル第6代大統領

リーチオ・ジェッリ（1919～2015） P2ロッジ代表

※本体はアタウルフォで、クルト、アロン、ヘルツォーグ、ジェッリは異母兄弟を動員した影武者部隊である。みな顔の方向性が似ている。



Prince Michael Feodorovich（1924～2008） Irina Paleyの子

イツハク・ナヴォン（1921～2015） イスラエル第5代大統領

イツハク・ラビン（1922～1995） イスラエル第7代首相

シモン・ペレス（1923～2016） イスラエル第9代首相

ウィリアム・H・ウェブスター（1924） アメリカ連邦捜査局第3代長官

※本体はミハエル王子で、ナヴォン、ラビン、ペレスは異母兄弟を動員した影武者部隊である。みな顔の方向性が似ているが、ウェブスターだけはミハエル王子と同一人物と考えられる。



ポール・イリンスキー（1928～2004） ドミトリー・パヴロヴィチの子※画像なし
ヨーゼフ・アロイス・ラッツィンガー/ベネディクト16世（1927） ヒトラーユーゲント元
メンバー、ローマ教皇
アリエル・シャロン（1928～2014） イスラエル第15代首相

※シャロンは、父ドミトリー・パヴロヴィチとよく似ている。

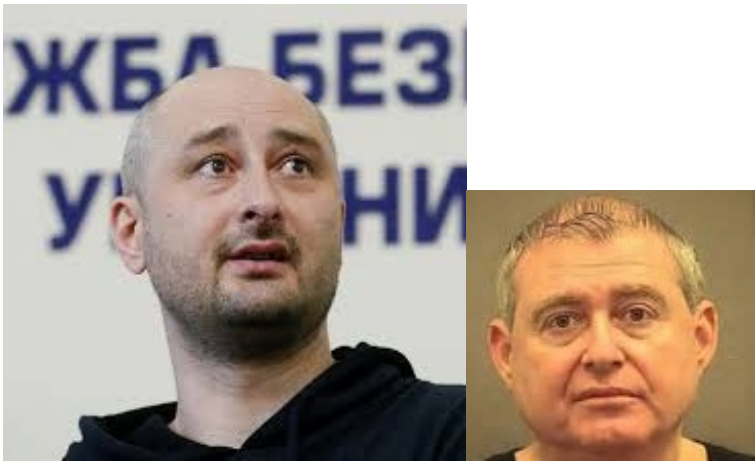
アリエル・シャロンの子



グル（1955～1967） アリエル・シャロン長男
ジョン・ブレナン（1955） 第23代CIA長官

※シャロンは、グルを11歳で死んだことにして潜伏させてブレナンとして育てた。ついでにグルの母（マルグリット・ジンマーマン）に飽きたので1962年、交通事故に見せかけて殺し、妻の妹（リリ・ジンマーマン）と結婚している。

Princess Katherineの子



Sophie Eila Brandram (1981)

アルカディ・バブチェンコ (1977) 反プーチン派代表

レフ・パルナス (生没年不詳)

※ウソをつくための権威。プーチン大統領を攻撃するフェイクニュースの急先鋒のひとり。顔はエカチェリーナ2世に似ている。隔世遺伝だろう。レフ・パルナスはバブチェンコにクリソツだが、影武者として生まれたのだろう。トランプ大統領弾劾のために出現したものの、猿回し以外の何者でもない。顔を見れば分かるが、どう見ても不発だ。

住如の一族～ナーディル・シャー、黒住教、ビン＝ラディン・グループ、アルカーイダ、ソマリランド大統領、GOOGLE



住如（1673～1739）

細川宣紀（1676～1732） 肥後藩藩主

細川有孝（1676～1733） 宇土藩藩主※画像なし

※住如は、日本では細川宣紀と細川有孝として肥後藩と宇土藩の藩主を務めていた。益城（メキシコ）の王というところだ。

細川宣紀（住如）の子



細川利昌（1672～1715）※画像なし

ナーディル・シャー（1688～1747） アフシャール朝初代皇帝

アフガニスタン：ナディル・シャー即位（1736）

アフガニスタン：ナーディル・シャー、デリー大虐殺（1739）

※利昌は細川宣紀が1687年に死ぬと、跡を継ぎ、翌年、従五位下、采女正に叙任いだ。その後、利昌は1715年に死んだことにしてアフガニスタンに渡った。利昌はナーディル・シャーは称し、1736年にアフシャル朝シャーに即位した。

まず、その前段階として彼は邪教信者をサハヴィー朝の皇帝付きの奴隷として送り込み、サハヴィー皇帝に嫌がらせを指示していた。これによって激しい人間不信と心労に陥ったサハヴィー朝皇帝は無力化し、臣下との絆も断たれた。機能不全に陥ったサハヴィー朝は、そこをナーディル・シャーに突かれた。

ナーディル・シャーは事実上、サハヴィー朝を滅ぼし、アフガンにアフシャル朝を築いた。しかし、デリーで無差別な大虐殺を指揮したため、部下たちに皇帝の資質を疑われた。嫌われていたナーディル・シャーは部下たちによって惨殺されている。その後、ナーディル・シャーの残党は日本に帰還し、コラズムを由来に「黒住教」を築いている。

ナーディル・シャーの孫



シャー・ルフ（1734～1796） アフシャル朝第4代皇帝



ナーディル・ミルザー（?～?） アフシャル朝第4代皇帝シャー・ルフの子※画像なし

黒住宗忠（1780～1850） 黒住教開祖

※ナーディル・ミルザーのはっきりした生年月日は不明だが、1785年、父によって皇太子に任ぜられている。その後、1803年に反乱を起こしたナーディル・ミルザーはガージャール朝皇帝ファトフ・アリー・シャーに目をつぶされ、舌を切断された上、殺害されたとされている。だが、実際にはミルザーはアフガンから逃亡して日本に逃げ延び、黒住宗忠となった。黒住（くろずみ）の名の由来はコラズムである。宗忠は1814年に天命を悟り布教活動に入る。



黒住宗篤（1848～1889） 黒住教三代教主



黒住宗子（1876～1936） 黒住教四代教主

Awad bin Aboud bin Laden（生没年不詳）※画像なし

※黒住宗子は、先祖の故地であるコラズムに帰還した。そして現地人の女と結婚し、ムハンマド・ビン＝ラディンを儲けたと考えられる。

黒住宗子（Awad bin Aboud bin Laden）の子



黒住宗和（1905～1973） 5代教主

華頂博信（1905～1970） 博恭王妃経子の子（徳川慶久の孫）

ムハンマド・ビン＝ラディン（1908～1967） サウジ・ビン＝ラディン・グループ創始者



Awad bin Aboud bin Ladenの子※画像なし

モハメド・アン＝ヌメイリ（1930～2009） スーダン民主共和国大統領3・5代大統領

アブドゥラフマン・アフメド・アリ・トゥール（1931～2003） ソマリランド初代大統領

黒住宗和の子



平成天皇（1933）

黒住宗晴（1937） 6代教主

オマル・アブドッラフマーン（1938～2017） イスラム集団指導者

イスラム・カリモフ（1938～2016） ウズベキスタン・イスラム運動指導者

アフメッド・シランヨ（1936） ソマリランド第4代大統領

佐々井秀嶺（1935） インド仏教復興運動

※インドの仏教信者約1億人を自由自在に操ることができる。インドのラジコンマスター。

ムハンマド・ビン=ラディンの子



Yeslam bin Ladin (1950) ※画像なし

アイマン・ザワーヒリー (1951) ジハード団首領



Ghalib bin Laden (195?) ※画像なし

ファティー・シャクアキー (1951~1995) イスラーム聖戦パレスチナ指導者

イヤド・アグ・ガリー (1954) アンサール・アッ=ディーン指導者

ムハンマド・ファラジュ (1954~1982) ジハード団首領

ローワン・ウィリアムズ (1950) カンタベリー大主教



オサマ・ビン＝ラディン（1957～2011） アルカーイダ首領

※イスラム原理主義テロ組織アルカイダの創設者。アルカイダはタナトスの子孫で構成されている。人類の発展に寄与することが無い、滅ぶべきならず者の集団だ。死んで初めて役に立つような人々である。ビンラディンは2011年にアメリカ軍の急襲で死んだことになっているが、たぶん生き延びて潜伏し、今も尚、イスラムのテロ組織を指導しているだろう。先祖のシャー・ルフに似ている。

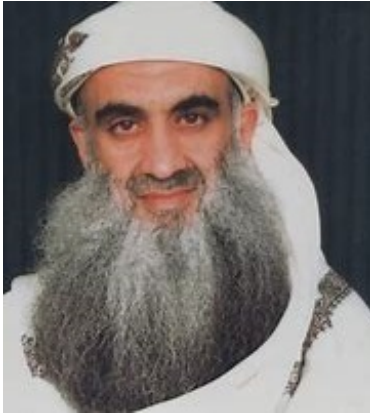
ユダヤ・十字軍に対する聖戦のための国際イスラム戦線を組織している。



Shafiq bin Laden（195?）※画像なし

黒住宗道（1962） 7代教主

アブドラガク・ジャンジャラーニ（1959～1998） アブ・サヤフ指導者



Abdullah bin Laden (196?) ※画像なし

ハリド・シェイク・モハメド (1964)

タレク・マールフィ (1965) アンサール・アル=シャリーア指導者

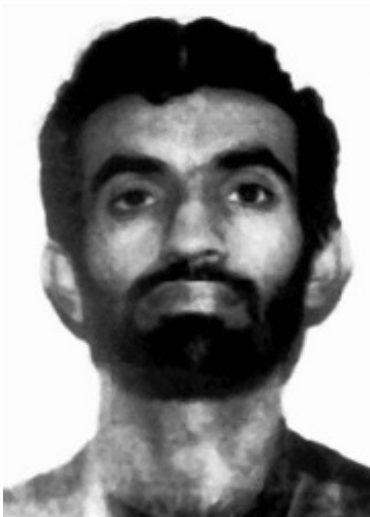


Yasser bin Laden (196?) ※画像なし

アブー・ムスアブ・アッ=ザルカーウィー (1966~2006) イラクの聖戦アル=カーイダ組織

アンワル・アウラキ (1971~2011) アラビア半島のアルカーイダ指導者

アーマド・ウマール (1972) アル・シャハブ指導者





Mohammad bin Laden (1967) ※画像なし

ラムジ・ユセフ (1967)

サンダー・ピチャイ (1972) グーグル社CEO

ジュマ・ナマンガニ (1969~2001) ウズベキスタン・イスラム運動指導者

アブ・マンスール (1969) アル・シャバブ指導者

1993年の世界貿易センター爆破事件の主犯。1995年にパキスタンのイスラマバードのゲストハウスに潜伏しているところをパキスタン軍統合情報局 (ISI) とアメリカの外交保安部 (DSS) によって逮捕された。ニューヨークで裁判にかけられ、世界貿易センター爆破事件やボジンカ計画などの主犯として2つの終身刑が宣告されている。アメリカ同時多発テロ事件の発案者とされるハリド・シェイク・モハメドはラムジの叔父にあたる。wikiより

※GOOGLE社長サンダー・ピチャイは、自動ダウンロード機能を駆使して自社のプログラムを反抗的な人々のパソコンに送り込み、破壊している。ビル・ゲイツと同様に、ITテロリストである。

オサマ・ビン=ラーディンの子



Abdallah bin Laden (1976) ※画像なし

ナシール・アル＝フサイシ (1976) アラビア半島のアルカーイダ指導者

モクタール・アリ・ズベイル (1977～2014) アル・シャバブ指導者

バイトゥッラー・マフスード (1974～2009) パキスタン・ターリバーン運動指導者



ハムザ・ビン＝ラディン (1989～2019) アルカーイダ後継者

アレクサンドリア・オカシオ＝コルテス (1989) 民主党

※アルカーイダの首領ビン＝ラディンの娘。似ている。絶対にそう。間違いない。テロリストの娘のくせに民主主義もクソもない。こういう女はスペイン人にも見えるし、イスラム教徒（北アフリカ人、アラビア人、イラン人）、インド人、ウイグル人、メキシコ人、マレー人、ムラートにも見える。つまり東西本願寺の一族。

湛如の一族～ジュンガル帝国、チャックリー家、タイ王国、ネパール王国、モンゴル人民革命党、霊友会、世界救世教、崇教真光、日本相撲協会



湛如（1716～1741）

今川範彦（1716～1749） 今川家当主※画像なし

細川宗孝（1716～1747） 肥後藩藩主※画像なし

ガルダンツェリン（？～1745） ジュンガル帝国ホンタイジ 在位1727～1745※画像なし

ジェプツンタンパ1世（1635～1723） 初代ジェプツンダンパ

※湛如は、今川範彦として今川家当主、細川宗孝として肥後藩の藩主を務めながら、ガルダン・ツェリンとしてジュンガル帝国を指揮した。湛如本体は主にジュンガル帝国で暮らし、清と頻繁に交戦している。同時にラマ僧ジェプツンタンパ1世としてモンゴル、チベットにかけて邪教信者を獲得した。ジェプツンタンパ1世の生誕日は1635年であるが、湛如とは81年も隔たりにある。これは僧としてハクをつけることを目的としたフェイク生誕日だろう。

ジェプツンタンパ2世（湛如）の子孫

- ・ジェプツンタンパ2世（1724～1758） 第2代ジェプツンダンパ※画像なし
- ・ジェプツンタンパ3世（1758～1773） 第3代ジェプツンダンパ※画像なし
- ・ジェプツンタンパ4世（1775～1813） 第4代ジェプツンダンパ※画像なし
- ・ジェプツンタンパ5世（1815～1841） 第5代ジェプツンダンパ※画像なし
- ・ジェプツンタンパ6世（1842～1848） 第6代ジェプツンダンパ※画像なし
- ・ジェプツンタンパ7世（1849～1868） 第7代ジェプツンダンパ※画像なし

ガルダンツェリン（湛如）の子



ツェワン・ドルジ・ナムジャル（1732～1750）※画像なし

ラーマ1世（1737～1809） チャックリー朝初代王 在位1782～1809

※ラーマの由来はラマ僧のラマである。タナトス仕込みのイヤガラセにより、タークシンを発狂させて殺害した。その後、チャックリー朝を開いた。現在、タイでは1日2回、国民は朝8時と夕方6時に国家が流れている間、1分間動きを止めている。東西本願寺の指示により日本には集団ストーカーのために一部タイ人が輸入されているが、こういう人々なら何でも命令を聞くことだろう。

なぜ白人列強がタイ王国と日本だけ侵略しなかったか、これで理解できるだろう。白人列強は東西本願寺の子孫である。そのため、浄土真宗に支配された悪の本丸日本と西本願寺門主湛如の子孫のチャックリー朝が支配するタイ王国を侵略することはなかった。侵略する必要がなかった。かように、タナトスの王、東西本願寺は家族には優しい一面を持っている。



ラーマ2世（1767～1824） チャックリー朝2代王 在位1809～1824

治世の前半はたびたびビルマが攻めてきたが、後半ではビルマがイギリスに占領され、攻めてこなくなったため、国内の整備などを行った。 wikiより

ラーマ2世の子



ラーマ3世（1788～1851） チャックリー朝3代王在位1824～1851

ラーマ3世は信心深い国王としても知られる。仏日には功德のため貧困層の人民に食料を配給したり、動物を人間の手から解放したりした（タイでよく行われる功德）。また50以上の寺院を建立・修繕した。 wikiより



ラーマ4世（1804～1858） チャックリー朝4代王在位1851～1868

マートバル・シンハ・タパ（1798～1845） ネパール王国首相

※ラーマ4世は邪教「タムユットニカーイ」を創設した。「王様と私」のモデル。弟ジャンガ・バハドゥル・ラナと共にネパールに進出し、ラナ家を拠点に世襲制宰相の一族として独裁政権を築いた。尤も、ゴルカ朝自体がタナトス一族（ティールタンカラの一族）の国である。



73人の子女のうちのひとり

長松日扇（1817～1939） 本門佛立講教祖

ジャンガ・バハドゥル・ラナ（1816～1877） ラナ家祖、ネパール宰相独裁政権

※湛如の一族には、この時から日蓮宗の篡奪が頭にあった。

ラーマ4世の子



ラーマ5世（1853～1910） チャックリー朝5代王在位1868～1910

西田無学（1850～1918）※画像なし

※ラーマ5世は奴隷売買を廃止し、一方で子どもを60人儲けたことで知られている。他方、ラーマ5世は日本に渡り、西田無学を名乗り、宗教化・仏教思想家として子孫のためにいずれ来る日本に足場を築いてやっている。



ダムロン・ラジュンバアブ（1862～1943）

田中智学（1861～1939） 日蓮宗国柱会教祖

ジャ・ラマ（1862～1922） 西部モンゴル反清独立運動指導者

※一方、ダムロンは弟のジャンタと共にタイからモンゴルに赴き、謎のラマ僧ジャ・ラマを名乗り、ジュンガル帝国の再興を夢見た。



サヴァング・ヴァドハナ（1862～1955）

※マヒタラーティベートアウンラヤデートウィクロムの母親。一方、父親は西本願寺門主広如の一族である。



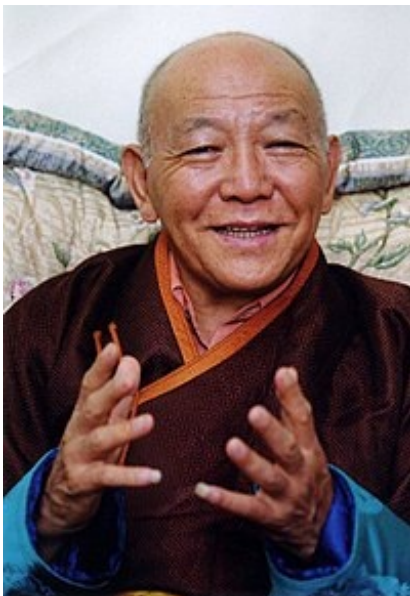
ジャヤンタ・モンコル（1866～1907）※画像無し

ジェプツンタンパ6世/ボグド・ハーン（1869～1924） 第8代ジェプツンダンパ、大モンゴル国皇帝

バリンギーン・ツェレンドルジ（1868～1928） ボグド・ハーン政権、モンゴル人民共和国首相

廣瀬正徳（1865～1938） 日本相撲協会初代理事※画像無し

※ボグド・ハーンの正体は、チャックリー朝ラーマ4世の子ジャヤンタ・モンコルである。ジャヤンタは兄のダムロンと共にモンゴルに侵入し、先祖の故地ジュンガルを掌握すべく動いた。



ダムロンの37人の子女のうちの一ひひとり

ジェプツンタンパ9世（1932～2012） 第9ジェプツンダンパ

サヴァング・ヴァドハナの子



マヒタラーティベートアドウンラヤデートウィクロム（1891～1929） サヴァング・ヴァドハナの子

ダムディン・スフバートル（1894～1923） モンゴル人民革命党指導者

ホルローギーン・チョイバルサン（1895～1952） モンゴル人民革命党指導者

ラーマ5世の子



名前がない男子（1872）※画像なし

御木徳一（1871～1938） パーフェクトリバティー教団教祖

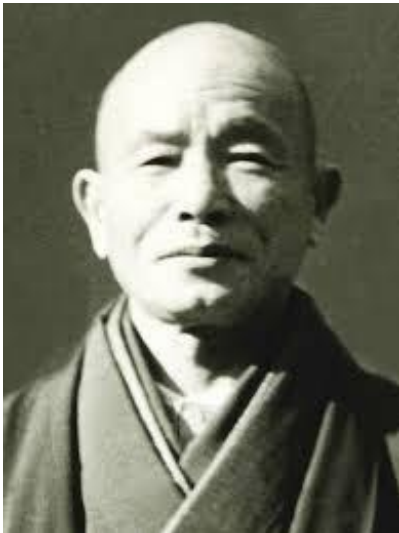
中野與之助（1872～1940） 三五教教祖、オイスカインターナショナル理事長

※名前もなく、早世したラーマ5世の子はじつは潜伏して成長し、日本で育てられた。男子は御木徳一を名乗ってPL教団を設立し、一方では中野與之助を名乗り、三五教（あなない）の教祖となる。三五の由来は1935年に日本に上陸したことを意味し、三五（あなない）とはシベリアの少数民族ナナイ族に由来している。



キティヤカラ・ヴォララクサナ（1874～1931）

トグス・オチリン・ナムナンスレン（1878～1919） モンゴル初代首相



アモーン・サマルルクサナ・キティヤカラ（1897～1968） キティヤカラ・ヴォララクサナの子※画像なし

関口嘉一（1897～19??） 佛所護念会教祖



マノジマノプ・キティヤカラ（1901～1902） キティヤカラ・ヴォララクサナの子※画

像なし

佐原忠次郎（1900～1958） 妙道会教団教祖※画像なし

岡野正道（1900～1978） 孝道教団教祖※画像なし

戸田城聖（1900～1958） 創価学会第2代会長

※ラーマ5世の息子たちの目的は、日蓮宗の篡奪である。画像がないので確かなことは言えないが、佐原忠次郎、岡野正道、戸田城聖の3人は同一人物の可能性が高い。特に佐原と戸田は生没年が全く同じである。



ビブラヤ・ベンチャン・キティヤカラ（1903～1969） キティヤカラ・ヴォララクサナの子※画像なし

宮本ミツ（1900～19??） 妙智会教団教祖

ラーマ5世の子



ラーマ6世（1881～1925） チャックリー朝6代王在位1910～1925

ダムビン・チャグダルジャヴ（1880～1922） モンゴル人民革命党指導者

大西愛治郎（1881～1958） ほんみち教祖

※義務教育制度、ボーイスカウト、タイ赤十字社を設置した。

ラーマ5世の子



プラチャトラ・ジャヤカラ（1881～1936） タイ王室皇子

岡田茂吉（1882～1955） 世界救世教教祖

シーサーウォン（1885～1959） ラオス王国初代王

ピアン・チャトラジャヤ・ナ・アユーダヤ（1899～1938） プラチャトラ・ジャヤカラ
第3妻

岡田よし（1897～1962） 世界救世教第2代教祖



バダララダ・チャトラジャヤ（1924～2008） ピアン・チャトラジャヤ・ナ・アユード
ヤの子※画像なし

岡田斎（1927～2013） 世界救世教第3代教祖※画像なし

岡田恵珠（1927～2016） 崇教真光第2代教祖

プラチャトラ・ジャヤカラ（岡田茂吉）の子



岡田光玉（1901～1974） 崇教真光教祖、世界真光文明教団教祖

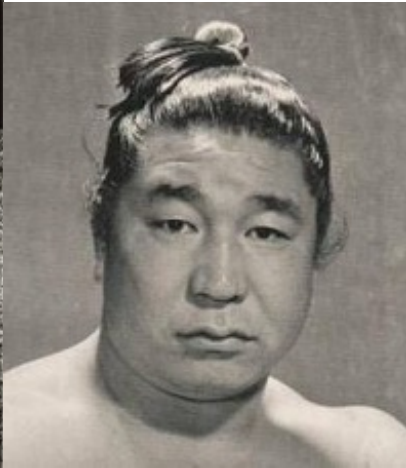
※優性遺伝子ブリーダー、或いは自力で岡田茂吉が儲けた実子だと考えられる。光玉は異母兄弟となるため、世界救世教とは袂を分かち、独自に崇教真光、世界真光文明教団を築いた。



マユラチャトラ（1906～1970） プラチャトラ・ジャヤカラの第一子（長女）※画像なし

小谷喜美（1901～1971） 霊友会第2代教祖

北村サヨ（1900～1967） 天照皇大神宮教教祖



スラチャトラ・チャトラジャヤ（1929～1993） プラチャトラ・ジャヤカラの子※画像なし

高橋信次（1927～1976） G L A総合本部教祖

花田勝治（1928～2010） 横綱若乃花、第6代日本相撲協会理事



Princess Hiranyachatra Chatrajaya (1933～1998) ※画像無し

中丸薫 (1937) ジャーナリスト

※中丸薫氏は推古天皇、クレオパトラの生まれ変わりであると述べている。そうなのだろう。

ラーマ5世の子





ベンバドハナボングセ（1884～1909）ラーマ5世の子

プラーヤ・マノーパコーンニティターダー（1884～1948） タイ王国初代首相

ソリーン・ダンザン（1885～1924） モンゴル人民革命党指導者

ドグソミン・ボドー（1885～1922） モンゴル人民革命党指導者

※マノーパコーンニティターダーは、タイ王室ベンバドハナボングセ王子の影武者として生まれたが、影武者の地位から脱し、タイ初代首相に就任している。その後、彼は日本に渡り、大西愛治郎として「ほんみち」の教祖となる。顔が良く似ているため、マノーパコーンニティターダーと大西は同一人物で間違いない。

1928年、大西は不敬罪でほんみちの信者500人と共に検挙されているが、本願寺の家族であるため無罪になっている。しかし、この後にタイに帰国し1932年～33年まで初代首相を演じた。首相の役割が終了すると、再度日本に戻り、1936年に布教活動を再開するが1938年に再度不敬罪で検挙された。戦後に釈放されると1950年から改めて布教活動を始めた。



陳如桂（1962） プラーヤ・マノーパコーンニティターダーの子（深セン市市長）

※香港デモの参加者は非常に数が多く、恐怖すら覚えるほどの人数であるが、じつは彼らは深セン市から香港に流れ込んでいるのではないかと考えられる。その場合、市長である陳氏の関与が考えられる。もちろん深セン市の市民は、みな法輪功の信者だろう。

ラーマ5世の子



チャドウドウジ・ダラディロク（1892～1923）

久保角太郎（1892～1944） 霊友会教祖



ヴァラナンダ・ダヴァジ（1922～1990） チャドウドウジ・ダラディロクの子

アウンサン（1915～1947） ビルマ建国の父

日頭（1922） 日蓮正宗総本山大石寺第67世法主

※以上、日蓮正宗といい、霊友会といい、創価学会といい、天照皇大神宮教といい、湛如の一族は日蓮宗の篡奪を目論んでいることが分かる。

マヒタラーティベートアドウンラヤデートウィクロムの子（サヴァング・ヴァドハナ側）



ラーマ8世（1925～1946）

1946年6月9日朝、ラーマ8世はボーロマピマーン宮殿の自身の寝室で、額から後頭部にかけて銃弾が貫通した状態の死体となって発見された。傍らには自動拳銃コルト・ガバメントが落ちていた。第一発見者のチット侍従の証言を要約すれば「午前9時20分頃、チット、ブット両侍従がラーマ8世の寝室の前に控えていたところ、中から銃声が聞こえた。チット侍従が中に入ってみるとラーマ8世がベッドの上で頭から血を流していた」とのことである。wikiより

※この暗殺劇が契機となり、ラーマ8世の子孫はタイ王国では歓迎されていないようだ。平山越夫も本願寺の家系の中ではどっちつかずの印象が強い。ただ、西本願寺門主湛如の家系であるため、本願寺は一応家族として認めているようだ。しかし、西本願寺門主広如の子孫側がラーマ8世の子たちによる復讐を恐れている印象がある。そのため、タクシン・チナワットは追放された。

ネパール王トリブバン・ビール・ビクラム・シャハの子（ジャンガ・バハドゥル・ラナの玄孫）



Princess Trilokya Rajya Lakshmi Devi（1923～？）※画像無し

インドラ・ラージャ・ラクシュミー・デビー（1924～1950） マヘンドラ・ビール・ビ
クラム・シャハ妻※画像無し

鳩山安子（1922～2013） 鳩山由紀夫・邦夫母

※鳩山安子氏は顔がインド系なのでインドラとは同一人物と考えられる。愛新覚羅家の優れた血筋を取り込むために鳩山一郎に接近した。由紀夫や邦夫は鳩山一郎の子である。偽装婿の威一郎は西本願寺門主広如の一族なので、一郎氏はタナトスに囲まれていたことになる。あまりに無防備だ。日本の愛新覚羅家は本願寺によって容易に潰されてしまった。先祖の徳川家光が頼りない子孫を嘆き、泣いていることだろう。

鳩山安子の子（ジャンガ・バハドゥル・ラナの子孫）



鳩山由紀夫（1947） 内閣総理大臣

ギャネンドラ・ビール・ビクラム・シャハ（1947） ネパール王国第12代君主

※由紀夫氏はなぜネパールによく行っていたのか、これで謎が解けた。ギャネンドラ王は鳩山安子の本体インドラとマヘンドラ・ビール・ビクラム・シャハ王の子である。ややこしいが、由紀夫は威一郎の子ではなく、鳩山一郎の子である。由紀夫はそのキャラで愛新覚羅家の崩壊を促進させた。



鳩山邦夫（1948～2016） 自民党議員

ラーム・バラン・ヤーダブ（1948） ネパール共和国初代大統領

※うちの母は2008年6月16日に亡くなったが、その翌日17日に邦夫が宮崎勤の処刑を執行している。これは何を意味するのか？筆者に「次はお前だ」という暗号を送ったつもりなのかもしれない。ていうか、枯れの方がは既に命ではないがw 邦夫は実質ネパールの大統領を勤めていたが、その急死により、影武者ラームは大統領職から解かれた。



ディレンドラ・ビール・ビクラム・シャハ（1950～2001） マヘンドラとインドラの子

※画像無し

岡田克也（1953） 立憲民主党議員

※岡田氏は顔が濃いので、どこのタナトスの一族に属するのか考えていたが、鳩山氏との関連でネパールだということに気付いた。鳩山兄弟とは異父兄弟となる。

ラーマ8世の子（優性遺伝子ブリーダーによる）



平沼赳夫（1939） ラーマ8世の子（自由民主党）



谷垣禎一（1945） ラーマ8世の子（安倍政権）

※谷垣氏は2018年10月に安倍晋三と面会した。本願寺の一族の皆殺しを恐れた彼は、このとき、安倍に直接「そろそろ退陣しろ」と忠告をしたようだ。





ソムチャーイ・ウォンサワット（1947） ラーマ8世の子（タイ王国首相）

タクシン・チナワット（1949） ラーマ8世の子（警察中佐・タイ王国首相）

フン・セン（1951） カンボジア王国第3代首相

12月2日、憲法裁判所による司法クーデターが発生し、2007年12月総選挙の組織ぐるみの選挙違反を表向きの理由にして、国民の力党は解党処分となり、ソムチャイ首相を含む党幹部の公民権を5年間剥奪するという違憲判決が出された。これによりソムチャイ政権は、首相就任から約2ヶ月半で崩壊することになった。ソムチャーイ・ウォンサワット wiki より

日本時間2006年4月4日午後11時に国王に退陣を表明、次期首相が決まるまで休養に入った。当面の間、首相の職務はチッタヤイ・ワンナサティット副首相が代行することとなった。しかし、実際には暫定首相としてタクシン首相が職務を行い国民からの反発を招き、2006年9月19日のクーデターに繋がった。タクシン・チナワット wiki より

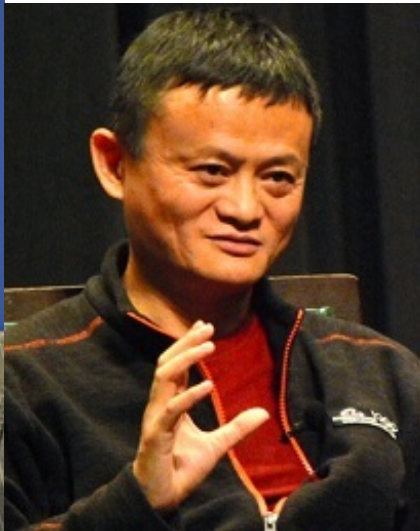
※現在、インドシナ半島はタナトスに席卷されているようだ。タイ王国では、現ラーマ王の父方が西本願寺広如の一族（リンドン・ジョンソンの子）であるため、タイ王室は篡奪されている状態だといえる。そのため、チャックリー家の血筋のタクシン・チナワットは影武者であるフン・センを頼りカンボジア王国に逃げているようだ。



古屋圭司（1952） 平沼赳夫の子（安倍政権）



三木谷浩史（1965） タクシン・チナワットの子（楽天CEO）



ジャック・マー（1964） タクシン・チナワットの子（アリババ社創業）

※ジャック・マーはいい人だと思ったかったが、顔を見る限り、どう考えても西本願寺門主湛如の血筋である。短期間でこれだけの巨大な財力を築くことが出来るのは本願寺が弱い人間を信者として掌握しているからだろう。弱い人間はなんでも言うことを聞く、そして絶対に裏切らない。その弱さゆえに。



インラック・シナワトラ（1967） タクシン・チナワットの子（タイ王国首相）

政権下で行われた国家安全保障会議事務局長の人事問題についてタイ憲法裁判所が「インラックおよび関係閣僚が憲法に違反して縁者登用（不当介入）した」と2014年5月7日に認定しインラック首相は失職した。 wikiより

チャドウドウジ・ダラディロクの孫





ダサナワラヤ・ソーンソクラム（1945）

池坊保子（1942）

藤田紀子（1947）

※藤田紀子は、ダサナワラヤ・ソーンソクラムの影武者として生まれたと考えられる。



貴乃花光司（1972）

※貴乃花の家族は霊友会の信者ということが知られていたが、曾祖父が霊友会教祖の久保角太郎なので信者なのは当然というわけだ。兄の若乃花との対立もこの辺にあるのだろう。巷では父は輪島という声もあるが、三木谷やタクシン・チナワットにクリソツのため、ラーマ8世の系統の血を継いでいると考えられる。



朝青龍（1980） 若乃花の子（横綱）モンゴル国レスリング協会会長、モンゴル国民投資銀行経営者

※顔が初代若乃花に良く似ている。つまり、朝青龍は二代目若乃花とは異母兄弟ということになる。二代目若乃花は二代目貴乃花とは異父兄弟であり、初代貴乃花は偽装結婚だったのだろう。



日馬富士（1984） 若乃花の子（横綱）

※この湛如の血筋は、人が良いタイ人の遺伝子により、本家の本願寺の悪辣さに比してそれほど悪いとは思えないが、日馬富士は本願寺（或いは霊友会）の要請により、安倍政権の不祥事を隠すためのフェイクニュースに出演した。それは二代目貴乃花も同様である。

法如の一族～アヘン戦争、ロスチャイルド財閥、ロックフェラー財閥、スカル&ボーンズ、第一次世界大戦、ホスピス、ロイター通信、北大西洋条約機構、アムネスティ・インターナショナル、児童文学ハリー・ポッター



法如（1707～1789）

大ウィリアム・ピット（1708～1778） イギリス首相

フランシス・ダッシュウッド（1708～1781） 地獄の火クラブ主催者

イギリス：植民地七年戦争（1756）

カナダ：モンリオール落城（1760）

中国：甘肅、回教徒の乱（1781）

中国：甘肅、回教徒の反乱（1784）

※法如は回教徒の反乱を指揮しているが、この路線は孫の本如に引き継がれている。法如は主にイングランドでウィリアム・ピットとして生きた。ピットは七年戦争を指揮し、インド亜大陸、北アメリカ大陸、西インド諸島などの植民地でフランス勢力を駆逐することに成功し、大英帝国の強い征服本能を伸長した。

一方、法如はダッシュウッドを演じ、秘密結社「地獄の火クラブ」を主宰した。この組織は女性との乱交の際、盛り上げるために悪魔の崇拜儀式を実施していたと言われている。乱交は映画「アイズ・ワイド・シャット」を髣髴とさせるものだったのだろうか？悪魔崇拜儀式はお遊びだったと言われているが、タナトスの王、本願寺門主が直々に関わっているんだからそんなわけない。

法如（大ウィリアム・ピット）の子



ジョン（1756～1835）※画像なし

ダニエル・シェイズ（1749～1825） ウィスキー反乱指導者※画像なし

ミゲル・イダルゴ（1753～1811） メキシコ独立運動指導者※画像なし

アメリカ：ウィスキー反乱（1786）

アメリカ：ウィスキー反乱（1791）

※法如は新興国であるアメリカ合衆国に進出し、ダニエル・シェイズを生んで浄土真宗お得意の下層民の蜂起を指揮している。法如の子はメキシコでも生まれた。ミゲル・イダルゴは大谷の子らしく2万3千人の民衆を動員し、数で圧倒する形でメキシコ独立運動を展開した。イダルゴの顔はピットに良く似ている。



ジェームズ・チャールズ（1761～1781）※画像なし

アイザック・ディズレーリ（1766～1848） 作家

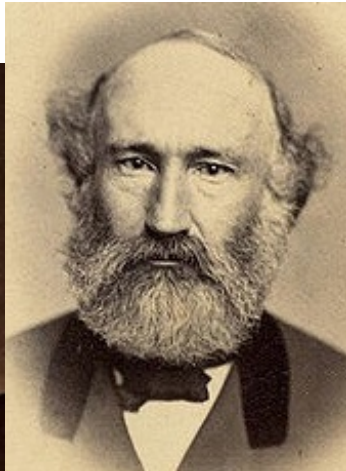


ハリエット（1770～1786）※画像なし

ネイサン・メイアー・ロスチャイルド（1777～1836）

※後継者を守るため、ネイサンは女として生まれた。だが、16歳になるとハリエットは死んだことにし、その後はネイサン・メイアーとして生きた。

ネイサン・メイアー・ロスチャイルドの子





ライオネル・ロスチャイルド（1808～1879）

ベンジャミン・ディズレーリ（1804～1881） イギリス首相

ウィリアム・ハンティングトン・ラッセル（1809～1885） スカル&ボーンズ創設

アルフォンソ・タフト（1820～1891） スカル&ボーンズ創設

ウィリアム・ロックフェラー（1810～1906）※画像なし

※スカル&ボーンズ創設者ラッセルは顔が気持ち悪いので殺人を嗜み、人肉を食べていたと考えられる。ラッセルやタフトはディズレーリとは似ていないが、異母兄弟であり影武者として生まれたのだろう。そのディズレーリの影武者が独立してスカル&ボーンズを創設した。



※ディズレーリの思惑通り、アヘンを吸って墮落する中国人

※「1876年5月のことである。中国は南京の通りでパニックが起こった。目に見えない悪魔が徘徊し、弁髪を次から次へと切り取ってしまったのだ。人々は安全のため、両手で髪を握って歩くようになった。この恐慌はやがて上海にまで広がり、それから他の町に飛び火し、そして別のパニックが持ち上がった。『圧殺狂』つまり、眠っている間に体を押し潰されるという恐怖がそれである。この『髪切り魔』の跳梁は3年近く続いた。それ以後も何度か同じ事件が起きておりこの現象には長い歴史があるわけだ。

こうした中国の騒ぎを伝える新聞記事は朝食の際に英国人の物笑いの種となったがこれは1922年10月、ロンドンで同じような恐るべき事態が発生した時に消し飛んだ。1人の男が若い女性を捕まえては髪を切り落とし救援にかけつけた騎士きどりの連中を尻目に『魔法にかかったご

とく』消えうせてしまったのである。」怪奇現象博物館より

これはディズレエリ首相が製作したフェイクニュースである。当時、1840年にアヘン戦争、1857年にアロー号戦争などイギリスの策略による中国侵略が行われ、川鼻条約、南京条約、天津条約などが結ばれたにもかかわらず、中国側はそれらの条約などを軽く見ていたこともあり、三度目の正直、業を煮やした侵略者イギリスが1875年に「マーガリー事件」を作って中国に仕掛けたのだ。

この事件は、イギリス雲南探検隊の通訳マーガリー（当時上海領事）が中国人に殺害された事件だが、マーガリー氏は仲間のイギリス人に殺害されたのは間違いない。そして中国人に罪を着せた。あるいは犯人の中国人は白人に飼われていた可能性もある。まあこれが大谷のいつもの手なのです。

これを機に、イギリスは事件の審理・賠償から天津条約の改訂に発展させることに成功し、1876年9月に芝罘条約を成立させた。この条約締結を喜ばない中国人民の不満の矛先をそらさなくてはならない。ということで白人は毎度超常現象か連続殺人鬼を登場させるのだがこのときはオカルトに託された。この現象は3年間続いたと言うがそれが何を意味するかと言えば中国人を黙らせるのに3年かかったということだろう。

そして1922年のイギリスでは何が起こっていたか？アイルランドで独立機運が高まり、6月28日にアイルランド人市民が決起したのだ。



ナサニエル・ド・ロスチャイルド（1812～1870）



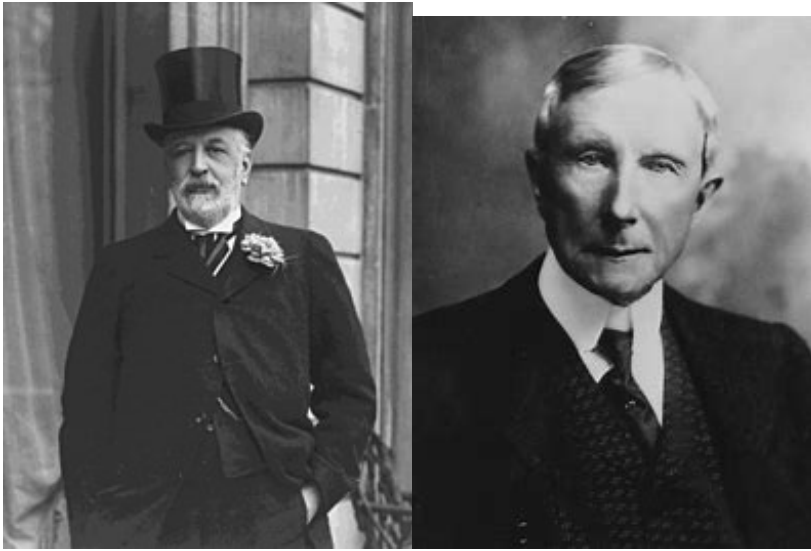
メイヤー・アムシェル・ロスチャイルド（1818～1874） 庶民院議員、馬主※画像なし
ポール・ジュリアス・ロイター（1816～1899） ロイター通信創業



ルーイーズ（1820～1894） フランクフルト本家マイアー・カール・フォン・ロートシルト妻※画像なし

フローレンス・ナイチンゲール（1820～1910） クリミア戦争従軍看護婦

ライオネル・ロスチャイルド（ベンジャミン・ディズレエリ）の子

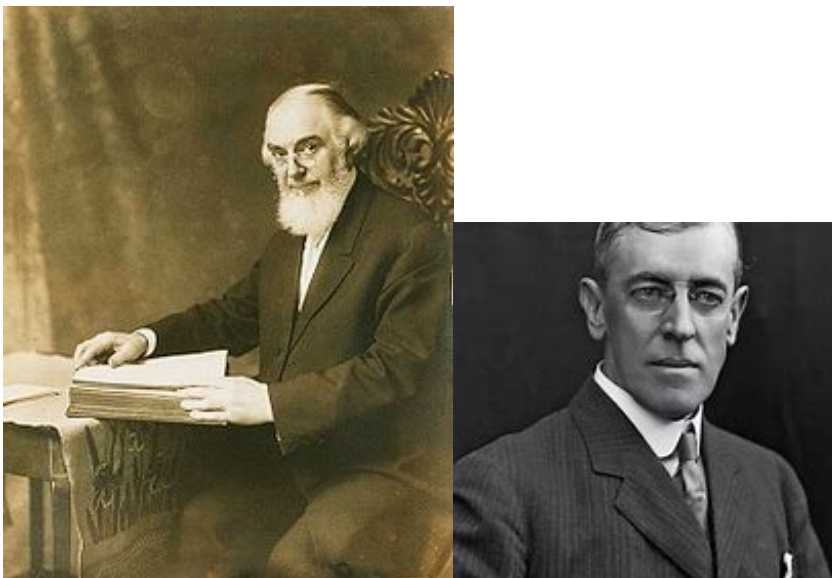


ナサニエル・ロスチャイルド（1840～1915） 初代ロスチャイルド男爵
ジョン・ロックフェラー（1839～1937） ロックフェラー家初代当主
フレデリック・ベイカー（1843～1867） 幼児性愛殺人犯（女兒1人）※画像なし

※イギリスの銀行家、政治家、貴族。英国ロスチャイルド家嫡流の第3代当主。顔は全然似ていないが、ジョンはナサニエルの異母兄弟であり、影武者であった。だがジョンは影武者の地位から脱却し、石油王、財閥として大成した。ロックフェラーの名の由来はルキフェル（ルシファー）である。ルキフェル＝ルッキフェル＝ロックフェラーとなる。

また、一方でロスチャイルドはイギリス全土を、ロックフェラーはアメリカ全土を行脚して幼児性愛殺人を行っていたと考えられる。イギリスで一度見つかった時には、しがない事務員フレデリック・ベイカーの仕業にしたが、余罪をもっとあるだろう。

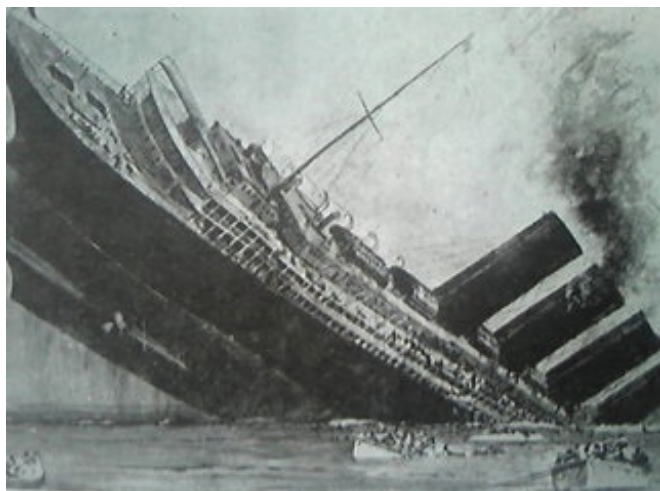
ナサニエル・ド・ロスチャイルドの子



アーサー・ド・ロスチャイルド（1851～1903）※画像なし

チャールズ・テイズ・ラッセル（1852～1916） エホバの証人教祖

ウッドロウ・ウィルソン（1856～1924） アメリカ大統領



イギリス：旅客船ルシタニア号沈没（1915）

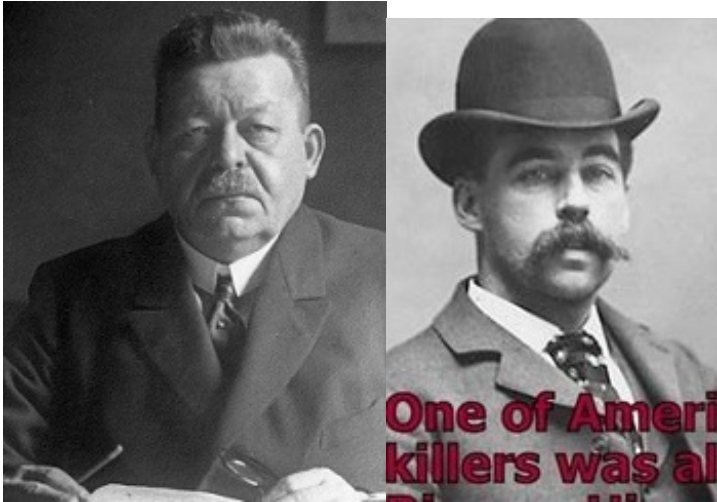
※ウィルソンは、父ベンジャミン・ディズレエリよりも祖父である大ウィリアム・ピットに似ている。ウィルソンは、旅客船ルシタニア号を自らの指示で沈め、それをドイツのせいにしてアメリカ国民を第一次世界大戦に参加させた。合言葉は「リメンバー・ルシタニア」だった。ルシタニア号を沈没させて数千人の乗客を殺したウィルソンは、ニューヨークで400人の子供を殺して食べた連続殺人鬼ロイド・ジョージと組み、第一次世界大戦を指揮し、ダヴィデの一族に挑戦した。プロイセン帝国、オーストリア帝国、オスマントルコ帝国はダヴィデの一族が統治していた。

ジョン・ロックフェラーの子



エリザベス・ロックフェラー（1866～1906） 長女※画像なし

リジー・ボーデン（1860～1927） 猟奇殺人（両親2人）



アルタ・ロックフェラー（1871～1962） 3女※画像なし

フリードリヒ・エーベルト（1871～1925） ヴァイマル共和国初代大統領

カール・デンケ（1870～1924） 同性愛シリアルキラー（少年・男性30人）

※アルタの影武者として生まれてきたエーベルトとデンケは、アルタが結婚すると独立し、同性愛趣味に走った。その趣味は過激化し、ホームレス男性や家で少年を自宅に招き、殺して食べるようになった。主犯はエーベルトであり、異母兄弟であるデンケは手伝いをしていたと考えられる。顔を見ればどちらがホンモノの人殺しか誰でも分かる。総勢30人を殺害している。



ジョン・D・ロックフェラー（1874～1960） ジョン・ロックフェラーの子

カハル・ブルハ（1874～1922） IRA長官

ルートヴィヒ・テスノー（1872～1904） 幼児性愛シリアルキラー（女児4人）※画像なし

ブルハはアイルランド独立運動の指導者マイケル・コリンズへ敵意を抱いていたことで知られる。コリンズはIRAの情報局長にすぎなかったが、アイルランド共和主義者同盟(IRB)での地位と彼のカリスマ性によってブルハをしのぐ影響力を保持していた。1920年に開かれたIRAの会議で、ブ

ルハはイギリス軍を待ち伏せした際には降伏を呼びかけてから攻撃するよう主張したが、現場の指揮官の反対により提案は却下された。ブルガはまた、戦線をイギリス本土へと拡大するように主張したが、これはコリンズの反対により実行されなかった。 wikiより

※顔は全然似ていないが（口は何か似てる）、ブルハはジョンの異母兄弟であり、影武者を務めていた。ブルハはアイルランドでIRA長官に就任し、アイルランドの善人を殺すために働いただろう。総勢4人を殺害している。



パーシー・エイヴァリー・ロックフェラー（1878～1934） ジョン・ロックフェラーの甥

ハンス・ルター（1879～1962） ヴァイマル共和国第2代大統領

フリッツ・ハールマン（1879～1925） 同性愛シリアルキラー（男性・少年24人）

※ハールマンは影武者に過ぎず、実際の犯行は本体であるパーシーやルターが行っていたと考えられる。ハールマンは異母兄弟の趣味の手伝いをしていたに過ぎない。処刑役もハールマンで決まりだ。総勢24人を殺害している。



ジェラルディン・ロックフェラー（1882～1973） ジョン・ロックフェラーの姪※画像なし

クルト・フォン・シュライヒャー（1882～1934） ヴァイマル共和国初代首相

ペーター・キュルテン（1883～1932） デュッセルドルフの吸血鬼（女性・少女9人）

※クルトとキュルテンは、ジェラルディンの影武者として生まれた。ここでもキュルテンの事件の真犯人はクルトだと考えられる。異母兄弟のキュルテンは手伝いをしていた。これで、グロスマン以外のドイツの異常性犯罪の犯人は、デンケもハールマンもキュルテンも、みなロックフェラー家から生まれたことが分かる。総勢9人を殺害している。

また、ドイツ史上最も謎めいた一家惨殺事件として知られるヒンターカイク事件が1922年に起きているが、この幼児を含む6人が殺害された事件の犯人は、ヴァイマル共和国初代首相クルトと影武者キュルテンだと考えられる。

カハル・ブルハ（ジョン・D・ロックフェラーJr）の子

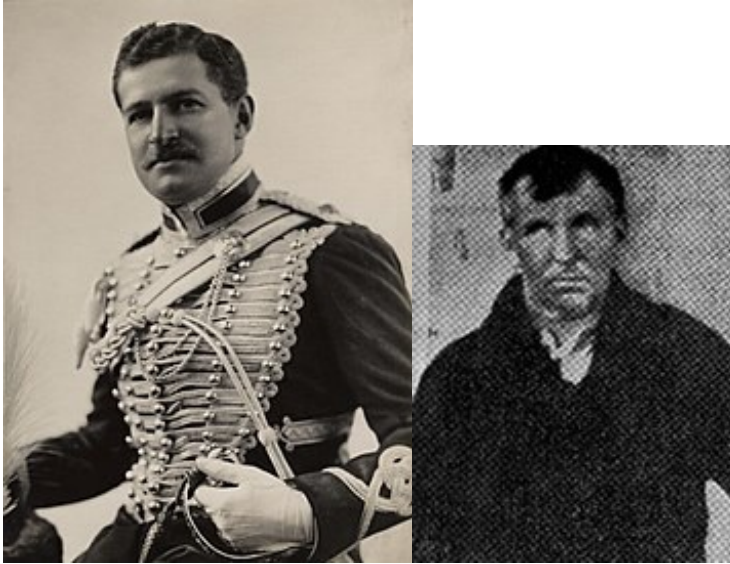


テレサ・メイヤー（1915～1996） ヴィクトル・ロスチャイルド第2妻※画像なし
シシリー・ソングース（1918～2005） ホスピス創立



※ソングースは、実質、ゴキブリホイホイでしかないホスピスを創設した悪党である。この写真はしんみりしないな。よく見てください。おじいさんが中指立ててるw

レオポルド・ド・ロスチャイルド（1845～1917）の子



ライオネル・ネイサン・ド・ロスチャイルド（1882～1942）

アドルフ・ホテリング（1882～19??） 連続殺人犯（児童数人・死姦）

※ホテリングの犯罪は実際にはライオネルが猟奇的な方法で殺害したようだ。恐ろしいことだが、彼は7歳の少女の性器に刃物を入れてかき回したという。しかし、逮捕されたのは、例によって年齢が合うだけの冤罪要員である。画像は、市民のリンチコールに恐怖しているホテリングの様子である。ただ、市民（邪教信者）はロスチャイルド家を守るためにバラモンに「リンチコールしろ」と命じられているに過ぎない。哀れだ。



アンソニー・グスタフ・ド・ロスチャイルド（1887～1961）※画像なし

ヘイスティングス・イスメイ（1887～1965） NATO初代事務総長

ジョン・メイナード・ケインズ（1883～1946） イギリス経済学者

ジョゼフ・フォリアン（1884～1968） ベルギー王国第49代首相 任期1950～1952

ハロルド・アプテッド（1882～1902） 幼児性愛殺人犯（7歳女兒1人）※画像なし

Robert Foot (1889~1973) BBC 4 代事務局長※画像なし

※イスメイとフォリアンはアンソニーの影武者として生まれた。アプテッドの事件は2人の仕業である。一方、イスメイとケインズがくりそつである。髭があるか、ないかの違いでしかない。

チャールズ・ロスチャイルド (1877~1923) の子



デйм・ミリアム (1908~2005) ※画像なし

ジャン・デュヴェズー (1900~1977) ベルギー王国第48代首相 任期1950

アーノルド・ソーディマン (1899~1936) 幼児性愛シリアルキラー (少年4人)

ジョン・クリスティー (1899~1953) 連続殺人犯 (女性3人) ※画像なし

※デュヴェズーはデймの影武者として生まれた。彼は、ソーディマン、クリスティーによる犯罪の真犯人でもある。総勢7人を殺害している。





ヴィクター・ロスチャイルド（1910～1990）※画像なし

ヨセフ・ルンス（1911～2002） NATO第5代事務総長

ガストン・エイスケンス（1905～1958） ベルギー王国第47代首相 任期1949～1950

ジャン・ヴァン・ウット（1907～1991） ベルギー王国第50代首相 任期1952～1954

ジェイク・バード（1901～1949） 異常性愛シリアルキラー（女性44人）

エド・ゲイン（1907～1983） 人食い殺人（女性2人）

ブルーノ・ルートケ（1908～1944） 異常性愛シリアルキラー（女性51人）

※ルンス、エイスケンス、ウットはヴィクターの影武者として生まれた。3人は共同でバード、ゲイン、ルートケの犯罪を行った。バードは完全に冤罪であり、ゲインはただの精神薄弱者と考えられる。ただ、その顔つきから、ルートケは3人の犯罪の手伝いをしていたと考えられる。ジェイク・バードは1947年に逮捕されたが、これは奇しくもエイスケンスが首相に就任する2年前のことである。これは何を意味するのか？総勢97人を殺害している。

タナトスの一族は冤罪要員として年齢、容姿が近い人間を選ぶ。そのために優性遺伝子ブリーダーを使って大量の異母兄弟を作ることがある。



キャスリーン・アニー・パノニカ（1913～1988）

テオ・ルフェーヴル（1914～1973） ベルギー王国第53代首相 任期1961～1965

ピエール・アルメル（1911～2009） ベルギー王国第54代首相 任期1965～1966

ハロルド・ヒル（1915～1942） 幼児性愛シリアルキラー（女児2人）

アーサー・ジョーンズ（1916～??） 幼児性愛殺人犯（少女1人）※画像なし

ゴードン・カミンズ（1914～1942） 異常性愛シリアルキラー（女性4人）※画像なし

※ルフェーブル、アルメルはキャスリーンの影武者として生まれた。2人はヒル、ジョーンズ、カミンズの事件の真犯人でもある。ただ、ヒルは顔が似ているのでじつは若き日のルフェーブルの姿だと考えられる。女児を殺した異常者がベルギーで首相に就任しているわけだ。総勢7人を殺害している。

ライオネル・ネイサン・ド・ロスチャイルド（1882～1942）の子

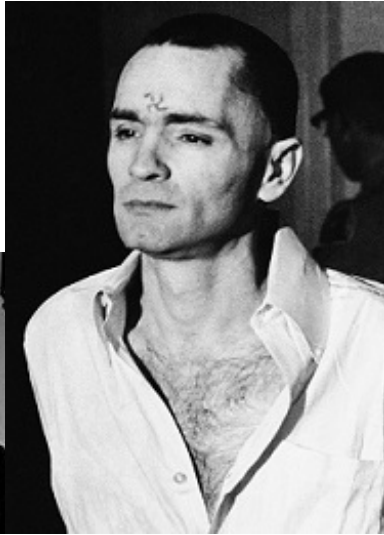


レオポルド・デーヴィッド・ド・ロスチャイルド（1927～2012）※画像無し

ピーター・ベネンソン（1921～2005） アムネスティ創設

※アムネスティはウソをつくために設けられた権威である。人権はアムネスティに管理されている。つまり、人権は我々のものではなく、アムネスティの所有物ということができる。

ヴィクター・ロスチャイルド（1910～1990）の子



サラ・ロスチャイルド（1934）

マルク・エイスケンス（1933） ベルギー王国第61代首相 任期1981

アルバート・デサルヴォ（1931～？） ポストン絞殺魔（女性13人）

アルフレッド・ホワイトウェイ（1931～1953） 異常性愛シリアルキラー（少女2人）

※画像なし

メルヴィン・リース（1933～1995） 異常性愛シリアルキラー（女性家族4人）※画像なし

チャールズ・マンソン（1934～2017） マンソンファミリー教祖（無差別殺人5人）

※エイスケンスはサラの影武者として生まれた。顔がよく似ているため、デサルヴォはじつは若き日のエンスケンス本人だと考えられる。デサルヴォ時代に殺しの修行を積んだエイスケンスはホワイトウェイ、リース、マンソンなどの事件の真犯でもある。マンソンはエイスケンスとは異母兄弟（庶子）の関係だと考えられるが、カリスマではなく、単なるヤク中だろう。総勢24人を殺害している。



ジェイコブ・ロスチャイルド（1936） ロスチャイルド財閥当主

ハインリヒ・ポメレンケ（1937～2008） 異常性欲シリアルキラー（女性10人）

ジョン・コールマン（1935） 300人委員会提唱※画像無し

資金がだぶついていたロスチャイルド卿は、1993年から投資管理会社RITキャピタル・パートナーズと投資、会社セント・ジェームズ・プレイス・キャピタルを創設して、投資事業を再開した。さらにアメリカにもロスチャイルド・ウォルフエンソン投資会社を創設する。ソビエト連邦が崩壊して市場が自由化したロシアにも関心を持ち、にはロシア・アメリカ投資会社の創設に協力した。1994年からは投資会社ロスチャイルド・アセット・マネジメントを創設してバイオ産業に投資を開始した。 ジェイコブ・ロスチャイルドwikiより

※ジョン・コールマンはジェイコブ・ロスチャイルドの影武者として生まれた。もし、コールマンの正体が本当にジェイコブだとしたら、陰謀論者はなんと思うだろうか？ジェイコブ自身が300人委員会をデッチあげたとすればこんなバカげた話はない（笑）

コールマンは300人委員会を提唱した人物だが、タナトス系の陰謀論の情報には特徴がある。それは、その情報を知ったからといって何も変わらないことだ。300人委員会があることを知っても何もならない。何も解決しない。つまり、タナトスは「弱者の脳は記憶する機能しかない」ということを知ってて誤誘導している。これがタナトスの目的なわけだ。記憶機能しかない脳を持つ人の場合、悪の組織の名を記憶すれば他の情報は入ってこない。それが目的なのだ。



ミランダ・ロスチャイルド（1940）※画像なし

ジャン＝リュック・デ・ハーネ（1940～2014） ベルギー王国第63代首相 任期1992～1999

ロバート・ハンセン（1939～2014） 異常性愛シリアルキラー（女性21人）※画像無し

ローレンス・ビッテイカー（1940） 異常性愛シリアルキラー（少女5人）

クリフォード・オルソン（1940～2011） 異常性愛シリアルキラー（少女11人）

リチャード・ビーゲンワルド（1940～2008） 異常性愛シリアルキラー（女性5人）

マルセル・バルボー（1941） 異常性愛シリアルキラー（女性8人）

※ハーネはミランダの影武者として生まれた。ハーネは、ハンセン、ビッテイカー、オルソン、ビーゲンワルド、バルボーの事件の真犯人である。尤も、ビッテイカーの場合はハーネと同じ影武者として生まれた異母兄弟の庶子だと考えられる。あとの犯人は実際には冤罪要員として適当に年齢が近い人物を見繕って集められた無関係な人々だ。哀れとしか言いようがない。総勢45人を殺害している。



エマ・ジョージナ・ロスチャイルド（1948）※画像なし

ジョン・ケリー（1943） オバマ政権閣僚

ジョン・ウェイン・ゲイシー（1942～1994） 同性愛シリアルキラー（少年28人）※画像無し

リチャード・スペック（1941～1991） 大量殺人（女性8人）

ロバート・モラー（1944） 第6代FBI長官

ミット・ロムニー（1947） 実業家、政治家

ロジャー・ウォータース（1943） 元ピンク・フロイド

セバ스티アン・ピニエラ（1949） チリ大統領

※全員、顔が長いところが似ている。ケリー、モラーはエマの影武者として生まれた。ケリーはゲイシーの事件の真犯人の可能性が有る。スペック事件の場合、顔が似ているのでスペックはじつは若き日のケリー本人だと考えられる。極悪非道と呼ばれるゲイシーだが、哀れなことにただの冤罪だと考えられる。総勢36人を殺害している。ピニエラは安倍が指導するTPPを批准した悪党である。

ロジャー・ウォータースは才能豊かなシド・バレットを陥れた。シドは、ピンク・フロイドのリーダーとして稀有な才能を発揮したが、西本願寺門主法如の一族にマークされていたため、命令された邪教信者たちのイヤガラセによって精神的な破綻をきたし、早々に引退した。本願寺のイヤガラセにはバンドメンバーのロジャー・ウォータースも加わっていた。

彼はピンク・フロイドの楽曲のいくつかで、暗にシドをディスっている。そのためか、ロジャーは80年代後半に他のメンバーに追い出されてしまい、ピンク・フロイドの名前の使用権を巡って裁判沙汰を起こしている。

アルバム「原子心母」の1曲「もしも」が代表的な例である。「もしもぼくがキチガイになってもぼくを苦しめないでくれ」「もしもぼくが良い人間であるなら友達との間に距離があることがわかるだろう」「もしもぼくがキチガイになっても君はまたぼくを遊び仲間に入れてくれるだろうか」などと歌っている。

別のベストセラーアルバム「狂気」にもそんな歌詞の曲がある。その名もズバリ「ブレインダメージ」である。「キチガイが芝生の上に腰を下ろしている。楽しかった日々をあたまの中に思い描いている。そこにイヤなやつらはいない」「もしかしたら君のおつむが爆発するかもしれないという暗い予感。キチガイがあたまの中にいる」「君がいくら叫んだところで君の声は誰にも届きはしない。そして昔、君がいたバンドが君の知らない曲を演奏し始める。あとで月の裏で会いましょう。これ以外の言葉が頭に浮かばないんだが。この曲は実にすばらしい出来だ！」もし、シドがこの曲を聴いていたとしたらひどく悲しんだはずだ。



ベンジャミン・メイヤー・ロスチャイルド（1952）

ジェレミー・コービン（1949） 影の首相、労働党党首

リチャード・トレントン・チェイス（1950） 精神異常シリアルキラー（女性・幼児数人）

フレデリック・モーゼス・マッカラム（1950） 精神異常殺人（家族7人）※画像なし

※コービン、ピニエラはベンジャミンの影武者として生まれた。ただ、ベンジャミンは早世しているのだから4人の内の誰かが死んだはずのベンジャミンの可能性はある。ズバリ、コービンではないか？



ヴィクトリア・キャサリン・ロスチャイルド（1953）※画像なし

テリーザ・メイ（1956） イギリス首相

ヒー・フェルホフスタット（1953） ベルギー王国第64代首相 任期1999～2008

アイリーン・ウォーノス（1956～2002） 女性シリアルキラー（男性6人）

デビッド・アイク（1952） レプティリアン提唱

ロビン・ゲチト（1953） 悪魔崇拜儀式（女性6人）

ロバート・モーズリー（1953） 同性愛シリアルキラー（脳を食べた）

※テリーザ・メイとフェルホフスタットはヴィクトリアの影武者として生まれた。メイはウォーノスの事件の真犯人であり、フェルホフスタットはゲチト、モーズリーの事件の真犯人である。人の脳を食べている時に逮捕されたモーズリー。だが、どう考えても、顔ではフェルホフスタットにかなわわない。3人とも良く似ているが間違いなく異母兄弟の庶子だろう。タナトスは、自分が捕まった時の身代わりのために多くの庶子を作る。本当に脳を食べたのもモーズリーではなく、フェルホフスタットだろう。

少女時代のテリーザ・メイは、顔が先祖ウッドロー・ウィルソンに良く似ている。男を憎悪し、6人も殺したアイリーン・ウォーノスの顔はテリーザ・メイに良く似ている。同一人物だろうか

?もちろん異母姉妹の影武者の方が可能性は高い。総勢13人を殺害している。メイはモーズリーにも良く似ている。

レプティリアン説を提唱したアイクは、ゲチトに良く似ている。同一人物だろうか?アイクもヴェクトリアの影武者として生まれた。レプティリアン説は誤誘導が目的であることは疑いようがない。爬虫類型宇宙人なんているわけない。ただ、比喻としては参考になる部分もある。



Amshel Meir James Roschilde (1955~1996)

Anders Fogh Rasmussen (1959) NATO事務総長

Tim Cook (1960) アップル社CEO

Stephen J. Adler (1955) ロイター通信編集長

※ストルテンベルクとクックはどう見ても同一人物にしか見えない。気のせいだろうか? NATO事務総長がアップル社CEOを兼任することで何か旨味があるのだろうか?



※タナトスの軍隊NATO軍の速攻部隊

ジェイコブ・ロスチャイルド（1936）の子



Beth Matilda（1964）※画像なし

J・K・ローリング（1965） ハリー・ポッター原作

※ハリー・ポッターのような話は好みではないし、映画はCGだらけでおもしろくないが、世界的に大ヒットした。もちろんだ。世界中の邪教信者が欲しくなくても脅されれば買うからだ。どのみち盗作だろう。



ナサニエル・フィリップ・ロスチャルド（1971）

ブライアン・ミラー（1972） 精神異常犯罪者（女性2人）

ジョン・シラチ（1971） 少年性愛強姦魔（少年数十人）※画像なし

デヴィッド・ハーカー（1975） 人食い殺人（女性1人）※画像なし

マイケル・エコルス（1975） 黒魔術儀式（少年3人）※画像なし

※ナサニエルはシリアルキラーである。ナサニエルは、ミラー、シラチ、ハーカー、エコルスの事件の真犯人である。総勢約6人を殺害している（これだけのはずがない）。

この法如の一族のベルギー首相たちの画像を見て思うのは、果たして、笑っているからいい人なのか？笑っていないから悪い人なのか？ということである。ここに並べたベルギー首相たちは、なぜか、みな楽しそうだ。

文如の一族～九条道前、ウィリアム・ピット、薩摩戦争、切り裂きジャック、インディアン虐殺、**BBC**、タイタニック号沈没、ツタンカーメンの呪い、国際連合、連続児童殺人鬼アルバート・フィッシュ



文如（1744～1799） 九条尚実猶子

九条道前（1746～1770） 九条家第15代当主※画像なし

九条道前（文如）の子



二条治孝（1754～1826） 九条尚実の弟九条幸教の玄孫※実際には九条道前（文如）の子※画像なし

トーマス・ウォーカー（1758～1797）※画像なし

小ウィリアム・ピット（1759～1806） 第16、18代イギリス首相 任期1783～1806

アントン・アンヘロヴィッチ（1756～1814） ウクライナ東方カトリック教会初代大主教

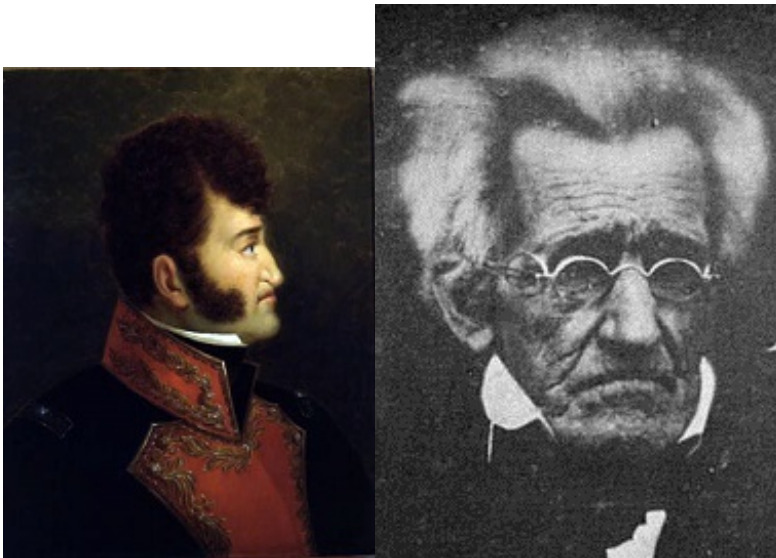
イギリス：第四次英蘭戦争（1780）

イギリス：ジョージ3世発狂（1788）

イギリス：オーストラリアを流刑地に指定（1788）

イギリス：トラファルガーの戦い（1805）

※文如の子二条治孝は、トーマス・ウォーカーとして西アフリカで奴隷貿易に従事し、三角貿易により莫大な財産を得た。1784年と1792年の間に11回もアフリカ人奴隷をアメリカに運んだ。ウォーカーは、ジョージ・W・ブッシュの先祖と言われている。確かに両者とも、非人道的な大谷家の系譜に属するが、優性遺伝子ブリーダーを重用しているため、直接の血縁はない。また、奴隷商人トーマス・ウォーカーはウィリアム・ピットでもあった。ピットは、オランダと組み、第4次英蘭戦争を指揮した。ウィリアム・ピットとオランダの敵は、ホイッグ党とハノーヴァー王室である。この戦争のおかげで邪魔者を排除できたため、ピットは首相に就任できた。また、二条治孝はアントン・アンヘロヴィッチとしてウクライナ東方教会を組織化した。



九条輔家（1769～1785） 九条家第16代当主※画像なし

イグナシオ・アジェンデ（1769～1811） メキシコ独立運動指導者

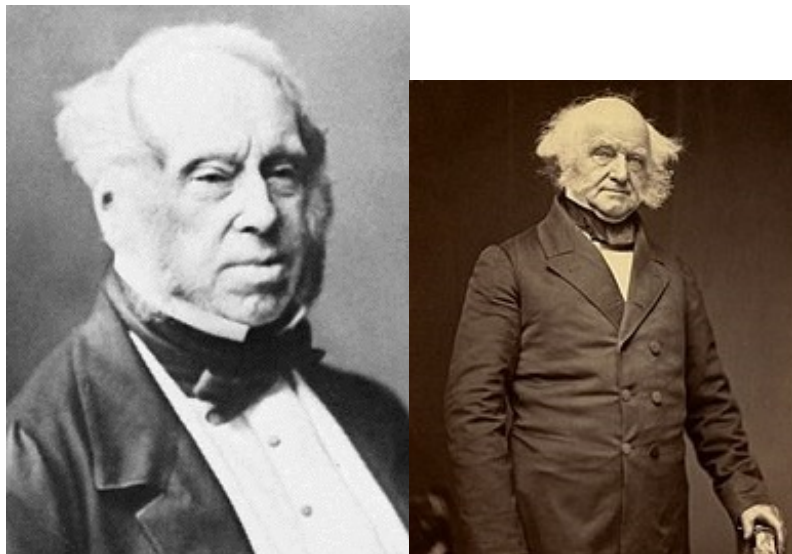
アンドリュー・ジャクソン（1767～1845） 第7代アメリカ大統領 任期1829～1837

※九条輔家はアジェンデに変身し、西本願寺門主法如の子であるイダルゴと組んでメキシコ独立運動を指揮したが、やはり親子や異母兄弟ではなく、伯父と甥の関係になるため、途中で対立した。その後、アジェンデはアンドリュー・ジャクソンに変身した。絵と写真だが、顔がよく似ているのが分かる。

こいつは善の皮をかぶった典型的な悪党である。例として大統領就任2ヶ月前に妻が死んだとされているが、妻の死の原因になったとして政敵のジョン・クインシー・アダムズとその支持者を激しく非難したという。これは政敵の攻撃が目的であるため、妻は自分の手で殺している。この

当時から民主党メンバーにはこんな犯罪者しかいなかったようだ。嘆かわしい。

二条治孝の子



九条輔嗣（1784～1807） 九条家第17代当主※画像なし

ヘンリー・ジョン・テンプル（1784～1865） 第35、37代イギリス首相 任期1855～1865

マーティン・ヴァン・ビューレン（1782～1862） 第8代アメリカ大統領 任期1837～1841



※生麦事件（隠れ念仏信者の薩摩藩士がテンプルの指揮でイギリス人を襲撃した）



※クリミア戦争とナイチンゲール（ナイチンゲールはテンプルが送り込んだイギリス政府工作員だった）

※九条道前（文如）の孫九条輔嗣はイギリスに渡り、ヘンリー・ジョン・テンプルに化けた。そういえば写真を見るとテンプルは普通の白人には見えない。テンプルは、九条輔嗣が死んだ二年後の1809年にイギリス政府に参加している。これはテンプルの正体が九条輔嗣だという証拠である。

その前に、ヘンリー・ジョン・テンプルはマーティン・ヴァン・ビューレンに化けてアメリカ大統領に就任している。大量の邪教信者がいるために可能なワザである。大量の邪教信者のおかげで、タナトスはすぐに国家元首になることができるという好例だ。

ジョン・テンプルは首相になる前は生麦事件を指揮した。「リメンバーナナムギ」といっていたかどうかは定かではないが。テンプルは家族の東西本願寺の大谷と連絡し、浄土真宗を弾圧していた島津氏と薩摩藩を何とかすべきだと考えていた。生麦事件は、島津氏を悪者扱いし、戦争に導くための口実づくりとして、薩摩の隠れ念仏信者にイギリス人を殺害させた陰謀である。

テンプルは、イギリス首相任期中にも陰謀に手を染めた。クリミア戦争時代に、近代最初のフェイクニュースを手がけたのだ。フェイクニュースの目的は、自分にとって都合が悪い情報のメディア上からの風化である。テンプルは「デヴォンシャーの悪魔」というフェイクニュースを手がけたが、これにはどういう目的があったのだろうか？

「デヴォンシャーの悪魔」

1855年2月8日、早朝。デヴォンシャー州トップジャムのアルバート小学校校長は表に出て、ある異常に気づく。校長は村の方々に奇妙な足跡を見つけたのだ。ひづめの跡のようにも見える。最初は蹄鉄を打った馬の足跡かと思ったが、おかしい。馬や蹄のある動物なら4本足のはずだが、この足跡の主は明らかに2本足で歩いている。

しかもまっすぐに整然と足跡は続いている。障害物があってもかまわずに進んでいる。つまり、

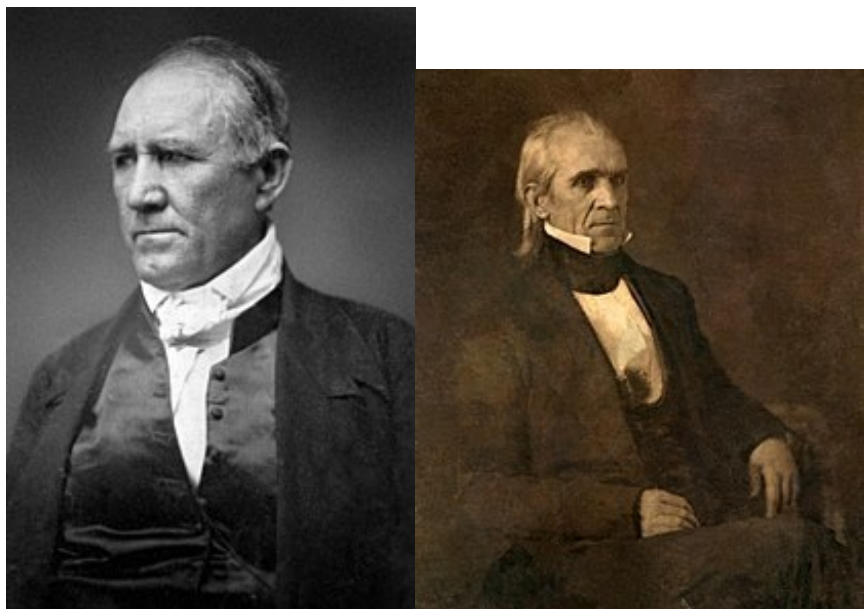
壁、屋根にも足跡が残っていた。

足跡は長さ10cm、間隔は20cm程度ではっきり雪の上、壁、屋根に残っている。干し草の山も同じ、この足跡の主には障害物など関係ないらしい。そしてその足跡の主は、一晩で60km近くも歩いた。付近の町でも同じ様な足跡が発見されたのだ。ヤギのようなひづめを持ち、コウモリのような羽も生えている動物、と言えば欧米では悪魔を思い浮かべる。そのためにこの足跡の主は「デヴォンシャーの悪魔」と呼ばれるようになる。怪奇博物館より

これは、テンプル首相が製作したフェイクニュースである。なぜこのようなウソをつく必要があったのか？ 時おりしも、クリミア戦争の真っ只中であり、戦争が進むにつれ、政治的にも軍事面にもさまざまな失策が露呈されていた。「デヴォンシャーの悪魔」の報道がされた1855年は、国民的な不満が極度に高まっていた時期なのである。

1854年。セヴァストポリの包囲作戦はクリミア戦争の要というべく、戦争の終焉にいたるまで3年間も延々と続いた。イギリス軍部内では戦略上の不備、装備の貧弱、傷病兵に対する手当の無能ぶりが暴露され惨たんたる状態がつづいた。冬にはコレラの流行と極寒に襲われ、そのための死者数はロシア軍の弾丸に倒れた人の数を上回ったという。

クリミア戦争での有名人にはナイチンゲールがいる。「ランプをもったレディ」として知られるナイチンゲールが傷病兵たちのためにコンスタンチノーブル郊外のイギリス陸軍病院へ派遣されたのもこのような事情からであった。ナイチンゲールの過剰な宣伝も、ある意味、国民の不満の隠蔽・国家への不満の矛先をそらしたいという思惑が根底にある。ナイチンゲールは傷ついた兵士の味方ではなく、本願寺の人間だった。



九条尚忠（1798～1871） 九条家第18代当主※画像なし

サミュエル・ヒューストン（1793～1863） テキサス大統領 任期1836～1844

ジェームズ・ポーク（1795～1849） 第11代アメリカ大統領 任期1845～184



アメリカ：アラモの戦い（1846）

アメリカ：米墨戦争（1846～1848）

※九条尚忠はサミュエルヒューストンに変身し、テキサス大統領に就任した。1844年にテキサス大統領職が消滅すると、その後すぐ、1845年にアメリカ大統領に就任している。邪教信者を大量に所有しているから可能なことである。

ヒューストンは、仲間の隊がメキシコ軍に包囲されたことを知りながら放置し、願わくば皆殺しにされることを祈った。これにより、メキシコと戦争をする口実ができた。これはメキシコに対する侵略ではなく、制裁、成敗、敵討ちである。合言葉が「リメンバー・アラモ」だった。知りうる限り、これは「リメンバー・パールハーバー」の原型である。



二条斉信（1788～1847）※画像なし

西園寺寛季（1787～1856）※画像なし

ジェームズ・ガスコイン＝セシル（1791～1868） 第二代ソールスベリー侯爵

ジェームズ・ブキャナン（1791～1868） 第15代アメリカ大統領 任期1857～1861

アンドリュー・ジョンソン（1808～1875） 第17代アメリカ大統領 任期1865～1869

九条尚忠の子



九条道孝（1839～1906） 九条家第20代当主

ネルソン・マイルズ（1839～1925） アメリカ陸軍将軍

ベンジャミン・ハリソン（1833～1901） 第23代アメリカ大統領 任期1889～1893

ジョルジュ・クレマンソー（1841～1929） 第40、53代フランス首相 任期1906～09、1917～20

デヴィッド・デイヴィス・ウォーカー（1840～1918） トーマス・ウォーカーの孫

グローバー・クリーブランド（1837～1908） 第24代アメリカ大統領 任期1893～1897



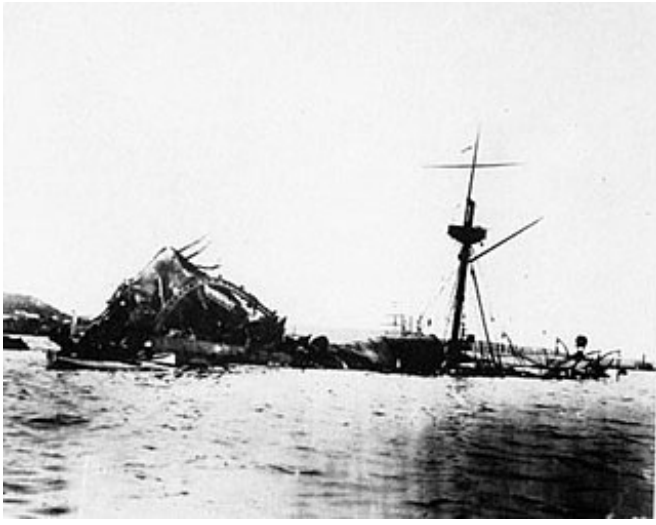
アメリカ：シャイアン虐殺（1864）

アメリカ：ウンデッド・ニーの虐殺（1890）

※マイルズは、アメリカ・インディアン種族に対する絶滅作戦のほとんど全てを指揮した。白人
がインディアンを絶滅に追い込んだというよりは西本願寺門主文如の一族の子孫であるネルソン
が独断でやったことだ。インディアン絶滅の真犯人である。自分の指示に反対する白人は闇から
闇へ消したはずだ。そのための将軍という肩書きである。東西本願寺の一族はウソをつくために
常に権威を騙る。ウンデッド・ニーの虐殺では、女子どもを含む300人の虐殺につながった。
またランドリューの影武者の仲間には奴隷商人トーマス・ウォーカーの孫デヴィッド・デイヴィ
スがいた。デヴィッドは表向きは卸売服飾店経営者だったが、裏では黒人奴隷売買・人身売買に
従事していた。そのため、リンカーンが作った奴隷解放の風潮が癪に障っていた。デヴィッド・
デイヴィスがリンカーン暗殺の犯人であるが、表向きのロールのおかげで誰にも疑われなかった
。

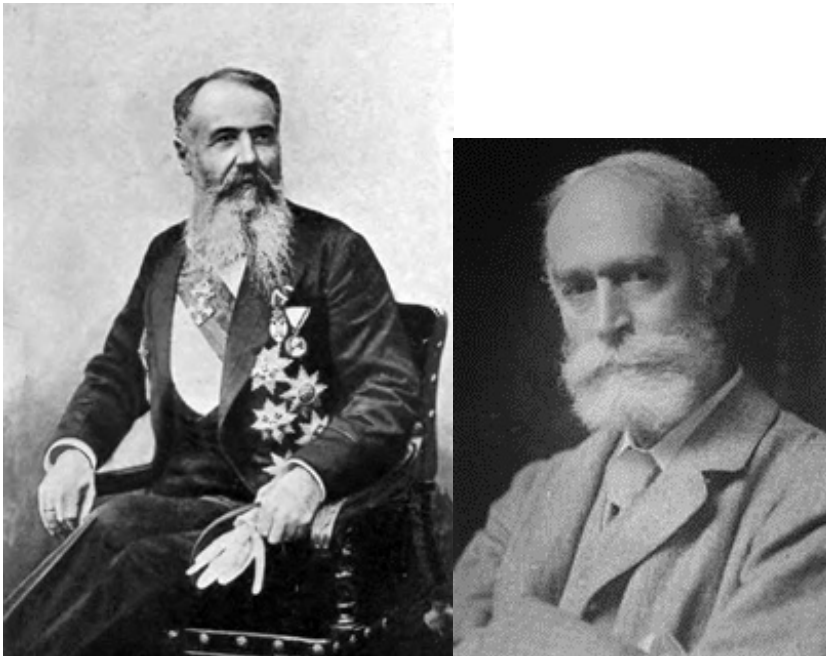
リンカーン大統領暗殺19年後の1884年、デヴィッド・デイヴィスはテキサス州で「テキサ
ス召使少女惨殺事件」の加害者として暗躍したようだ。1年間で8人が殺害されている。そのう
ちの数人は黒人少女だった。頭を斧で真っ二つに割られたち、顔面がゼリー状になるまで殴られ
るという殺され方をしている。犯人複数説もあるようだが、その場合、共犯者はバルフォア、ガ
スコイン＝セシルなどの文如の一族で間違いない。

九条道孝にはアメリカ大統領になった影武者もいるが、そのうちのベンジャミン・ハリソンは共
和党初のタナトスの大統領である。民主党はアンドリュー・ジャクソンのときから間断なく、タ
ナトスの大統領が連綿と続いている。



アメリカ：メイン号沈没と米西戦争（1900）

米一方、米西戦争に於いては、ネルソンは開戦前に自らの指示で戦艦メイン号を沈めてたくさんのアメリカ兵を見殺しにし、それをスペインのせいにした。フィリピン、キューバを奪うためにスペインとの戦争の口実を取り付けたのだ。この場合、被害者は多ければ多いほど良かった。合言葉は「リメンバー・メイン」だった。多くの人々を殺してきたマイルズの冷たいまなざしは、常人を凍りつかせずにはおかない。



松園尚嘉（184?～?）※画像なし

ニコラ・パシッチ（1845～1926）セルビア王国首相

C. P. Scott（1846～1932）ガーディアン・メディアグループ創業

※パシッチは、甥ロイド・ジョージの悲願である第一次世界大戦実現のために骨を折った。姪の子たち（黒手組）にオーストリア皇太子を暗殺させ、オーストリア帝国が黒手組を引き渡すように言うところを拒否した。オーストリアはこれに怒って第一次世界大戦が始まるのだが、これはタナトス特有の罠だった。嫌がらせをして敵を怒らせ、先に手を出させる。先に手を出した方が

悪だ。敵が悪なら自分たちは正義の味方だ、ということである。



鶴殿忠善（1853～1895）※画像なし

アーサー・バルフォア（1848～1930） 第50代イギリス首相 任期1902～1905

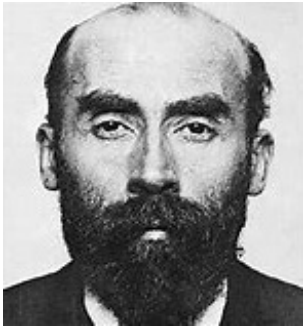
William Pirrie（1847～1924） 造船会社ハーランド・アンド・ウルフ社会長

ヴィンチェンツォ・ヴェルゼーニ（1849～1918） 異常性愛シリアルキラー（女性2人）

※ヴェルゼーニの犯罪の真犯人はバルフォアと考えられる。金も権威もあり、伝手も多い彼らは自在に世界中に姿を表すことが出来る。ということで、バルフォアはイタリアを選んだ。彼は2人殺したところで犯罪が発覚し、ヴェルゼーニに罪を着せてトズラした。だが、上のバルフォアの顔を見れば、殺したのはたった2人であるはずがない。恐ろしきは西本願寺門主文如の一族。

因みに、イギリス留学中に夏目漱石はイギリスの邪教信者に嫌がらせを受けており、それが神経衰弱の原因であった。その指揮を執っていたのは切り裂きジャックことガスコイン＝セシル首相とバルフォア首相である。

バルフォアはイギリス政府のシオニズム支援を約束したバルフォア宣言で知られる。どんなことにも常に距離を置いて冷めた目で見るとバルフォアが例外的に熱心に取り組んだのがシオニズムだった。バルフォア自身も死の直前に「私の生涯の全仕事で最も価値があったのは、ユダヤ人の為にした仕事だったように思う」と語っている。アーサー・バルフォア [wiki](#) より



アンリ・ランドリュウ（1869～1922） 連続殺人鬼（女性・少年11人）

※ランドリュウは結婚詐欺をしながら女性を9人、そして少年2人を殺害している。この事件はチャップリンの「殺人狂時代」のモデルだが、実際の真犯人はクレマンソー首相ではないかと考えられる。ランドリュウの活動期間1915年～1919年は、クレマンソーが首相をしていた時代（1917年～1919年）と符合する。これは真アルバート・フィッシュことロイド・ジョージ首相と共通する事項だ。最高の権威に就いている時にこそ、殺人を趣味として楽しむこと。これが本願寺の嗜みなのだろう。

ランドリュウはクレマンソーと非常に顔が似ているが、2人は親子だと考えられる。だがランドリュウはその事実を知らない。母が優性遺伝子ブリーダーによって自分をクレマンソーの子として生んだことを知らなかった。しかし、クレマンソーは知っていた。で、顔が似ているということでランドリュウはクレマンソーの身代わりとなった。

処刑直前に面会しに来た神父に言ったランドリュウの言葉「私よりあなたの魂を救済する事を考えた方がいい」。この言葉を見る限り、彼は本当に何も知らなかった。彼は哀れなフィッシュと同じで、殺人鬼の汚名を着せられて処刑されたのだ。

ジェイムズ・ガスコイン＝セシル（西園寺寛季）の子



西園寺師季（1826～1851）※画像なし

ロバート・ガスコイン＝セシル（1830～1903） 第49代イギリス首相 任期1895～1902

切り裂きジャック（?～?） 連続殺人鬼

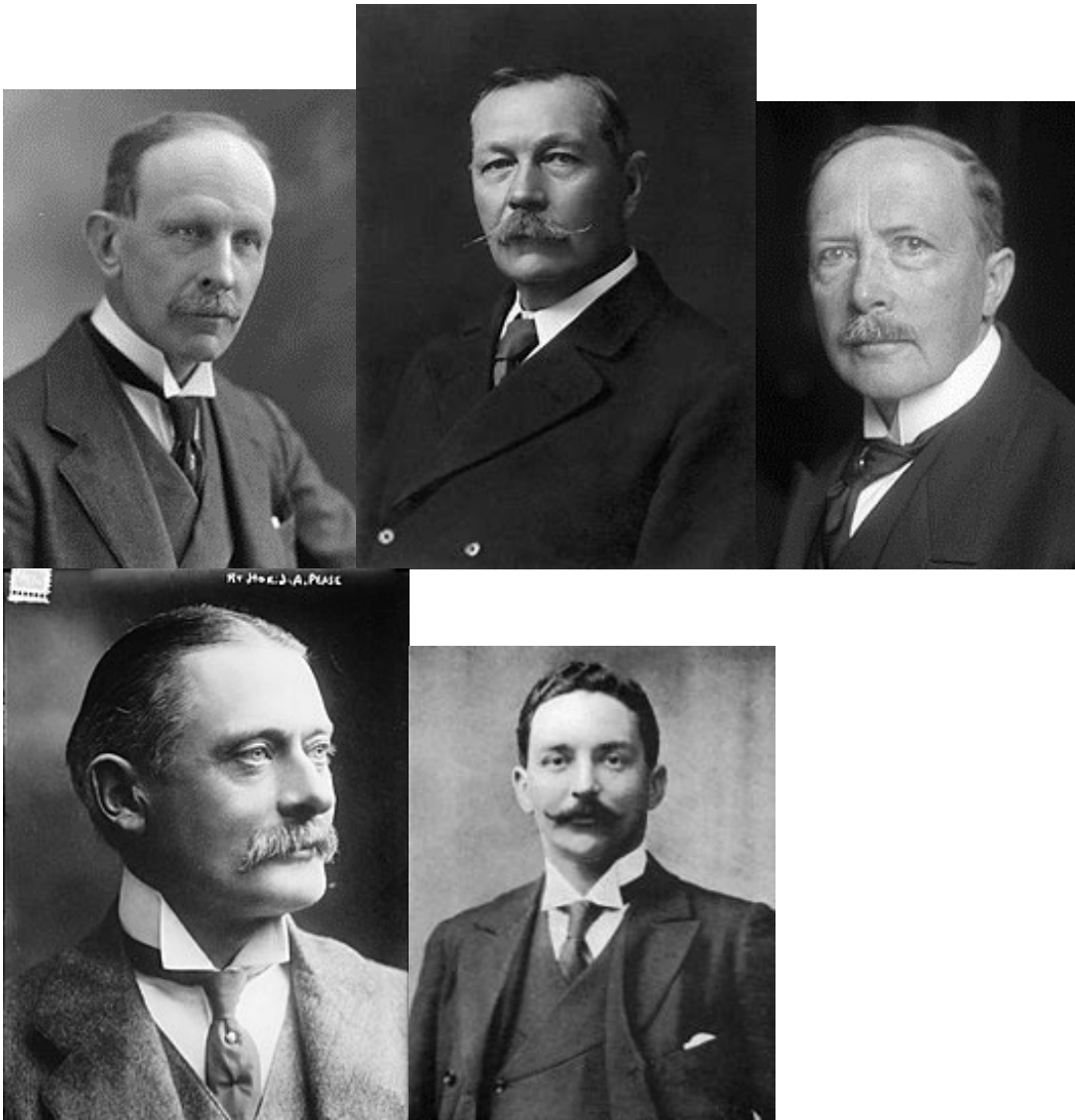
※ジェイムズの子、小ウィリアム・ピットの孫であるロバートは人相が悪いが、それもそのはず。彼は、切り裂きジャックその人である。1887年11月13日日曜日、社会主義者と失業者から成る数万人の群衆がロンドンのトラファルガー広場に集結し、政府に対してデモを行った。市警察長官サー・チャールズ・ウォーレンは武装した兵士と2000名の警察官に処理を命じたが、暴動が発生し数百人の負傷者と2人の死亡者が発生。この事件は「血の日曜日」事件と名づけられた。

これに対し、切り裂きジャックの登場は翌月、1887年の12月である。切り裂きジャックは1887年12月～1891年4月の4年間、ロンドンのイースト・エンド、ホワイトチャペル地区で売春婦10数人をバラバラにした連続猟奇殺人犯のパイオニアだが、おもしろいことに第2次ガスコイン＝セシル内閣は、1886年～1892年と切り裂きジャックの活動期間と符合している。これは偶然だろうか？

夏目漱石のイギリス留学は1900年であることから、切り裂きジャック事件の直後となる。漱石は、ガスコイン＝セシル首相の在職中にイギリスに留学したわけだが、セシルが指揮する集団ストーカーによって精神に異常をきたしてしまう。優れた人間はタナトスの天敵であるが、この当時から集団ストーカーは世界規模であった。



※セシル（57歳）がイギリス首相時代に惨殺した被害者のひとり。ただ、57歳だと重労働なので以下の5人の息子たちに手伝ってもらっている。切り裂きジャックの手伝いは、息子たちにとっては大谷の成人の儀式「人間狩り」である。

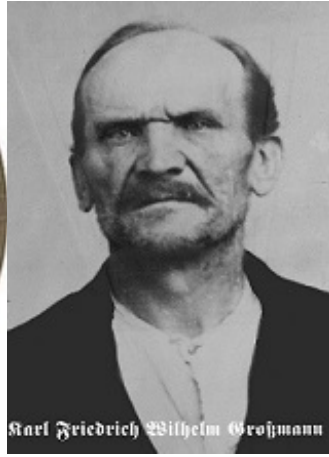


ジェームズ・ガスコイン＝セシル（1861～1947） ソールスベリー侯爵
アーサー・コナン・ドイル（1859～1930） 推理小説家
ヴァルター・ジモンズ（1861～1937） ヴァイマール共和国第3代大統領
Jack Pease（1860～1943） BBC初代会長
ジョセフ・ブルース・イズメイ（1862～1937） 海運企業ホワイト・スター・ライン経営者

※父の連続猟奇殺人を手伝ったのは26歳のときだった。父と同じように目の奥に光る冷たい光は、侯爵でありながら対峙する者を戦慄させる力を持つ。影武者のコナン・ドイルは推理作家の草分けとして名高いが、ほとんどの作品は盗作と考えられる。

影武者のひとりジャックはBBCの初代会長に就任しているが、BBCの略はブリティッシュ・文如・克蘭ズマン（イギリスの文如一族）の可能性がある。

一方、ジェームズにはイズメイという影武者がいた。イズメイは、本願寺一族の敵であるJ・P・モルガンを貶めるためにタイタニック号沈没事故を指揮した。ホワイト・スター・ラインを所有していたモルガンに責任転嫁して罪悪感を刺激することが目的だった。その思惑通りか、モルガンは事故翌年に亡くなった。イズメイはモルガンひとりを貶めるために1513人を殺した。



ウィリアム・ガスコイン=セシル（1863～1936） エクセター司教

カール・グロスマン（1863～1922） 喰人シリアルキラー（少年少女26～100人）

※ウィリアムが父の連続猟奇殺人を手伝ったのは24歳のときだった。司教でありながら、ならず者のような顔をしている。その後、彼は殺人キャリアをドイツに移し、100人近い少年少女を殺し、一部を食べていたという。哀れなことだが、もちろんグロスマンは、ただの学のない異相の貧乏人に過ぎない。



ロバート・ガスコイン=セシル（1864～1958） チェルウッド子爵、国際連盟創設者

H・G・ウェルズ（1866～1946） SF小説家

William Bridgeman（1864～1935） BBC4代会長

※父の連続猟奇殺人を手伝ったのは23歳のときだった。切り裂きジャックの殺人を担った殺人集団のひとりが「国際連盟」を創設した。一方、ロバートの影武者にはHGウェルズがいた。「タイムマシン」の概念を発明するなど、ウェルズはSFの草分け的な作家だが、ほとんどが盗作だと考えられる。ウェルズは本体のロバートと共に国連創設に尽力したことで知られている。

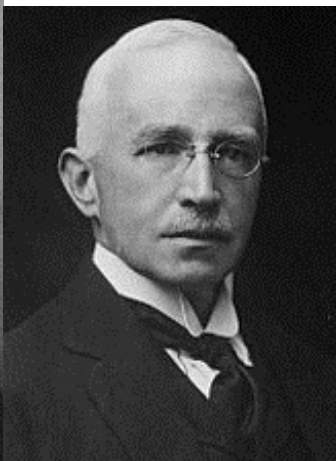
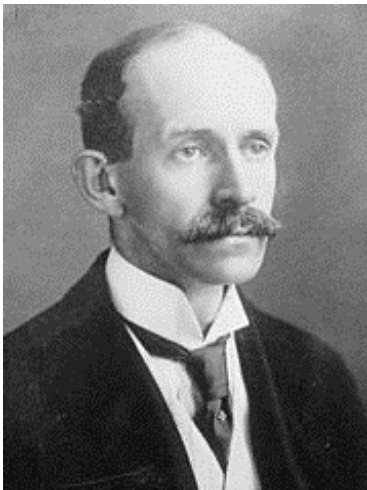


エドワード・ガスコイン=セシル（1867～1918）

ジョージ・ハーバート（1866～1923） 第5代カーナヴォン伯

Ronald Collet Norman（1873～1963） BBC 5代会長※画像なし

※父の連続猟奇殺人を手伝ったのは20歳のときだった。顔が気持ち悪いので兄弟の中で一番殺人を楽しんだと考えられる。一方、ツタンカーメン発掘に資金援助をしていたジョージ・ハーバートはエドワード本人が演じていたようだ。画像を見ると分かるがくりそつである。つまり、ツタンカーメンの呪いだなんだ言われているが、結局は利権を独り占めしたいエドワードが間者を使ってハワード・カーターらを闇から闇へと消していたのだ。



ヒュー・ガスコイン=セシル（1869～1956） クイックスウッド男爵

John Henry Whitley（1866～1935） BBC 3代会長

※父の連続猟奇殺人を手伝ったのは18歳のときだった。

九条道孝（ネルソン・マイルズ）の子



九条道実（1870～1933）※画像なし

佐竹義生（1867～1915）※画像なし

デヴィッド・ロイド・ジョージ（1863～1945） 第53代イギリス首相 任期1916～1922

アルバート・フィッシュ（1870～1936） 幼児性愛カニバリズム（少年少女400人）

※写真は左上から大蔵大臣時代のロイド・ジョージ（40代前半）、アルバート・フィッシュ（30代）、逮捕されたホンモノのアルバート・フィッシュである。そして下が親戚のヒトラーとの記念スナップ。人殺しは気が合うものだ（背後の人の方が怖い。誰だろう？）。

じつはフィッシュはロイド・ジョージの影武者であり、ロイド・ジョージに名前を貸していたに過ぎない。一連のアルバート・フィッシュ連続児童殺人事件の真犯人はイギリス首相ロイド・ジョージである。イギリス首相ロイド・ジョージはニューヨークで400人もの子供を殺しておきながら、影武者フィッシュを身代わりに電気椅子に座らせ、自分はこのうのと82歳まで生きた。

ネットでロイド・ジョージ首相の写真を眺めていたら、どうも処刑されたアルバート・フィッシュは別人だと気付いた。上記の30代のフィッシュと40代前半のロイド・ジョージは、顔を見れば赤の他人ではないことがわかる。処刑された男だけが少々違う。ロイド・ジョージはニューヨークで子供を狩って食べ続け、処刑の時だけは別人（影武者）を送り込んだのだ。

一般的に、フィッシュは1910年から1933年まで血に塗れた仕事をしたとされている。プロファイリングではシリアルキラーは若い頃から殺人に精を出すものだが、フィッシュのデビューは40歳である。妙だ。ただ、ロイド・ジョージはウィリアム・ガスコイン＝セシルと同じ年なので、カール・グロスマン事件の真犯人である彼の手伝いをしていた可能性がある。その時に殺しの味を覚え、人肉の味も覚えた。そしてウィリアムと共に殺人稼業を嗜んだ。

一方で、フィッシュの活動期間はロイド・ジョージが1905年に政界入りし、大蔵大臣、首相を務め、1931年に自由党党首職を辞した時期に符合する。

ロード・ジョージという西本願寺の子孫である男は、イギリス政界で働いている際に、お忍びでイギリスからニューヨークに行き、アルバート・フィッシュの名を借りて子供を狩り、殺し、食べていたのだ。400人は殺したとされている。

名前を貸していたフィッシュはロイド・ジョージとは異母兄弟と考えられる。そのため、影武者として働いたのだろう。しかし、子供を狩り、殺して食べる趣味はなかった。そのため、フィッシュの6人の子供たちは手をかけられるどころか、虐待されることもなく、無事に育った（殺人鬼マニアの中では謎とされている）。

ただ、フィッシュは影武者であるため、ロイド・ジョージの犯罪の隠蔽、手順の管理などは手伝ったと考えられる。1930年代のニューヨークを恐怖に陥れ、カニバリズムに狂った少年少女殺人鬼の正体はイギリスの首相だった。ロイド・ジョージの父は、インディアン虐殺作戦の指揮、すべてを取り仕切ったネルソン・マイルズ陸軍将軍（ウィリアム・ジョージ）である。



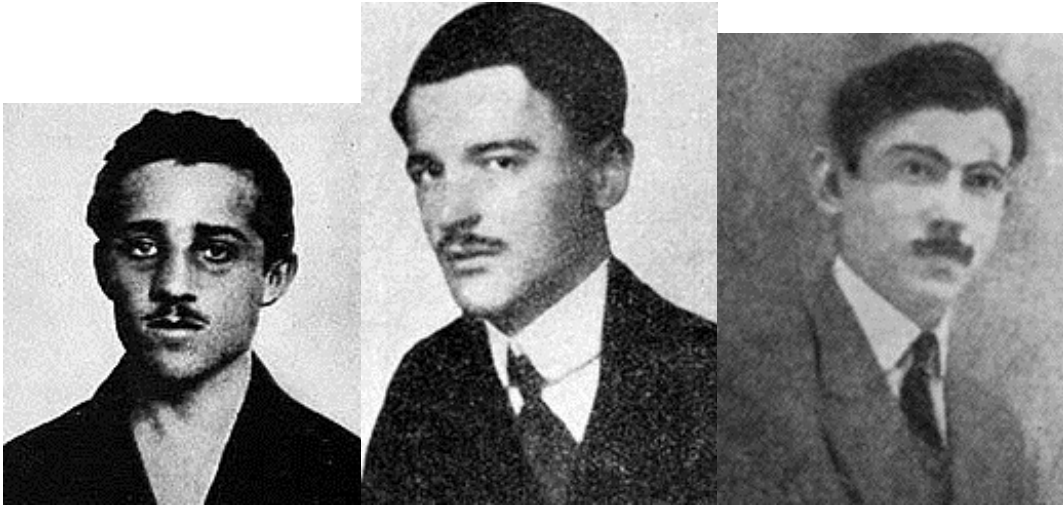
菊麿王妃範子（1878～1901）※画像なし

ドラグーティン・ディミトリエビッチ（1876～1917） 秘密組織黒手組指導者

George Villiers（1877～1955） BBC第2代会長

Allan Powell（1876～1948） BBC6代会長

Ernest Simon（1879～1960） BBC8代会長



武彦王（1898～1987） 菊麿王妃範子の子※画像なし

ガヴリオ・プリンツィプ（1894～1918） 黒手組

ネジェルコ・チャブリノヴィチ（1895～1916） 黒手組

トリフコ・グラベ（1895～1916） 黒手組

Philip Inman（1892～1979） BBC 7代会長

※黒手組メンバーは、ロイド・ジョージの姪の子とその影武者たちで固められていた。黒手組はセルビア首相パシッチと組み、オーストリア帝国を嵌めて伯父ロイド・ジョージの悲願、第一次世界大戦開戦のために尽力した。

九条道実（佐竹義生）の子



佐竹義春（1890～1944）※画像なし

W・アヴェレル・ハリマン（1891～1986） トルーマン政権商務長官

Junius Spencer Morgan III（1892～1960） J Pモルガン孫

John Reith（1889～1971） 初代リース伯、BBC初代事務局長

※西本願寺門主文如の一族がBBCを始め、代々、BBC事務局長、BBC会長を務めた。世界のすべてのフェイクメディアの親であり、西本願寺門主良如の一族が運営するMI6、西本願寺門主法如の一族が運営するロイター通信とは表裏一体の組織である。



九条道秀（1895～1961）※画像なし

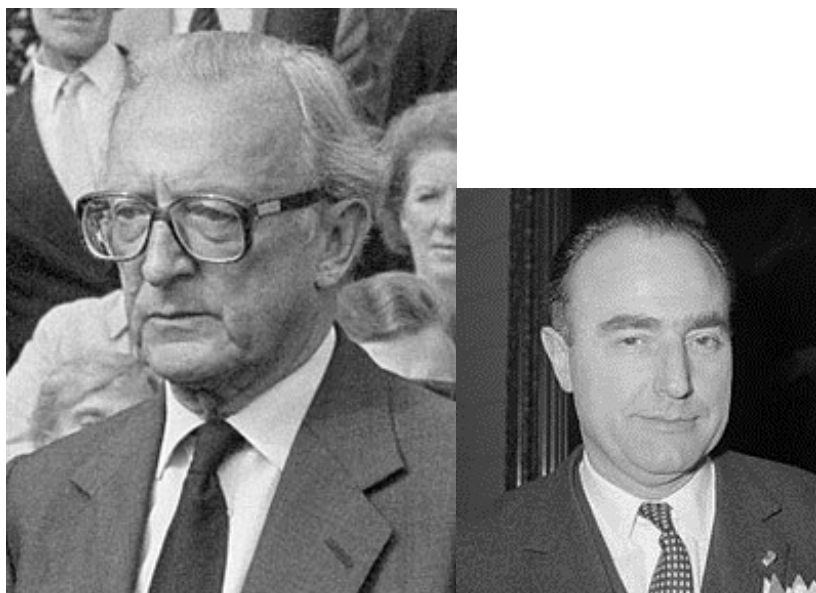
Henry Sturgis Morgan（1900～1982） J Pモルガン孫※画像なし

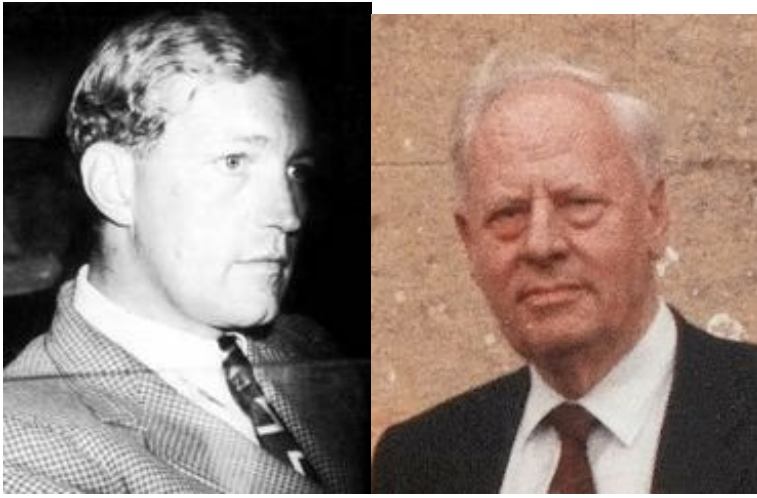
マンリオ・ブロジオ（1897～1980） NATO第4代事務総長

アール・ネルソン（1897～1928） 精神異常シリアルキラー（女性22人）

※元来、J・P・モルガンと息子のJ rは良い人々だったが、孫の代にモルガン家はタナトスの家系となった。

恒憲王妃敏子の子（九条道実の孫）





邦寿王（1922～1986）※画像なし

ピーター・キャリントン（1919～2018） NATO第6代事務総長

パウル・ファンデン・ブイナツ（1919～2001） ベルギー王国第55代首相 任期1966～1968

エドワード・レオンスキ（1917～1942） 異常性愛シリアルキラー（女性3人）

ネヴィル・ヒース（1917～1946） 異常性愛シリアルキラー（女性2人）

Michael Swann（1920～1990） BBC14代会長



賀陽美智子（1923～2009）※画像なし

マーガレット・サッチャー（1925～2013） 第71代イギリス首相 任期1979～1990

ルース・エリス（1926～1955） 殺人犯（男性1人）

イルマ・グレーゼ（1923～1945） アウシュヴィッツ収容所看守（女性囚人3万人管理）

※サッチャーは賀陽美智子の影武者として生まれた。過去にサッチャーはルース・エリスとして男性を殺している。ルース・エリスの被害者は1人だが、文如の一族の伝統に則れば、サッチャーが殺した可能性が高い。冤罪要員には異母兄弟か、或いは必ず年齢・容姿が近い人物を選ぶ。また、19歳のサッチャーは戦争時代には親戚が運営するアウシュヴィッツ収容所で看守のバイトをしてこともあるらしい。彼女は、収容所で一番恐い看守として恐れられていたようだ。なにしろ、「鉄の女」ですから。女性囚人に猛犬をけしかけたり、銃で撃ったり、鞭打ったり、他にもいろいろ考えられるがサディスティックの限りを尽くした拷問を楽しんでいたようだ。しかし、ナチス敗北前夜、サッチャーはちゃんとイギリスに帰還し、あとは異母姉妹と考えられるイルマにすべてを押し付けたようだ。



賀陽健憲（1942～2017）※画像なし

ジョン・メイジャー（1943） 第72代イギリス首相 任期1990～1997

イアン・ブレイド（1938～2017） ムーアズ殺人事件犯人

ピーター・サトクリフ（1946） ヨークシャーの切り裂き魔（女性13人）

ピーター・トビン（1947） バイブル・ジョン事件（女性3人）※画像なし

クリストファー・パッテン（1944） 香港反政府デモ指導者、BBC 23代会長

Michael Grade（1943） BBC 21代会長

David Clementi（1949） BBC 25代会長

※gradeとパッテンはよく似ている。メイジャー、サトクリフ、クレメンティも傾向が似ている。サトクリフはメイジャーの異母兄弟で影武者として生まれた可能性が高い。メイジャーの犯罪を手伝っていたのだろう。影武者の責務としてメイジャーの罪を背負った。ただ、顔、姿、年齢が近いだけでブレイディは冤罪だろう。

この一族の伝統を鑑みれば、「ムーアズ殺人事件（1963～1964）」の真犯人は20歳のメイジャーと考えられる。これは家族であるメイジャーが、弟（ブレア）や妹（メイ）たちが一人前のタナトスになるために「拷問大会」を開催したということになる。10～12歳のブレア、7～9歳のメイが扱いやすいようにメイジャーは成人ではなく十代の被害者を集め、拷問を監督した。そして、最後にメイジャーが止めを刺していたと考えられる。ブレイディーとヒンドリーは哀れだが冤罪だ。

そして、「ムーアズ殺人事件（1963～1964）」の最中の1964年に、21歳のメイジャーはロンドン特別区議会の選挙で当選している。同地方議会においてメイジャーは住宅供給委員会の議長を務めたという。

その後、33歳のメイジャーが再度殺人を開始する。1975年～1980年まで殺人行脚を続けた結果、彼は「ヨークシャーの切り裂き魔」と呼ばれた。この時には、子分として22歳のブレア、21歳のメイが手伝っていた可能性もある。

文如の一族はイギリスの司法・警察組織を掌握しているのでメイジャーたちは「何もしていない」と同じだ。1979年、メイジャーはハンティンドンシャー選挙区から保守党候補として立候補し、庶民院議員に初当選した。メイジャーが政界に入ると前後してヨークシャーの切り裂き魔は姿を消すことになる。

本如の一族～ウクライナ東方カトリック教会、東トルキスタン、セルビア公国、ムスリム同胞団、ユーゴスラビア紛争、チェチェン紛争、南オセチア紛争、ウクライナ政変



本如（1778～1826）

イオアニス・カポディストリアス（1776～1831） フィリキ・エテリア会長・ギリシア初代大統領

アウグスティノス・カポディストリアス（1778～1857） ギリシア第2代大統領

ミロシュ・オブレノヴィッチ1世（1780～1860） 初代セルビア公

ミハイロ・レヴィトスキー（1774～1858） ウクライナ東方カトリック教会大主教

※本如はジャハングルを名乗り、新疆では回教徒を総動員し、清に挑戦した。この時に生まれた回教徒の指揮系統は今でも生きており、ラビア・カーディルなどもこの指揮系統を利用している。子孫である西本願寺の門主、大谷光瑞のシルクロード探検隊も故郷を目指して新疆にやってきたことがある。



旻姫（1790?～1803） 本如妹

ガムザット・ベク（1789～1834） ダゲスタン初代イマーム

ハジー・ムラード（1790～1852） ダゲスタン第2代イマーム、アヴァール指導者

フリホリー・ヤクヒモヴィッチ（1792～1863） ウクライナ東方カトリック教会大主教

※旻姫は実際には男子だが、女子として育てられたようだ。その後、早世したことにして兄である本如に同行してダゲスタンなどの国家を築いた。



広如（1798～1871）

シャミール（1797～1871） ダゲスタン第3代イマーム

アレクサンダル・カラジョルジェヴィッチ（1806～1885） 第4代セルビア公

※広如は本如に同行していたが、途中で日本に帰還した。その後は影武者であるシャミールやカラジョルジェヴィチが独自に動いた。シャミールはダゲスタンに独自の国家を作ろうとし、一方、カラジョルジェヴィチはオスマントルコ帝国を内部から破壊しようとバルカン半島のセルビアに足場を得た。

ミロシュ・オブレノヴィッチ1世（本如）の子



Princess Savka（1814～1848）※画像なし

張樂行（1811～1863） 捻軍首領※画像なし

スピリドン・リュトヴィノヴィッチ（1810～1869） ウクライナ東方カトリック教会大主教

※サヴカは、34歳で死んだことにより中国に潜伏して張樂行として活動した。張樂行は、子であるゴン得樹、蘇天福と組んで捻軍として清に対して蜂起した。



ミラン・オブレノヴィッチ2世（1819～1839）

第2代セルビア公

ヤクブ・ベク（1820～1877）

ヨセフ・セムブラトヴィッチ（1821～1900）

ウクライナ東方カトリック教会大主教

中国：江北に捻軍、新疆に回軍起こる（1857）

中国：捻軍、山東に入る（1865）

中国：ヤクブ・ベク、新疆に自立（1866）

※セルビア公ミランは、清を内部から破壊するためにヤクブ・ベクとして新疆に足場を得ようと画策した。



ミハイロ・オブレノヴィッチ3世（1823～1868） 第3代セルビア公

ゴン得樹（？～1863） 捻軍首領※画像なし

蘇天福（？～1863） 捻軍首領※画像なし

ジュリアン・サス＝クイロフスキー（1826～1900） ウクライナ東方カトリック教会第2代大主教

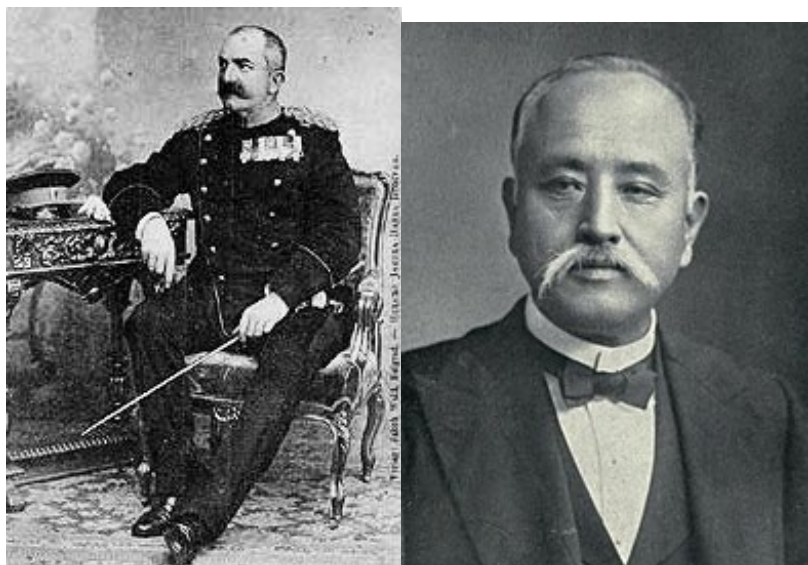
Miloš Obrenović（1829～1861） ミラン1世父※画像なし



Prince Todor（1836？）※画像なし

シルヴェスター・セムブラトヴィッチ（1836～1898） ウクライナ東方カトリック教会初代大主教

Miloš Obrenović (ミハイロ・オブレノヴィッチ3世) の子



ミラン1世 (1854~1901) セルビア王

岡部長職 (1855~1925) 英国公使館参事官、外務次官、司法大臣、東京府知事、枢密顧問官

セルビア王ミラン1世の子



Prince Sergei (188?) ※画像なし

アリハーン・トラ (1884~1946) 第二次東トルキスタン大統領

岡部長景 (1884~1970) 外交官・子爵、岡部長職の長男



George Obrenović (1890~1925) ※画像なし

ホージャ・ニヤーズ (1889~1941) 第一次東トルキスタン大統領

岡部長剛 (生没年不詳) 岡部長職の次男※画像なし

※ミラン1世の子たちは、大日本帝国で要職に携わりながらトルキスタン独立にこだわった。

セルビア公アレクサンダル・カラジョルジェヴィッチの子





アルセン・カラジョルジェヴィチ（1859～1938）

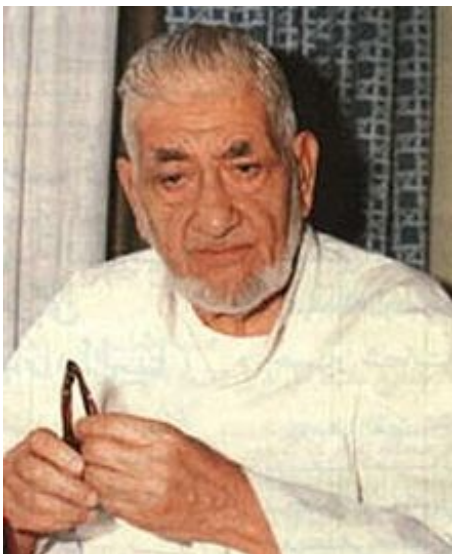
コンスタンチン・コンスタンチノヴィチ（1858～1915） ロシア大公

加藤高明（1860～1926） 内閣総理大臣

アンドレイ・シェプティスキー（1865～1944） ウクライナ東方カトリック教会第3代大主教

選挙公約であった普通選挙法を成立させ、日ソ基本条約を締結しソ連と国交を樹立するなど、一定の成果をあげた。しかし一方では共産党対策から治安維持法を同時に成立させた。この法規は後に言論弾圧の口実として使われ、特に戦時中に乱用されたとして治安維持法反対派からは強く批判されている。wikiより

※加藤高明とアンドレイ・シェプティスキーは、異母兄弟と考えられる。



パヴレ・カラジョルジェヴィチ（1893～1976） ユーゴスラヴィア公※画像なし

ハサン・アル＝フダイビ（1891～1973） ムスリム同胞団第2代指導者

ヨシフ・ズリピジ（1893～1984） ウクライナ東方カトリック教会第4代大主教

※ハサンとヨシフは良く似ている。明らかに同一人物である。

Princess Helenの子（セルビア王ペータル1世の孫）



Prince Vsevolod Ivanovich（1914～1973）

ミラスロフ・イヴァン・ルバチフスキー（1914～2000） ウクライナ東方カトリック教会第5代大主教

ロシア大公コンスタンチン・コンスタンチノヴィチの子



Prince Georgy Konstantinovich（1903～1938）※画像なし

Ruggiero Farace（1909～1970） イタリア外交官、Princess Catherine Ivanovna夫
ハサン・アル＝バンナー（1906～1949） ムスリム同胞団創設

シー・ケネン（1905～1988） アメリカ・イスラエル公共問題委員会創設

※顔は似ていないが異母兄弟だと考えられる。子の、マムーン・アル＝フダイビなどがシー・ケネンに似ている。

パヴレ・カラジョルジェヴィチの子



アレクサンダル・カラジョルジェヴィチ（1924～2016）※画像なし

ムスタファ・マンシュール（1921～2002） ムスリム同胞団第5代指導者

マムーン・アル＝フダイビ（1921～2004） ムスリム同胞団第6代指導者



Prince Nikola（1928～1954）※画像なし

モハムド・マーディ・アケフ（1928～2017） ムスリム同胞団第7代指導者

Princess Catherine Ivanovnaの子（セルビア王ペータル1世の曾孫）



Nicoletta Farace（1938）※画像なし

ルボミル・フサール（1933～2017） ウクライナ東方カトリック教会第6代大主教



Fiammetta Farace（1940）※画像なし

フェトフッラー・ギュレン（1941） トルコ・イスラム法学者ハナフィー派

ギュレン運動はかつてトルコのレジェップ・タイイップ・エルドアン大統領の支持母体となるなど、ギュレンとエルドアンは協力関係にあった。しかし2013年末にエルドアン政権に大規模汚職事件の名の下に第一回目ソフトクーデターを試み、エルドアン側はギュレンが仕掛けたものとして両者の関係は悪化。2016年7月15日にトルコで発生したクーデター未遂事件では、クーデターを試みた勢力がギュレン運動とつながっていたと目され、アメリカに対しギュレンの身柄引き渡し要求が行われたが、ギュレン自身は関与を否定している。 wikiより



Giovanni Farace (1943)

モハマド・バディー (1943) ムスリム同胞団第8代指導者

ジョハル・ドウダエフ (1944~1996) チェチエン・イチケリア大統領

ユーゴスラヴィア王アレクサンダル1世の孫



アレクサンダル2世カラジョルジェヴィチ (1945) ユーゴスラビア王太子※ペータル2世の子

ムハンマド・ムルシー (1951) ハサン・アル=バンナーの子 (エジプト・アラブ共和国第

3代大統領)

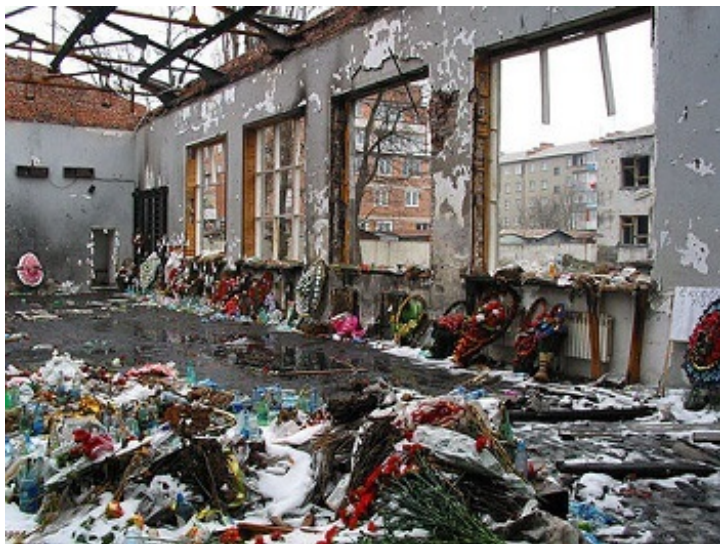
パーヴェル・ラザレンコ（1953） オリガルヒ・ウクライナ首相

アスラン・マスハドフ（1951～2005） チェチェン独立派最高指導者

ヌーリー・マーリキー（1950） イラク第4共和制初代首相

※悪人としてイラクの政界から追放されたマーリキーは、エジプトで投獄されたムルシーにクリソツである。

アラブの春における民主化後では最初となるエジプト大統領に選出されるが、政教分離などの世俗的な価値観が浸透していないエジプトでイスラム主義に基づいた統治を進め、モハメド・エルバラダイら国内の世俗派から強い反発を受けた。政権後半にはイスラム主義に基づいた新憲法制定を目指した事で大規模な反政府運動が発生し、最終的に政権担当能力を疑問視したアブドルファッターフ・アッ＝シーシー国防大臣らによるクーデターにより解任され、身柄を拘束された（2013年エジプトクーデター）。wikiより



※2004年ベスラン学校占拠事件



Prince Christopher（1960～1994） Prince Andrewの子※画像なし

アレクサンドル・スモレンスキー（1954） オリガルヒ・SBSアグログループ
アーマド・サラマ・マブルーク（1956） アル＝ヌスラ戦線指導者

※スモレンスキーはマブルークの影武者として生まれたが、ウクライナでオリガルヒとして成り上がった。

Prince Tomislavの子（ユーゴスラヴィア王アレクサンダル1世の孫）



Prince Nikola（1958）※画像なし

ヴィクトル・ピンチュク（1960） オリガルヒ

イホル・コロモイスキー（1963） オリガルヒ・ウクライナ第二の富豪



Princess Katarina（1959）※画像なし

ペトロ・ポロシェンコ（1965） ウクライナ大統領

アブドゥル・シャクールアル＝トルキスタニ（1965） 東トルキスタン・イスラム運動指導者※画像なし

ハシム・サチ（1968） コソボ解放軍指導者

シャミル・バサエフ（1965～2006） チェチェン独立派強硬派指導者

※上の4人は異母兄弟と考えられる。顔の傾向が良く似ている。トルキスタニ、サチはポロシェンコの影武者として、ピンチュクはコロモイスキーの影武者用に生まれたのだろう。コロモイスキーはムルシーに良く似ている。ポロシェンコはウクライナ第二の富豪が異母兄弟であるため心強いのだろう。

Princess Catherine Ivanovnaの孫（ロシア大公コンスタンチン・コンスタンチノヴィチの曾孫）



Eduardo Alberto Grundland（1967） Nicoletta Faraceの子※画像なし

ミハイル・サアカシュヴィリ（1967） 第3代グルジア大統領

ラムシュ・ハラディナイ（1968） コソボ解放軍指導者

アブドゥラ・マンスール（生没年不詳） 東トルキスタン・イスラム運動指導者

アブー・ジャバール・シャキイ（1968） タハリール・アル＝シャーム指導者、シリア反政

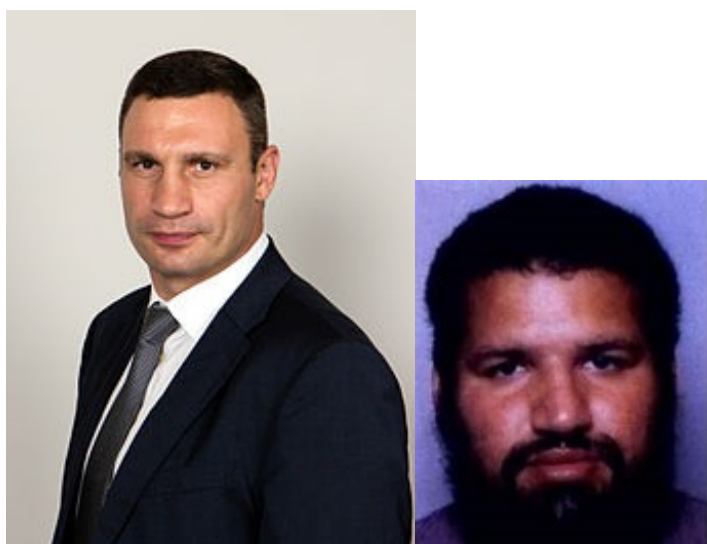
府勢力指導者

※この4人、顔が似すぎ。明らかに兄弟。マンスールはひとりだけ東アジア系だが、それでも似ている。



グルジア：南オセチア紛争（2008）

※サアカシヴィリとハラディナイは非常に良く似ている。異母兄弟の影武者ではなく、同一人物の可能性もある。つまり、サアカシヴィリに危機が迫った時、コソボに逃亡・潜伏してハラディナイに早代わりするのだ。マンスールは生年が不明だが、2人に良く似ているため仲間に加えた。



Alessandro Farace（1971） Giovanni Faraceの子

ビタリ・クリチコ（1971） ポロシェンコ政権

ファビエン・クラン（1977～2019） ISIS指揮者

※ビタリ・クリチコは、この前（2019年2月）殺害されたファビエン・クランに良く似ている。



Sebastian Arcelus (1976) Fiammetta Faraceの子※画像なし

ヴォロディーミル・フロイスマン (1978) ポロシェンコ政権ウクライナ首相

アブー・モハンマド・アル=ジュラーニ (1975) アル=ヌスラ戦線指導者

ヴォロディミル・ゼレンスキー (1978) ウクライナ第6代大統領



Alessandro Zanelli (1984) Fiammetta Faraceの子

Eric Ciaramella (1986) CIA要員

※トランプ大統領を貶めるためにウクライナ疑惑を作ったが不発だったようだ。兄弟であるウクライナ大統領ゼレンスキーと共に計画したのだろうが、斜陽の一族は何をやってもダメなのだろう。アホらしいことに、Ciaramellaの頭の3文字はCIAだw それよりも何よりも、Eric Ciaramellaは祖父Prince John Konstantinovich of Russiaに顔がそっくりだ。

広如の一族～長州藩藩主、伊藤博文、大隈重信、山縣有朋、龍谷大学、新渡戸稲造、白洲次郎、東条英機、日産コンツェルン、731部隊、ベトナム戦争



広如（1798～1871）

毛利斉元（1794～1836） 長州藩第11代藩主※画像なし

朝鮮：晋州の農民暴動（1862）

日本：生麦事件（1862）島地黙雷と影武者（大隈重信、山縣有朋）が従事

朝鮮：全羅道の農民武装蜂起（1869）

※西本願寺20代門首。まだ大谷を苗字にしていなかったが、大谷を苗字にすれば大谷光澤である。東本願寺門主大谷光勝は土佐藩を統率し、広如は長州藩を統率した。



毛利敬親（1819～1871） 毛利斉元の子

毛利元運（1818～1852） 毛利元敏父

新渡戸十次郎（1920～1868） 新渡戸稲造父

新見正興（1822～1869） 奥津りょう父

※毛利敬親の影武者である新見は、妻である水野はるを巡り広如の一族に暗殺される。奥津りょうの父である。彼の飛び出た耳が、悪の一族に受け継がれている。

毛利敬親の子



毛利元徳（1839～1896）

島地黙雷（1838～1911） 西本願寺執行長

大隈重信（1838～1922） 第8代内閣総理大臣

山縣有朋（1838～1922） 第3代内閣総理大臣

三条実美（1837～1891） 暫定内閣総理大臣
赤松連城（1841～1919） 仏教大学初代学長※画像なし
伊藤博文（1841～1909） 初代内閣総理大臣
鈴木法深（？～1922） 龍谷大学初代学長※画像無し

※島地黙雷と大隈重信は同一人物である。顔を良く見ていただきたい。生年も同じなのは驚いた。というか、山縣有朋に至っては、大隈とウリ2つである上に生没年が一緒である。誰もこれに気付かなかったのか？ただ、写真の人物は影武者の可能性あり。三条実美は3人よりも一年早く生まれているが、これは情報が少々異なるだけで他の3人と同一人物と考えられる。或いは三条実美は存在しない。彼の写真は、山縣有朋の写真に手を加えただけの可能性が高い。

島地は、大隈、山縣、伊藤博文として4度も内閣総理大臣に就任していることになるが、これはつまり、浄土真宗のいち僧侶が総理大臣になっていたことを意味する。邪教の国、日本ならではの現象だ。



毛利元敏（1849～1908） 毛利元運の子
中根重一（1851～1906） 夏目鏡子父※画像なし
前田慧雲（1855～1930） 龍谷大学第2代学長※画像無し

水野はる（1850？～？？） 新見正興の妻。結婚前の少女時代から広如に狙われていた。



奥津りょう（1867～1888）

※新見正興と水野はる（17歳）の娘、伊藤博文に狙われていた。

中根重一の子



夏目鏡子（1877～1963） 夏目漱石妻

※日本の知性だった夏目漱石の集団ストーカー企画に参加していた。漱石は芸だったため、この結婚は偽装結婚であり、漱石の子達は漱石とは血の繋がりはない。同時代人のタナトスで言えば、鏡子さんは新渡戸稲造や二葉亭四迷の子を生んだ可能性がある。

現代のようにレーザー盗聴などが無い当時、鏡子さんは自身の耳を盗聴器の代わりにして漱石の一挙一動を観察し、作戦本部に逐一報告していた。血が繋がっていない子どもたちや下女なども同様である。そのために漱石を頻りに子供を殴ったり下女にどなりつけていた。しかし、嫌がらせをしている集団が全員で「何もしていない」といえばそうなるのがタナトスの世の中だ。警察さえも当時から邪教信者（集団ストーカー要員）だったはずだ。

当時、鏡子さんなど標的のそばにいる人間からの情報が漱石攻撃作戦の材料となるが、現在では人工衛星に搭載されたレーザー盗聴、レーザー透視機器とAIをつなく光ファイバーの連携がその代わりにしている。周囲にいるありとあらゆる人間が攻撃に参加するため、そのイヤガラセによって漱石が発狂することが度々あった。一度、漱石は反撃のつもりで書置きを一筆机の上に

したためておいたことがある。曰く「まわりが狂人のマネをするので私も狂人の真似をしている」。

毛利元徳の子



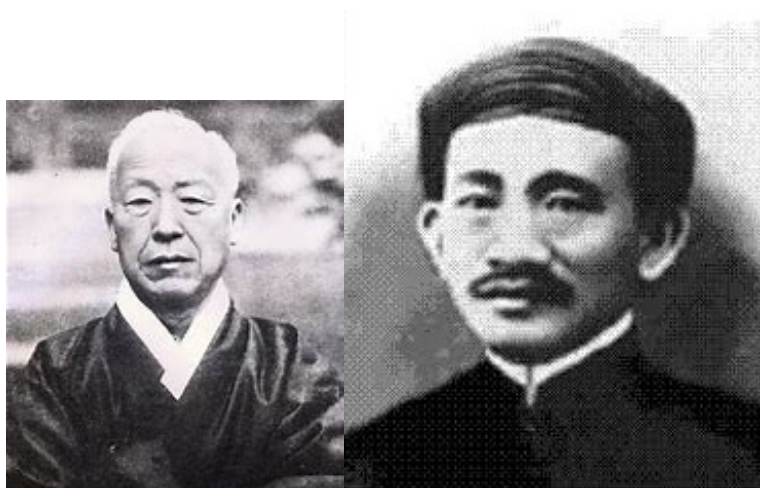
毛利元昭（1865～1938）

弓波瑞明（1867～1931） 龍谷大学第3代学長※画像無し

新渡戸稲造（1862～1933） 伊藤博文（21歳）と水野はる（12歳）の子

二葉亭四迷（1864～1909） 作家

※二葉亭四迷の名は「くたばってしまえ」のもじりだということは有名だが、これは漱石に向けられているのだろう。大勢で寄ってたからないとできそこないは勝てない。そんなことで勝っても漱石に勝ったということにはならないが。彼の作品はすべてパクリだろう。画像を見て分かるとおり、どう考えても悪党だ。



毛利五郎（1871～1925）※画像無し

花田凌雲（1873～1952） 龍谷大学第4代学長※画像無し

李承晩（1875～1965） 伊藤博文（34歳）と水野はる（25歳）の子（韓国大統領）
呉文昭（1878～1932） 伊藤博文（37歳）と奥津りょう（11歳）の子（カオダイ教
教祖）



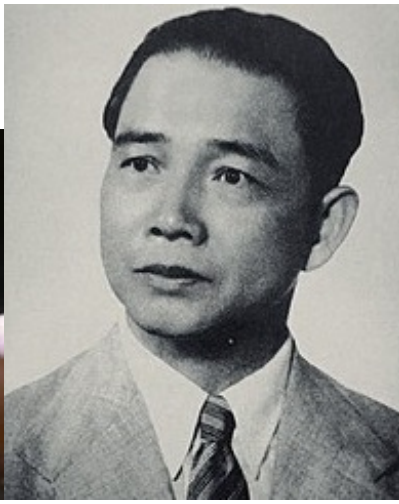
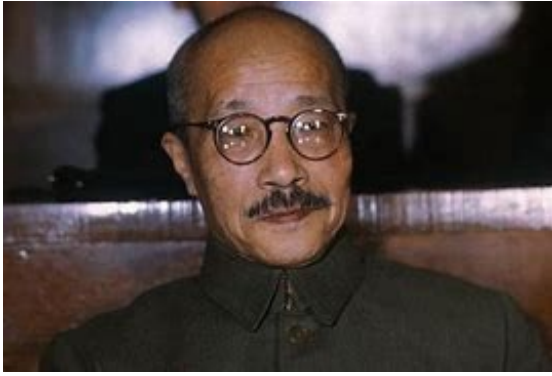
居昌事件（コチャンじけん）は、朝鮮戦争中の1951年2月9日から2月11日にかけて大韓民国慶尚南道居昌郡にある智異山で韓国軍が共産主義パルチザンを殲滅するための堅壁清野作戦として、民間人719人を虐殺した事件である。

2月7日に第3大隊は山清郡今西面芳谷里佳峴村に進撃し、家屋を焼き払った。金目の物を集めた後、村の住民123人を溪谷に突き落とししたり、四列横隊に並ばせて銃撃を加えた。さらに約2キロ離れた芳谷村の住民212名にも銃撃を加え、13時半に続けて咸陽郡休川面棟江里で60名を虐殺した。さらに花溪里、自恵里と咸陽郡柳林面の西州里・蓀谷里・池谷村で講演を開催するという口実で住民を西州里トンチョンガン砂礫地に集めて16時半頃、軍警察の家族以外の住民310名を虐殺した。

2月7日の山清咸陽虐殺事件の犠牲は12の村々の住民計705名にのぼった。1998年に確認された犠牲者数は、女性197名、男性189名、子ども147名の計386名。

山清・咸陽での堅壁清野作戦につづいて2月9日から2月11日にかけて韓国慶尚南道居昌郡にある智異山で崔徳新師団長指揮下の韓国陸軍第11師団第9連隊第3大隊は呉益慶連隊長により、居昌郡から一人残らず共匪パルチザンを殲滅するためとして住民719人（15歳以上334人と15歳未満385人）を虐殺した。韓国軍は、韓国警察の家族までも除外することなく虐殺した。李承晩 wikiより

※呉文昭。毛髪の量が異なるが、それ以外は菅義偉に似ている。ベトナムの信者約数百万人を自由自在に操ることができる。ベトナムのラジコンマスター。



西園寺八郎（1881～1946）

森川智徳（1880～1970） 龍谷大学第7代学長※画像無し

東条英機（1884～1948） 内閣総理大臣

足利端義（?～1944） 龍谷大学第5代学長※画像無し

羽溪了諦（1883～1974） 龍谷大学第6代学長※画像無し

汪兆銘（1883～1944） 中華民國初代主席

※汪兆銘の正体は東条英機だったようだ。良く似ている。東条英機は、自分が汪兆銘だとバレないように髭を蓄えてメガネもかけていたのだろう。



※異国の浜辺に散った日本兵たち



柳原白蓮（1885～1967） 奥津りょう（18歳）の娘

※祖母、母、三代に渡り伊藤博文に狙われていた。敵を油断させる武器として、白蓮の美しい顔は醜いタナトスの遺伝子に取り込まれた。



伊藤文吉（1885～1951） 伊藤博文の子（日産・日立コンツェルン創設、春光グループ創設）

増山顕珠（1887～1964） 龍谷大学第8代学長※画像無し

中野友禮（1887～1965） 日本曹達創業者

※中野友禮は伊藤博文の子であり、文吉の影武者だったと考えられるが悪の才能を発揮して農薬で敵を殺す方法を考え出し、日本曹達を操業した。一方、文吉は結婚をしながらも父親のまねを

して白蓮を強姦し、子を産ませた。



マヒタラーティベートアドウンラヤデートウィクロム（1891～1929） 呉文昭とサワンワッタナーの子（タイ王室）

※母方は西本願寺門主湛如の一族だが、父方は西本願寺門主広如の一族である。



毛利元良（1897～1957） 毛利五郎の子※画像無し

石井四郎（1892～1959） 伊藤博文（51歳）と奥津りょう（25歳）の子（731部隊隊長）

張沢相（1893～1969） 伊藤博文（52歳）と奥津りょう（26歳）の子（李承晩政権）



後述の元731部隊員の複数の証言によれば、人体実験の被験者は主に捕虜やスパイ容疑者として拘束された朝鮮人、中国人、モンゴル人、アメリカ人、ロシア人等で、「マルタ（丸太）」の隠語で呼称され、その中には、一般市民、女性や子供が含まれていた。ジャーナリストの西野瑠美子によれば、731部隊が性別、年齢層、人種を超えた、幅広い実験データを必要としたためであり、女性マルタは主に性病治療実験の材料になったという。

高い外壁で囲まれ、コンクリート造りの特設監獄（「マルタ小屋」と呼ばれた）に一度収容されると、脱出は極めて困難であったといわれる。石井四郎付き運転手であった越定男は、野外の安達細菌爆弾実験場で脱出を試みたマルタたち40人をトラックで轢き殺したとして、次のように証言している。「一度、縛られていたマルタおよそ40人が、お互いに縄をほどき合って、散り散りになって逃げたことがあります。しかし、遠隔地の空港ですから、逃げおおせる場所はありません。トラックで次々に彼らを轢き殺しました。前輪でひっかけたり（中略）、轢いた時は衝撃を感じました」。

マルタの人数は、終戦後にソ連が行ったハバロフスク裁判での川島清軍医少将（731部隊第4部長）の証言によると3,000人以上とされる。731部隊の「口号棟」で衛生伍長をしていた大川福松は2007年に「毎日2～3体、生きた人を解剖し（中略）多い時は1日5体を解剖した」と証言している。犠牲者の人数についてはもっと少ないとする者もあり、解剖班に関わったとする胡桃沢正邦技手は多くても700 - 800人とし、別に年に100人程度で総数1000人未満という推定もある。終戦時には、生存していた40-50人の「マルタ」が証拠隠滅のために殺害されたという。こうした非人道的な人体実験が行われていたとする主たる根拠は、以下に示す元部隊員など関係者の証言である。wikiより



醍醐颯子 (188?~?)

鳩山薫 (1888~1982) 鳩山威一郎母



毛利元道 (1903~1976) ※画像無し

彭真 (1902~1997) 伊藤文吉 (17歳) と白蓮 (17歳) の子 (反革命集団)

羅瑞卿 (1906~1978) 反革命集団



小早川元治 (1907~?) ※画像なし

神子上恵竜 (1902~1989) 龍谷大学第16代学長※画像無し

北小路功光（1901～1989） 伊藤博文（60歳）と白蓮（16歳）の子
白洲次郎（1902～1985） 伊藤博文（61歳）と白蓮（17歳）の子（吉田政権）

※ウソをつくための権威。



浜子（191?～?）※画像なし

千葉乗隆（1921） 龍谷大学第12代学長※画像無し

鳩山威一郎（1918～1993）

黄富楚（1919～1947） ホアハオ教教祖

※黄富楚は、ベトナムの信者数百万人を自由自在に操ることができる。ベトナムのラジコンマスター。

マヒタラーティベートアドウンラヤデートウィクロムの子（優性遺伝子ブリーダーによる）



リンドン・ジョンソン（1908～1973） アメリカ大統領

※リンダンの母Rebekah Baines（1881～1958）の本体Abby Aldrich Rockefeller（1874～1948）がマヒタラーティベートアドウンラヤデートウィクロムの子の遺伝子を所望した。これによりリンダ・ジョンソンが生まれた。父の故地インドシナを取り戻すためにリンダ・ジョンソンはベトナム戦争を開始した。



ユージーン・マッカーシー（1916～2005） 民主党、赤狩り指揮者

※マッカーシーの母（氏名生年不詳）の本体Abby Aldrich Rockefeller（1874～1948）がマヒタラーティベートアドウンラヤデートウィクロムの子の遺伝子を所望した。これによりユージーン・マッカーシーが生まれた。マッカーシーは、兄であるリンダ・ジョンソン大統領のベトナム介入政策への批判者、議会におけるヴェトナム反戦活動の指導者として知られた。しかし、これは猿芝居であった。敵が味方であることは、世論のコントロールを容易にするという見本でしかないある。

西園寺八郎の子（毛利元徳の孫）



西園寺公一（1906～1993）※画像無し

竹田恒徳（1909～1992）

星野元豊（1909～2001） 龍谷大学第9代学長※画像無し



西園寺不二男（1910～1986）

麻生太賀吉（1911～1980） 伊藤博文（70歳）と白蓮（26歳）の子

武邑尚邦（1914～2004） 龍谷大学第10代学長※画像無し

デヴィッド・ロックフェラー（1915～2017） 白洲次郎の子（ロックフェラー財閥）



※Abby Aldrich Rockefeller（1874～1948）が白洲次郎の子の遺伝子を所望した。これによりデヴィッド・ロックフェラーが生まれた。彼は、息子であるロバート・B・シャピロが経営するモンサントに対し、金銭的な援助を惜しまなかった。



西園寺不二男（1910～1986）※画像無し

二葉憲香（1916～1995） 龍谷大学第11代学長※画像無し

朴正熙（1917～1979） 韓国大統領

毛利元道（羅瑞卿）の子



毛利元敬（1930） 毛利家宗家31代目当主

信楽峻麿（1926～2014） 龍谷大学第13代学長※画像無し

ラーマ9世（1927～2016） チャックリー朝9代国王

北島典生（1928） 龍谷大学第14代学長※画像無し

フィデル・ラモス（1928） フィリピン大統領

ハーヴェイ・グラットマン（1927～1959） シリアルキラー

ヨアヒム・クロル（1933～1991） 喰人シリアルキラー

※Abby Aldrich Rockefeller（1874～1948）が羅瑞卿の子の遺伝子を所望した。これによりハーヴェイ・グラットマン、ヨアヒム・クロルという恐ろしいが生まれた。ラーマ9世は、タイの信者数百万人を自由自在に操ることができる。タイのラジコンマスター。

「ルールの人食い鬼」のあだ名で有名なドイツのシリアルキラー。8人を殺した罪で有罪判決が出ているが、のちに殺した人間は合計13名だと自供している。ヨアヒム・クロルwikiより

麻生太賀吉の子



麻生太郎（1940） 内閣総理大臣、安倍政権閣僚

上山大峻（1934） 龍谷大学第15代学長

王洪文（1935～1992） 四人組

※レイプして生まれた子が中川昭一だったが、母をレイプしたことがばれると仲が良かった親子

は険悪な雰囲気になった。酩酊会見などで昭一は父に恥をかかせようとしたのだろう。そのせいで半年後に麻生は昭一を殺した。そんな男が、というか、そんな老人が国を正しく導くことは出来ない。現在、麻生はアニキたちや宇宙人に追い込まれて異常に老け込んだ感があるw



麻生次郎（1942）※画像なし

若原道昭（1947） 龍谷大学第17代学長

竹田恆和（1947） JOC会長

テイン・セイン（1944） ミャンマー連邦共和国第8代大統領

菅義偉（1948） 安倍政権閣僚

ヘルマン・ファン・ロンパウ（1947） ベルギー王国第66代首相 任期2008～2009

ハーバート・マリン（1947） 精神異常シリアルキラー（女性13人）

エド・ケンパー（1948） 異常性愛シリアルキラー（女性10人）

※フランス当局がオリンピック招致の際の収賄の容疑で竹田を捜査している。ナイスミドルを気取っているが、会見時の罪悪感の無さ、答えているふりをしながら何も答えない様子は安倍もどきといえるほど。ウソつきとしてはじつに堂に入ったものだ。竹田も青年時代に安倍、麻生、菅と共に大久保清事件など（人間狩りは本願寺の成人の儀式）で女性を惨殺した可能性がある。

「おれは何人も人を殺したんだ」という経験が本願寺の子どもたちの自信の源だ。

ロンパウは、ケンパー、マリンの事件の真犯人である。さすがのマリンもケンパーも顔でロンパウに負けてる。総勢23人を殺害している。

テイン・セインは世界会議で安倍総統に会った際、顔をしかめてすごいイヤな表情をして見せたが、これは敵（ダヴィデの一族）に対する「おれは味方だよ」というパフォーマンスだったようだ。

麻生泰（1946）※画像なし

赤松徹眞（1949） 龍谷大学第18代学長

金田勝年（1949） 安倍政権閣僚

麻生雪子（195?）※画像なし

米田壮（1952） 警察庁長官

□
麻生旦子（195?）※画像なし

朴槿恵（1952） 韓国大統領

山口那津男（1952） 公明党、安倍政権

田
麻生信子（1955）

入澤崇（1955） 龍谷大学第19代学長

山本一太（1958） 安倍政権閣僚

高市早苗（1961） 安倍政権閣僚

リンドン・ジョンソンの子

□
Lynda Bird Johnson Robb（1944）

ポール・ウォルフォウィッツ（1943） 世界銀行総裁、ネオコン論客、ブッシュ政権政策顧問団ヴァルカンズ

※ウソをつくための権威。

田
Luci Baines Johnson（1947）

チャック・シューマー（1950） 民主党議員

ラマ10世（1952） チャックリー朝10代国王

ケント・ギルバート（1952） 右翼タレント

エリオ・ディルポ（1951） ベルギー王国第68代首相 任期2011～2014

ジェラルド・スタノ（1951～1998） 異常性愛シリアルキラー（女性42人）

※2019年2月、トランプ大統領が非常事態を宣言。下院議長ナンシー・ペロシ（カリフォルニア州）と上院少数党院内総務チャールズ・シューマー（ニューヨーク州）の民主党議員首脳は、国家非常事態宣言を覆すために“可能な限りのあらゆる方策”を講じると述べた。ケント・ギルバート。誰も呼んでないのに勝手に日本に上陸して狂ったことを述べる外国人。害人。

アメリカ軍・イギリス軍・オーストラリア軍などとの共同軍事演習などを指揮し、タイ王国軍、とりわけ陸軍とのつながりを非常に強めた。これはタイで過去に軍部が政権を握っていた時代

にあって、陸軍が王位継承者である王子を利用し政権の正当性を高めようとしたことがうかがえる。一方で、ワチラーロンコーン自身もインドシナ半島の共産主義化を危惧し、タイ国共産党を撲滅しようとしていた軍事政権に荷担することで、自らの存在感をアピールし、政治的地位を高めたという側面もある。 ラーマ10世wikiより

麻生太賀吉の子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□
栗生俊一（1959） 警察庁長官
三浦小太郎（1960） アジア自由民主連帯協議会事務局長

※警察庁長官が本願寺の一族なので、安倍政権が何やっても警察が動くことは無いだろう。

□□
世耕弘成（1962） 安倍政権閣僚
萩生田光一（1963） 安倍政権閣僚
安田浩一（1964） ジャーナリスト

□
橋下徹（1969） 大阪知事
桜井誠（1972） 日本第一党代表

麻生太郎の子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□
中川昭一（1953～2009） 麻生政権閣僚

※故中川昭一は麻生太郎が13歳の時の子である。中学一年の時分、麻生太郎は好意を寄せていた同級生か誰かを強姦したのだろう。それで妊娠が発覚した。だが、スキャンダルを恐れた麻生家に中川一郎が手を差し伸べ、中川昭一を養子として迎え入れた。中川一郎には子供がいなかったため、ちょうど良かったのだろう。

それにしても、太郎は先祖の伊藤博文と同じことをしている。その事実を知らない間は太郎と昭一親子は仲が良かった。世間でも、なぜあの2人はあんなに仲が良いのか？と不思議がられていたほどだ。しかし、実母が太郎に強姦されて自分が生まれたことを知ると、昭一はショックを受けた。ちょうど麻生政権が成立した2008年～2009年頃の話である。

現実を受け止めきれない中川昭一は、好きな酒にのめりこんだ。そのせいで2月に酩酊会見などを引き起こしている。昭一は、当時、総理大臣であった父親に恥をかかせようとしていたのだろ

うか？しかし、裏では2人の中で激しい対立があったのは容易に想像がつく。8月には衆院選自民党惨敗により麻生政権は崩壊した。中川昭一が亡くなったのはそのすぐ後、2009年10月のことである。昭一の場合、大谷の血よりも母方の血の方が濃度が高かったのだろう。

□
野間易通（1966） CRAC、レイシストをしばき隊

□
アンドリー・ラジョエリナ（1974） マダガスカル第7代大統領

※口の曲がり具合も良く似ている。麻生先生は、何を思ってマダガスカルに進出したのだろうか？
或いは、マダガスカルの王族メリナの一族の女が最高の悪の遺伝子を所望したのかもしれない。

中川昭一の子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□
義家弘介（1971） 自民党議員

※新渡戸稲造もそうだが、本願寺の一族に守られているため、名を売り、大成することができた
典型だ。

麻生信子の子

□
瑤子女王（1983）
陳浩天（1990） 香港民族党党首

※反革命集団として知られる彭真の子である。良く似ている。彼は2019年の香港の暴動を指揮している。

ネルソン・ロックフェラーの一族～ヘンリー・キッシンジャー、ビル・クリントン、湾岸症候群、ジョン・ベネ殺害事件、レバノン空爆、ロシアの人喰いズマガリエフ、ゾディアック、サムの子、フェイスブック

Gustave de Rothschildの孫（ロスチャイルド・パリ家）

- **Sybil Cholmondeley**（1894～1989） Aline Caroline de Rothschildの子※画像なし
ウィリアム・マーチ（1893～1954） 「悪い種子」著者

※シビルの影武者として生まれたウィリアムはアメリカで作家として成功した。彼は「悪い種子」という作品をモノにしたが、これは魔女狩り関連の本などと同じくらいに非常に有害な書物である。魔女狩りと同じように、優れた児童を民衆の敵として置き換え、監視、攻撃するように促している。

- **Renée Lambert**（1899～1987） Zoé Lucie Betty de Rothschildの子※画像なし
ウィリアム・チョムスキー（1896～1977） ノーム・チョムスキー父※画像なし
ジョージ・オーウェル（1903～1950） 「1984」著者

※レネの影武者として生まれたウィリアムは後にノーム・チョムスキーを生んでいる。また、もうひとりの影武者ジョージは作家として近未来の管理社会を描いた「1984」などの著作を残している。「1984」で描かれた社会構造はタナトスが夢に思い描く、希望の世界なのだろう。

- **Alain de Rothschild**（1910～1982） Robert de Rothschildの子※画像なし
ネルソン・ロックフェラー（1908～1979） フォード政権第41代アメリカ副大統領

□ ※父ネルソンと子キッシンジャー、談笑の図。曰く「世界征服なんか楽勝だぜ。はっはっは」

Gustave de Rothschildの曾孫（ロスチャイルド・パリ家）

- 田 **Léon Lambert**（1928～1987） Henri Lambertの子※画像なし
ヘンリー・キッシンジャー（1923） 多重スパイ
伊藤宗一郎（1924～2001） 田中内閣科学技術庁長官、鈴木内閣防衛庁長官
ハサン・アリ・マンスール（1923～1965） パフラヴィー朝首相
ピーター・ジョージ・ピーターソン（1926） 外交問題評議会理事長

ノーム・チョムスキー（1928） 言語哲学者、言語学者、認知科学者、論理学者

□
チリ：チリ・クーデター（1973）

アメリカ：キャトル・ミュージーション（1973～1974）チリ・クーデター隠し

チリ：DINA創設（1973）タナトス由来

チリ：左翼狩り、多くのチリ市民を虐殺（1973）

チリ：陸軍総司令官、亡命先で爆殺（1974）

東ティモール：インドネシア軍侵攻（1975）

カンボジア：カンボジア・ベトナム戦争（1975～1989）

チリ：アジェンデ政権外務大臣、滞在先で爆殺（1976）

東ティモール：インドネシア軍が包囲殲滅作戦、20万人虐殺（1977）

カンボジア：ベトナム領パチュク村住民3157名を虐殺（1978）

東ティモール：サンタクルス住民殺戮事件、400人死亡（1991）

アメリカ：ジョージ・W・ブッシュの指南役（2001）

日本：TPP交渉参加方針を歓迎すると述べた（2011）

※「名前で歴史を知る方法」で全てを知ることができると考えていた筆者は、だが、キッシンジャーの正体が全く読めないでいた。彼は筆者にとって、しばらくの間、謎の人物であった。しかし、顔で精査してみると本願寺の一族であることが分かった。安倍晋三にも良く似ている。冷戦時代から共産圏と資本主義圏を往来していた彼は、多重スパイなのだろう。

ピーター・ジョージ・ピーターソンとヘンリー・キッシンジャーは、基本的にタナトスの女性がネルソン・ロックフェラーの遺伝子を所望したことにより優性遺伝子ブリーダーで儲けられた子と考えられる。ピーターソンは、株式会社ブラックストーン・グループの共同創立者兼会長兼CEO、リーマン・ブラザーズ会長兼CEO、ベル&ハウエルCEOなどを歴任したが、こんなことが叶野なのは彼がタナトスの一族だからだ。才能が豊かだから、というわけではない。

キッシンジャーの異母兄弟で同じくレオンの影武者を務めている伊藤宗一郎は、田中角栄をロッキード事件でハメるために田中内閣に入閣し、科学技術庁長官を務めながらスパイ活動に勤しんだ。顔は結構似ている。眉間を上げたらたぶんそっくりだ。さすが影武者だ。

チョムスキーは言語学者として安部公房などに尊敬されているが、公房の方がよほど優れている。チョムスキーは無意味なことを述べているに過ぎない。難解な言葉もコケ脅しでしかない。しかし誰もその事実を口にしない。チョムスキーの言っていることを理解できない自分の方が悪いと思ってしまうのだ。これが権威の力である。ただのゴミでも貴重な宝に見えるのだ。

誰にも勝てないタナトスは常にどうしたら負けないように見えるか研究に余念がない。そのタナトスが代々伝えてきた方法論がチョムスキーの文章だけでなく、古くはソピテースや仏教、キリスト教（タナトス系）などの宗教、ユングなどの精神分析、安倍首相の質疑応答などに活かされている。見当違いなデタラメをまくし立てれば誰にも論破されない。どんなに卓越した百戦錬磨の論者であってもデタラメを論破することは出来ない。タナトスはいつでもそれを実践している

。どうどうとデタラメを言い切れれば、そのデタラメを批判する方が間違っているように見えるのだ。

ネルソン・ロックフェラーの子

田

Rodman Rockefeller (1932~2000)

ジェイ・ロックフェラー (1937) 民主党上院議員

クラウス・シュワブ (1938) 世界経済フォーラム主宰、ダボス会議議長

ライオネル・ダーマー (193?) ジェフリー・ダーマーの父

※シュワブはウソをつくための権威。ロバート・アルトマン監督の「突撃! O・Cとスティッグス/お笑い黙示録」で馬鹿にされていた。

田

Steven Clark Rockefeller (1936)

ロナルド・メイヤー (1944) NBCユニヴァーサル社長

ポール・ニューロップ・ラスムセン (1943) 第38代デンマーク首相 任期1993~1998

レオン・パネッタ (1938) オバマ政権閣僚

※メイヤーは実質、現代ハリウッドのボスである。彼はハリウッド俳優たちやロックミュージシャンを動員し、反トランプ大統領を演じさせている。命令に逆らえば生活を喪失してしまうのだ。彼の最大の罪は、映画をつまらなくしてしまったことだ。現在のハリウッドは、過去の名作、海外のヒット作のリメイクしか作れない無能の集団に成り下がってしまった。

田

Michael Rockefeller (1938~1961)

ビル・クリントン (1946) 第42代アメリカ大統領 任期1993~2001

エフード・オルメルト (1945) 第16代イスラエル首相 任期2006~2009

John Bennett Ramsey (1943) ジョンベネ父

※マイケルはニューギニア探検中に失踪を演じ、23歳で死んだことにしてその後はビル・クリントンを演じ、アメリカ大統領に就任した。そして、ユーゴスラビア紛争に邁進し、それを隠すためにコロンバイン高校銃撃事件を作り、湾岸症候群についての大統領諮問委員会の報告を消すためにジョンベネ事件を作った。イスラエルに派遣されたオルメルトは、影武者として生まれたと考えられる。

■ 2006年、オルメルト首相がレバノン空爆を実施した。その時に空爆を受けたレバノン人の声が「どんな兵器を使えばこんな風になるんだ??」である。この空爆ではマイクロウェーブ兵器が使用されたようだ。下記の文章はレバノンの医師が綴ったものである。

□ 「2006年7月19日、ベイルートにて。すべての写真はあまりに陰惨であり、見るに耐えませんがみなさんに見て頂きたいと思い添付いたしました。どのような兵器を使用すればこのような損傷を人体に与えることができるのかぜひみなさまもお考え下さい。みなさまの中にお分かりになる方はいらっしゃるでしょうか？それとも想像も及ばないでしょうか？これらの兵器は未確認であり、公表されていないだろうと思う。しかしイスラエルがレバノン攻撃に際し、国際法に違反するような非人道な新兵器を使用してる可能性は否定できません。

南部中央病院からの報告：サイダ（南部レバノン）の病院での状況は良好とは言えない。バシル・シャム博士（フランス心臓血管手術協会会員）は空爆被害者の遺体の損傷状態、特にドウエイル、ルミヤレイでの空爆被害者の遺体損傷の状態は異常だと指摘する。『死体は芯まで焼け焦げており、真っ黒で、膨張しているものもあれば縮んでいる者もあり...いずれも不快な臭気を放っている...』。ほとんど全ての遺体がこのような状態だ博士は語っている。髪は燃え残っており、一切の流血が見られないのも特徴だ」

□ ■写真は世界を騒然とさせたジョンベネである。本願寺門主（タナトスの王）は、公職に就いている時ほど殺人を楽しむ傾向がある。つまり、ジョン・ベネは実際にクリントンが殺した。ジョンベネの父ジョン・ラムゼイはクリントンの影武者なので容易である。

ジョンベネ殺害事件は情報操作のために創られた事件であるが、クリントンの趣味も兼ねていたわけだ。雪の夜にも関わらず足跡もないなどとミステリー仕立てだったが、簡単なことだ。目撃者が全員ウソをつけばいいだけの話である。難しいことは何もない。

偶然なことに、アメリカでは同年同月に「大統領諮問委員会」がある最終報告書を発表した。そこには「湾岸戦争帰還兵の健康問題は劣化ウランに被爆した結果ではありえない。湾岸戦争症候群の原因は戦争における精神性のストレスによる」とあったのだ。簡単にいえば、「湾岸シンドロームは精神病だ」と述べているのだ。クリントン政権は自分の非を認めず、放射線障害に苦しむあわれな帰還兵に責任を押し付けたのだ。

大統領諮問委員会の報告を世間から風化させ、被害者家族の反応・反論をマスメディア上から風化させるためにジョンベネはクリントン政権に殺された。現にジョンベネ事件が発覚した後はアメリカの茶の間ではジョンベネ事件でもちきりになり、湾岸シンドロームの人々の声はマスメディア上から完全にかき消されてしまった。

□ **Mary Rockefeller**（194?）

マルグレーテ2世（1940） デンマーク女王 在位1972～現在

□ **Nelson Aldrich Rockefeller Jr**（1964?）

ハインリヒ・ベッドフォード＝ストローム（1960） バイエルン福音ルター派教会監督、ドイツ福音主義教会EKD常議員会議長
ワーナー・バウマン（1962） バイエル社CEO

※ドイツと北欧の信者数百万人を自由自在に操ることができる。ルター派のラジコンマスター。

☐

Mark Rockefeller（1967）

デビッド・キャメロン（1966） 第75代イギリス首相 任期2010～2016

ギャビン・ニューサム（1967） カリフォルニア州知事、民主党

ニック・レーン（196?） アクサ生命保険CEO

ジャスティン・トルドー（1971） 第29代カナダ首相 任期2015～現在

※2018年、カリフォルニア州は宇宙人（科学の種族トバルカイン）が操る意志を持つ炎によって焼かれた。ニューサムは心底びびっていたらう。ニヤけたトルドーは、家族の厚意として安倍政権が推進するTPPを批准した。

ヘンリー・キッシンジャーの子

☐

Elizabeth Kissinger（1949?）※画像なし

アントニオ・グテーレス（1949） 第9代国連事務総長 任期2017～現在

アフメト・ウズムジュ（1951） 化学兵器禁止機関事務局長

化学兵器禁止機関の2014年度予算は約73,304万ユーロ。化学兵器廃棄に向けた活動が評価され、2013年10月11日にノーベル平和賞を受賞している。アフメト・ウズムジュ [wiki](#)より

☐

※写真は民主党の指示により化学兵器攻撃で死んだ少年。民主党は自分の手で子供を殺し、シリア政府のせいにした。ALL OF DEM ARE CRAZY ということろか。ノーベル賞は彼らを守る盾であり、敵を攻撃する武器である。化学兵器禁止機関の敵とはアサド政権とプーチン政権である。ウソをつくための権威。

☐

David Kissinger（195?）

ローレンス・バコウ（1951） ハーバード大学学長

※ハーバードは自分のためにウソをつく人材に権威を与え、世界に送り出している。

Rodman Rockefellerの子（ネルソン・ロックフェラーの孫）

田

Meile Rockefeller（1955）

Patsy Ramsey（1956～2006） ジョンベネ母

ウラジミール・グランスキー（1952） オリガルヒ

ニコライ・ズマガリエフ（1952） 喰人シリアルキラー（女性50人）

※パッツィーはメリエの影武者として生まれた。娘であるジョンベネは無残な死を遂げたが、どうも里子であるためか、ショックを受けているように見えなかった（もともとタナトスの一族ということもあるが）。パッツィーは49歳で死んだことにして潜伏し、今でもメリエの影武者として働いていると考えられる。かわいそうなのは、もうひとりの里子と考えられるジョンベネの兄だ。彼は真実を何も知らず、死んでいくのだろう。

稀代の人食い殺人鬼ズマガリエフとグランスキーは女性であるメリエの影武者として生まれた。ズマガリエフとグランスキーは異母兄弟ではなく、同一人物の可能性が高い。以下はズマガリエフの詳細。

この男は、チカチロと並ぶ「ソビエトが産んだ連続殺人鬼」である。犠牲者の数も50人以上と互角だが、「食人鬼」として見た場合、デュマガリエフの方が一枚上手である。チカチロは変態性欲の延長として食べていたに過ぎないが、デュマガリエフは積極的に調理し、友達に振る舞っていたのだ。殺人博物館より

田

Peter Rockefeller（195?）

デヴィッド・バーコウィッツ（1953） シリアルキラー（男女6人）

ゾディアック（生年不詳） シリアルキラー（男女5人?37人?）

ゾディアックは1968年から1974年にかけて、カリフォルニア州サンフランシスコ市内で若いカップルを中心に少なくとも5名を殺害した。犯行後に警察やマスコミへ多量の犯行声明文を送りつけたことから、「劇場型犯罪」の一つとして有名である。ゾディアックwikiより

バーコウィッツは1976年から1977年にかけて、ニューヨークで若い女性やカップルら13人を44口径の拳銃やショットガンで銃撃(一人は刃物で刺)して6人を殺害し、8人に重軽傷を負わせた。デヴィッド・バーコウィッツwikiより

※以上、ゾディアックとバーコウィッツの手口は同じだということが分かる。つまり、バーコウィッツがゾディアックであった。ゾディアックの場合はディープステートによる指示だった。目的はベトナム戦争の報道をメディア上から風化させることである。だが、サンフランシスコでの仕事を終えながら、殺しが癖になってしまったバーコウィッツは我慢できず、地元ニューヨ

ークでも同じことをしてしまった。

田

Stuart Rockefeller (195?)

トーマス・イルヴェス (1953) 第4代エストニア大統領 任期2011~2016

フランソワ・オランド (1954) 第24代フランス大統領 任期2012~2017

ジャン・クロード・ユンケル (1954) 第12代EU大統領 任期2014~現在

※スチュアートは人殺しみたいな顔をしているが、たまたまだろうか？イルヴェス、オランド、ユンケルはスチュアートの影武者として生まれた。似すぎだ。スチュアート以外の3人の影武者は良く似ている。オランドは「黄色いベスト運動」を支援している。

マルグレーテ2世の子

田

ヨアキム (1969) デンマーク王子

パトリック・ハーラン (1970) パックンマックン

※パックンは最近文化人としてコメンテーターの座に座ることが多い。それが目的なのだろう。親しみやすいキャラで売りながら大勢のバカの目を欺き、世論操作を行う。

ビル・クリントンの子

田

Chelsea Clinton (1980)

メッテ・フレデリクセン (1977) 第42代デンマーク首相 任期2019~現在

マーク・ザッカーバーグ (1984) フェイスブックCEO

※チェルシーとメッテはくりそつである。同一人物の可能性も高い。フェイスブックは、アラブの春など、実質上のテロ、一向一揆型のテロを助長した。ザッカーバーグは、オバマと同じく、性転換男性と結婚しているようだ。

デヴィッド・ロックフェラーの一族～ジョージ・ソロス、CNN、モンサント社、遺伝子組み換え作物、成長ホルモン、コソボ爆撃、コロンバイン高校銃撃、同性愛人喰いジェフリー・ダーマー、レオナルド・ディカプリオ



デヴィッド・ロックフェラー（1915～2017） 白洲次郎の子（ロックフェラー財閥）
ガマル・ラインヴェルト（1919～1942） レイプ殺人犯（南アフリカ・女性4人）
マック・レイ・エドワーズ（1917～1971） 児童レイプ殺人犯（アメリカ・児童5人）

※デビッド・ロックフェラーは優性遺伝子ブリーダーによって生まれた白洲次郎の子と考えられる。顔が良く似たガマルと共に南アフリカで女性を4人殺害している。その後、ロックフェラーは単独でカリフォルニア州アンジェルス国有林で児童を強姦殺害していた。しかし、年齢が合うだけのエドワーズが犯人として逮捕され、悲観した彼は獄中で自殺したという。晩年のデビッドは悪魔のような顔をしていたので、老人になってからも引き続き児童を拉致・強姦・殺害していたのではないか？

一方、ロックフェラーは優性遺伝子ブリーダーによって生まれた息子ロバート・B・シャピロが経営するモンサント社に対し、金銭的な援助を惜しまなかった。

デヴィッド・ロックフェラーの子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□ ジョージ・ソロス（1930） ソロス・ファンド・マネジメント

ラウル・カストロ（1931） キューバ共産党中央委員会委員、同中央委員会第一書記

※ソロスはデヴィッド・ロックフェラーの子であり、白洲次郎の孫である。ソロスの名は祖父の名「白洲」に因んでいる。ロックフェラーが撒いた悪の種の中でも、特に大成した悪の首領だ。キューブリックは遺作「アイズ・ワイド・シャット」の中にニコール・キッドマン扮する女性を口説くハンガリー出身のサボスなる男を登場させた。サボスはソロスを揶揄したものと考えられる。これがキューブリックの死因だろう。

ラウルはソロスの影武者であり、優性遺伝子ブリーダーによって生まれたデビッド・ロックフェラーの子である。彼は、優性遺伝子ブリーダーが運営する里子制度によってフィデルと兄弟になった。印象深いのが、彼がオバマと出会った時のことだ。オバマがラウルの肩に手を乗せようとしたところ、それを阻んだラウルはオバマの手を掴み、チャンピオンにするようにオバマの手を上挙げてごまかしたのだ。これは敵（ダヴィデの一族）を騙すための行動だったようだ。

□
ジェームス・ウォルフェンソン（1933） 世界銀行総裁
セルジオ・バランチーノ（1934） NATO事務総長代行

□
ダイアン・ファインスタイン（1937） 民主党上院議員
マデリーン・オルブライト（1937） クリントン政権閣僚

※ウソをつくための権威。

デヴィッド・ロックフェラーの子

□
David Rockefeller Jr.（1941）※画像なし
テッド・ターナー（1938） CNN創設
ロバート・B・シャピロ（1938） モンサント社長
デヴィッド・ウォーカー（1941） CNN系列ジャーナリスト

※ターナーとシャピロは、2人とも地獄の怪物として正しく悪の道を、他の何者でもない外道として邁進した。ターナーはウソを垂れ流し、シャピロは遺伝子組み換え事業を推進した。遺伝子組み換え食物のフォーラムで「あなたがたはギャングだ」と言われたシャピロは、顔色も変えずに「わたしがギャングだとしたらとても成功しているとはいえない」と平然と返している。この返しは、普通の精神状態では不可能だ。一方、デヴィッド・ロックフェラーはモンサントCEOのシャピロを自分の子であると知っていたため、金銭的な支援を惜しまなかった。

□
Abby Rockefeller（1943）※画像なし
ジョージ・ペル（1941） オーストラリア・カトリック司教会議議長
エイブラハム・フォックスマン（1940） 名誉毀損防止同盟最高責任者

※ペルは、オーストラリアの信者数百万人を自由自在に操ることができる。オーストラリアのラジコンマスター。筆者が彼をタナトス認定するだいぶ前に、彼は既に児童性的虐待容疑で逮捕さ

れていた。筆者の見方は当たっているようだ。

□□

Neva Rockefeller (1944) ※画像なし

ジョルジュ・ポンティエ (1943) フランス・カトリック教会大主教

ハビエル・ソラナ (1942) NATO第9代事務総長

ハンス・ペーテル・カウル (1943~2014) 国際刑事裁判所第二次長

※フランスの信者数百万人を自由自在に操ることができる。フランスのラジコンマスター。フランス中の邪教信者に命じて「黄色いベスト運動」を指揮している。本願寺のフランス領土はロレーヌを中心にしたフランス北東部であるが、北東部は被害にあっていない。黄色いベスト運動によって被害を蒙っている地域は、だいたい北西部（ノルマンディー、パリ）や南部（マルセイユなど）である。ジョルジュ・ポンティエを殺害すれば黄色いベスト運動は消滅するだろう。

□
※クリュニー会は、マクロン大統領のような強い人物に指示することは出来ない。なので変わりに大勢の弱者を脅して動かしている。弱者は、強い人間よりも怖い人間の側に付くという性質を持っている。

□
Richard Rockefeller (1949) ※画像なし

ジョージ・ロバートソン (1947) NATO第10代事務総長

□
※ジョージ・ロバートソンは、NATO事務総長時代に異母兄弟のビル・クリントン米大統領と組んでコソボ爆撃を実施した。そしてその事実をアメリカの納税者から隠すためにコロンバイン高校銃撃事件を製作・指揮した。

□
Margaret Rockefeller (1947) ※画像なし

ロイス・ハート (1950) CNNキャスター

□□

Eileen Rockefeller Growald (1952)

ロバート・ゼーリック (1953) 世界銀行総裁、ブッシュ政権政策顧問団バルカンズ

ハーヴェイ・ワインスタイン (1954) ハリウッドプロデューサー

※ワインスタインはセクハラでハリウッド女優たちに報復されている。

デヴィッド・ロックフェラーの子（優性遺伝子ブリーダーによる）

□
ジェフリー・ダーマー（1960～1964） 同性愛喰人シリアルキラー

1978年から1991年にかけて、主にオハイオ州やウィスコンシン州で17人の青少年を絞殺し、その後屍姦、死体切断、人肉食を行った。その突出した残虐行為は、1990年代初頭の全米を震撼させた。またこの事件では、ミルウォーキー警察当局の無能と、人種的および性的マイノリティに対する偏見がジェフリーの蛮行を許したとして厳しく非難されることになった。wikiより

※一方、この事件は、ユーゴスラビア紛争の報道をメディア上から風化させる機能・目的も持っていた。

□
レオナルド・ディカプリオ（1974） 俳優

※デビッド・ロックフェラーの子であるなら、ディカプリオも幼児の性的虐待などに関与しているのは間違いない。噂もあながち侮れない。ディカプリオが本格映画デビューを果たした1993年に次世代のスターの座を約束されていたリバー・フェニックスが変死しているが、ロックフェラー家がディカプリオのキャリアの前に立ちはだかる邪魔者を始末したと考えられる。リバー・フェニックスが存在しないおかげでディカプリオは1995年から主役を張り、映画界で頭角を現すことが出来た。

大谷光尊の一族～ウィンザー朝イギリス王室、ファシスト党、ディープ・ステート、連続殺人鬼ウィリアム・ハイレンズ、ウクライナ21、Twitter

- 妙香華院（1850） 孝明天皇第一皇子※画像なし
- 大谷光尊（1850～1903） 西本願寺第21代門主
- 清浦圭吾（1850～1942） 内閣総理大臣

- 日本：高橋お伝による殺人事件（1876）
- 日本：西南の役（1877）
- 日本：天理教弾圧、教祖中山みき拘留・拷問（1887）
- 日本：大日本帝国憲法・皇室典範発布（1889）
- 朝鮮：日本軍、漢城に入る（1893）
- 中国：日清戦争（1894）
- 中国：下関条約（1895）
- 日本：治安警察法公布（1900）
- 日本：日英同盟（1902）

※明治の苗字必須により、西本願寺では大谷光尊のときから「大谷」の名を名乗り始めた。大谷の名の由来はTANATOS（タナトス）の反対SOTANATのOTANAである。OTANA＝オータナ＝大谷となる。西本願寺第二十一代門主。大谷光尊と清浦奎吾は同一人物である。顔が良く似ている。清浦時代に光尊は内閣総理大臣にまで上り詰めたが、5ヶ月で退陣した。当時は、まだ道皇帝の一族も強かった。

- 順子内親王（1850～1852） 孝明天皇第一皇女※画像なし
- ロヴィーサ・アヴ・スヴェーリエ（1851～1926） デンマーク王妃

- 理宮（1861～1862） 孝明天皇第四皇女※画像なし
- メアリー・オブ・テック（1867～1953） イングランド王ジョージ5世配偶者イギリス王妃

王家の宝石のリストを作らせたり、貴族の家に行くと家宝を褒めちぎって献上させたりした事でも悪名高く、「よく言っても強盗の一步手前のような方で」とまで言われた。ロマノフ家の人々がイギリスに亡命した時には、王妃に見つからないように一生懸命品物を隠した（結局は取り上げられてしまった）という。メアリーオブテックwikiより

- アレグザンダー（1884～1957） メアリー・オブ・テック弟※画像無し
- ベニト・ムッソリーニ（1883～1945） ファシスト党党首、イタリア首相

イタリア社会党で活躍した後に新たな政治思想ファシズムを独自に構築し、国家ファシスト党による一党独裁制を確立した。ムッソリーニwikiより

※ムッソリーニはその顔からメアリー・オブ・テックの弟ではなく、年齢からいっても息子ではないかと考えられる。それが事実ならムッソリーニが生まれた時、メアリーは16歳であった。そのためにムッソリーニはイタリアに住むタナトス一族の家に里子に出されたわけだ。

-
- ☐ 稚瑞照彦尊（1873） 明治天皇第一皇子※画像なし
 - 後藤武夫（1870～1933） 帝国興信所創業
 - 野口遵（1873～1944） チッソ創業者・日窯コンツェルン
 - ハム・テヨン（1872～1964） 李承晩政権
 - ホーコン7世（1872～1957） ロヴィーサ・アヴ・スヴェーリエの子（グリュックスブルク朝初代ノルウェー王）※画像無し

※3人は顔が良く似ている。影武者ではなく同一人物だろう。後藤は悪徳探偵の親玉でありながら野口に変身してチッソを創業し、日窯コンツェルンを一代で築いた。野口亡き後、チッソは水俣病に揺れる。しかし、実際には72歳で死んだことにして朝鮮半島に渡り、ハム・テヨンとして李承晩政権に関係し、失脚後も生き延び、92歳まで生きた。

メアリー・オブ・テックの子

- ☐ ジョン（1905～1919） ジョージ5世の子（イギリス王子）※画像無し
- ヒュー・ローダム（1911） ヒラリー・クリントンの父親

ロヴィーサ・アヴ・スヴェーリエの孫

- アレクサンドリーネ＝ルイーセ（1914～1962） デンマーク王女※ハーラルの子
- ドロシー・ローダム（1919） ヒラリー・クリントンの母親

- ☐ ゴーム（1919～1991） デンマーク王子※ハーラルの子

フィリップ・エディンバラ公（1921～2019） エリザベス2世配偶者

□
※フィリップ殿下は2019年1月18日、交通事故で死んだ。彼が交通事故で死んだのは、彼がダイアナの殺人の首謀犯だったことを意味している。つまり事故は、復讐と断罪を秘めた暗殺だった。一方、フェイクメディアは「97歳の殿下は事故で車が横転したにも関わらず無傷だった」と報道している。ありえない。翌日には「フィリップ殿下、今度はシートベルトをしないで運転」と報道されていた。このフェイクニュースをもって彼は既に死んでいると考えることが出来る。次は誰の番か？

□
オーロフ（1923～1990） ハーラルの子※画像無し

シャウル・アイゼンバーグ（1921～1997） 軍事企業アンゼンバーグ社

スイス・イスラエル貿易銀行の経営にはシャウル・アイゼンバーグ（Shaul Eisenberg）が参画した。wikiより

□
ヨアン・フレゼリク・オーウ・エーリク・ヘリエ・カステンスキョル（1928～1964）

ダウマーの子※画像無し

ウィリアム・ハイレンズ（1928～2012） シリアルキラー

※画像は若き日と晩年のハイレンズ。シカゴの連続殺人鬼。「これ以上、人を殺す前に逮捕してくれ！自分が抑えられない」と、口紅で壁にメッセージを書いたことで知られている。

イギリス国王ジョージ6世の子

□
エリザベス女王（1926）

ジョゼフィーヌ＝シャルロット・ド・ベルジック（1927～2005） アストリッド・ド・スエードの子

□
マーガレット（1930～2002）

エヴェリン・ロバート・ロスチャイルド（1931） ロスチャイルド財閥

※上の二人は性別を超えて似ている。エヴェリンはマーガレットの影武者として生まれた。しかし、影武者の立場を脱してロスチャイルド財閥の中心人物となった。

クリスティアン・ツー・シャウムブルク＝リッペの子（ロヴィーサ・アヴ・スヴェーリエの曾孫）

□ ヴィルヘルム（1939）※画像無し

アニーバル・カヴァコ・シルヴァ（1939） ポルトガル大統領

□ ヴァルデマール（1940）※画像無し

ジョー・バイデン（1942） オバマ政権副大統領

□ ※ジョー・バイデンは幼児性愛者として知られている。アメリカではCREEPY UNCLE JOE（気持ち悪いジョーおじさん）として知られている。公衆の面前で少女を愛撫しているところをカメラに何度も撮られているくらいだ。少女の胸にさりげなく手をやり、嫌がった少女に避けられている映像もyoutubeで見ることが出来る。おぞましい限りだ。このような人物がアメリカ副大統領にまで登り詰めることができるとは。

公衆の面前で少女を辱めても少女や親は何も出来ない。抵抗も批判もできない。だから自分には「力」があると勘違いしている。それは「力」ではない。ホンモノの王の力はそんなものではない。バイデンの力は、所詮、できそこないや犯罪者が考える「力」だ。

ジョー・バイデンの最初の妻と娘が交通事故で死んでいるが、これは、バイデンがじきじきに殺したと考えられる。妻がペドフィリアのバイデンから子供を守ろうとしたのだ。で、妻と娘は殺され、長男と次男だけが残された。基本的にきもいゲイであるバイデンは、最初の妻とは偽装結婚であり、妻は例によって優性遺伝子ブリーダーによって誰か別の優れた男の子供を生んだ可能性がある。で、バイデンは陵辱目的で息子たちだけを手元に残すことを計画し、うるさい妻を殺害した。その上で、妻がいないことをいいことに日夜寝ている間に息子たちをレイプしたと考えられる。

そのバイデンの息子ポー・バイデンは46歳で死んでいる。本願寺の家族が病気で早死にすることはありえない。その点からバイデンの子ポーは優性遺伝子ブリーダーで作られたバイデンとは血縁関係がない子供だということがわかる。しかし、ポー・バイデンがジョー・バイデンの罪を追求し始めたのだろう。で、ジョー・バイデンは息子を殺した。本願寺はそういうやつらだ。

□ ハーラルト（1948）※画像なし

アル・ゴア（1948） クリントン政権、気候変動に関する政府間パネル

※ウソをつくための権威。こいつがアホな「ペアレンタルアドバイザー」マークをレコードジャケットに印刷することをはじめた。こんな悪党がペアレンタルアドバイザーもクソもあるか。アニーバル・カヴァコ・シルヴァ、ジョー・バイデンの弟である。共産主義という敵が存在しなくなった1992年、敵を作るために温暖化十字軍を結成する。

デンマーク王子ハーラルの孫（ロヴィーサ・アヴ・スヴェーリエの曾孫）

□ ティーラ（1939） デンマーク王女アレクサンドリーネ＝ルイーゼの子※画像無し
ナンシー・ペロシ（1940） アメリカ民主党党首

□ クリスチャン（1942～2013） デンマーク王女カロリーネ＝マティルデの子※画像無し
パルヴェーズム・ムシャラフ（1943） パキスタン首相

□ マリー・ルイーゼ（1945） デンマーク王女フェオドラの子※画像無し
ヒラリー・クリントン（1947） ヒュー・ローダムの子（民主党大統領候補）

※現在のヒラリーはマリー・ルイーゼである。本物のヒラリーは何らかの事情で既に存命ではないだろう。ところで、TV番組「アーノルド坊や」を知っている人は、アーノルドの姉役のキンバリー（ダナ・プレイトー）のことも覚えているだろう。だが、このダナ・プレイトーは、1984年に20歳で妊娠によりアーノルド坊やを降板している。その後は不遇な人生を送り、34歳で自殺し、息子のタイラーも25歳で自殺している。

なんと、ヒラリーの若い頃はダナ・プレイトーにそっくりだ。一緒にしたくないな、と内心想ったが、ダナ・プレイトーはどうも出生に秘密があり、実母のことはwikiには詳細に記載されていない。で、好奇心の強い俺はのめりこんでしまった。結論、ダナ・プレイトーはヒラリー・クリントンの娘である。

まず、wikiをみるとダナの実母は氏名不明であり、18歳の未婚女性なのだという。しかし、その時点で生後18ヶ月の子がいたために養子に出したのだそうだ。それがダナ・プレイトーの人生の始まりである。

調べると、ヒラリーは当時17歳である。で、ヒラリーは高校時代には若き共和党员として働き、バリー・ゴールドウォーターという大統領候補を応援するゴールドウォーターガールを務めている。1964年のことだ。どうも、ダナ・プレイトーの父親は、この当時55歳のバリー・ゴールドウォーターのようだ。で、母親は17歳のヒラリー。ダナの眉毛は父親譲りなのではないか？

ヒラリーとしては大統領候補の妻になり、アメリカを支配したいという征服欲があったのだろう。本願寺の血が成せる業だ。それがゴールドウォーター氏に接近した理由と考えられる。「ババアの女房よりも若い女子高生の自分を取るに決まってる」そう簡単に考えていたのだ。だが、ゴールドウォーター氏は妊娠した女子高生ではなく、女房を取った。そういうわけで、乳児の時にダナ・プレイトーは落胆したヒラリーによって養子に出されたのだ。

それにしても、ゴールドウォーターとヒラリーの娘にしてはダナの人生は不遇この上ない人生だ

。いや、女優（子役）として活動を始めた頃は順調だった。アーノルド坊やに出れたのも、陰で見守っていたゴールドウォーター氏の影響があったかもしれない。だが、もし見守られていたとしても、ダナが「実の両親」を知っていたかどうかは不明だ。

しかし、ダナは好きになってはいけない男を知り、その男の子供を生んだために見放されたようだ。その影響がヒラリーの孫タイラーの自殺まで続いているわけだ。しかも、ダナが不遇に苦しみ、自殺した時期（1999年）は、奇しくも、実母の夫が運営するクリントン政権時代である。

フィリップとエリザベス2世の子

□ チャールズ皇太子（1948） イギリス皇太子

※本願寺の遺伝子を継承しているならダイアナ暗殺は王室の指示で間違いないだろう。ただ、ウィリアムやヘンリーはダイアナの血を継いでいるので除外している。

□ アン（1950） イギリス王女

アウンサンスーチー（1945） ミャンマー国家顧問

※アウンサンスーチーはフィリップの子のようだ。チャールズや先祖の女性組に良く似ている。彼女はMI6、BBC、バングラデシュと組み、中国政府に責任転嫁して悪者扱いするためにロヒンギャ族難民問題を指揮している。

□ エドワード（1964） ウェセックス伯爵

ギヨーム（1963） ジョゼフィーヌ＝シャルロット・ド・ベルジックの子

田村憲久（1964） 安倍政権

第7代ヘアウッド伯爵ジョージ・ラッセルズの子

□ デイビッド（1950） 第7代ヘアウッド伯爵ジョージ・ラッセルズの子※画像無し

ホセ・グラツイアーノ・ダ・シウバ（1948） 国際連合食糧農業機関代表

エサン・ウル・ハク（1949） ISI局長

※ウソをつくための権威。

□
ジェームズ（1953）※画像無し
ケネス・ロス（1955） ヒューマンライツ・ウォッチ事務局長
岩屋毅（1957） 安倍政権

※岩屋先生は、顔が大谷光尊に良く似ている。生まれ変わりのようだ。

☐
ジェレミー（1955）※画像無し
チャールズ・ライソン（1957） CNN精神科医
岸田文雄（1957） 安倍政権
ザビエル・ベセラ（1958） 民主党

※2019. 2. 18、トランプ大統領の非常事態宣言を受けて、民主党が16州で連合してトランプ大統領を起訴するという。起訴じゃ止められないでしょ。向こうが武力で来るなら自分たちも武器持って戦えば良いのにw

ジェラルド・ラッセルズの子

☐
Henry Ulick Lascelles（1953）※画像無し
ムハンマド・タヒル・ウル＝クアドリ（1951） パキスタン・イスラム法学者
サルマン・フサイン・ナドウィ（1954） インド・イスラム法学者
渡辺喜美（1952） 安倍政権

※ムハンマドとサルマンは、数百万の信者を自由自在に操ることができる。パキスタンとインドのラジコンマスター。

□
Gerald David Lascelles（1962）※画像無し
オミッド・コーDESTANI（1963） TWITTER会長

☐
マリー・アストリッド（1954） ジョゼフィーヌ＝シャルロット・ド・ベルジックの子
崔順実（1956） 朴槿恵政権

□ 戸崎貴裕（196？） ハム・テヨンの子（AGSAS管理人）

※ネットでしか語られない集団ストーカーだが、これが顕在化すると「AGSAS」というサイトと共に出現した。大谷の命令系統に属するラジコン信者の、集団によるイヤガラセを隠し、本物の被害者をミスリードするのが使命である。ひとりフェイクニュースといったところか。AGSASの由来はヒクソスである。ヒクソスありきのAGSASの略名だ。

フィリップとエリザベス2世の孫

□ ピーター・フィリップス（1977） イギリス王女アンの子※画像無し

Benjamin George Lascelles（1978） 第8代ヘアウッド伯爵デビッド・ラッセルズの子※画像無し

ジャック・ドーシー（1976） TWITTER社長

※ドーシーはピーター・フィリップスの影武者として生まれた。

□ ベアトリス・オブ・ヨーク（1988） ヨーク公アンドルーの子

ヴィクトル・サイェンコ（1988） ヨーク公アンドルーの子？（ウクライナ21）

イゴール・ズプルニユク（1988） ヨーク公アンドルーの子？（ウクライナ21）

□ ウクライナのドニプロペトロウシクに住む若者らが男性を拷問の末に殺害する顛末を録画したホームビデオの通称である。ビデオはインターネット動画共有サイトに流出し、誰でも閲覧が可能となっている。通称の「21」は、この若者らによって殺害された被害者の人数が21人であるのが由来とされる。

この「ウクライナ21」は「犯人たちがその後、殺害映像を販売する予定であったとの証言もある」ことから、「有史初のスナッフ・フィルムである」とされる。ウクライナ21 wikiより

※ウクライナ21で知られるヴィクトルとイゴールはベアトリスの影武者として生まれたと考えられる。ヨーク公アンドルーの意志とは関係なく、タナトス女が優性遺伝子ブリーダーによって儲けたのだろう。ウクライナ21の画像を見たが、少年たちは被害者の死体を前に丸で子供が玄関に郵便物を取りに行くような顔をしている。恐ろしいことだ。

裁判中は甘えた顔をして、裁判を茶化そうとしている。恐怖の感情を愚弄している。全く罪悪感を認めることが出来ないが、これがタナトスの本性だといえる。子犬の死体を吊るしていても、

ピンポンダッシュした子供ほども悪びれていない。アステカの生贄の神官たちもこのような顔をしていたのだろう。

ウクライナ21を考察することは、人類の墮落について考えることではない、異なる人類タナトスと、なぜ彼らが罪悪感を極度に欠いた状態で生まれるのか？を考えることだ。

大谷光瑞の一族～マンチェスター侯爵、アスター財閥、ジョージ・H・W・ブッシュ、ケネディ大統領暗殺、湾岸戦争、冷戦終結、法輪功、国境なき記者団、自動運転技術テロ、オール電化テロ、麻薬カルテル

□
大谷光瑞（1876～1948） 西本願寺22代門主
井上匡四郎（1876～1959） 内閣技術院総裁
ウィリアム・モンタギュー（1877～1947） 第9代マンチェスター侯爵※画像なし
Waldorf Astor（1879～1952） 第2代アスター子爵※画像なし
北小路資武（1878～1942） 北小路功光父※画像なし
九条道実（1870～1933） 恒憲王妃敏子父※画像なし

ロシア：日露戦争（1904）

朝鮮：朝鮮侵略（1910）

中国：辛亥革命（1911）

西欧：第一次世界大戦（1914～1918）

日本：東京・柳島自転車商一家殺人事件（1915）人間狩り（岸信介、佐藤栄作、東條英機、伊藤文吉、石井四郎、白洲次郎）

日本：夏目漱石殺害（1916）

日本：日英秘密協定（1917）

ロシア：日本軍、シベリア出兵（1918）

日本：第一次大本教弾圧（1921）

日本：第一次共産党検挙（1923）

日本：関東連続少女殺人事件（1924）人間狩り（白洲次郎、麻生太賀吉、大谷光暢、大谷光照）、治安維持法発布隠し

日本：治安維持法発布（1925）

日本：芥川龍之介殺害（1927）

中国：日本軍、第一次山東出兵（1927）

日本：第二次共産党検挙（1928）

日本：特別高等警察設置（1928）

満州：張作霖殺害事件（1928）

日本：第三次共産党検挙（1929）

日本：玉の井バラバラ殺人事件（1932）人間狩り（麻生太賀吉、大谷光暢、大谷光照）、5.15事件隠し

日本：5.15事件（1932）

西欧：国際連盟脱退（1933）ルーズベルト大統領就任を受けて

日本：第二次大本教弾圧（1935）

日本：2.26事件（1936）

日本：向島連続少女殺人事件（1936）人間狩り（麻生太賀吉、塩川正十郎、大谷光暢、大谷光照）、2.26事件隠し

日本：阿部定事件（1936）2.26事件隠し

中国：盧溝橋事件～日中戦争（1937～1945）

中国：南京大虐殺（1937）

日本：国家総動員法発令（1938）

日本：津山30人殺し事件（1938）人間狩り（麻生太賀吉、塩川正十郎、大谷光暢、大谷光照）、国家総動員法発令隠し

日本：浜松連続殺人事件（1941）人間狩り、真珠湾攻撃隠し

日本：真珠湾攻撃（1941）

日本：創価学会弾圧、牧口常三郎逮捕・獄中死（1943）

日本：原爆投下（1945）

日本：和歌山一家8人殺害事件（1946）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、敗戦隠し

日本：東京片桐仁左衛門一家殺害事件（1946）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、敗戦隠し

日本：大分中津市朝鮮人一家殺害事件（1946）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、敗戦隠し

日本：帝銀事件（1948）第一次農地改革隠し

日本：太宰治殺害（1948）

※西本願寺第二十二代門主。大谷光瑞は、井上匡四郎に化けて日本政府に侵入し、内閣技術院総裁に就任しながら、至近距離で敵を偵察していた。大谷光瑞と井上匡四郎は顔がそっくりなので同一人物と見て間違いない。

□ **John Jacob Astor**（1886～1971）

アール・ウォーレン（1891～1974） ウォーレン委員会メンバー

※ウォーレン委員会のメンバーもみなタナトスの一族で固められていた。真実を追究するのではなく、真実を隠蔽するために。ここに記した以外のウォーレン委員会メンバーは、ジェラルド・フォード（本願寺門主顕如の一族）、CIA長官アレン・ウェルシュ・ダレス（西本願寺門主寂如の一族）である。

□ **Gwendolyn Enid Astor**（1889～1902）※画像なし

ジョン・J・マックロイ（1895～1989） ウォーレン委員会メンバー

リチャード・ラッセル・ジュニア（1897～1971） ウォーレン委員会メンバー

※マックロイの名前も日本語「真っ黒い」に因んでいる。「俺たちが犯人だ」と言っているようなものだ。

Waldorf Astor (大谷光瑞) の子

☐

William Waldorf Astor II (1907~1966)

ジャック・ルビー (1911~1967) オズワルド暗殺

Paul Twitchell (1908~1970) 新興宗教エッカカンカー教祖

ジョン・シャーマン・クーパー (1901~1991) ウォーレン委員会メンバー

※は？同じ人ですよ？上の3人。ウィリアム・アスター2世はジャック・ルビーに変身してオズワルドの口を封じ、一方、Paul Twitchellに変身して1965年にエッカカンカーなる宇宙人崇拜の新興宗教を設立した。丁度、アスター2世が自分とジャック・ルビーを死んだことにする前年である。彼はスピリチュアルリーダーとして神秘的な趣味を持つ人々をミスリードした。だが、途中で飽きたのか1970年に死んだことにして後の21年をジョン・シャーマン・クーパーとして生きた。

☐

Francis David Langhorne Astor (1912~2001) ※画像なし

William Greer (1909~1985) シークレットサービス

※ウィリアム・グリアーは、ケネディ大統領暗殺の日、大統領たちが載る車輛の運転手をしていて、ケラーマンは右側の沿道にいる見物人の目を遮るべく背中を見せた上で後ろを振り返り、銃を持っていることを知られないようにしてケネディ大統領を撃った。そして、グリアーは左側の沿道にいる見物人の目を遮るためにケラーマンと一緒に振り返って背中を見せ、ケラーマンの銃が見えないように工夫した。それにしても、暗殺犯の一味のくせにいったいどういう気持ちで上の写真を撮ったのだろうか？タナトスの一族は異常だ。

☐

Michael Langhorne Astor (1916~1980) ※画像なし

Roy Kellerman (1915~1984) シークレットサービス

ヘール・ボッグズ (1914~1972) ウォーレン委員会メンバー

※ケネディ大統領の暗殺は、大谷光瑞の一族が実行した。責任者はジョージ・H・W・ブッシュである。オズワルドも仲間だが、単なる鉄砲玉であり、彼の真のロールと末路は知らされていなかった。一方、重要な役回りを頂くブッシュの家族（父の異母兄弟）であるマイケル・アスターの影武者であるロイに重要な役回りがきた。殺しの役である。そのため、この時からロイはケラーマンを名乗ることになった。

シャレではなくKellermanの名はKiller man（殺し屋）に因んでいる。本願寺はシャレを好むが、彼らはしばしばシャレに真意を込める。悪魔の遊び心だ。ケネディ大統領が気づいたかどうか不

明だが、標的にそれとなく伝わるように本願寺は関係者の名前を使って暗殺を予告している。つまり、ケラーマン（killerman）の名に気付いていればケネディ大統領は暗殺を免れたかもしれない。

タナトス一族の未来に暗雲をもたらす敵を確実に仕留める役として、ケラーマンはケネディ大統領が乗る車の助手席に納まった。図書館や茂みに隠れていた狙撃手もみなブッシュの弟たち（若き日のラムズフェルド、マケインなど）だったが、彼らの役回りはケネディ大統領狙撃ではなく、テキサス州知事を撃つことだった（流れ弾がケネディ大統領に当たったようだが）。助手席から撃つ時、ケラーマンの邪魔になるのでテキサス州知事をどかす必要があった。何でもないようなテキサス州知事の狙撃には大きな意味があったのだ。撃たれた知事が崩れ落ちた後、助手席のケラーマンがすかさずケネディ大統領を狙撃した。

彼らは、ケネディ大統領暗殺のためのリハーサルを同じ車種を用いて入念に行ったと考えられる。この秘密のリハーサルにはホームレス、或いは誘拐してきた青少年が使われた。ホームレスや青少年をテキサス州知事、ケネディ大統領の役として車に乗せ、何度も何度も練習したのだ。このリハーサルの際、撃たれたホームレスや青少年たちは当然、本当に死んでいる。その後、ケラーマン（マイケル・アスター）の兄ウィリアム・アスターがジャック・ルビーに変身してオズワルドを射殺している。

アレクサンダー・モンタギューの子（大谷光瑞の孫）

Ⓜ シドニー・モンタギュー（1929～1985） 第11代マンチェスター侯爵※画像なし
ジョージ・H・W・ブッシュ（1924～2018） アメリカ大統領
Edward Cowart（1925～1987） テッド・バンディ事件裁判官

□ マルタ会談から8ヶ月後、1990年8月2日にサッダーム・フセイン率いるイラク軍が隣国クウェートへ突如侵攻すると、国際連合は史上初の武力行使容認決議を可決、拒否権で停滞してきた安保理では歴史的なことであり、これを父ブッシュは新世界秩序と呼んだ。米軍を主とする多国籍軍はクウェートからイラク軍を撃退し、サウジアラビアの防衛を保証した（湾岸戦争）。ただし、イラクのサッダーム・フセイン政権の打倒までは行わず、あくまで制裁戦争であった。1991年1月17日の多国籍軍によるイラク空爆により、湾岸戦争は本格化した。ブッシュwikiより

※ブッシュは、里子として家に来たジュニアの性癖に困っていた。子女の拉致、拷問、強姦、殺人である。いわゆるバンディ事件の真犯人はジュニアなのだ。悩んだ父ブッシュは、子ブッシュの異母兄弟テッド・バンディに白羽の矢を立て、ジュニアの身代わりにすることにした。何が何でもバンディを殺人犯に仕立てるため、父ブッシュは裁判官として自分の影武者であるEdward Cowartを起用した。ここでも本願寺は関係者の名を使ってイヤミを述べている。バンディも気付

いたと思うが、裁判官Cowntの名はCoward（弱虫、腰抜け）に掛けている。悪魔の遊び心。全くあきれられないが、抜かりがない点には感心する以外ない（？）。



アングス・モンタギュー（1938～2002） 第12代マンチェスター侯爵

ミハイル・ゴルバチョフ（1931） ソビエト連邦書記長

ドナルド・ラムズフェルド（1932） ブッシュ政権閣僚

ウォーレン・バフェット（1930） 世界最大投資持株会社バークシャー・ハサウェイ筆頭株主

ジョージ・ケアリー（1935） カンタベリー大司教

ジョン・マケイン（1936～2018）

ウィリー・クラース（1937） NATO第8代事務総長

ジェリー・ブラウン（1938） カリフォルニア州知事

ジェローム・ブルードス（1938） シリアルキラー

ジム・ロジャーズ（1942） クォンタム・ファンド共同設立者、ロジャーズ・ホールディングス会長

リー・ハーヴェイ・オズワルド（1939～1963） ケネディ暗殺犯

※オズワルド以外の上記の10人は、みな顔がよく似ている。オズワルドは鉄砲玉役のために生まれた異母兄弟の庶子なのだろう。本体モンタギューとケアリーは同一人物の可能性も高い。ケアリーは、イギリスの数十万の信者を自由自在に操ることができる。イギリスのラジコンマスターだ。ブルードスとロジャースも同一人物ではないかと考えられる。となると、ロジャースは巨大な投資家でありながら、無名時代はシリアルキラーとして快楽を殺人に求めていたことになる。

□ 1989年12月3日、地中海におけるマルタ会談では、H・W・ブッシュ大統領と会談し、冷戦の終結を宣言した。wikiより

※ゴルバチョフとブッシュは異母兄弟であったため、このようなことが可能であった。

2001年9月11日に発生したアメリカ同時多発テロにおいて、ハイジャックされたワシントンD.C.発ロサンゼルス行きアメリカン航空77便（ボーイング757）が9時38分に国防総省本庁舎（ペンタゴン）に激突した。執務中のラムズフェルドは危うく難を逃れ、建物の外へ出ると女性職員が血を流して倒れていたため、彼女を抱えて避難し、救急車が来るまで看病していた。その一方、すぐに幹部を集めて「ここが勝負の分かれ目だ」と言い放ち、大統領とすぐに協議できるよう今後の対応策を数時間かけて、レターサイズ用紙1枚にまとめ上げた（アメリカ政府ではA4は使われておらず、A4とほぼ同じ大きさであるレターサイズ用紙がもっぱら使われる）。ドナルド・ラムズフェルドwikiより

※上の劇的な筋書は、ハリウッドの脚本家によって書き下ろされたシナリオだろう。

1969年5月25日、ブルードスは逮捕された。オレゴン州立大学では以前から学生をナンパする男が目撃されており、それがブルードスだった。相次ぐ失踪事件の犯人ではないかと疑われて、通報されたのである。尋問の結果、異常な犯行の数々を自供したが、ガレージを捜索した警察は、それが誇張でもなんでもないことを確認した。犠牲者が苦しみながら死んでいく様や、死体を弄ぶおぞましい光景を撮影した写真も押収された。

ブルードスは精神異常を主張したが、有罪となり終身刑を宣告された。今でもオレゴン州立刑務所に服役中である。殺人博物館より

北小路功光（大谷光瑞）の子

□
北小路轟（1924）※画像なし

赤崎勇（1929） 青色発光ダイオード開発

□
※青色LED、実質的な人工の紫外線

恒憲王妃敏子の子（九条道実の孫）

田
賀陽健憲（1942～2017）※画像なし

横倉義武（1944） 世界医師会会長

大谷昭宏（1945） ジャーナリスト

椛島有三（1945） 日本会議事務総長

山本敏博（194？） 聖隷福祉事業団理事長

長谷川三千子（1946） NHK経営委員、日本会議

トン・クウィラー・アブドンロマン（194？） パタニ連合解放組織代表

※賀陽健憲の父方は東本願寺門主達如の一族であるが、大谷光瑞の項に於ける賀陽健憲は母方の異母兄弟となる。2017年、大谷氏は「バカが権力を握っていると報ずるべきだ」と述べたが、これも安倍の家族だから言えることだ。許可された反逆であるため、残念ながら効力を期待することはできない。山本敏博は、日本初のゴキブリホイホイ（別名ホスピス）を設置した。

□
※2017年、パタニ連合解放組織はイギリスのMI6と組み、ミャンマー政府と、その背後にいる中国政府を攻撃するためにロヒンギャ族の難民化という劇を指揮している。写真のように悪党は

自分で子どもを泣かし、泣いているところを写して敵のせいで泣いていると悪者扱いし、敵の非情を世に問う。あまりに愚かだ。

北小路轟の子

甲

北小路良子（1952）※画像なし

小堀邦夫（1950） 靖国神社宮司、日本会議

白川方明（1949） 日本銀行総裁

李洪志（1952） 法輪功教祖

竹中平蔵（1951） 小泉政権閣僚

瀬戸弘幸（1952） 日本第一党

※ウソをつくための権威。どう考えても異母兄弟である。全員、良く似ているが、特に竹中と瀬戸は李洪志の影武者として生まれた。

□

※数千万の信者を自由自在に操ることができる。中国のラジコンマスター。信者の子弟を徴用し、中国全土にイジメ問題を巻き起こしている。ちょっと前の日本と同じだ。現在の日本の状態を見れば分かるが、イジメとは、じつは優れた子弟の排除であり、自分たちの子弟のバックアップである。東西本願寺の一族は、子どもを支配できればゆくゆくは国を支配できると考えている。本モノの人気者は子弟を大量に動員してイヤガラセをし、精神的に廃人同然にして自ら退くように導き、代わりに自分たちの子弟を学校の人気者に据えるのだ。

中国全土のクラスのトップに自分たちの子弟を送り込むことが出来れば、将来的に中国政府も篡奪できると考えている。国のトップになる人間は、学校時代からクラスや学校でトップをとっているものだ。普通の人間や強い人は「しかし、そこまではるか？」と疑うが、普通に戦っても勝てない東西本願寺の一族のようなできそこないは必ずそこから考えている。今の日本の状態がその結果である。良い人間は排除され、或いはイヤガラセによって自分から退くように精神疾患を患っている。そして、できそこないがトップの座に就く。実際にその通りになっている。子どものイジメ、自殺が多い国は要注意だ。水面下で東西本願寺の一族が動いている。

Waldorf Astorの孫

□

4人の子の中のひとり（194?） Michael Astorの子※画像なし

イスマエル・サンバダ・ガルシア（1948） シナロア・カルテル



William Astor (1951) 第4代アスター子爵※William Waldorf Astorの子
リチャード・アーミテージ (1945) ブッシュ政権閣僚
アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール (1953) メキシコ大統領
リチャード (1944) イングランド王ジョージ5世の孫
エンダ・ケニー (1951) IRA長官
レニン・モレノ (1953) エクアドル大統領
ヤーブ・デ・ホープ・スヘッフェル (1947) NATO第8代事務総長
JOSU URRTIKOETXEA (1950) バスク祖国と自由長官
チャック・ヘーゲル (1946) オバマ政権閣僚
ブルース・オウ (1951) メソジスト連合司教会議議長
ジェリー・ナドラー (1947~2019) 民主党議員
アルバロ・ウリベ (1952) 第61代コロンビア大統領
イグナシオ・コロネル・ビジャレアル (1954) シナロア・カルテル

※オブラドールはTPPを批准し、麻薬戦争の逮捕者の恩赦も考えているという。麻薬カルテルの家族。左派とか関係ない。モレノは2019年、キャラバンを指揮している。ナドラーは、無能なくせに偉ぶった調子だけは堂に入ったものだ。エンダ・ケニー、JOSU URRTIKOETXEA、ナドラーは優性遺伝子ブリーダーによって儲けられたブッシュの子と考えられる。ウリベと麻薬カルテルの首領イグナシオは、父方は大谷光瑞の一族だが、母方が親鸞の一族だと考えられる。

国防省情報部員としてサイゴンやテヘランなどで勤務。上院議員であったボブ・ドール（後に大統領候補になる）の秘書などを経て、1981年からはロナルド・レーガン政権の国防次官補代理、1983年から1989年までは国防次官補を務めた。その後は政策コンサルティング会社「アーミテージ・アソシエイツ」の代表。2001年に発足したジョージ・W・ブッシュ政権下では右腕として2005年1月まで国務副長官を務め、ブッシュ大統領の政策顧問団バルカンズのメンバーでもあった。リチャード・アーミテージwikiより

□ ※家族の集い

□ ※アル＝ヌスラ戦線の正体は、アルカーイダに合流したバスク祖国と自由である。バスク祖国と自由の先祖にはサラディンがいるため、十字軍時代の栄光を取り戻さんと、彼らはシリアを欲し、アサド政権打倒を掲げている。彼らは、シリア・オスマンの系統に属するハナフィー派をまとめて「アル＝ヌスラ戦線」を結成し、自由シリア軍、イスラム戦線と合流した。AD2015年、ロシア航空宇宙軍がアル＝ヌスラ戦線に爆撃を加えて壊滅させた。

□

※イスラム戦線の正体は、アルカーイダに合流したIRAである。彼らは祖先である聖ヨハネ騎士団による十字軍時代の栄光を取り戻さんと、シリアを欲し、アサド政権打倒を掲げている。彼らはシリア・オスマンの系統に属するハナフィー派を集めて「イスラム戦線」を築いた。イスラム戦線には、カタールも援助しているといわれている。そうであるなら、ラビア・カーディル（カタール・オスマン）も一枚噛んでいるのだろう。

オウは、アメリカの数千万のメソジスト信者を自由自在に操ることができる。アメリカのラジコンマスター。反トランプ派のデモは彼が指揮している。

田

Emily Mary Astor（1956）※画像なし

ロベール・メナール（1953） 国境なき記者団設立

西川廣人（1953） 日産自動車代表取締役社長兼CEO

河野克俊（1954） 自衛隊統合幕僚長

柵山正樹（1957） 三菱電機社長

※上の4人はエミリーの影武者として生まれた。西川と柵山は同じ本体に属する影武者だけあり、共同でCMを通じて「やっちゃえ日産」「憎いね三菱」という日本人に対する宣戦布告を発表した。

□

□

□

※「やっちゃえ日産」の標語。正確には「殺っちゃえ日産」であるが、これは、日本人に対する宣戦布告である。自動運転技術による交通テロの実行を示唆しているのだ。最近の、老人ドライバーの高速道路逆走、アクセルとブレーキの踏み間違えによる店舗の破壊、登下校中の小学生の集団に突っ込みなど、すべて、自動運転技術の悪用による結果である。テロである。

□

※ウソをつくための権威。科学兵器をオール電化という商品に変え、日本人を攻撃するために販売している。「にくいね三菱」の標語は意図したイヤミである。

□

Janet Elizabeth Astor（1961）※画像なし

ホアキン・グスマン（1957） シナロア・カルテル

キース・レイニエ（1960） NXIVM創始者

□

Pauline Marian Astor（1964）※画像なし

山口敬之（1966） 元TBS報道局社会部及び政治部報道記者

岡本昭彦（1966） 吉本興業社長

※2019年、大量のゲイ人が殺された際、岡本はCGや編集技術を駆使して、ゲイ人たちがまだ生きていることにしてごまかしている。岡本は無能だが、ダウンタウンにのっかって自分をでかく見せているに過ぎない。山口は伊藤詩織レイプ事件の加害者だが、この事件はどうも安倍政権の不祥事隠しが目的のフェイクという気がする。

大谷光照の一族～第3代サウジアラビア王ファイサル、ロバート・ケネディ暗殺、中曽根康弘、ジョージ・W・ブッシュ、除草剤ラウンドアップ、殺人鬼テッド・バンディ、少女殺人鬼ペドロ・ロペス、世界同時多発テロ

□□□
大谷光照（1911～2002） 西本願寺第23代門主
井出一太郎（1912～1996） 佐藤内閣郵政大臣
ファイサル（1906～1975） 第3代サウジアラビア王 在位1964～1975

朝鮮：朝鮮戦争（1950）

日本：法隆寺金堂火災（1949）極東国際軍事裁判終了隠し

日本：下山事件（1949）極東国際軍事裁判終了隠し

日本：三鷹事件（1949）極東国際軍事裁判終了隠し

日本：小田原一家5人殺害事件（1949）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、極東国際軍事裁判終了隠し

朝鮮：朝鮮戦争（1950）

日本：レッドパージ（1950）

日本：金閣寺焼失（1950）警察予備隊発足隠し

日本：築地八宝亭一家殺人事件（1951）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、警察予備隊発足隠し

日本：荒川放水路バラバラ殺人事件（1952）人間狩り（赤崎勇、大谷暢頭）、警察予備隊が保安組に改組隠し

日本：立正佼成会弾圧、蔵敷事件（1952）

日本：栃木雑貨商一家殺害事件（1953）人間狩り（大谷暢頭、麻生太郎、大谷光真）

日本：森永ヒ素ミルク中毒事件（1955）ビキニ諸島被爆隠し

日本：少年誘拐ホルマリン漬け事件（1957）東海村原子炉点火隠し

日本：荒川連続自転車通り魔殺傷事件（1959）人間狩り（麻生太郎、大谷光真、坂口力）

日本：岩槻一家7人殺害事件（1959）人間狩り（麻生太郎、大谷光真、坂口力）

日本：連続少年斬りつけ魔事件（1959）人間狩り（麻生太郎、大谷光真、坂口力）

日本：吉展ちゃん誘拐殺害事件（1963）朴政権誕生隠し

日本：狭山事件（1963）朴政権誕生隠し

日本：小津安二郎殺害（1963）

日本：黒澤明自殺未遂（1966）

日本：三億円事件（1968）学生運動リーダー狩り

日本：三島由紀夫殺害（1970）

日本：大久保清連続殺人事件（1971）人間狩り（麻生太郎、徳川康久、安倍晋三、菅義偉、加計孝太郎、金田勝年、中村修二）、黒い霧事件隠し

日本：川端康成殺害（1972）

日本：上野消火器商一家殺人事件（1974）人間狩り（徳川康久、安倍晋三、加計孝太郎、菅義偉、金田勝年、中村修二、山本一太）

日本：ロッキード事件（1976）

日本：福岡内妻一家4人殺害事件（1976）人間狩り（徳川康久、安倍晋三、加計孝太郎、菅義偉、金田勝年、中村修二、山本一太）

日本：花粉症顕在化（1978）

日本：大平正芳殺害（1980）

日本：佐賀女性7人連続殺人事件（1980～1989発覚）人間狩り（安倍晋三、加計孝太郎、山本一太、石原伸晃）、リクルート事件隠し

日本：深川通り魔殺人事件（1981）人間狩り（安倍晋三、加計孝太郎、山本一太、石原伸晃）

日本：練馬一家5人殺害事件（1983）人間狩り（安倍晋三、加計孝太郎、山本一太、石原伸晃）

韓国：大韓航空機撃墜（1983）

日本：日光ジャンボ機撃墜（1985）

日本：杉並一家放火殺人事件（1986）人間狩り（山本一太、石原伸晃、上祐史裕、越智啓太、野間易通）

日本：女子高生コンクリート詰め殺人事件（1988）人間狩り、リクルート事件隠し

日本：手塚治虫殺害（1989）

日本：宮崎勤連続幼児誘拐殺人事件（1989）人間狩り（山本一太、石原伸晃、上祐史裕、村井秀夫、越智啓太、野間易通）、リクルート事件隠し

日本：坂本弁護士一家拉致殺害遺棄事件（1989）人間狩り（上祐史裕、村井秀夫、越智啓太、野間易通）、リクルート事件隠し

日本：足利連続幼児誘拐殺人事件（1990）人間狩り（上祐史裕、村井秀夫、野間易通、安田純平）、リクルート事件隠し

日本：市川一家4人殺害事件（1992）人間狩り（上祐史裕、村井秀夫、野間易通、安田純平）

日本：尾崎豊殺害（1992）

日本：金丸信起訴（1993）

日本：井の頭公園バラバラ殺人事件（1994）人間狩り（野間易通、安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：松本サリン事件（1994）松本市は麻原の本名に因んでいる

日本：大阪・愛知・岐阜連続リンチ殺人事件（1994）

日本：東京地下鉄サリン事件（1995）

日本：オウム真理教強制捜査（1995）

日本：警察庁長官狙撃事件（1995）

日本：八王子スーパー強盗殺人事件（1995）人間狩り（野間易通、安田純平、大谷光淳、将

来の政治家)

日本：藤本弘（藤子 f 不二雄）殺害（1996）

日本：O157患者6000人超す（1996）

日本：神戸連続児童殺傷事件（1997）人間狩り（野間易通、安田純平、大谷光淳、将来の政治家）、日米防衛協力のための指針合意隠し

日本：学級崩壊問題（1997）

日本：堺市通り魔事件（1998）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：群馬一家3人殺害事件（1998）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：石森章太郎殺害（1998）

日本：hide殺害（1998）

日本：ねこぢる殺害（1998）

日本：光市母子殺害事件（1999）

日本：池袋通り魔殺人事件（1999）防衛指針法隠し

日本：下関通り魔殺人事件（1999）防衛指針法隠し

日本：てるくはのる事件（1999）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）、防衛指針法隠し

日本：ひきこもり問題（1999）

日本：新潟少女監禁事件（2000）米原潜衝突事故隠し

日本：西鉄バスジャック事件（2000）米原潜衝突事故隠し

日本：雪印乳業全工場操業停止（2000）

日本：仙台女児連続暴行事件（2000）人間狩り（、安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：大分一家6人殺傷事件（2000）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：世田谷一家殺害事件（2000）人間狩り（安田純平、大谷光淳、将来の政治家）

日本：ルーシー・ブラックマンさん事件（2001）恐牛病隠し

日本：レッサーパンダ帽男殺人事件（2001）恐牛病隠し

日本：大阪池田小児童殺害事件（2001）恐牛病隠し

※西本願寺第二十三代門主大谷光照は石油時代の未来を見越してサウジアラビアに影武者を送り込んだ。影武者ファイサルは第3代サウジアラビア王の座に就き、西本願寺は石油王国サウジアラビア王国に君臨した。ただ正体を見抜かれたのか、ファイサル王は正しいサウジアラビア王族の一員、甥のファイサル・ビン・ムサーイドに暗殺されている。イヤなやつをすぐに殺せるのはいいことだ。

一方では、光照は井出一太郎に化けて日本政府に侵入し、佐藤内閣の時代に郵政大臣に就任して至近距離で敵（愛新覚羅の一族）を偵察していた。光照と井出2人の顔は良く似ているが、井出には大量の毛髪があるので2人は同一人物ではない。

第3代サウジアラビア王ファイサルの子

☐

アブドゥッラー・ビン・アブドゥルアズィーズ（1924～2015） 第6代サウジアラビア王 在位2005～2015

Sultan bin Abdulaziz Al Saud（1925～2011） バンダル・ブッシュ父

ベジ・カイドセブシ（1926～2019） チュニジア第4代大統領

中曽根康弘（1918～2019） 第71、72、73代内閣総理大臣

※第6代サウジアラビア王アブドゥッラー・ビン・アブドゥルアズィーズはW・ブッシュから親友と呼ばれていた。実際にはアブドゥッラー・ビン・アブドゥルアズィーズはW・ブッシュの兄である。影武者のセブシは、ジャスミン革命の後にチュニジア大統領に就任した。焼死した青年の死がジャスミン革命の発端だが、嫌がって抵抗する青年に強制的に火をつけて焼き殺したのはセブシだろう。

中曽根の名は長脛彦に因んだ良い名だが、康弘自身はファイサルの庶子として生まれ、里子制度によって中曽根家で育てられたと考えられる。中曽根は三島由紀夫自決に立会い、日航ジャンボ機墜落という大事件に関わっている。三島は自決したのではなく、中曽根とその一味（西本願寺門主大谷光照の一族）によって殺されたのではないかと考えられる。三島のような優れた人物がリーダーになったら本願寺にとっては大事（おおごと）ですから。

☐

スルターン（1928～2011）※画像なし

ジョン・E・フランツ（1929） ラウンドアップ開発、モンサント社

ポール・ラウターバー（1929～2007） MRI開発、ノーベル生理学・医学賞

☐

※化学を悪用し、世界、人類にとって不要なもの「除草剤」を売ることによって富を得た。除草剤は、被爆すると非常に苦しい下痢をもたらす。ジョン・E・フランツは、無味、無色、無臭の毒を開発したことにより、タナトスの一族から悪のプリンスとして賞賛された。ジョン・Eは優性遺伝子ブリーダーにより、W・ブッシュやオバマなど、たくさんの悪の子を産んでいる。

☐

※宇宙人とタナトス系シベリア人の女（ガージャール朝の女）が本願寺の遺伝子を欲した。それによってラウターバーは生まれた。彼は、異母兄弟であるマンフィールドと組んでMRIを開発した。MRI開発の目的は人を助けることではなく、人を殺すことである。MRIは一般的に治療危機として認識されている。つまり、MRIで人を殺すということは殺人に見えないのだ。MRIは長いスパンなら、人類を白血病にするための装置に過ぎない。また、短いスパンなら白質脳症（頭部照射の場合）にする装置である。

☐

モハメド（1937～2017）

桂歌丸（1936～2018） 落伍家

Larry Silverstein（1931） 不動産投資、ワールドトレードセンター所有

寺島泰三（1933） 統合幕僚会議議長、日本会議

ピーター・マンズフィールド（1933～2017） MRI開発、ノーベル生理学・医学賞

サーハン・ベシャラ・サーハン（1944） ロバート・ケネディ上院議員暗殺犯

※サーハンとモハメド本人じゃないだろうか？驚くほど似ているが。一方、歌丸は時折、時事問題を取り上げていたが、そんな時も事実を捻じ曲げていた。落語家は、江戸時代の昔から、そのようなフェイクニュースのキャスター的な役割を持っていたのだろう。

宇宙人とタナトス系シベリア人の女（ガージャール朝の女）が本願寺の遺伝子を欲した。それによってマンズフィールドは生まれた。MRIは長いスパンなら、人類を白血病にするための装置に過ぎない。また、短いスパンなら白質脳症（頭部照射の場合）にする装置である。

田

ハーリド（1940）

アブ・バカル・バシール（1938） ジェマ・イスラミア首領

アンソニー・レイク（1939） 国際連合児童基金事務局長

李柱銘（1938） 香港反政府デモ指導者

村井俊治（1939） 地震科学探査機構

堀田知光（1944） 国立癌研究センター理事長

2002年10月12日のバリ島の爆弾テロ事件、2004年9月9日のジャカルタ・オーストラリア大使館付近での爆弾テロ事件、2005年10月1日のバリ島の爆弾テロ事件などがJIの犯行であるとされている。ハーリド・シェイク・モハメド逮捕後はアル・カーイダでナンバー3の地位にあったハンバリは2005年にCIAとタイ警察によって逮捕され、その他のJIの幹部もインドネシア国家警察の対テロ特殊部隊（Detachment 88）などに相次いで逮捕・射殺され組織は一時的に弱体化した。

しかし、インドネシア警察当局は2009年7月17日にジャカルタで発生したJWマリオット・ホテルとリッツ・カールトン・ホテル連続爆破事件も、組織のさらなる弱体化を懸念したバシール師の穏健路線に不満を持つ強硬派の犯行とする見解を発表している。アブ・バカル・バシールwikiより

□
□
※ウソをつくための権威。写真は311と関西大震災

田

サアド（1941～2017）

ラシード・ガンヌーシー（1941） チュニジア・ナフダ党党首

ムスリム同胞団やイラン・イスラム革命に触発されて結成された。党首であるラシード・ガンヌ

ーシーは2011年に帰国した。2011年10月に行われた制憲議会選挙で、217議席中89議席を獲得し第1党となった。選挙後の協議で共和国のための会議(CPR)、エタカトルとの連立政権樹立が決まった。ナフダwikiより

田

バンドル (1943~2015)

ジョージ・W・ブッシュ (1946~2019) アメリカ大統領

トニー・ポデスタ (1943) ジョン・ポデスタ兄

テッド・バンディ (1946~1989) 連続殺人鬼 (女性30人以上)

ゲイリー・リッジウェイ (1949) 連続殺人鬼 (女性71人)

※マイケル・ムーアの映画「ファーレンハイト911」を見ると、W・ブッシュは911当日、幼稚園にいて本を読んでいた。ブッシュは壁を背にしていたが、丁度、ブッシュの頭のところに「**reading makes a country great**」と書かれた紙が貼ってあった。これは分かる人だけに向けられた本願寺の一族による声明文である。これは偶然ではない。タナトスによる意図的なアピールである。911世界同時多発テロは、西本願寺門主大谷光照 (ブッシュの一族+ファイサルの子) の一族による謀略である。

readingの部分はBreeding, creeding, dreadingなどを当てはめることが出来る。breedは繁殖、creedは信仰、dreadは極度の不安・恐怖を意味する。この中でもdreadが一番重視されていると思われる。本願寺の思惑としては「極度の不安・恐怖がアメリカを素晴らしい国に作りかえる」ということになるだろうか。ブッシュの顔を見ると「ふん、誰にもこの真意は分かるまい。分かるはずがない。くっくっく」という如きドヤ顔をかましている。

W・ブッシュは優性遺伝子ブリーダーによって生まれたジョンEフランツの子で、ファイサルの王子バンドルの影武者である。そのため、サウジアラビアの一部王族と仲が良かった。テッド・バンディは認識はなかったと思うが、彼もジョンEフランツの子である。つまり、ジョージ・W・ブッシュとは異母兄弟だった。

バンディの母がジョン・E・フランツの遺伝子を所望し、優性遺伝子ブリーダーの手引きによってバンディは生まれたのだ。だから鼻や口はブッシュに似ている。それを知っていたHWブッシュはWブッシュを救うためにバンディにすべての罪を着せた。哀れかな。

※バンディとリッジウェイによるものとされている猟奇犯罪は、じつは、すべてW・ブッシュの手によるものである。バンディ時代の頃は、養父のH・W・ブッシュもW・ブッシュの性癖には手を焼いたようだ。H・W・ブッシュは使える人脈、持てる力をすべて出し切り、W・ブッシュを守っている。

しかし、前途洋々だったバンディは、そのおかげで汚名を着せられ、国家によって処刑された。バンディの殺人時代は、W・ブッシュの空軍除隊から始まり、リッジウェイの殺人時代はW・ブッシュの結婚を機に開始されている。その後、H・W・ブッシュの選挙をきっかけに殺人の趣味からは一旦足を洗ったかに見えたが、大統領時代に多くの罪もないアメリカ人 (911) やイラク

人を惨殺した。趣味だけでなく、仕事に於いても、殺人の快楽から離れることはできなかつたようだ。稀代の殺人鬼である。というよりは、ヒトの天敵である。

W・ブッシュはサウジアラビアとは深い縁があったようだが、これで謎がはっきりした。彼は第3代サウジアラビア王ファイサルの王子バンドルの影武者だった。それゆえの深い縁だ。W・ブッシュは影武者の地位から脱却し、考えられないような不正な手段でアメリカ大統領に就任した。そして本体たちとその家族の支援を受けながら911を指揮した。

甲

トゥルキー（1945）※画像なし

ボリス・ベレゾフスキー（1946～2013） オリガルヒ

ペドロ・アロンソ・ロペス（1948） 幼児性愛シリアルキラー（少女300人）

コロンビアの連続殺人者。コロンビア、エクアドル、ペルーで思春期前の少女300人を殺害したとされ「アンデスの怪物」と呼ばれた。ペドロ・アロンソ・ロペスwikiより

※ロペスはベレゾフスキー本人ではないかと考えられる。トゥルキーの影武者として生まれたが、影武者でありながらその残虐な趣味のせいで世に知られることとなった。本体のベレゾフスキーはとっくに死んで影武者としては自由の身の上だが、収監されているため関係ない。それにしてもこの3人は顔がよく似ている。

乙

ルルア（1948）

ポーリン・ロビンソン・ブッシュ（1949～1953） ジョージ・W・ブッシュ姉※画像なし

ローラ・ブッシュ（1946） ジョージ・W・ブッシュ妻

※ポーリンは4歳で死んだことにし、潜伏してローラとして育てられたようだ。その後、姉ポーリンは弟ジョージ・Wと結婚した。

丙

ハイファ（1950）※画像なし

コロンバ・ブッシュ（1953） ジェブ・ブッシュ妻

クリスティーヌ・ラガルデ（1956） 国際通貨基金専務理事

ジョディ・ウィリアムス（1950） 地雷禁止国際キャンペーン報道官

※ウソをつくための権威。

第6代サウジアラビア王アブドゥッラー・ビン・アブドゥルアズィーズの子

田 **Khalid bin Abdullah bin Abdulaziz Al Saud** (1950) ※画像なし

バンドル・ビン・スルターン (1949) バンドル・ブッシュ

ジェブ・ブッシュ (1953) ジョージ・W・ブッシュ弟

ジョン・ポデスタ (1949~2019) オバマ政権大統領顧問、ヒラリー陣営選挙対策責任者

リチャード・パーソンズ (1948) CBSコーポレーション社長

※バンドルはバンドル・ブッシュと呼ばれるほどブッシュ元大統領と親しかった。それも当然だ。家族なのだから。2人は伯父と甥の関係である。ジョン・ポデスタは大谷光照にそっくりだ。当然だ。親子だからな。優性遺伝子ブリーダーで作られた。何と、ポデスタはクリントン政権の大統領首席補佐官を務め、オバマ政権の大統領顧問を務め、ヒラリー大統領選の選挙対策責任者を務めた。つまり、クリントン、オバマの政策とヒラリーの大統領選出馬は本願寺の意志であった。

クリントン政権のとき、大統領諮問委員会が「湾岸シンドロームは劣化ウラン弾が原因ではなく、精神疾患である」と発表したのも本願寺。更に、その発表を有識者に批判されたり、大衆の議論的にならないよう、メディア上から風化させるために「ジョンベネ事件」を作ったのも本願寺だ。ジョンベネを殺したのも本願寺だし、ジョンベネの兄が怪しいとか親父が幼児性愛者だとか風評を撒き散らし、母親を早死にさせ、ラムジー家を崩壊させたのも本願寺だ。

田 **Mutaib bin Abdullah** (1952)

ニール・ブッシュ (1955) ジョージ・W・ブッシュ弟

ブルーノ・カドレ (1954) ドミニコ会大主教

ダン・エイモス (1953) アフラック生命保険代表

田 ※世界の数億のカトリック信者を自由自在に操ることができる。世界規模のラジコンマスター。ドミニコ会が魔女狩りを指揮し、ヨーロッパ中の善人を惨殺したことは忘れてはならないだろう。写真はカドレが操る邪教信者たちで構成された通称キャラバンである。写真を見て分かるようにカドレは信者たちに幼い子供を抱くように指示している。トランプ大統領がアメリカに移民を入れないことを想定しているからだ。子どもたちは「幼い子供を抱いた移民を受け入れないトランプ大統領はひどい男だ」と、民主党がトランプ政権を攻撃するための材料に過ぎない。

田 **Abdulaziz bin Abdullah bin Abdulaziz Al Saud** (1963) ※画像なし

ムハンマド・ビン・ナーイフ (1959) ナーイフ・ビン・アブドゥルアズィーズの子

マーヴィン・P・ブッシュ (1956) ジョージ・W・ブッシュ弟

ジャスティン・ウェルビー (1956) カンタベリー大主教

ペーター・マウラー（1956） 赤十字国際委員会社長

※ウェルビーは、数十万の信者を自由自在に操ることができる。イギリスのラジコンマスター。また、ムハンマド・ビン・ナーフの父ナーフ・ビン・アブドゥルアズィーズは、バンダル・ブッシュの父Sultan bin Abdulaziz Al Saudと同一人物である。怪しまれたのか、ムハンマド・ビン・ナーフは2017年6月21日、サルマーン国王の勅命により王太子をはじめとする全ての職務から解任された。

□
マシャアル（1971）※画像なし

ホアン・オランド・エルナンデス（1968） グアテマラ大統領

□
※2018年10月22日、ホンジュラス発の移民の集団「キャラバン」がアメリカ国境に向かっている。これは、同じ大谷光照の一族であるドミニコ会大主教のブルーノ・カドレとの共謀である。目的は中間選挙の妨害である。東西本願寺の一族側はトランプ大統領がキャラバンを銃撃することを願っている。

いくつかのサイトでは、移民たちは写真を撮る時だけ歩き、後はトラックに乗ってアメリカ国境に向かっていると報告している。エルナンデスは優性遺伝子ブリーダーによって生まれた。W・ブッシュの子である。父親W・ブッシュと同様、不正選挙で大統領になった男であるが、上の写真を見ても目、鼻、口、親父にそっくりである。耳は普通だが、卑怯な性格は同じだ。

□
トゥルキー（1972）※画像なし

ジョージ・P・ブッシュ（1976） ジェブ・ブッシュ子

ジム・アコスタ（1971） CNN記者

※アコスタは、優性遺伝子ブリーダーによって生まれたW・ブッシュの子である。顔がそっくりだ。眉間にしわを寄せたらかっこよく見えるという安易な発想の芝居は父W・ブッシュと全く同じだ。2018年、トランプ大統領に叱責・罵倒され、報道資格を取り上げられた。父に似てバカだ。父が一流の犯罪者であるため、アコスタも表ではいいかっこして敵を悪者扱いしながら、裏では子供とか殺してるんじゃないか？

□
15人の娘の内のひとり（197?）※画像なし

マリア・オクェンド（1975） アメリカ精神医学会会長

※ウソをつくための権威。

大谷光真の一族～リヒテンシュタイン公、悪魔ビル・ゲイツ、マイクロソフト社、上祐史裕、プログラム自動ダウンロードテロ、異常行動テロ

フランツ・ヨーゼフ2世の子

Ⓜ

ハンス・アダム2世（1945） リヒテンシュタイン公

大谷光真（1940？） 西本願寺第24代門主

伊吹文明（1938） 安倍内閣文部科学大臣

オーティス・トゥール（1946） 異常性愛シリアルキラー（女性男性200人）

レオナード・レイク（1946～1985） スナッフビデオ販売（女性・少女19人）

日本：福岡一家4人殺害事件（2003）人間狩り（大谷光淳、将来の政治家？）

日本：東京山梨連続リンチ殺人事件（2003）人間狩り（大谷光淳、将来の政治家？）

日本：裁判員制度法成立（2004）

日本：野沢尚殺害（2004）

日本：堅川公園バラバラ殺人事件（2004）人間狩り（大谷光淳、白石、将来の政治家？）、陸上自衛隊イラク派遣隠し

日本：佐世保小6女児同級生殺害事件（2004）陸上自衛隊イラク派遣隠し

日本：加古川7人殺害事件（2004）人間狩り（大谷光淳、白石、将来の政治家？）、陸上自衛隊イラク派遣隠し

日本：中津川一家6人殺傷事件（2005）人間狩り（大谷光淳、白石、将来の政治家？）

日本：新宿渋谷エリートバラバラ殺人事件（2007）人間狩り（大谷光淳、白石、将来の政治家？）

日本：リンゼイ・アン・ホーカーさん殺害事件（2007）公的年金保険料納付記録5000万件不明発覚隠し

日本：長崎市長射殺事件（2007）

日本：秋葉原無差別通り魔事件（2008）歩行者天国での政治的アジテーション絶滅作戦

日本：宮崎家族3人殺害事件（2010）人間狩り（白石、将来の政治家？）

日本：豊川市一家5人殺傷事件（2010）人間狩り（白石、将来の政治家？）

日本：東日本大震災（2011）道光帝の一族に対する宣戦布告

日本：安倍政権誕生（2012）

日本：特定秘密保護法安可決（2013）

※西本願寺第二十四代門主。日本人の仏教信者約1億人を自由自在に操ることができる。日本のラジコンマスター。安倍政権支持派は彼が指揮している。1945年生まれとされているが、何らかの理由で5年ほど遅めている感がある。実際には1940年生まれではないだろうか？大谷光真は伊吹文明に化けて日本政府に侵入し、安倍内閣の時代に文部科学大臣に就任した。2人の

顔はあまり似ていないが大谷光照が優性遺伝子ブリーダーによって儲けた異母兄弟だと考えられる。

田

ニコラウス・フェルディナント・マリア・ヨーゼフ・ラファエル（1947）※画像なし
ゲイリー・ピーターソン（1949） カナダ合同教会総会議長
スタンリー・ディーン・ベイカー（1948） 人食い殺人（男性1人）
宮沢洋一（1950） 安倍政権閣僚
ボブ・アイガー（1951） ウォルト・ディズニー社CEO
スティーヴン・カンダリアン（1952） メットライフ生命保険CEO

※ピーターソンは、数十万のカナダ人カトリック信者を自由自在に操ることができる。カナダのラジコンマスター。

田

ノルベルタ・エリーザベト・マリア・アスタ・ヨゼフィーネ・ゲオルギーネ（1950）※画像なし
ビル・ゲイツ（1955） マイクロソフト社初代CEO
ハフエット・カブレラ（1951） グアテマラ副大統領
ティルマン・ラフ（1955） 核兵器廃絶国際キャンペーン設立、ノーベル平和賞
スティーヴン・バルマー（1956） マイクロソフト社2代CEO
王戴（？） 民主中国陳線日本支部長

※レーガン政権方式で、副大統領H・W・ブッシュが背後でレーガン大統領を操っていたように、副大統領カブレラはコメディアン出身の大統領ジミー・モラレスをレーガン政権方式で、操っている。カブレラの顔は異母兄弟の悪魔ビルゲイツにクリソツである。

口

※雪の宿を食べたら発狂感と、人を食べたい感に襲われた。この、人に噛み付いて肉を食いちぎりたい感じは恐ろしい。雪の宿は4枚食った。発狂感は数十分で消えたが、一袋食ってたらやばいんだろうな。これはたぶん、雪の宿を作っている三幸製菓がある新潟で遺伝子組み換え米が作られていることを示している。

ネットでは10年前に「新潟にGM米はいらない」という農家による抵抗運動と裁判が行われていたようだが、いつのまにか突破されたということだろうか？子どもの異常行動とも関係がある。異常行動をする子どもは、必ずコーン（タイ産）の成分で出来た食品を摂っているはずだ。コーン産の添加物液糖加糖ブドウ糖で出来た点滴も要注意だ。タイ産のコーンで出来ているなら必ず発狂する。すべてビル・ゲイツの責任だ。

とにかく、このGM米は、悪魔ビル・ゲイツがタイで作ったものだろう。遺伝子組み換えコーンと同じ作用があることから推測したものだが。エサに入れられた毒米を食った犬や猫が凶暴化して噛み付いてくるということもありうる。タイ産遺伝子組み換えコーンを食い続けたハムスター

が共食いするくらいだからやばい。

近年、アメリカでも男がホームレスの男を襲い、顔を食いちぎるという事件があった。警察が銃を突きつけて止めようとしてもとまらなかったという。これは、麻薬のせいだとかいろいろ言われたが、実際には、悪魔ビル・ゲイツが造ったタイ産遺伝子組み換えコーンで発狂したということではないだろうか。ポップコーンでも大量に食ってたのか？

☐
フランツ・ヨーゼフ・ヴェンツェスラウス・ゲオルク・マリア（1962～1991）※画像なし

上祐史裕（1962） アレフ代表

佐藤正久（1960） 安倍政権外務副大臣

葛西健（1965） WHO西太平洋地域事務局長

※上祐は島津の影武者として生まれた。似ていないが異母兄弟だと考えられる。オウム真理教の背後にはロシア政府、中国政府、北朝鮮政府がいたが、それを知った浄土真宗は上祐をオウムの内部に侵入させた。大谷家は、上祐に内部の事情を探らせた。カメラの前で刺されてセンセーショナルな死に方をした村井が口にした「ユダにやられた」とは大谷のことだが、特に上祐のことだろう。

上祐はカメラの前でキレることもあったが、その弁論法は安倍、麻生、加計と同じでソフィストのやり方を踏襲している。あの同道とした態度は「周りはみな仲間だ」と知っているから可能なことだ。つまりこけおどしである。もし、ロシア政府、中国政府、トランプ政権の人々に囲まれる機会があるとす。その時にも「ああいう態度」でいることができれば褒めてやる。

また、上祐のファンクラブが出来たこともあり、世間を驚かせたが、あれはみな「上祐を好きだと言え」と命令された信者たちの芝居に過ぎない。東西本願寺の一族は、核心を攻められないように、常に関係ない話題を提供することに余念が無い。どうでもいい話のサプライヤーだ。あと、どうでもいい話だが、佐藤は韓国に入国拒否されているw

ハンス・アダム2世の子

☐
アロイス・フィリップ・マリア（1968） リヒテンシュタイン公世子※画像なし

サティア・ナデラ（1967） マイクロソフト社3代CEO

イアン・ブレマー（1969） 米国際政治学者

サディク・カーン（1970） ロンドン市長

イリハム・マハムティ（1969） 日本ウイグル協会代表

※凶器で人を殺すことは悪いことだが、パソコンで人を殺すのは良いことだ。彼らはそう考えて

いるようだ。パソコンを長時間使うことによって出現するさまざまな体の不調は、医者とメディアのウソによって無いものにされている。また、マイクロソフト社は、NET framework 471、ベースシステム用windows7向けセキュリティマンスリー品質ロールアップ、悪意のあるソフトウェアの除去ツール、FUJITSU-System-6/30/2017 12:00:00 AM-1.54.70.0などのプログラムをダウンロードさせてPCを破壊している。

来月に実施されるアメリカの中間選挙について、アメリカの著名な国際政治学者のイアン・ブレマー氏はANNのインタビューで、野党の民主党が勝利すると予測しました。米国際政治学者、イアン・ブレマー氏：「下院はほぼ間違いなく民主党に流れるだろう。有権者にこれまでにないような盛り上がりが見られるからだ」

ブレマー氏は世界各国の政治リスクを分析する実績で知られています。トランプ大統領の経済政策の一部を評価しながらも来月の中間選挙で「与党の共和党は支持を集めきれず、下院は民主党が過半数の議席を確保する」という予測を示しました。ブレマー氏は実際に民主党が下院の過半数を占めた場合、トランプ大統領を罷免（ひめん）する弾劾（だんがい）の手続きに入る可能性がある」と指摘しました。**yahoo**ニュース（2018/10/16）より

大谷光淳の一族～リヒテンシュタイン公、2ちゃんねる、仙台女兒連続暴行事件犯人、2019逃亡犯条例改正案撤回デモ、Qアーミージャパン

リヒテンシュタイン公ハンス・アダム2世の子

- コンスタンティン・フェルディナント・マリア（1972）※画像なし
- 大谷光淳（1977） 西本願寺第二十五代門主
- 高山正樹（1974） 仙台女兒連続暴行事件犯人（少女110人）※画像なし
- 西村博之（1976） 2ちゃんねる管理人

日本：仙台女兒連続暴行事件（2000）

日本：淡路島5人殺害事件（2015）人間狩り（白石、将来の政治家？）

日本：相模原障害者施設殺傷事件（2016）マイナス金利導入隠し

日本：座間9遺体事件（2017）人間狩り（白石、将来の政治家？）、加計問題・森友問題隠し

日本：宮崎一家殺人事件（2018）人間狩り（将来の政治家？）

※西本願寺門主は日本人の仏教信者約1億人を自由自在に操ることができる。日本のラジコンマスター。安倍政権支持派は彼らが指揮している。東西の本願寺をそのままにしておくと、今現在、世界のどこかで育ちつつある光淳の悪の遺伝子を継いだ子供たちが、世界を蹂躪する日も来るだろう。

光淳先生の影武者には、幼女や少女を狙って暴行していた高山正樹がいる。被害者は110人に及ぶという。これには光淳先生や西村氏も参加していただろう。

ところで、筆者はネットで議論をして負けたことがない。2005年頃から浄土真宗による集団ストーカーの悪事を世に知らしめようとしたが、そのためか、常時利用していたザ・BBS（通称ザビビ）はつぶれた。また、ミクシーでは大勢（信者たち）がよってたかって「管理人さ〜ん、板違いだから削除して」攻撃をする（ひとりでは筆者にかなわないのだ）。

そして、西村博之氏が運営する2ちゃんでは総スキャン攻撃が常である。スレをあげても誰もコメントせず、スレは容易に沈没。またはコメントする側であっても、即効でアク禁に処されてしまう。2ちゃんでは、予め許可された書き手の文章以外は禁止なのだ。

□ タティアナ・ノーラ・マリア（1973）※画像なし

大谷流豆美（1976） 大谷光淳妻

okabaeri（生年不詳） Qアーミージャパン指導者

※okabaeriという人物が実在するかどうかが不明だが、2ちゃんを築いた西村氏とその仲間たちが誤誘導を企んでいるのではないかと考えられる。だとすれば、西村氏の本体である大谷光淳先生の

奥さんがokabaeriの正体だという可能性もある。タナトスの陰謀はいつでも家内制手工業だ。
また、東本願寺門主達如の一族に属する板垣英憲氏が指揮するヌカ喜びの術のガセネタをひっぱっているところをみると、やはり本願寺側ではないだろうか？ネカマという言葉は既に死語であるが、そのネカマを髭髯とさせる。okabaeriという名もおバカのアナグラムという気がしないでもない。おかばなんて苗字ある？変換キーに出てこないよw

□
◆Qアーミージャパンのメンバー

※Qアーミージャパンのメンバーはリヒテンシュタイン公世子アロイス・フォン・リヒテンシュタインとマクシミリアン・ニコラウス・マリアの子やその影武者たち（日本人の異母兄弟）だと考えられる。彼らは、ひきこもりや集団ストーカー被害者を装い、ブログを書いたり、ネット上で発言したり、集団ストーカー被害者に直接コンタクトして誤誘導などを行っていただろう。

リヒテンシュタイン公ハンス・アダム2世の孫

□
ヨーゼフ・ヴェンツェル（1995） アロイス・フォン・リヒテンシュタインの子※画像なし
周永康（1990） 香港反政府デモ指導者

※周永康は上祐にも似ている。まあ、彼らは同じ西本願寺門主大谷光真の一族で、同じ家族なので細かいことは気にしなくても良からう。

□
ゲオルク・アントニウス（1999） アロイス・フォン・リヒテンシュタインの子※画像なし
井田光（1998） 東京農大生

※2019.11.20、井田光という東京農大の学生が香港警察に逮捕され、すぐに釈放されたというニュースがあった。一見して思ったが、どう見ても彼は大谷光淳先生の一族だ。彼の役目は香港の仲間に「ある指令」を伝えることだった。

それは香港民主派勢力が経営する大紀元時報の放火である。そしてそれを中国政府のせいにするのだ。民主派の指導者もみなタナトスなのに、自分たちではそこまで考えることも出来ないのだろうか？だが、もしバラモンの指令が最高最大の命令なら本願寺門主を討てば何もかも終わるのだが、

この井田光の解放劇は、安田純平（事実上のイスラム・テロ指導者）がシリアで「解放された人質」を演じたケースと同じだ。NSAが監視しているのでeメール、ソーシャルネットワークは使えない。そのため、タナトスは昔ながらのやり方で仲間同士連絡を取り合っているようだ。

安田純平の時もそうだったが、どこの誰だか知らない人物をいちいち「解放された！」と報道するのはあくまでも被害者だというアピールだろう。つまり、加害者であることの隠蔽だ。おもしろいことに、この学生を称する青年は、聞いてもいないのにテレビカメラの前で香港政府を批判し、民主派がどれだけひどい目にあっているか強調していた。ただの学生がそこまで言うことは通常ない。つまり、どう考えてもこの自称「学生」は、本願寺の家族なのだ。

□
※雨傘革命の画像。すべてはこけおどし。

大谷光淳の子

□
大谷敬（2011）

※弱冠8歳ながら、先生の息子さんもQアーミージャパンや雨傘革命に参加している可能性がある。すべては偉大な悪の育成のためだ。

ユダヤ人（1731）の一族～ハザール帝国、薔薇十字団、カバラ神秘主義、ダ・ヴィンチ、ホフユーデン、人体自然発火事件、シオニズム運動、精神医学、エスペラント、モサド、ドイツキリスト教民主同盟、ゲノム編集

タナトス（化学の種族）の歴史

ユダヤ人（6世紀）

※タナトス系のシベリア人には、ケット族、ニヴフ族、オロチョン族、オロチ族、ユカギール族、ケレック族、エヴェン族、イテリメン族、ナナイ族などがいる。AD6世紀頃、科学の種族トバルカインがシベリアに住み始めたが、彼らはシベリア人がタナトスの遺伝子に汚染されているとは知らず、タナトス系シベリア人と交流し、子供を儲けていた。このタナトスと科学の種族の混血は、知能が高かったが、人類としてはデキが悪く、悪徳でしかなかった。

当時、まだ「心を読む装置」が未開発であった科学の種族は、「なぜこんなにできそこないばかりが生まれるのか？」と、理解できずに苦悩していた。そのため、度々、科学の種族に嫌われ、シベリアを追放されたタナトスの混血は、波状的にヨーロッパに移住していた。

ヨーロッパに移住した彼らは、「ユダヤ人」を称した。所謂ユダヤ人は、2つの種類に大別することが可能である。1つは、AD5世紀以降にヨーロッパを訪れた単なる異教徒、2つめは、先祖イデュイアを崇拝するタナトスの血族である。ユダヤの語源はイデュイアである。そのイデュイアは、タナトスを結成したディオオーネーの同族である。そのため、タナトス系ユダヤ人は、自分たちがイデュイアの子孫であることを誇りにし、敢えて「ユダヤ」を自称することがある。

□ カリニコス（7世紀） ギリシア火考案者

※火炎放射の技術はBC5世紀頃からあったが、カリニコス是对イスラム帝国との戦いで、この「ギリシア火」を使用することにより、ギリシア人、アラビア人、双方に大きな印象を与えた。ナフサを使用していたため、火を浴びた犠牲者は、海の落ちると、炎は消えるどころか更に燃え上がったという。

ブルアン（生年不詳） ハザール帝王※画像無し

バシレイオス1世（811～886） マケドニア王朝ビザンツ皇帝※画像無し

「ハザール帝国、ユダヤ教に改宗」（864）

※科学の種族に嫌われて追放された「ユダヤ人」は、シベリアを離れて大量にハザール帝国に侵入した。ブルアンがハザール帝王に即位し、ハザール帝国にユダヤ教を広めた。

-
- ・主アドニス（846）
 - ・隠された神エン・ソフ（846）

※ハザール帝王ブルアンは「ヤハウエ」「エロヒム」を篡奪して自身の神とした。彼らの創造物と呼べる神は、主「アドニス」と、隠された神「エン・ソフ」である。アドニスの名の由来はOTANAであり、エン・ソフの名の由来はタナトスとシベリアの組み合わせである。オータナ＝オタナス＝アドニスとなり、タナトス＋シベリア＝アナ・シベ＝アン・シヘ＝エン・ソフとなる。

ゲオルギウス・ツール（?～1016） 最後のハザール帝王
コンスタンティノス8世（960～1028） マケドニア朝ビザンツ皇帝 在位1025～1028

※965年にキエフ大公スヴァトスラフ1世の遠征によってハザールが滅亡すると、帝国を脱出した「ユダヤ人」は、ビザンツ帝国に移住し、ハザール最後の皇帝は引き続きビザンツ皇帝としてビザンツ帝国を治めた。

イサキオス1世コムネノス（1005～1061） マケドニア朝ビザンツ皇帝 在位1057～1059
コンスタンティノス10世ドゥーカス（1006～1067） ドゥーカス朝ビザンツ初代皇帝 在位1059～1067

□ アレクシオス1世コムネノス（1048～1118） コムネネス朝ビザンツ初代皇帝 在位1081～1118

□ アレクシオス4世アンゲロス（1182～1204） アンゲロス朝ビザンツ皇帝 在位1203～1204

テオドロス1世ラスカリス（1175～1222） ラスカリス朝ビザンツ亡命政権初代皇帝※画像無し

ロバート・グロステスト（1175～1253） 神学者※画像無し

□

テオドロス2世ラスカリス（1221～1258） ラスカリス朝ビザンツ亡命政権皇帝

ミカエル8世パレオロゴス（1225～1282） パレオロゴス朝初代皇帝 在位1261～1282

ロジャー・ベーコン（1214～1294） 神学者※画像無し

「スバルバル諸島で兵器を開発」（12??）

※ユダヤ人（タナトス系シベリア人と科学の種族の混血）は、ビザンツ帝国を支配下に置いた。大いなる悪の意志と比類なき科学力を携えてビザンツ帝国に居住していた王族は、民衆に知られないようにUFOなどに乗っていたと考えられる。その際、彼らは魔法使いを騙っていたかもしれない。最新の科学の発想、そして悪の精神を併せ持った混血が増え、科学技術も流出してしまった。科学の悪用は、古代から、科学の種族トバルカインが、最大限の懸念を払っていた事項である。

タナトスの本能として「世界を征服しなければならない」と考えていたタナトスの混血は、秘密裏に北海の僻地スバルバル諸島に基地を建設し、篡奪した科学力を駆使し、科学の種族に隠れて最新兵器の研究に勤しんでいた。ビザンツの王族は「世界を征服するには、まず、邪魔者である科学の種族と決着をつけねばならない」と考えていた。彼らは、スバルバル諸島を出撃し、科学の種族が住んでいたツングースに核ミサイル攻撃を加えていた。現在では、ビル・ゲイツが先祖の故地であるスバルバル諸島を継承している。

「東シベリアに大災害発生」（12??）

※ビザンツ王族の攻撃を受けた際、タイガは森林ごと根こそぎ吹っ飛び、砕けた大地が何百平方キロにも渡って飛び散った。ただ、科学の種族は余裕だった。彼らは、スバルバル諸島から発射されたビザンツ帝国の核兵器に攻撃されても安全な小型かつ堅牢な要塞を地下深くに建設していた。更に、タナトスが開発できた核兵器は少量だった。そのため、科学の種族はタナトスの混血を相手にしていなかったようだ。

科学の種族が築いた小型要塞は、ロシアで「大釜」と呼ばれている。現在でも、タイガの奥地に迷い込んだ現地人に偶然発見されることがある。鋼鉄のノミで削っても、ハンマーで叩いても、欠けることもなく、傷ひとつ付けることができないという。

□

ヨハネス7世パレオロゴス（1370～1408） パレオロゴス朝ビザンツ皇帝 在位1390

エルンスト（1373～1438） バイエルン公※画像なし

クリスチャン・ローゼンクロイツ（1378～1484） 薔薇十字団首領

□
コンスタンティノス11世パレオロゴス・ドラガセス（1405～1453） パレオロゴス朝
皇帝 在位1449～1453

ルートヴィヒ8世（1403～1445） バイエルン公※画像無し

アルブレヒト3世（1401～1460） バイエルン公※画像なし

※オスマントルコ帝国の勢力伸張により、ビザンツが消滅すると、コンスタンティノス11世の一族はバイエルンに移り、バイエルン公を継承した。

アルブレヒト3世の子

□
アルブレヒト4世（1447～1508） バイエルン公

レオナルド・ダ・ヴィンチ（1452～1519） ルネッサンス画家、発明家

※ダヴィンチの正体はバイエルン公アルブレヒト4世だった可能性がある。ダ・ヴィンチは、よく天を指さす人物を描いたが、これは彼が宇宙人（科学の種族トバルカイン）の血を引いていることを暗に告白しているつもりだったのではないか。ダ・ヴィンチは、宇宙人の子孫であるために解剖学を嗜み、戦車、飛行機なども発想できた。

アルブレヒト3世の孫

□
ジョヴァンニ（1474～1525） マルガレーテの子※画像なし

ミケランジェロ・ブオナローティ（1475～1564） ルネッサンス画家、彫刻家

セバスティアアーノ・セルリオ（1475～1554） マニエリスム建築家※画像なし

※ミケランジェロはダ・ヴィンチとは伯父と甥の関係である。今でこそ芸術家として知られているが、青年（女性、少年愛者、ゲイ向け）、女性（男性向け）、幼児（幼児性愛者向け）の裸体を描写することにより、ユダヤ人の念頭には風紀紊乱があったと考えられる。

アルブレヒト4世（レオナルド・ダ・ヴィンチ）の子

□□

ジドーニエ（1488～1505）※画像なし

ラファエロ・サンティ（1483～1520）ルネッサンス画家

ミケーレ・サンミケーリ（1484～1559）ヴェローナ主導的建築家、軍事技術者

ヤーコポ・サンソヴィーノ（1486～1570）ルネッサンス期建築家、彫刻家、ヴェネツィア主導的建築家

※ラファエロは37歳で死んだことにし、その後を建築家サンミケーリ、ヤーコポとして生きた。ラファエロは87歳まで生きたことになる。

□ ルートヴィヒ10世（1495～1545）バイエルン公

パラケルスス（1493～1541）錬金術師神秘思想家

ジュリオ・ロマーノ（1499～1546）ラファエロ弟子※画像なし

アルブレヒト4世（レオナルド・ダ・ヴィンチ）の孫

クリストフ（1515～1568）ヴェルテンベルク公※ザビーナの子

ガレアツォ・アレッシ（1512～1572）ペルージャ出身イタリア建築家

□ アルブレヒト5世（1528～1579）バイエルン公※ヴィルヘルム4世の子 在位1550～1579

アルブレヒト5世の子（ホフ・ユードンとカバラ神秘主義の一族）

・カール（1547）

・ヴィルヘルム5世（1548～1626）バイエルン公

・フェルディナント（1550～1608）

・マリア・アンナ（1551～1608）叔父に当たる内オーストリア大公カール2世と結婚

・マクリミリアーナ・マリア（1552～1614）

・フリードリヒ（1553～1554）

・エルンスト（1554～1612）ケルン大司教

ホフユードン（16世紀）

※上記のアルブレヒト5世の子達がホフユーデンの礎を築いたと考えられる。彼らは、ヨーロッパのタナトスの権力層に好意を持って迎えられた。その上で、彼らは、単に異教徒でしかない昔からの貧しいユダヤ人や、アシュケナジム、スファラディなどのユダヤ人の差別・抑圧をはじめた。

カバラ神秘主義（16世紀）

※上記のアルブレヒト5世の子達がカバラ神秘主義の礎を築いたと考えられる。彼らは、スウェーデン王国、ヴェネツィア共和国を支配していたアブラハムの一族と組んで「カバラ」を体系化した。カバラの名の由来はアブラハムの一族が生んだ神クベーラである。クベーラ＝クベラ＝カバラとなる。

「ニュルンベルクに未知の飛行物体が出現」（1561）

ニュルンベルクの明け方。垂直に滞空する2つの円筒形の物体が出現し、そこから赤、青、黒といった様々な色の円盤が飛び出した。未知の飛行物体は空中を飛び交い、激しく衝突したり、一時間の間、空中戦を演じていたという。「世界のUFO現象」より

※これは、宇宙人と錬金術師・神秘思想家（バイエルン公）の現代科学を超えた超科学による戦いだった。

「バーゼルに未知の飛行物体が出現」（1566）

スイスのバーゼル上空、空を覆う、黒い球体が発光したり分裂しながら空中戦を戦っていたという。「世界のUFO現象」より

※これは、宇宙人と錬金術師・神秘思想家（バイエルン公）の現代科学を超えた超科学による戦いだった。

アルブレヒト5世の孫

- クリストフ（1570） ヴィルヘルム5世の子※画像なし
- ウィリアム・シェイクスピア（1564～1616） 作家

※クリストフを早世したことにして潜伏させ、シェイクスピアとして育てた。シェイクスピアは才能のある名も無い作家の卵を探し出し、殺害した上で作品を自分のものにしてた。マネして盗作するとかそういう規模では無く、文字通り全て盗んだものだ。膨大な作品は全て盗作である。「シェイクスピアは何人かいる」或いは「シェイクスピアは諜報員だ」などという噂の元はすべて盗作していたという事実に行き着く。

□
マクシミリアン1世（1573～1651） バイエルン選帝侯※ヴィルヘルム5世の子
ヤーコブ・ベーム（1575～1624） 神秘学

□
レオポルト5世（1586～1632） オーストリア大公※マリア・アンナの子
ヨハン・ヴァレンティン・アンドレーエ（1586～1654） ルター派神学者、薔薇十字団
団員

□
カール（1590～1624） ドイツ騎士団総長、ブレスラウ司教※マリア・アンナの子
ヨハネス・アモス・コメニウス（1592～1670） 薔薇十字団団員

ヴィルヘルム5世の曾孫（アルブレヒト5世の玄孫）

□
エレオノーレ・マリア・ヨーゼファ（1653～1697）※画像無し
シャルロッテ・アマーリエ・フォン・ヘッセン＝カッセル（1650～1714） クリスチャ
ン5世王妃
エレオノーレ・マグダレーネ・フォン・プファルツ＝ノイブルク（1655～1720） ヨー
ゼフ1世母親※画像無し

「シュトラールズントに未知の飛行物体が出現」（1665）

ドイツ、バルト海沿岸に飛行艇とドーム構造を備えた道の飛行物体が出現した。空の船団は、空
中戦を演じ、それが数時間続いた後、すべてが消えてしまったという。「世界のUFO現象」より

※これは、宇宙人と錬金術師・神秘思想家（バイエルン公）の現代科学を超えた超科学による戦
いだった。

シャルロッテ・アマリエ・フォン・ヘッセン＝カッセルの子

□

フレデリク4世（1671～1730） デンマーク王

ヨーゼフ1世（1678～1711） 神聖ローマ皇帝 在位1705～1711

□□

ヴィルヘルム（1687～1705） ※画像無し

カール6世（1685～1740） 神聖ローマ皇帝 在位1711～1740

ゲオルク・フリードリヒ・カール（1688～1735） ブランデンブルク＝バイロイト辺境伯

エマヌエル・スウェーデンボルグ（1688～1772） 神秘主義思想家

阿部将翁（?～1753） 本草家※画像無し

※スウェーデンボルグは、ヴィルヘルムの影武者ではなく、両者は同一人物だったと考えられる。ゲオルクや阿部も同様であるが、カール6世は影武者だったようだ。問題のAD1731年の時点で63歳だった。スウェーデンボルグ伯爵は、謎めいた行動、人生で知られる正体不明の男であるが、それもそのはずだ。彼は、宇宙人（科学の種族トバルカイン）と錬金術師（バイエルン公）の戦争の一部始終を知っていたのだから。

「ロンドンに出現した未知の飛行物体」（1710）

夜警が夜空に彗星のような未知の飛行物体を発見し、剣を握った人間が祖の飛行物体と追跡していたという。「世界のUFO現象」より

※これは、宇宙人と錬金術師・神秘思想家（バイエルン公）の現代科学を超えた超科学による戦いだった。

「フリーメイソン篡奪」（1717）

※フリーメイソンの名の由来はヘブライのメイソン（石工）である。ヘブライ+メイソン＝ブライメイソン＝フリーメイソンとなる。元来、フリーメイソンとは、ピラミッドやマウンドを製作した巨石の種族に属するヘブライ人、バビロニア人、ビュブロス人、バヴァリア人、ピピル人、プエブロ族の末裔が集う社交場であった。だが、タナトスの混血たちは、先を見越してフリーメイソンに侵入した。「ユダヤ人」は、支部を統合し、ロンドンに「グランドロッジ」を築いた。

デンマーク王フレデリク4世の子

□ シャルロッテ・アマーリエ（1706～1782）※画像無し
フリードリヒ・クリスティアン（1708～1769） ブランデンブルク＝バイロイト辺境伯

クリスティアーナ・アマーリア（1723～1724）※画像無し
田村藍水（1718～1776） 医師・本草学者※画像無し

□ カール（1728～1729）※画像無し
平賀源内（1728～1780） 発明家
リチャード・アークライト（1732～1792） 発明家
マルティネス・ド・パスカリ（1727～1774） 神智学思想家※画像無し

※平賀源内は、問題の1731年には3歳だった。彼は、非常に目立つ男で、当時の日本人らしからぬ発想をし、生活を営んでいたといわれている。当然だ。彼の正体はフレデリク4世の子カール本人だったのだから。源内は1776年にはエレキテルを修理している。

しかし、実際には平賀は日本とイギリスを往復し、1769年にアークライトとして水紡機の特許を取得し、「産業革命」に寄与した。晩年、平賀は勘違いで大工を殺したカドで投獄され、1780年に獄中で破傷風にかかり、死亡したと伝えられるが、実際には彼はイギリスを気に入り、最後の12年間をアークライトとして過ごしたようだ。

デンマーク王フレデリク5世の子（フレデリク4世の孫）

□ クリスチャン（1745～1747）※画像無し
アレッサンドロ・ディ・カリオストロ（1743～1795） 詐欺師・オカルティスト
アントワーヌ・ラヴォアジエ（1743～1794） 近代科学の父
武田長三郎（1749～？） 武田製薬創業※画像無し

※クリスチャンはカリオストロとして、マリーアントワネットの首飾り事件に巻き込まれて名声を失い、1789年に「エジプト・メイソンリー」を設立したかどで投獄され、獄死している。カリオストロは近代化学の父ラヴォアジエでもあった。生没年を見ると同一人物だったようだ。

□ 「人体自然発火事件」（1731）※写真はメアリー・リーサー（1951年）の事件現場

※「人体自然発火事件」は時折発生してオカルト界隈を賑わせるが、最初の被害者はコーネリア・バンディ夫人である。時はAD1731年、イタリア、ヴェローナ近郊に住んでいた夫人は、ある朝、メイドに無残な姿で発見された。夫人は、異臭を放つネバネバの物質と共に、ストッキングを履いた両足を残したまま、全身が灰と化していた。人間が灰と化すには1400度を超える高熱が必要だが、ベッド、シーツ、部屋が燃えた形跡は無かった。これは、タナトスの混血（スウェーデンボルグ？）が開発した兵器である。

タナトスの混血がこの兵器を使用して人間を焼いたことを知ると、科学の種族は激怒した。ついに本気になり、タナトスの混血が築いたスバルバル諸島の基地を一瞬で破壊した。更に、科学技術を取り上げた上で、シベリアからタナトスの混血を永久追放した。この時に、シベリアに住んでいたタナトスの混血の残党はロシア、イギリス、スウェーデン、シチリア、日本に四散した。

マリア・ヨーゼファ・フォン・エスターライヒの子（神聖ローマ皇帝ヨーゼフ1世の孫）

□ カール・フォン・ザクセン（1733～1796）
Johann Rudolf Geigy-Gemuseus（1733～1793） Ciba-Geigyノバルティス製薬創業※画像無し
杉田玄白（1733～1817） 蘭学者

※フレデリク4世の影武者だったヨーゼフ1世の孫である杉田玄白は、フレデリク4世の子である源内とは家族の関係ということで、2人は親交が厚かった。1774年に「解体新書」を発表している。

□ アルベルト・カジミール・フォン・ザクセン＝テシェン（1737～1822）
ジェームズ・ワット（1736～1819） 発明家

※彼は1776年に「蒸気機関」を発明し、現代の間違った物質文明の礎である産業革命に寄与した。

ザクセン選帝侯フリードリヒ・クリスティアンの子（神聖ローマ皇帝ヨーゼフ1世の孫）

□
フリードリヒ・クリスティアンの子（1762）画像無し
ニコライ・レザノフ（1764～1807） 露米会社設立

※レザノフは、早世して名もないフリードリヒ・クリスティアンの子として生まれた。ロシアに移住した彼は、祖を同じくするエカチェリーナ2世、パーヴェル1世（西本願寺門主寂如の一族）の賛同を得て1800年に「露領アメリカ会社」を設立した。彼は、アラスカ、アリューシャン列島、カムチャツカ半島、千島列島を支配下に置き、スペイン植民地時代のカリフォルニアにまで進出した。

マリア・アマーリア・フォン・ザクセンの子（神聖ローマ皇帝ヨーゼフ1世の玄孫）

□
カール・アウグスト・フリードリヒ（1776～1784）※画像無し
リチャード・トレビシク（1771～1833） 発明家
エルテール・イレネー・デュポン（1771～1834） 化学企業デュポン創業

※トレビシクは、問題の1731年以後に生まれた。イギリスに生まれた彼は、1804年に「蒸気機関車」を開発し、「産業革命」に寄与した。トレビシクはデュポンでもあったが、生没年を見ると同一人物だった可能性が高い。

マリア・アマーリア・ダズブルゴの子（神聖ローマ皇帝カール6世の曾孫）

□
フィリップ・マリーア（1783～1786） ※画像無し
間宮林蔵（1780～1844） 探検家
ジョン・K・スミス（?～1845） グラクソ・スミスクライン製薬創業※画像無し

※間宮林蔵は、本願寺の息子とマリアの子と考えられる。彼の樺太探検（1809年）は、一方では故地への帰還ということができる。またカール6世の曾孫である間宮林蔵は、カール6世の兄ヨーゼフ1世の曾孫である杉田玄白とは親しかったことが知られている。親戚だから当然だろう。

マクシミリアン・フォン・ザクセンの子（神聖ローマ皇帝ヨーゼフ1世の曾孫）

□
フリードリヒ・アウグスト2世（1797～1854） 初代ザクセン王
エマニュエル・メルク（1794～1855） メルク製薬創業※画像無し
渡辺崋山（1793～1841）

※渡辺崋山はマクシミリアンと本願寺の娘との子であり、フリードリヒとは異母兄弟となる。崋山はAD1841年「蛮社の獄」の際、切腹したとされているが、死んだことにして脱出し、アメリカに渡ったと考えられる。

□
ヨハン（1801～1873） ザクセン王
Alexander Clavel（1805～1873） Ciba-Geigyノバルティス製薬創業※画像無し
高野長英（1804～1850）

※高野長英はマクシミリアンと本願寺の娘との子であり、ヨハンとは異母兄弟となる。高野は、AD1844年に脱獄しており、AD1850年に自害したと伝えられている。

カルロ2世の子（神聖ローマ皇帝カール6世の娘マリア・テレジアの玄孫）

□
カルロ3世（1823～1854） パルマ公※画像無し
アブラハム・クーン（1819～1892） クーンローブ商会設立
マーカス・ゴールドマン（1821～1904） ゴールドマンサックス設立
ソロモン・ローブ（1828～1903） クーンローブ商会設立
フリードリッヒ・バイエル（1825～1880） バイエル化学創業

※バイエルの由来はユダヤ人（1731）の本拠地バイエルンだと考えられる。現在、追い詰められているモンサントは家族であるバイエルに守られている。

ザクセン王ヨハンの子（ヨハンバイエルン選帝侯マクシミリアン1世/ヤーコブ・ベーメの玄孫の玄孫）

□
アルベルト（1828～1902） ザクセン王
ジャン＝マルタン・シャルコー（1825～1893） 精神科医

チャールズ・ファイザー（1824～1906） ファイザー製薬創業

※寝ている間に児童の寝所に忍び込み、催眠術をかけてレイプする事実を隠蔽するために、ヒステリーなる病気をデッチ上げた。富豪から金を取り、忍び込む手はずを整えたりした。

□
エリザベッタ・ディ・サツソニア（1830～1912）

ヘレナ・P・ブラヴァツキー（1831～1891） 神智学協会教祖

□
ゲオルク（1832～1904） ザクセン王

ヘンリー・スティール・オルコット（1832～1907） 神智学協会教祖

ジョセフ・ネイサン（1835～1912） グラクソ・スミスクライン製薬創業※画像無し

マルガレーテ・フォン・ザクセン（1840～1858）

イーライ・リリー（1838～1898） イーライ・リリー製薬創業

□
ゾフィー・フォン・ザクセン（1845～1867）

ロバート・ウッド・ジョンソン1世（1845～1910） ジョンソン&ジョンソン製薬創業
※画像無し

マーロン・クライン（1846～1909） グラクソ・スミスクライン製薬創業※画像無し

ザクセン王ヨハンの孫

□
マルゲリータ（1851～1926） エリザベッタ長女※画像無し

ジェイコブ・シフ（1847～1920） ユダヤ金融

アルフレッド・カーン（1850～1893） Sandozノバルティス製薬創業※画像無し

Edouard Sandoz（1853～1928） Sandozノバルティス製薬創業※画像無し

エドワード・ミード・ジョンソン（1852～1934） ジョンソン&ジョンソン製薬創業※
画像無し

田
トンマーゾ・アルベルト・ディ・サヴォイア=ジェノヴァ（1854～1931） エリザベッタ次男・ジェノヴァ公

ニコラ・テスラ（1856～1943） 発明家

エミール・クレペリン（1856～1926） 精神科医・心理学者

オイゲン・ブロイラー（1857～1939） 精神科医・心理学者

ジークムント・フロイト（1856～1939） 精神科医・心理学者

ジェイムス・ウッド・ジョンソン（1856～1932） ジョンソン&ジョンソン製薬創業※
画像無し

ベネディクトゥス15世（1854～1922） 第258代ローマ教皇

※テスラはトンマーゾの影武者として生まれたが、錬金術師の家系で、しかも宇宙人の血も受け継いでいたため、テスラコイルなどを発明できた。クレペリン検査で知られるクレペリンもトンマーゾの影武者だった。クレペリンは、タナトスの集団ストーカーを隠蔽するため、偽学問の体系化に跋扈した。

もうひとりの影武者ブロイラーは、集団ストーカーの被害を訴える人物の社会的地位を貶め、隔離するための偽の病気、精神分裂病の理論をデッチ上げた。生年から見るとフロイトも影武者かもしれない。精神科は不必要だ。特に女なら好きな男に慰めてもらえればそれでOKだ。しかし、今の世の中ではゲイが増え、戦う男が減少傾向にある。それが精神科医が幅を利かせる原因になっている。金を払って、赤の他人に悩みを聞いてもらうことほど愚かなことはない。

☐
マリー・ヨハンナ（1860～1861） ゲオルク長女※画像無し

ルドルフ・シュタイナー（1861～1925） 神秘思想家

テオドール・ヘルツル（1860～1904） シオニズム運動指揮者

ルドヴィコ・ザメンコフ（1859～1917） エスペラント創設

齋藤紀一（1861～1928） 精神科医

※ヘルツルは敵の目をごまかすためにマリーとして生まれたが、早世したことにしてヘルツルとして育った。シュタイナーは影武者として生まれた。ユダヤ人は、シオンの丘に帰る運動を「シオニズム」と呼んでいる。シオンとは紫苑のことだと考えられる。紫苑はシベリア東部、モンゴル、朝鮮半島、中国東北部に分布する多年草であるが、紫苑の分布地域は、古代イスラエル王国の勢力圏（ソロモン朝）に重なっている。ヘルツルはそれを知っていてシオニズム運動を始めたのだろう。ということは、彼らは現イスラエル国ではなく、シベリア東部・モンゴルに帰りたいたいと考えているのだろうか？

齋藤紀一は夏目漱石の集団ストーカー企画に参加していた。精神科医であるため、もちろん「漱石は頭がおかしい」と断定する役目である。

☐
フリードリヒ・アウグスト3世（1867～1932） ゲオルク長男

ハーバート・ヘンリー・ダウ（1866～1930） 化学企業ダウ創業

池田菊苗（1864～） L-グルタミン酸ナトリウム発見者

鈴木三郎助（1868～1931） 味の素創業※画像なし

※池田も異母兄弟の齋藤紀一と同じく夏目漱石の集団ストーカー企画の参加者の一人である。彼は漱石と同居して身近にいながら彼の様子を探り、またはそれとなく攻撃に参加した。有名な「

便所に硬貨が置いてあった」というイヤガラセは池田がやったことに間違いない。

ヨハン・ゲオルク（1869～1938） ゲオルク次男

フリッツ・ホフマン・ラ・ロシュ（1868～1920） ロシュ製薬創業

□□
アルベルト（1875～1900） ゲオルク4男※画像無し

カール・グスタフ・ユング（1875～1961） 精神科医・心理学者

アルベルト・シュヴァイツァー（1875～1965） 神学者

コンラート・アデナウアー（1876～1967） ドイツキリスト教民主同盟初代党首

慶松勝左衛門（1876～1954） 第一製薬創業※画像無し

※頭を良くしようと20歳の頃にユングの「元型論」を読んだが、意味不明だった。このことからオレは頭が悪いんだと悲観したが、頭がよくなった今、改めて考えると、「元型論」にはもともと意味がない。たわごとなのだ。

南部メソジスト監督教会（1845）

※「蛮社の獄」の残党は、日本を脱出してアメリカに移住した。蘭学に精通していた彼らはオランダ改革派が作ったメソジストに潜りこみ、「南部メソジスト監督教会」を築いた。その後、北部メソジスト監督教会と対立すると、彼らはワシントンの一族（ダーナ神族の一族）や共に蛮社の獄を落ち延びた南部バプティスト連盟と共に「アメリカ連合国」を建設し、南北戦争の口火を切った。「南北戦争」は、アメリカ合衆国の覇権を賭けたタナトス同士の戦争であり、「奴隷解放」は北部による南部侵攻の口実に過ぎなかった。

南部バプティスト連盟（1845）

※「蛮社の獄」の残党は、日本を脱出してアメリカに移住した。蘭学に精通していた彼らは、一部がアメリカ・バプティスト同盟に潜りこみ、「南部バプティスト連盟」を築いた。北部バプティスト連盟と対立した彼らは、ワシントンの一族（ダーナ神族の一族）や共に蛮社の獄を落ち延びた南部メソジスト監督教会と組み「アメリカ連合国」を建設し、南北戦争の口火を切った。

ジェイコブ・シフの子

□

フリーダ・シフ（1876～1958）※画像無し

オルガ・モンサント（生年不詳） ジョン・L・クイーニー妻

※モンサントの名の由来はシベリアの少数民族マンシ人とハンティ人の組み合わせである。マンシ+ハンティ=マンシャンティ=モンサントとなる。モンサント社にかかわる科学者はみな、彼らの子孫だろう。

創業者のクイーニーは、東本願寺門主乗如の一族である。60年代以降は、実質、化学兵器工場であり、世界中の多くの人々を苦しめている。世界の人々が、自分たちが作る毒性の高い製品しか選べないように、TPPなどの陰謀を企画した。

マリア・ヨーゼファ・フォン・ザクセンの子（ザクセン王ゲオルクの孫）



カール1世（1887～1922） オーストリア皇帝 在位1916～1918※画像無し

チャールズ・E・メリル（1885～1956） メリルリンチ創設

中野友禮（1887～1965） 日本曹達創業

※中野は父が伊藤博文（西本願寺門主広如の一族）で、母がマリア・ヨーゼファ・フォン・ザクセンである。

フリードリヒ・アウグスト3世の子（ザクセン王ゲオルクの孫）

□□
ゲオルク（1893～1943） ザクセン王太子

ジョージ・W・メルク（1894～1957） メルク製薬創業※画像無し

篠田籙（1894～1979） 登戸研究所所長※画像無し

北野政次（1894～1986） 731部隊2代部隊長

大塚武三郎（1891～1970） 大塚製薬創業

石原広一郎（1890～1970） 石原産業創業

※日本人はみなフリードリヒ・アウグスト3世と本願寺の娘の子である。石原広一郎の場合は、母親が東本願寺門主大谷光演の娘である。「731」の数字の裏に隠された真の由来はAD1731年である。つまり「731部隊」の名称は、宇宙人に対する復讐の意味を込めて命名された。731部隊は、1731年にシベリアを追放されたタナトスの混血の子孫と、西本願寺門主広如の一族である石井四郎ら軍医5人が属する防疫研究室を開設したのが始まりである。彼らは非情にも、捕らえた中国人、蒙古人、朝鮮人、アメリカ人、ロシア人を丸太と呼び、人体実験に用いた。毎日生きた人間を2～3人解剖して切り刻み、被害者は3000人（或いはもっと多い）とされている。

□
マリア・アリックス・カロラ（1898）※画像無し

ルートヴィヒ・エアハルト（1897～1977） ドイツキリスト教民主同盟2代党首

岩畔豪雄（1897～1970） 陸軍中野学校設立・登戸研究所設立

※岩畔は、フリードリヒ・アウグスト3世とシベリア系タナトスの子と考えられる。先祖の錬金術師が発明し、人体自然発火事件で使用していた装置を、登戸研究所で怪力光線として生まれ変わらせた。怪力光線の詳細はモサドの手に渡り、オルメルト首相が指揮するレバノン空爆で使用された。

□
アンナ・モニカ・ピア（1903～1976）※画像無し

クルト・ゲオルク・キージナー（1904～1988） ドイツキリスト教民主同盟3代党首

Günther Friedländer（1902～1975） テヴァ製薬創業

内藤良一（1906～1982） 731部隊軍医・ミドリ十字設立※画像無し

二木秀雄（1908～1992） 731部隊・ミドリ十字取締役※画像無し

※クルトとギュンターはアンナの影武者として生まれた。クルトとギュンターは口がよく似ている。内藤と二木はフリードリヒ・アウグスト3世とシベリア系タナトスの子と考えられる。

カール1世の子（ザクセン王ゲオルクの曾孫）

□
カール・ルートヴィヒ（1918～2007）

フレデリック・サンガー（1918～2013） ゲノム編集科学者

アーサー・コーンバーグ（1918～2007） ゲノム編集科学者

トーマス・ゴードン（1918～2002） 親業

※ゴードンは世界中のタナトスの一族による子供に対する集団ストーカー隠蔽のために「親業」なるものを作り出した。英語では略してP.E.T.である。これはあきらかに「おまえらはペットだ」という意のイヤミである。

フリードリヒ・クリスティアンの子（ザクセン王ゲオルクの孫）

☐☐☐
マリア・エマヌエル（1926～2012）※画像なし

メイル・アミート（1921～2009） モサド第3代長官

ツヴィ・ザミール（1925） モサド第4代長官※画像なし

イツハク・ホフィ（1927～2014） モサド第5代長官

ナフーム・アドゥモニ（1929） モサド第6代長官※画像なし

ポール・バーグ（1926） ゲノム編集科学者

※上の三人は非常によく似ている。アミートとバーグは同一人物の可能性もある。モサド長官がゲノム編集の科学者ならロクなことはないだろう。

☐☐☐
アルブレヒト（1934～2012）※画像なし

エフライム・ハレヴィ（1934） モサド第9代長官

スタンリー・ノルマン・コーエン（1935） ゲノム編集科学者

ハーバート・ボイヤー（1936） ゲノム編集科学者

ウォルター・ギルバート（1932） ゲノム編集科学者

※自然のものはおいしい。健康にも良い。何も変える必要がない。それを毒に変えるのがゲノム編集者の責務だ。タナトスは何かを破壊したい時、常に直す、改善などの言葉を使う。タナトスの頭の中には強い敵、奴隷たちの弱体化が念頭にあるのだ。壊れていないものを直すな。

ザクセン王ゲオルクの曾孫

☐☐☐
フェルフリート（1943）※画像無し

ヴォルフガング・ショイブレ（1942） ドイツキリスト教民主同盟5代党首

シャブタイ・シャヴィット（1939） モサド第7代長官※画像なし

ダニー・ヤトゥーム（1945） モサド第8代長官※画像なし

メーエル・ダガン（1945～2016） モサド第10代長官

※AD1865年、南北戦争に敗北した南部メソジスト監督教会と南部バプティスト連盟は、アメリカを離れてパレスチナに入植した。およそ100年後、イスラエル国が誕生すると、自分の国を欲していた彼らは、軍事諜報機関「モサド」を設立した。モサドの名の由来はメソッド（メソジストのこと）である。メソッド＝メソド＝モサドとなる。

初代長官は、西本願寺門主寂如の一族ルーベン・シロアップであるが、シロアップの正体はナチス将校シーラッハであり、東京空襲を指揮したカーティス・ルメイでもあった。

ザクセン王フリードリヒ・クリスティアンの娘アンナとヒトラーの子（ザクセン王ゲオルクの玄孫）

□
アンゲラ・メルケル（1954） ドイツキリスト教民主同盟6代党首・ドイツ首相

※噂通り、ヒトラーは死んだと見せかけて戦後しばらく生きていた。しかし、南米ではなくポーランドに潜伏していたようだ。そこでメルケルを儲けた。その証拠にメルケル首相は少女時代、自転車でよくポーランドにまで行っていた。父に会いに行っていたのだろう。ということは、ヒトラーは1970年代直前までは存命だったようだ。

ヨハン・ゲオルクの子（ザクセン王ゲオルクの玄孫）

□
デジレ・マルガレーテ・ヴィクトリア・ルイーゼ・ジビラ・カタリナ・マリア（1963）※画像無し

アンネグレート・クランプ＝カレンバウアー（1962） ドイツキリスト教民主同盟7代党首

ジェニファー・ダウドナ（1964） ゲノム編集食品指揮者

※科学の名の下に、卑劣な化学テロを指揮する悪党である。どう見て漏れずだ。エクスタシーを得られないため、このような犯罪に手を染めるのだろう。

Princess Mathilde of Saxonyの子（ザクセン王ゲオルクの玄孫）

□
Prince Johannes（1969～1987）※画像無し

エマニュエル・シャルパンティエ（1968） ゲノム編集食品指揮者

※性転換者である。18歳で死んだことにした王子は、性転換手術を施し、その後は女性として生きている。エクスタシーを得られないため、このような犯罪に手を染めるのだろう。

●化学企業が指揮する化学戦争の一覧

「オレンジ剤（枯葉剤）開発」（196?）

※ベトナム戦争で使用され、多くの奇形児童を生んだ。

「ラウンドアップ発売」（1970）

※ジョン・E・フランツ（西本願寺門主大谷光照の一族）が「除草剤グリホサート」を開発した。商品名は「ラウンドアップ」である。これを機に、アメリカを中心にアトピーや食物アレルギーなど、アレルギーの報告が頻発した。アトピーや食物アレルギーで苦しむ人がいるところ、そこがモンサント社と人類による戦争の最前線である。

「花粉症発生」（1971）

※化学企業（日本仏教）は、優れた日本人を殺すため、日本全国に農薬を撒く口実を考えていた。彼らは日本中に生えている松の木に目を付け、松枯れの現象に注目した。そこで、彼らは「マツノザイセンチュウ」という架空の線虫をデッチ上げ、松の木につくカミキリ虫に寄生しているとして、松枯れの原因に設定した。この線虫が発見されたと伝えられるのが昭和46年である。これにより、2月頃から大量の殺虫剤を全国の山林や海岸、ゴルフ場に空中散布するようになった。

これを続けた結果、昭和53年頃から花粉症が注目され始め、現在では世界中で国民病の座に就いている。2月から5月頃にかけて、松くい虫を殺すために撒く殺虫剤により、世界中の人々が化学物質アレルギーに苦しんでいる。だが、その事実を隠蔽して化学企業を保護するため、タナトスは「花粉症」という架空の病を発明したのだ。これにはタナトス医師会も深く携わっている。

花粉症の原因として、遺伝要因、栄養要因などというバカげた推理が公的に展開されている。不

可解なのが、環境要因にも言及していながら農薬のことにはひと言も触れられていない点である。しかし、替わりに、スギ・ヒノキの大量植樹、排気ガスによる大気汚染、都市化の影響という関係ない事象にスポットライトが当てられている。笑止である。医師が事実隠蔽に関与しているため、この問題が解決する日は永久にやって来ない。

この花粉症のおかげで、日本仏教傘下の化学企業や医師会は、二次的な富をも得ることが出来たわけだ。また、日本では補助金がつくため、松くい虫用の殺虫剤を散布しない自治体は存在しない。つまり、日本人は花粉症からは逃れられない。現に枯れている松の木があるが、それらはマツノザイセンチュウが実在しないという事実を隠蔽するため、日本仏教が他の方法で枯らしている。華麗で洗練されたマッチポンプの見本である。日本仏教は、ゴミで巨万の富を得る方法を編み出したわけだ。

「年間新規オープンコース数の最多記録樹立」（1991）

※奇妙なことに、バブル最盛期ではなく、バブル崩壊直後にこの記録が生まれたという。しかし、これは同時に除草剤による環境破壊の増加にもつながっている。日本仏教は、除草剤を売るためにゴルフ場を造成した。除草剤に被爆すると、4日後に「閃輝暗点」が発生し、強い偏頭痛に苦しむことになる。しかし、全てを把握しながら、医者は「原因不明です」などとウソの診断を下す。

また、プロゴルファーに食物アレルギー患者が多いが、彼らは医者ウソを信じるため、除草剤と食物アレルギー（化学薬品アレルギー）を結びつけることはない。また、競技場、サッカー場なども除草剤がたっぷり使用されている。そのため、外国のサッカー選手で試合中に急死している選手がいる。完全に除草剤が原因だろう。肺から大量に吸い込むと、心臓が停止するのかもしれない。不必要可欠な化学企業を守るため、医師やメディアは事実を隠蔽している。

「牛成長ホルモン発売」（1994）

モンサント社が遺伝子改良飼料を開発。遺伝子組み換え作物の害は、コーンに於いて顕著である。喉の腫れ、呼吸困難、皮膚の無感覚、精神不安などが引き起こされている。そして、世界の医師会によって、それらの不快症状の原因はストレスであるとされている。確かにストレスが原因かもしれない。ただ、ストレスの原因は、遺伝子組み換え作物が原因なのではないか。

「遺伝子組み換え大豆開発」「遺伝子組み換えコーン開発」「遺伝子組み換え小麦開発」（1994）

タナトスは何かを破壊したい時、「破壊」という言葉をチョイスしない。その代わりに、彼らは「守りたい」「治したい（直したい）」という言葉をチョイスする。モンサント社は常日頃、飢餓をなくしたいと言っている。恐ろしいことだ。もし、飢餓が存在しないのであれば、彼らが言

う「飢餓をなくしたい」とはいったい何を意味するのだろうか？「死ねば飢えることはない」ということか？死が飢餓問題を解決する最良の方法だろうか？さすが死神である。

大豆、とうもろこしなど、モンサント社の化学製品、例えばコーンスープなどを口にすると、のどが腫れて呼吸が苦しくなります。また、頭痛、めまい、便秘は当たり前。更に、ミオクローヌス、視神経の異常、てんかん発作、生きていけない感じの鬱症状などが漏れなくついてきます。いらぬものばかりです。ほとんどの症状は、有機リン系殺虫剤の中毒症状に酷似しています。そりゃそうですよね。モンサント社は、大切な農作物が虫に食われないよう、遺伝子操作を行って品物自体に殺虫剤の成分を組み込んでいるのですから。

モンサント社の社員は、みな、自社の製品を食べません。危険だからです。だが、メディアを一瞥すると、彼らは口を揃えて「食べてる」と言っている。確かに、実際に食べているのであれば「食べてる」と言うだろう。だが、この場合、例え食べてなくても「食べてる」と言うだろう。人殺しに「人殺しか？」と聞いて「そうだ」と言うわけがないのと似ている。

「果物アレルギー発生」「牛乳アレルギー発生」（2004）

化学企業は、もっと儲けるために、防カビ剤、殺菌剤を売ることにした。そのため、仏教信者（メディア）に指令し、輸入果物がカビ毒に汚染されている旨の報道をさせた。これにより、カビ防止を口実に殺菌剤が爆発的に売れた。しかし、OPP、TBZ、イマザリルなどの殺菌剤により、消費者は薬品アレルギーに苦しむことを強いられている。同じく、乳製品も過剰な殺菌のため、乳製品を摂るたびに薬品アレルギーが発生するようになった。仏教信者（メディア）は、食物アレルギーの宣伝を怠らないため、消費者も「食物アレルギー」が、じつは化学薬品アレルギーだとは想像もしていない。輸入乳製品（特にバター）、輸入柑橘類（特に100%果汁のジュース）などを摂ると、全身のかゆみ、強い不安感、肋間神経痛、左目の謎の光、四肢の脱力、発狂感、自殺発作、大きな音を聞くと気を失いそうになるなどの症状が漏れなくついてきます。いらぬものばかりですね。

「遺伝子組み換え乳酸菌開発」「遺伝子組み換え酵母菌開発」「遺伝子組み換え酢酸菌」（2012）

※筆者は、みぞおちを貫く激しい傷みを除草剤が原因と考えていたが、食事の記録を見返すと、「飲むヨーグルト」「カルピス」などの乳酸菌飲料を激痛の数日前に飲んでいる。また「ヤクルト」を飲むと、みぞおちがチクチクするなど記録している。パンなどは脇が痛むが、これは遺伝子組み換え酵母菌が原因ではないかと考えられる。また、酢を使用したケチャップを使うと内臓が崩壊する。

ユダヤ人（1908）の一族～ヒヴァ・ハン国、ガージャール朝、アドルフ・ヒトラー、ツングース大爆発、ロケット、マンハッタン計画、原子爆弾、水素爆弾、レーザー、コンピューター

タナトス（科学の種族）の歴史

イルバルス1世（生年不詳） ヒヴァ・ハン国初代君主 在位1512～1517※画像無し

※ブハラ・ハン国を築いた一族は宇宙人と普通のシベリア人の混血であり、ヒヴァ・ハン国を築いた一族は宇宙人とタナトス系シベリア人（ケット族、ニヴフ族、オロチョン族、オロチ族、ユカギール族、ケレック族、エヴェン族、イテリメン族、ナナイ族）の混血である。そのため、ヒヴァ・ハンの建国者であるイルバルス1世は、ブハラ・ハンの建国者アブル＝ハイル・ハンを敵視し、対立していた。

彼らは、超科学の番人である宇宙人（科学の種族トバルカイン）に科学技術を剥奪された上で中央アジアに追放され、騎馬民族として暮らしていたが、イルバルス1世は猫を被りながら胸の内では復讐の機会を狙い、極秘裏に宇宙人に対抗するための兵器の開発を行っていたようだ。タナトスは常に権威を欲する。権威を傘に着なければ誰も耳を貸さないからだ。それを証明するようにイルバルス1世も自身の一族をチングスの末裔だとうそぶいていた。

イルテュゼル・イナク（生年不詳） イナク朝初代君主 在位1804～1806※画像無し

※1804年からヒヴァ・ハン国はイナク朝となるが、イナクの名の由来はエノクだと考えられる。

□ クトルフ・ムハンマド・ムラド・バハドゥール（?～1856） イナク朝第7代君主 在位1855～1856※画像無し

ヨハン・ゲオルグ・ヒトラー（1792～1857） アドルフ祖父

□ サイド・ムハンマド（1823～1864） イナク朝第9代君主 在位1856～1864
※画像無し

アレクサンドル・エドモン・ベクレル（1820～1891） 太陽電池基本原理発見

□ マフムード（1837～1855） イナク朝第10代君主 在位1856※画像無し

アロイス・ヒトラー（1837～1903） アドルフ父

ナーセロッディーン・シャー（1831～1896） ガージャール朝第4代シャー 在位1848～1896

□

ムハンマド・ラヒーム・バハドゥール（1845～1910） イナク朝第10代君主 在位1864～1910

グイド・フォン・リスト（1848～1919） トゥーレ協会代表

※このムハンマドの統治時代に「ツングース大爆発」が発生した。つまり、イルバルス1世の時代からの宇宙人打倒の秘密兵器、超科学の粋を結集した天空の城ラピュタの如き巨大空中要塞が完成した。中央アジアのどこかで彼らは極秘裏に巨大空中要塞を建設していたのだ。自分たちを追放した宇宙人に復讐し、その後に世界を征服するべく、空中要塞でシベリアに向かったものの、あえなく撃破されたわけである。それが「ツングース大爆発」である。

宇宙人は武器を作らない。核兵器さえ作らなかった。彼らは物質を分子の次元で操作する技術を持つが、その要領で、彼らはあらゆる物質の原子を分裂させることが出来るようだ。つまり、ムハンマドたちが作った空中要塞は巨大な核爆弾でしかなかった。ただ、ウランを核分裂させたわけではないため、放射能は発生しなかった。

このツングース大爆発を機に、ムハンマドの一族はドイツへと逃亡し、一部は更にアメリカ合衆国に渡った。ドイツに渡った人々はロケット技術、ミサイルを開発し、アメリカに渡った人々からは、マンハッタン計画に従事する科学者たちが生まれた。オッペンハイマーやエドワード・テラーである。

□□

大谷光演（1875～1943） 第23代東本願寺門主

モハンマド・モサッデク（1882～1967） パフラヴィー朝首相

イスファンディヤル・ジュルジ・バハドゥール（1871～1918） イナク朝第11代君主
在位1910～1918

※大谷光演はイナク朝の復興を目指したが、ロシア帝国に敗北した。

□

アブドゥル・アハド・ハーン（生年不詳） マンギト朝ブハラハン国第8代アミール 在位1885～1910

※タナトスの血が流れるヒヴァ・ハン国の一族はワイマール制統治下のドイツ、アメリカ合衆国に渡ったが、宇宙人と普通のシベリア人の混血であるブハラ・ハン国のアブドゥルの一族はロシア帝国に渡り、第二次大戦後は水爆開発や人工衛星スプートニクなど宇宙開発に携わった。この

ブハラ・ハン君主アブドゥルの子孫たちのおかげで西本願寺門主寂如の一族トルーマン大統領の思惑は灰燼に帰し、世界は征服されずに済んだ。

ナーセロッディーン・シャーの子

□
モザッファロッディーン・シャー（1853～1907） ガージャール朝第5代シャー 在位
1896～1907

Theodor Fritsch（1852～1933） ゲルマン騎士団代表

□
Fakhr od-Dowleh（1859～1891）※画像無し

クララ・ヒトラー（1860～1907）

※クララ・ヒトラーは何か我々と異なる目をしているが、宇宙人（科学の種族トバルカイン）の影響が顔に出ているようだ。クララはアドルフとは兄弟ということになっているが、敵の目をごまかすためのフェイクである。彼女が現代を代表するタナトスの王（東本願寺門主大谷光榮）の子大正天皇の遺伝子を欲したことにより、優性遺伝子ブリーダーの働きによってアドルフ・ヒトラーが生まれた。ヒトラーが唱えた、金髪・碧眼のアーリア人優性説は宇宙人（科学の種族トバルカイン）のことを指していた。

□
Nosrat ed-Din Mirza Salar os-Saltaneh（1882～1954）※画像無し

ロバート・ゴダード（1882～1945） ロケット工学の父

ニコライ・エジョフ（1895～1940） 第2代NKVD長官

□
Hossein-Ali Mirza Yamin od-Dowleh（1890～1952）※画像無し

アドルフ・ヒトラー（1889～1945） ナチス帝国総統

ゲンリフ・ヤゴダ（1891～1938） 初代NKVD長官

ヴワディスワフ・ラチュキエヴィチ（1885～1947） ポーランド共和国ロンドン亡命政府初代大統領

エドヴァルト・ラチンスキ（1891～1993） ポーランド共和国ロンドン亡命政府第4代大統領※画像無し

ボレスワフ・ビェルト（1892～1956） ポーランド共和国臨時政府大統領

※生前、ヒトラーは出自について詮索されることを非常に嫌っていた。曰く「自分が誰か、どこから来たか、どの一族から生まれたか、それを人々は知ってはいけないのだ!」。ヒトラーは自殺と見せかけて南米に逃げたといわれているが、実際には灯台下暗しを狙って隣国のポーランド

に逃げていたようだ。なにしろ、自分の影武者たちが支配する土地だからだ。

NKVD長官ヤゴダ、特にビエルトがヒトラーに良く似ている。ビエルトの場合、ヒトラー本人である可能性も高い（差別化できるようにちょこっと一部を整形している可能性も）。

モザッファロッディーン・シャーの子

□ **Princess Anvar od-Dowleh** (1896~?) ※画像無し

Tadj ol-Molouk (1896~1982) レザー・シャー妻

☒

Nasser-od-Din Mirza Nasser os-Saltaneh (1897~1977) ※画像無し

レオ・シラード (1898~1964) ハンガリー人物理学者

エンリコ・フェルミ (1901~1954) イタリア人物理学者

マーク・オリファント (1901~2000) 核融合発見

ラヴレンチー・ベリヤ (1899~1953) 第3代NKVD長官

リヒャルト・ヴァルター・ダレ (1895~1953) ナチス農政全国指導者

カール・フィーラー (1895~1969) ナチス書記全国指導者、地方行政本部長

アレクサンドル・ザワトツキ (1899~1964) ポーランド人民共和国初代国家評議会議長

※因みに、映画「水の中のナイフ」を見て監督のロマン・ポランスキーを祖国から追放したのは、ヒトラーとは近い家族の間柄であるアレクサンドル・ザワトツキ大統領だ。

☒

Mirza Nasrollah Khan Ashtiani Moshir od-Dowleh (1906~1907) ※画像無し

Esmat Dowlatshahi (1905~1995)

ゲリ・ラウバル (1908~1931) ヒトラーの姪

モザッファロッディーン・シャーの孫

☒

アリ・アミニ (1905~1992) モハマド・レザー内閣イラン首相

ジョン・フォン・ノイマン (1903~1957) ハンガリー人数学者

ロバート・オッペンハイマー (1904~1967) 原爆の父

ブルーノ・ロッシ (1905~1993) イタリア人宇宙物理学者

※パフラヴィー朝イラン首相アリ・アミニの影武者であるノイマンは、同じ影武者仲間のオープンハイマーと共に原爆を仕上げた。また、ノイマンは同年にプログラム内蔵方式のコンピューターを提唱した。オープンハイマーは、宇宙人の血の割合が高かったためか、後に自分がしたことを悔やみ、罪悪の念にかられた。そのため、晩年のオープンハイマーはタナトス仲間に冷遇された挙句、不遇の内に亡くなった。

モハンマド・アリー・シャーの子

☐

Majid Mirza (生没年不詳) ※画像無し

エドワード・テラー (1908~2003) ハンガリー人物理学者・水爆の父
スタニスワフ・ウラム (1909~1984) ポーランド人数学者
ルイス・スローティン (1910~1946) カナダ人物理学者
セルゲイ・クルグロフ (1907~1977) 第4代NKVD長官

アフマド・シャーの子

☐

Maryamdokht (1915~2005) ※画像無し

グレン・シーボグ (1912~1999) アメリカ人物理学者
ヴェルナー・フォン・ブラウン (1912~1977) ドイツ人工学者・NASA創設発案
ノーマン・ラムゼー (1915~2011) アメリカ人物理学者
ティムール・バクティアール (1914~1970) 秘密警察SAVAK初代長官

※Maryamdokhtは女子であるが、他の3人は彼女の影武者として生まれた。ヴェルナー・フォン・ブラウンは、V2ミサイルを製造。ロンドンに向けて3000発が打ち込まれ、1万人が死傷した。彼はアメリカに移住して市民権を得るとNASAの創設を訴えた。

☐

Fereydoun Mirza Qajar (1922~1975)

セオドア・メイマン (1927~2007) アメリカ人物理学者

※影武者セオドア・メイマンは、本体のFereydounに良く似ている。ということで、両者は同一人物だろう。ヒューズ研究所に所属したセオドアは最初のレーザー発生装置を完成させた。

メン・イン・ブラックのメンバー

□ メン・イン・ブラック（1924）

- ・ Prince Soltan Mahmoud Mirza（1847～1849）
- ・ Prince Soltan Moin ed-Din Mirza（1849～1856）
- ・ Prince Soltan Massoud Mirza Zell os-Soltan（1850～1918）
- ・ Prince Mohammad-Qassem Mirza（1850～1858）
- ・ Prince Soltan Hossein Mirza Jalal od-Dowleh（1852～1868）
- ・ **Prince Mozaffar ed-Din Mirza/Mozaffar ad-Din Shah Qajar**（1853～1907）
- ・ Prince Kamran Mirza Nayeb os-Saltaneh（1856～1929）
- ・ **Prince Nosrat ed-Din Mirza Salar os-Saltaneh/Robert Godard**（1882～1954）
- ・ Prince Mohammad-Reza Mirza Rokn os-Saltaneh（1884～1951）
- ・ **Prince Hossein-Ali Mirza Yamin od-Dowleh/Adolf Hitler**（1890～1952）
- ・ Prince Ahmad Mirza Azd os-Saltaneh（1891～1939）

- ・ Prince Mohammad-Ali Mirza E'tezad es-Saltaneh（1872～1925）
- ・ Prince Malek-Mansur Mirza Shoa os-Saltaneh（1880～1920）
- ・ Prince Abolfath Mirza Salar od-Dowleh（1881～1961）
- ・ Prince Abolfazl Mirza Azd os-Sultan（1882～1970）
- ・ Prince Hossein-Ali Mirza Nosrat os-Saltaneh（1884～1945）
- ・ **Prince Nasser-od-Din Mirza Nasser os-Saltaneh/Leo Szilard**（1897～1977）

- ・ Hossein Ali Mirza（生没年不詳）
- ・ Gholam Hossein Mirza（生没年不詳）
- ・ Sultan Ahmad Mirza（生没年不詳）
- ・ Mohammad Hassan Mirza（生没年不詳）
- ・ Sultan Mahmoud Mirza（生没年不詳）
- ・ **Sultan Majid Mirza/Edward Teller**（生没年不詳）

※上記は初代M I Bのメンバーである。ガージャール朝の王族が中心になり結成された。早世している者はじつは死んだことにして潜伏し、M I Bに従事していた。あのアドルフ・ヒトラーもしばらくはM I Bに従事していたようだ。

最初の目撃談がこのAD1924年のものである。彼らは黒い背広、黒い帽子、黒靴、黒いサングラスを身に付け、黒いセダンに乗っているため、「メン・イン・ブラック（M I B）」と呼ば

れている。おもしろいことに、目撃者の証言では、彼らの顔は、東洋人を想起させるという。これら東洋人の正体は同じ血が流れるシベリア人だったと考えられる。

彼らは、宇宙人やU F Oを目撃した人物のもとを訪れ、脅し口調で「見たことを口外しないように」と、念を押すという。彼らは、宇宙人と人類が出会うことで真の歴史を知られることを恐れているのだ。

第2のマハーバーラタ戦争に備えるために、ハイブリッドたちは世界中のタナトスの一族に協力し、重点的な技術開発を行っている。目的は、宇宙人に打ち勝つための兵器の開発である。しかし、1万年先も進んだ科学力を有し、マハーバーラタ時代に善神と呼ばれた、比類なき知恵者である科学の種族（宇宙人）に勝つ見込みは、万にひとつも無い。

骨伝道音声発信受信装置開発（193?）

※プロペラ戦闘機が全盛時代、搭乗者同志のコミュニケーションは騒音に阻まれ、困難だった。そのため、ユダヤ人が骨で音声を聞く装置を開発した。これにより、騒音の中でもはっきりと意思疎通が可能になった。だが、タナトスはこの技術を悪用し、信者にオンタイムで命令を送るために用いている。イヤホンが不要な骨伝導は、ある意味、テレパシーのようなものである。そのため、悪意に基づいた命令を容易に否定することができる。例によって誰が開発したか定かではない。

「エリア51誕生」（1946）

※ハイブリッドたちは、日々、エリア51でU F Oの研究開発を進めているが、彼らも年をとる。また、混血により、科学の種族の血が薄くなりつつある今、宇宙人への復讐という想いを遂げることは不可能だろう。

「ロズウェル事件」（1946）

※ハイブリッドたちの協力により、アメリカ合衆国の科学は著しく発展した。彼らは、宇宙人から受け継いだ能力をフル回転しU F Oを製造しようと試みた。彼らは、製造したテスト機で飛行実験を実施したが、危険なため、日本人を乗せて実験が行われた。しかし、このU F Oの試作品は墜落し、実験は失敗した。

ロズウェルで墜落したU F Oは、ハイブリッドが製造したものである。宇宙人が乗る正統なU F Oが墜落するはずが無い。搬入された日本人に似た宇宙人は、実験のために乗せられた日系人だろう。

ガージャール朝王族の末裔（母方）

☐

Ashraf Pahlavi（1919～2016） レザー・シャーとTadj ol-Moloukの娘

ゴッドフリー・ハウズフィールド（1919～2004） CTスキャン発明、生理学・医学ノーベル賞

モハンマド・レザー・パフラヴィー（1919～1980） パフラヴィー朝第2代イラン皇帝

ナセル・モガダム（1921～1979） 秘密警察SAVAK長官

※Tadj ol-Moloukの異母兄弟の女子がモハンマド・モサッデクの子を生んでいる。バーグとハウズフィールドは、父方が東本願寺門主大谷光演の一族である。彼は脳をデジタル処理して断層撮影する装置を開発した。タナトスの医者は、治療を口実に毎年数百万人もの人々をCTスキャンで放射線被爆させているが、このような危険な機器を治療に用いる事は真の意味でのテロ行為である。モハンマドとナセルは良く似ている。同一人物か、或いは異母兄弟である。

☐

Abdul Reza Pahlavi（1924～2004） レザー・シャーとTadj ol-Molouk息子

ビル・ゲイツSr（1925） ビル・ゲイツ父

☐

Mahmud Reza Pahlavi（1926～2001） レザー・シャーとEsmat Dowlatshahi息子※画像無し

赤崎勇（1929） 大谷光瑞とEsmat Dowlatshahiの子（青色発光ダイオード）

※赤崎の父方は西本願寺門主大谷光瑞である。

☐

Cyrus Atabay（1929～1996） レザー・シャー孫（Hamdamsaltaneh Pahlavi息子）※画像無し

ジョン・E・フランツ（1929） 大谷光照の子（ラウンドアップ開発、モンサント社）

ポール・ラウターバー（1929～2007） 大谷光照の子（MRI開発、ノーベル生理学・医学賞）

※Hamdamsaltaneh Pahlaviの異母兄弟の女子が大谷光照の子を生んでいる。フランツとラウターバーの父方は西本願寺門主大谷光照である。

☐

Fatimeh Pahlavi（1928～1987） レザー・シャーとEsmat Dowlatshahi娘

メアリー・マックスウェル・ゲイツ（1929～1994） ビル・ゲイツ母

※Esmat Dowlatshahiの異母兄弟の女子がメアリー・マックスウェルを生んでいる。

□
Hamid Reza Pahlavi (1932~1992) レザー・シャーとEsmat Dowlatshahi息子
ピーター・マンフィールド (1933~2017) 大谷光照とEsmatの子 (MRI開発、ノーベル生理学・医学賞)
荻野芳生 (生年不詳) IHコンロ発売※画像無し

※マンフィールドは、父方が西本願寺門主大谷光照野一族である。核磁気共鳴画像化法に関する発見により、「MRI」なる武器に見えない武器を発明した。これにより、ノーベル生理学・医学賞を受賞している。タナトスの医者は、治療を口実に毎年数百万人もの人々をMRIで放射線被爆させているが、治療器具であるMRIは、武器に見えないため、医者・病院側が処罰されることは無い。このような危険な機器を治療に用いる事は真の意味でのテロ行為である。

荻野芳生氏が次世代調理器IHを開発した。だが、IHは一日1時間以上を2年続けると胃腸が停止し、利き手に痛いできものが出来る。できものは我慢すれば良いが(欲しかったわけではないが)、胃腸が止まると、日本医師会は全てを把握していながら、「大変です。これはイレウスですね。すぐ手術しましょう」と受けなくても良い手術の商談に入ります。基本的にIHの使用を中止すればイレウスは改善するが、日本医師会と大企業は需要と供給の関係にあるため、医師が真実を口にすることはない。

荻野先生の情報や画像を探したが、なぜかどこにも存在しない。通常は、素晴らしい発明をする人と人に知られたいと思うはずだが、彼はそうは思わず、どちらかというところでは隠れている。これはなぜだろうか？

□
ビル・ゲイツ (1955) 大谷光真とメアリー・マックスウェルの子 (マイクロソフト社初代CEO)

※どんなに優れた製品でも、既に所有している製品を、二度買う人はいない。そこで、マイクロソフト社は、バージョンアップという手段を開発した。全世界の人がウィンドウズ95を持っているならウィンドウズ98を発売し、全世界の人が98を持っているならウィンドウズXPを販売した。そして、強制的に買い換えさせるために、サーチエンジンと共謀してネット環境を進化させ、製品サポートなどを強制終了した。

□
Sarvenaz Pahlavi (1955) レザー・シャー孫 (Abdul Reza Pahlavi息子) ※画像無し
ヒュー・グラント (1959) モンサント社CEO
天野浩 (1960) 赤崎勇とEsmat Dowlatshahi息子・青色発光ダイオード開発

※近未来の教科書には、ヒトラーを越える規模で、悪事が大きく掲載されることだろう。

□

Princess Azardokht (生年不詳) レザー・シャー孫 (Gholamreza Pahlavi娘) ※画像無し
メリンダ・ゲイツ (1964) ビル・ゲイツ妻

「スマート・グリッド誕生」 (2001)

※ジョージ・W・ブッシュは、「911」に於ける陰謀などで悪名をほしいままにしているが、その影で「スマート・グリッド」なる有害な政策を推進した。彼曰く「最新テクノロジーに感謝したい。これにより、全てはより良く、華麗に、低予算で実行することが可能になるだろう」。ぼくは「全て」と訳したが、彼は原文では「i t」という言葉でごまかしている。だが、ここには間違いなく「傷害」「殺人」という主語が入る。タナトスは、意図的に、そしてしばしば主語を用いない。

また、一方で元大統領曰く「住民たちはどうやって電力を削減するか、どうやって電気料金を減らすか、身を持って知るだろう」としている。元大統領の言うとおりで。イヤでも電力を削減することになるし、電気料金も下がるだろう。家に住めないのだから。彼は、非常にイヤミな言い方で難民化を示唆している。

スマートメーターは、スマートフォン、パソコンなどと同じ家族である。これらの機器は非常に有害であり、時間と距離が問題となる。スマホやパソコンの近くにいる時間が長ければ長いほど、人は被爆し、そばにいる時間が短ければ短いほど安全なのだ。スマホ、パソコンは7m離れていれば安全だ(つまり使用しない方が良い)。しかし、スマートメーターの場合はそうはいかない。つまり、7m x 7mより小さい家に住む住民は難民化を余儀なくされる。全ての電力会社はタナトスが掌握しているが、その電力会社が「スマートメーターは安全である」と堂々ウソをついている。しかし、警察、司法、政権さえ日本仏教の信者で固められているため、起訴することも出来ない。悪を断罪することが許されず、悪のウソを信じなければならないという不条理な状況が、世界のところどころで発生している。例によって誰が開発したか定かではない。

「家庭用ソーラーパネル発売」 (2001)

※ソーラー発電は、地球温暖化対策の一環として、火力を使わない発電として開発された。地球温暖化対策として、AD2001年頃から家庭用が普及を始めた。タナトスは、何かを破壊するとき、破壊という言葉はチョイスしない。代わりに守りたい、治したい(直したい)という言葉を選ぶ。つまり、温暖化対策は、単なるウソである。彼らは「何かを破壊したい」のだ。

家庭用ソーラーパネルは、その先鋒として登場した家電を模した兵器である。発電過程に問題があるのか、蓄電器に問題があるのか不明だが、とにかく、頭痛とめまいが発生する。一日中ソーラーパネルの下にいたらと思うとゾッとするが、日本医師会と大企業は需要と供給の関係にあるため、医師が真実を口にすることは無い。例によって誰が開発したか定かではない。

「エコキュート発売」 (2001)

※エコキュートは、ぬるい。ガス給湯器なら40度は熱いくらいだが、エコキュートは45度でもぬるい。そのため、ガス給湯器ではありえないが、最高温度を60度に設定する。すると、簡単にブレーカーが落ちる。そのため、仕方なくブレーカーが落ちない45度に設定せざるを得ない。

また、冬季は温度を保つため、エコキュートは出力を上げる。これにより、浴室にいる人物は強い電磁波に被爆し、昏倒、または心臓発作で逝くことになる。しかし、日本医師会はこれを「寒暖の差が激しい部屋を行き来するためだ」「ヒートショックだ」とウソをつき、事実を隠蔽している。日本医師会と大企業は需要と供給の関係にあるため、医師が真実を口にすることはない。例によって誰が開発したか定かではない。

「HAARP」 (2005)

※ハイブリッドは、「HAARP」を完成させた。これによって自然現象を操作し、「気象兵器」として使用している。と、されているが、実際には彼ら如きにそんなものは作れない。巨大ハリケーン・カトリーナなどは宇宙人がやったことだ。目的は邪教信者の掃討である。

「オール電化普及」 (2007)

※環境を破壊するガスを捨てた新しい生活。オール電化は、地球温暖化対策の一環として、ガスを使わない生活を標榜して開発された。タナトスは、何かを破壊するとき、破壊という言葉を選択しない。代わりに守りたい、治したい(直したい)という言葉を選ぶ。つまり、温暖化対策は、単なるウソである。彼らは「何かを破壊したい」のだ。その急先鋒が「オール電化」である。基本的に、ガスを使わない給湯器エコキュートとガスを使わない調理器IHヒーターの組み合わせである。どちらも有害である。

特別篇～第一次、第二次、第三次世界大戦の一族

□

※「サイババが来る」のサイトから拾いました。一部加工しています。オリジナルソースはどこなんだろ？

第三次世界大戦の枢軸

□

左上段からテリーザ・メイ首相、^{ダリア}ダリア・グリバウスカйте大統領、安倍晋三総理大臣
下段左からペドロ・ポロシェンコ大統領、アンゲラ・メルケル首相、アンジェイ・ドゥダ大統領

※上の6人が悪の枢軸となり、第三次世界大戦を実施する予定らしい。アンゲラ・メルケル首相はヒトラーの娘（ユダヤ人1908の一族）の子で、テリーザ・メイ首相は西本願寺門主法如の一族（ロスチャイルドの一族）。ダリア・グリバウスカйте大統領は西本願寺門主准如の一族。安倍晋三は本願寺門主実如の一族（モロッコ王の一族）である。ペドロ・ポロシェンコ大統領は西本願寺門主本如の一族で、アンジェイ・ドゥダ大統領は東本願寺門主一如の一族（オランダ王の一族）である。過去、ポーランド・ウクライナ・リトアニアはポーランド・リトアニア同君連合王国として巨大な勢力を誇った。そのときにウクライナ東方カトリック教会も生まれた。

第一次世界大戦の枢軸



左からルシタニア号沈没で3000人を殺したウッドロー・ウィルソン大統領（民主党）
次にニューヨークで400人の子供を食い殺したデヴィッド・ロイド・ジョージ首相（またの名をアルバート・フィッシュ）
次にフランスのジョルジュ・クレマンソー首相（またの名をアンリ・ランドリュウ）

※ウッドロー・ウィルソン大統領は第一次世界大戦参加の口実を得るために豪華客船ルシタニア号を沈めて3000人を殺し、イギリスのロイド・ジョージ首相（またの名をアルバート・フィッシュ）はお忍びでニューヨークに行き、趣味で子どもを400人殺して食べ、フランスのジョルジュ・クレマンソー首相（またの名をアンリ・ランドリュウ）は、女性や少年を合わせて11人殺した。この3人が第一次世界大戦を指揮した。この3人は西本願寺門主法如と文如の一族である。彼らの目的はダヴィデの一族の牙城であるプロシア帝国、オーストリア・ハンガリー帝国、オスマン・トルコ帝国の破壊である。

第二次世界大戦の枢軸

□
上段左からアドルフ・ヒトラー総統、ベニト・ムッソリーニ首相、東条英機総理大臣

※上の3人が先の大戦の悪の枢軸だった。アドルフ・ヒトラーはユダヤ人1908の一族、ベニト・ムッソリーニは西本願寺門主大谷光尊の一族、東条英機は西本願寺門主広如の一族だった。そしてナチス政権のメンバーはみな西本願寺門主寂如の一族である。写真をよく見ると、新渡戸稲造と東条英機って良く似てるんです。彼らの目的は、チャーチル首相（オスマントルコ皇帝オスマン2世の一族）、ルーズベルト大統領（オスマントルコ皇帝アフメト3世の一族）、スタ

ーリン（宇宙人チュクウのトバルカインの一族）のダヴィデの一族連合との、タナトス一家の生死を賭けた対決である。

「2021年に第三次世界大戦が始まる」

メルケル首相が2021年に引退すると述べた。安倍も2021年までやるといった。何があるんだろうか？第三次世界大戦でも始めるつもりか？よりもよって2人の本願寺の一族が2021年にこだわっているため、そんなことを感じてしまった。当初、メルケル首相は本願寺と関係ないと考えていたが、どうも本願寺の家系と考えざるを得ない。優性遺伝子ブリーダーを使って生まれた可能性があるのだ。メイ首相は顔からすぐに本願寺の一族だとわかったが。おもしろいことに、メイ首相とメルケル首相、そしてリトアニアの大統領は少女時代からお互いを知っていたようだ。3人が優性遺伝子ブリーダーを使って生まれた証だ。上の写真は「サイババが来る」のサイトから拾いました。

メイ首相は、顔を見ればウッドロー・ウィルソン大統領の孫（西本願寺門主法如の子孫）だということがわかるが、メルケル首相はヒトラーの子の可能性が高い。タナトス一族やダヴィデの一族は、たまにそういうことをする。死んだことにして逃亡・潜伏する。だとすれば、メルケル首相はヒトラーの子で間違いない。ヒトラーはアルゼンチンに逃亡したといわれているが、灯台下暗しを狙ってポーランドに潜伏し、メルケル首相を生んでダヴィデの一族に対する復讐の機会を狙っていたのだ。

今回の大戦はイタリア抜きで、東西本願寺の一族は日本とドイツで再び世界大戦をやる心積もりなのかもしれない。勝算は何かと問われれば、遺伝子組み換えと農薬を用いた化学テロと、マイクロソフトのパソコンやスマホによる科学テロで全人類は弱っているんで勝てると思っているのかもしれない。

第二次世界大戦時、ナチスには東本願寺門主大谷光榮の一族ハインリヒ・ヒムラー（昭和天皇の影武者）とユダヤ人1908の一族アドルフ・ヒトラーがいて、イタリアには西本願寺門主大谷光尊の一族ベニト・ムッソリーニがいて、日本には西本願寺門主広如の一族東条英機がいた。第二次世界大戦は、東西本願寺の一族による世界に対する挑戦だった。ということで、メルケル首相と安倍は第三次世界大戦をやるつもりなのは間違いない。2021年、東京オリンピックの後だ。ナチスもベルリンオリンピック（1936）の後にポーランド侵攻・ソ連侵攻（1939）を始めた。

今度はイタリア抜きだが、新しい仲間の候補はどこだろう？ウクライナか？ポーランドか？いや、メイ首相がいるイギリスか？リトアニアは小さいから無理だろう。ということで、ウクライナ・リトアニア・ポーランドは過去にポーランド・リトアニア大公国を成立させていた歴史的な背

景から、3国で合体する可能性もある。そういえば、自衛隊は頻繁にイギリス軍と軍事演習を実施している。第二次世界大戦のときはイギリスにはイギリス王室の正統な後継者チャーチルがいたから枢軸にはならなかった。

2021年～2022年に第三次世界大戦が始まる。本願寺が始める。また本願寺。たぶん、本願寺は日本が核兵器を隠し持っているからロシア・中国・アメリカに勝てると思っているんだろう。ただ、日本の場合、核兵器の使い方がちょっと違う。日本の核兵器の使い方は、「攻撃したら核で東京か大阪を滅ぼすぞ」という、日本人を人質にとる方法を用いるだけだろう。そういう使い方もあるわけだ。

作戦としては、ナチスが隣国ポーランドを狙ったように、本願寺はまず中国か朝鮮半島で何かやらすつもりだろう。中国には数億人の法輪功信者がいる。こいつらが本願寺の指揮で反体制派として中国政府に対して一斉に蜂起する計画かもしれない。法輪功の首領って誰だっけ？李なんとかをできるだけ早く殺した方が良いでしょう。今回はアメリカ、ソ連、イギリスが連合国ではなく、ロシア、アメリカ、中国となるだろう。枢軸はまたもや日本、ドイツ、そして今回はイギリス（或いはウクライナ・ポーランド・リトアニアの連合）だ。

先日、プーチン大統領が安倍に「無条件で平和条約を結びたい」と提案したのは、安倍が第三次世界大戦をしたがっていることを知った上でのイヤミだったようだ。笑 で、当然、第三次世界大戦をやりたい安倍がプーチン大統領の要請を承諾するはずも無かったのだが。プーチン大統領の「無条件で平和条約～」は「てめえらみたいなアホが俺たちに勝てるわけねえだろ」の丁寧語です。

特別篇～不必要に垂れた目尻をもつ悪の一族 ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世の一族

■この不必要なまでに目じりが垂れた一族は最高の悪の一族でもある。多くの悪党を生んでいる一族だ。

㊦
ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世（1878～1943） モロッコ王国アラウィー家の一族

ファイサル1世（1883～1933） モロッコ王国アラウィー家の一族

大谷光瑞（1876～1948） 西本願寺22代門主

※いやらしく目じりが垂れた西本願寺門主大谷光瑞は、ハサン1世と西本願寺の娘の子と考えられる。

㊦
ムーレイ・ユースフ（1882～1927） モロッコ王国アラウィー家の一族

アブドゥッラー1世（1882～1951） モロッコ王国アラウィー家の一族

土肥原賢二（1883～1948） モロッコ王国アラウィー家の一族

ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世の子（優性遺伝子ブリーダーによる）

㊦
フランシスコ・フランコ（1892～1975） モロッコ王国アラウィー家の一族

シャルル・ド・ゴール（1890～1970） モロッコ王国アラウィー家の一族

アフメト・ゾグー（1895～1961） モロッコ王国アラウィー家の一族

ネルソン・ロックフェラー（1908～1979） モロッコ王国アラウィー家の一族

※ネルソン・ロックフェラーは、ムーレイ・アブドゥルアズィーズ4世とロックフェラーの娘の子と考えられる。巨匠ロベール・ブレッソンはドゴール治世下で名作「抵抗」を撮った。フランスの治世はひどいものだったのだと考えられる。フランコ総統治世下のスペインもひどかったと考えるのは容易だ。なにしろ、安倍晋三の実の父親だからだ。

㊦
アミン・フサイニー（1895～1974） モロッコ王国アラウィー家の一族

岸信介（1896～1987） モロッコ王国アラウィー家の一族

※安倍晋三の時代は大きな災害が続いた時代であるが、岸信介の時代も負けず劣らずの災害が起きていた。諫早豪雨、狩野川台風、伊勢湾台風である。狩野川台風、伊勢湾台風の2つがあれば

充分だ。そこで勝ってどうする？という感が無きにしも非ずであるが、安倍政権は祖父に勝っている。

□
佐藤栄作（1901～1975） モロッコ王国アラウィー家の一族
大谷光暢（1903～1993） 第24代東本願寺門主

※東本願寺門主大谷光暢は、不必要に垂れた目じりを持つ一族の血を引いている。佐藤栄作の時代には兄や安倍氏に負けない災害が起きている。新潟地震、昭和39年台風第20号、下越水害、昭和41年台風第24・26号、昭和42年7月豪雨、羽越豪雨、北摂豪雨、えびの地震、昭和43年台風第7号、第3宮古島台風、岐阜県中部地震、昭和45年台風第10号、昭和47年7月豪雨などである。

□
塩川正十郎（1921～2015） 東本願寺門主大谷光暢の一族

□
ヘンリー・キッシンジャー（1923） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
ピーター・ジョージ・ピーターソン（1926） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族

※「キッシンジャーはなぜ安倍晋三に似ているのだろうか？安倍はキッシンジャーの子か？」などと考えていたことがあるが、両者とも、不必要に垂れた目じりを持つ一族の遺伝子のキャリアーだったことがわかった。

□
ジョージ・H・W・ブッシュ（1924～2018） 西本願寺門主大谷光瑞の一族

□
ハサン2世（1929～1999） モロッコ王国アラウィー家の一族
ヤーセル・アラファート（1929～2004） モロッコ王国アラウィー家の一族
エフライン・リオス・モント（1926～2018） モロッコ王国アラウィー家の一族

□
ミハイル・ゴルバチョフ（1931） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
ドナルド・ラムズフェルド（1932） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
ウォーレン・バフェット（1930） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
ジョージ・ケアリー（1935） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
ジェローム・ブルードス（1938） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
ジム・ロジャーズ（1942） 西本願寺門主大谷光瑞の一族

※シリアルキラーのブルードスとロジャースは同一人物にしか見えない。著名な投資家の裏の顔は、連続殺人鬼だったのだ。ゴルバチョフとラムズフェルド、バフェットの顔もクリソツである。ふざけているとしか思えない。

□□
ロナルド・メイヤー（1944） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
ポール・ニューロップ・ラスムセン（1943） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
レオン・パネッタ（1938） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族

※メイヤーはハリウッドのボスであるが、最近のハリウッドは、トップがバカなだけでここまで腐るかという体たらく振りである。

□
ビル・クリントン（1946） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
John Bennett Ramsey（1943） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族

※クリントンとジョンベネの父は異母兄弟である。クリントンはその不必要に垂れた目じりで女をたらしこんできた。ジョンベネをレイプして殺害したのはお忍びでパーティに来ていたクリントンと考えられる。優性遺伝子ブリーダーのサービスには偽装結婚の他に里子制度があるが、ジョンベネは里子であるため、父親とは血縁関係にない。

田
ラビア・カーディル（1947） 東本願寺門主大谷光暢の一族
菅直人（1946） 東本願寺門主大谷光暢の一族
田北俊（1947） 東本願寺門主大谷光暢の一族
ショブチョード・テムチルド（生年不詳） 東本願寺門主大谷光暢の一族

※菅先生は、その不必要に垂れた目じりで小沢氏を騙し、デウスの一族に属する川勝氏と組んだ。菅先生は川勝氏を静岡県知事の座に居座らせることで筆者を騙そうと企んだ。

□
李洪志（1952） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
竹中平蔵（1951） 西本願寺門主大谷光瑞の一族

※竹中は陰謀者の間では巨悪だと評判である。李洪志は香港デモに大きく加担している。

□□
トーマス・イルヴェス（1953） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
フランソワ・オランド（1954） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
ジャン・クロード・ユンケル（1954） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族

田

アンドレス・マヌエル・ロペス・オブラドール（１９５３） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
レニン・モレノ（１９５３） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
ロベール・メナール（１９５３） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
西川廣人（１９５３） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
河野克俊（１９５４） 西本願寺門主大谷光瑞の一族
柵山正樹（１９５７） 西本願寺門主大谷光瑞の一族

田

安倍晋三（１９５４） モロッコ王国アラウィー家の一族
加計孝太郎（１９５１） モロッコ王国アラウィー家の一族
斉藤博久（１９５３？） モロッコ王国アラウィー家の一族
甘利明（１９４９） モロッコ王国アラウィー家の一族

※その不必要なまでに垂れた目じりのせいで、筆者は安倍氏を大谷光暢先生の子と勘違いしていた。

田

劉曉波（１９５５～２０１７） 東本願寺門主大谷光暢の一族
村井秀夫（１９５８～１９９５） 東本願寺門主大谷光暢の一族
唐沢俊一（１９５８） 東本願寺門主大谷光暢の一族

田

デビッド・キャメロン（１９６６） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
ギャビン・ニューサム（１９６７） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
ニック・レーン（１９６？） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族
ジャスティン・トルドー（１９７１） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族

※その不必要に垂れた目じりで人を安心させ、油断させて騙すのだ。

口

マーク・ザッカーバーグ（１９８４） ロックフェラー財閥ネルソン・ロックフェラーの一族

※その不必要に垂れた目じりで人を安心させ、油断させて騙すのだ。

タナトス一族の趣味～世界の拷問

※タナトスの残酷さを知っていただくため、マルタン・モネステイエ著「死刑全書」から残虐な刑の例を全て抜粋しようと考えた。しかし、処刑の描写があまりに気持ち悪く、筆者の精神的な疲労により、途中で断念した次第である。興味のある方はマルタン・モネステイエ著「死刑全書」を参照ください。だが、これだけは言っておきたい。基本的にこのような非道な所業の数々は人類の一面ではないし、人類が墮落しているわけでもない。全ては、異なる人類である人喰い人種、死神タナトスの一族が一手に引き受けて行っているのであり、僧侶・医師・官僚に姿を変えた彼らのみが、このような残酷な処刑を楽しんだ。

優れた王を退け、自分たちが王になるためには「優れた王が悪党であり、自分たちできそこないこそが真の王である」とウソをつかなくてはならない。知能が高いタナトスは、自然の摂理として優れた者よりもできそこないの方が多く生まれることに気づいた。つまり、上記の、人類の発展に寄与しない発想を具現化するには、タナトスの見立てでは宗教以外なかった。自分のためにウソをつき、尚且つ、悪事を働いてくれる大量の人間を集め、更に悪党に見えない。それが、タナトスが考える宗教の姿だ。これにより、数で圧倒することで優れた王を退けるのだ。

大量の信者を入信させ、信者全員にウソを強制する。彼らはこれを「強い発言力」と呼ぶ。しかし、自由自在に大勢の信者にウソをつかせるのはリスクが大きいのではないか？一般人はそのように考えるだろう。しかし、できそこないの方が多く生まれることを知っていたタナトスは、その点は全く心配していない。弱者は絶対に反逆しない。それが弱者の弱者たる所以だからだ。

また、信者が大量にいるということは、それだけで、同時に信者の離反を無効化している。細心の注意を払いながら異分子は省き、大量の信者をインフラ業務に就かせる。これにより、信者の生活を掌握する。生活の支配は、そのまま国家の支配につながるのだ。タナトスの考えでは、人類を支配するために王になる必要はないのだ。

宗教の布教のため、敵を速やかに排除するため、離反者を即刻始末するため、離反を未然に防ぐための見せしめとして、以下のような残虐な処刑がタナトスによって考案・実施された。これらの処刑・拷問は、人身御供、異端審判、魔女狩り、「生類憐みの令」「血の法典」などの二次的産物として開発された。タナトスは、現在も引き続き、宗教を隠れ蓑に、医師、官僚、政治家に化け、最前線部隊である化学企業、家電企業を保護しながら、人類を不幸にするために労力を注いでいる。

□

■動物刑

- ・アッシュルパニパルは大型犬に囚人を襲わせた。※首謀者はアッシュール・ダン1世の一族
- ・マダガスカル女王パナヴァローナ1世は囚人をワニの川に入らせた。年平均1万人以上が死んだ。※首謀者はカペー朝ルイ7世の一族
- ・カルタゴ、インドでは象に囚人の頭を踏み潰させた。※首謀者はティールタンカラの一族、デウスの一族、東本願寺門主琢如の一族、東本願寺門主真如の一族
- ・セイロンでは象に囚人を上に投げさせ、牙で刺した。※首謀者は預言者ナタンの一族
- ・スペイン人はインカ人、アステカ人を犬に食い殺させた、被害者は数百人。※首謀者はドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）
- ・メロヴィング朝フランク人は野生馬に囚人の髪を結び付けて死ぬまで引き擦らせた。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族
- ・キルギス、フンは、馬の尾に囚人をつないで処刑。※首謀者はデウスの一族
- ・ローマ人は「レセウス」という刑で囚人を犬、猫、鶏、猿、蛇と一緒に皮袋に閉じ込めて水に投げ込んだ。※首謀者はガリアのドルイド司祭の一族
- ・カルタゴが起源、円形劇場での猛獣と囚人の殺し合い、ライオン、豹、虎、熊、ハイエナ、狼、犬、死者10万人。※首謀者はガリアのドルイド司祭の一族
- ・フランス、イギリス、オランダで流行った刑罰、囚人の剥き出しの腹の上に大鍋、かごを逆さに置き、中にねずみ、イタチ、ヤマネを入れた。次に鍋の底を焼き、動物は日から逃れようと囚人の腹を食い破る。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族、シトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）、ドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）
- ・モロッコの蟻刑、蟻を何百万匹も囚人にたからせた。馬も48時間ではらばらにされた。※本願寺門主実如の一族
- ・ローマのうつぼ刑、ウツボの養魚池に囚人を投げ込んだ。※首謀者はガリアのドルイド司祭の一族

■ 咽喉斬りの刑

- ・ローマ固有の刑、リヨンのキリスト教徒大虐殺では1万8千人が咽喉を斬られた。※首謀者はガリアのドルイド司祭の一族
- ・クメール・ルージュは鋭い椰子の葉で囚人の咽喉をゆっくり斬った。※首謀者はカペー朝ルイ7世の一族

■ 腹裂きの刑

- ・ペルシアでは受刑者の腹を切り開き、腸を6m引き出した。※首謀者はアブラハムの一族
- ・フランス、オランダ、ドイツでは宗教戦争の間、プロテスタントがカトリックの腹を切り裂き、腸を棒に巻き取った。※首謀者は本願寺門主実如の一族

■ 突き落としの刑

- ・ギリシアでは石の上に突き落とした。※首謀者はガリアのドルイド司祭の一族
- ・シャープール1世、ペルシアでは1万人のキリスト教徒が杭の上に突き落とされた。※首謀者はアブラハムの一族
- ・プロテスタントの首領ボエモンは塔の下に槍と矛槍を立てさせた。※首謀者はシトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）

■ 飢餓刑

- ・飢餓のマスク、このマスクを囚人の顔に装着すると、強制的に呼吸させるための鉄の舌が口に

入る。柱、壁につながれて死ぬまで放置される。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族、シトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）、ドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

・苦惱の梨、バネやネジで開いて受刑者の口を塞ぎ、叫んだり、話したり食事することを不可能にした。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族、シトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）、ドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

・アフリカでは、囚人を被害者の死体にくくりつけて共に腐敗するに任せた。※首謀者はダーナ神族の一族

・カルヴァン派は、カトリック教徒を2人ずつ縛り上げて飢えさせて共食いさせた。※首謀者はシトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）

・ペルシアでは囚人にたっぷり食べさせてから肛門を塞いだ。※首謀者はアブラハムの一族

・スペイン戦争のさなか、共和派が囚人たちの直腸にセメントを流し込んだ。※首謀者はドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

・UNITAに所属するという嫌疑を掛けられた囚人は水も食物もなしに身動きできない小さな独房に閉じ込められた。※首謀者はタナトスの一族

■檻に閉じ込める

・スペイン、イタリア、罪人は鉄製、木製の檻に閉じ込められて協会の外に吊り下げられた。飢えと乾き、冬は悪天候と凍結、夏は熱と照りつける太陽によって死んだ。加えて民衆が石を投げつけることも間々あった。※首謀者はドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

・囚人の身体にぴったり合う檻は、立ったり横になることができないように作られ、そのような耐え難い状況で何年も過ごすとう囚人の身体は変形した。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族、シトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）、ドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

■幽閉

・宗教裁判所がすべての出入り口を塞いだ堅固な建物に囚人を完全に閉じ込めた。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族、シトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）、ドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

・グラン・シャトレ、「イボクラーズの道」と呼ばれる場所があった。ここに入れられた囚人は常に葦を水につけていねばならず、立つことも横になることもできない。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族、シトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）、ドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

■磔刑

・エジプト、ヘブライ、カルタゴ、フェニキア、ペルシア、マケドニア、ギリシア、ローマで行われた。※首謀者はタナトス一族全般

□ ■生き埋め（画像は日本軍による中国人市民の生き埋め）

・秦の始皇帝がBC 220年に当地原理に反する書物を著したとして500人の文人を生き埋めにしている。※首謀者はデウスの一族

・インカでは太陽の処女が純潔の誓いを破るとこの刑罰に処された。※首謀者は預言者ナタンの一族

・ローマでも勤めを怠ったとして告発されたウェスタの巫女が同じ罰を受けた。※首謀者はガリアのドルイド司祭の一族

・ペルシア人は大量の灰の中に罪人を突き落とした。これにより、灰は罪人の肺に侵入し、通常の生き埋めによる単純な酸欠よりも更に恐ろしい窒息を引き起こした。※首謀者はアブラハムの一族

・スウェーデンとデンマークでは生き埋めは女性専用で16世紀まで法的に認められていた。嬰兒殺し、獣姦の罪で適用された。※首謀者はダーナ神族の一族、本願寺門主実如の一族（因みに嬰兒殺し、獣姦は冤罪である）

・1975年から78年末にかけてクメール・ルージュは棍棒かつるはしで罪人の首を一撃し、生きたまま埋めた。前もって自分で掘らせた穴に一家全員、男も女も子供も埋められた。クメール・ルージュはビニール袋による窒息を発明した。これはどちらかということと大人用で、こどもは麻袋にすっぽり身体ごと入れられて窒息した。※首謀者はカペー朝ルイ7世の一族

□
■串刺し刑

・肛門に油性の物質を塗ったりナイフで肛門を広げて杭を奥まで刺し、大槌で打ち込んだ。※首謀者はタナトス一族全般

・ドイツでは嬰兒殺しの母親に起用した。※首謀者はクリュニー大主教ベルノの一族、シトー会（クリュニー大主教アイマールの一族）、ドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）因みに嬰兒殺しは冤罪である。

・インド社会の宗教法と市民法の下になったマヌ法典が法に定めた7種の処刑法の第一に串刺しを挙げていた。※首謀者はティールタンカラの一族、デウスの一族、東本願寺門主琢如の一族、東本願寺門主真如の一族

・アッシリア人は腹から杭を入れて脇や口を突き通していた。※首謀者はアッシュール・ダン1世の一族

・ロシア人は非常に尖った杭を肛門から入れた。杭はどんどん刺さっていきいく手にあるすべての臓器を貫いた。※首謀者は西本願寺門主准如の一族、西本願寺門主寂如の一族

・中国人は囚人の尻に空洞の竹を差込み、火で真っ赤に焼いた鉄の棒を体内に差し込んだ。※首謀者は大宛のドルイド司祭（西本願寺）の一族、天山ウイグルの一族

□
■皮剥ぎ刑

・古代インドでは表皮を松明であぶることによって肉が露出するまで皮膚が焼かれた、受刑者は数日間苦しみぬいて死んだ。※首謀者はティールタンカラの一族、デウスの一族、東本願寺門主琢如の一族、東本願寺門主真如の一族

- ・アッシリア人は謀反人、敗者にこの刑を処した。※首謀者はアッシュール・ダン1世の一族
 - ・ペルシアでは職務を汚した判事は生きながらに皮を剥がれ、皮膚は後任者の法廷の椅子を覆うのに使用された。※首謀者はアブラハムの一族
-

■切断刑

- ・ペルシア人はこの刑罰を得意としていた。囚人の切断は指から始まり、手、腕と順番に切り落とされる。次に足指、耳、鼻ときて最後に頭となる。※首謀者はアブラハムの一族
 - ・イギリスではAD1820年に受刑者の身体をいくつかに切るように定めていた。※首謀者は西本願寺門主良如の一族
-

■解体刑

- ・解体刑とは肉から肉へ、筋肉から筋肉へ死ぬまで少しずつ切ったり引きちぎったりするというものである。エジプト人、アッシリア人、バビロニア人、ペルシア人などの民族がこの種の処刑を好んだ。※首謀者はタナトス一族全般
 - ・19世紀から20世紀にかけて、日本の医師は中国人や朝鮮人の死刑囚を拷問し、人間の身体の抵抗力を調べた。※首謀者は東本願寺門主大谷光勝の一族、東本願寺門主大谷光榮の一族、東本願寺門主大谷光演の一族、東本願寺門主大谷光暢の一族、西本願寺門主広如の一族、西本願寺門主大谷光尊の一族、西本願寺門主大谷光瑞の一族、西本願寺門主大谷光照の一族
-

■切り裂き刑

- ・古代に於いては車輪を用いた刑罰として行われた。車刑は生きながらに打ち碎かれる刑罰である。※首謀者はタナトス一族全般
- ・トルコ人は16世紀から18世紀にかけて受刑者の手足を伸ばし、長く伸びるテーブルに横たえて固定した。そして鉄の櫛や先が鉤の形をした熊手で肉、肋骨、鎖骨、肩甲骨と切り裂いた。

※首謀者はガリアのドルイド司祭の一族

■粉砕刑

・粉砕刑とは囚人の身体に物理的に大きな力を加え骨や頭蓋骨を砕き、腎臓、肺、心臓といった重要な臓器を押しつぶすものである。粉砕刑には3種類あり、大きな物体の静的な力で粉砕するもの、次第に圧力を加えて粉砕するもの、すりつぶしたり細かく切り刻んだりして粉砕する。

※首謀者はタナトス一族全般

・ギリシア人、ローマ人、エジプト人、ヘブライ人、ダオメー王国、ゲルマン人が行った。※首謀者はタナトス一族全般

■火刑

・火を用いた死刑は人類の歴史と同じくらい古い。※首謀者はタナトス一族全般

■肉を焼く

■鋸引き

・鋸引きとは鋸を用いて行われる特殊な切断刑である。エジプト人、ペルシア人、メディア人、トラキア人、スパルタ人、ヘブライ人、マケドニア人、ギリシア人ローマ人が行った。※首謀者はタナトス一族全般

・スペインでは鋸引きは18世紀末まで軍隊に於ける処刑手段だった。※首謀者はドミニコ会（本願寺門主親鸞の一族）

※紐による鋸引きもあった。紐に摩擦によりジリジリとゆっくりと肉を削ることになるため、被害者は想像を絶する痛みに苦しんだだろう。

■矢で射る、突き刺す

■毒殺

■吊り落とし刑

■鞭打ち刑、棒打ち刑

□
■車刑

□
■四つ裂き刑

■絞殺刑

□
■ガロット

※鉄の器具により、万力の要領で首をゆっくりと締め付けて死刑囚を絶命させる道具。これにより、頭部は紫色に膨れ上がるという。

■石打ち刑

■溺死刑

■絞首刑

■斬首刑

■首切り装置

■ギロチン

■銃殺刑

■ガス室

■電気椅子

■薬物注射

※すべての拷問、処刑法はタナトスの一族が考案したものである。タナトスが人を殺すとき、これほど想像力を働かせるのは、性的な欲求が発想の核に根付いているとしか考えられない。タナトスは弱い人間の前では平気で残忍な姿を見せるが、強い人間の前では猫を被る性質がある。彼らは自分たちの思い通りに暮らすべく、30万年前から強い人間を減らしたいと考え続けている。

彼らが集団ストーカーを行うのは、秘密裏に強い人間を闇から闇へ葬るのが目的である。もし集団ストーカーで強い人間が絶滅したら、弱い人間の前では平気で残忍な姿を見せるタナトスはどうするだろうか？答えはひとつ。世界中の人々がアステカ帝国の生贄の儀式の候補となるだろう。当時のアステカ人のように、誰一人逃れられない。

現在、まだプーチン大統領、トランプ大統領のような強い人間がいるので、彼らは隠れて子供を拉致し、拷問し、陵辱し、拳銃に殺して肉を食べている。しかし、強い人間が消滅すれば彼らは隠れない。隠れる必要がない彼らは、自由自在に気に入った子供を親の目の前で拉致し、陵辱し、殺し、肉を食べるだろう。タナトスの自由を勝ち取る最後の牙城が悪の本丸、日本であり、阿部政権である。

あとがき

歴史は生き物のようで、これで完成と思ったらあとからあとから情報が入ってきて処理に追われてしまう。きっと悪の追求は終わることはないのだろう。しかし、キリがないので、今回の書はここらへんで止めておこうと思う。

いろいろ調べる中、タナトスの一族は、悪の王に定められた者（本願寺で言えば門主）が子どもをたくさん作ることがわかった。これは悪の王の特権だということができる。優れた悪の才能を引き継いでいかなければならない。すべてはタナトスの繁栄のためである。

本体として生まれた以外の子どもの多くは影武者などに徴用される運命にある。だが、才能がある者は影武者から脱して本体を超える力を発揮することがある。テンプル騎士団の変は、フィリップ4世の影武者だったジャック・ド・モレーが影武者から一歩踏み出そうとしたことが発端となっている。しかし、フィリップ4世ら本体はそれを許さなかったというわけだ。

そして、タナトスの一族は複数の顔と名前を持つ。そうすることで、危機に瀕した時には別の名前や顔を用いることで、危険をやり過ごすことが出来る。一番多い人物で、14の名前を持っていた。親鸞の末裔シモン・ボリバルである。

ボリバルは中南米の大統領の肩書きをすべてコレクションしていた。つまり、当時のボリバルは中南米の帝王であった。ウソつきのタナトスであるが、生没年に関してはウソをついていない。なので、彼らの足跡や正体もおのずと明らかになる。ボリバルの場合、中南米のすべての初代大統領の生没年がほぼ一緒なのだ。これは誰が見ても同一人物としか考えられないだろう。

今回、タナトスの一族は57種類に分類したが、特徴としてそれぞれの一族にはそれぞれの傾向があることがわかった。大谷暢頭一族はアナウンサーを輩出する傾向がある。准如一族はロシアに固執している。寂如一族はナチス、CIA、FBI、モサドを生んだ。湛如一族は多くの新興宗教を作り、傾向としては日蓮宗の篡奪がある。文如と法如一族は人喰いの一族である。達如一族は神道にこだわる。大谷光演一族はメディアの一族である。常如一族は沖縄と朝鮮半島に固執し、いわゆる在日を指揮している。教如一族は江戸時代の天皇家を掌握し、ハワイ王室を作った。覚如一族は華僑を作り上げた。親鸞一族はコンキスタドールを生み、中南米の支配に固執している。などである。

一番ショックだったことは、古来からほとんどの国家はタナトスが作り上げてきたという事実だ。彼らは「俺たちは常に王でなければならない」と考えている。一流の悪は悪に見えない装いを心がける。そのためには宗教と共に国家が必要だ。国家の長は悪に見えない。ということで、世

界中の王の系譜を調べることでタナトスの足跡は浮き彫りになった。彼らの足跡を発見することは非常な喜びであった。純粋に学術的な喜びである。

更に、タナトスは善（宇宙人）が存在することを知っている。古代からタナトスは常に宇宙人（科学の種族トバルカイン）に成敗されてきた。彼らと戦うには（戦っても勝てないが）強力な軍隊、進んだ科学力が必要だ。そのためには義務教育、徴兵制度が必要となる。つまり、国家が必要だ。

タナトスの一族の向こうを張るダヴィデの一族は力が強く、非常に優れているが、国家を作ることに興味がない。彼らには人々を支配しようという本能がないのだ。国なんか作らなくても人々は耳を傾け、自然と集まってくる。結局、タナトスが国家を欲するのは自分たちの言うことに耳を傾けない人々を強制的に耳を傾けさせることにあるし、自分たちの周りに集まらない人々を強制的に集める必要があるのだ。そのためには自分を有利な立場に置き、敵を不利な立場に置きたい。

国家は法を必要とし、納税制度を設けなければならない。国民に税金を納めさせることで寝ていても金は入る。自分たちに有利な法律、敵に不利な法律を制定することができる。軍隊を作り、敵が攻めてきたときには撃退することも出来る。できそこないには国家が必要なのだ。ダヴィデの一族のような優れた人々は元来、国は必要ない。だが、その弱さゆえに苦しんでいる弱者を助けようとする本能が働くため、ダヴィデの一族はタナトス一族を倒すために国家を必要としているに過ぎない。

そして、何よりも、人喰いはタナトスだけに限られた本能である。普通の人類はどんなに飢えても同じ人間を食べることは出来ない。古来から飢饉になると人々はお互いを食べ、時には自分の子供を殺して食べたとされる。これは、人類の究極の姿ではない。これは飢饉によってタナトスが本性を現したというに過ぎない。

スターリンの大粛清によってウクライナが大規模な飢饉に陥ると、自分の子供や家族を殺して肉を売る者が続出した。しかし、彼らの正体はタナトスだ。飢饉によって本性を現さざるを得なかったのだ。どんなに飢えても、普通の人間が自分の子供を殺して肉を売るなんてことは不可能だ。

タナトスの出現は人類の飽和状態と関係がある。タナトスが出現した30万年前には既に人類は地球上で数を増やしすぎ、飽和状態に達していたのだ。そのため、自然界のバランスを保つために地球がタナトスを生んだ。人類の天敵は人類でしかありえないのだ。タナトスが極度に罪悪感を欠いた状態で生まれ、平気でウソをつき、笑いながら人を殺し、人肉を食べることが出来るのは地球の思し召しだ。人類の飽和状態を改善すべく、地球が人類の天敵を生んだのだ。

ただ、今現在、タナトスは化学薬品を用いて人類だけでなく、他の種や自然界を汚染し、滅亡に導いている。そこで、30万年前にタナトスが生まれたときと同じように再度、地球がバランスを考え、極度に優れた人類を生んだ。タナトスを退治するためである。地球は、今度はタナトス

の天敵を生んだのである。人類の歴史はこの繰り返しなのだろう。

悪い顔 後編

<http://p.booklog.jp/book/128850>

著者：大本正 (C)masahiro taguchi 2019

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/danejin/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/128850>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：デザインエッグ株式会社